

年報

令和6年度



第43号



Gunma
Children's
Medical Center

群馬県立小児医療センター

◇ 基本理念

小児の専門病院として、
未来あるこどもたちの^{いのち}生命をまもり、
すこやかな成長発達を支援します。

◎ 基本方針

- 1 小児の専門病院として、高度で安全かつ先進的な周産期・小児医療を提供し、地域の中核病院の役割を果たします。
 - 2 子どもの権利の尊重とチーム医療により、安心して信頼できる医療を提供します。
 - 3 地域の関係機関と連携して、診療・研究及び研修を行い、周産期及び小児の医療・保健レベルの向上に努め、子どもの望ましい成長・発達を支えます。
 - 4 適正な情報公開と診療情報の共有により、健全で透明性の高い病院経営に努めます。
-

☆ 子ども憲章

- 1 子どもは、安心できる環境の中で、良質でおもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 子どもとその家族は、医療について年齢や理解度に応じた十分な説明と情報の提供を受ける権利があります。
そして、不必要な医療処置や検査から守られ、家族が治療に参加できるように配慮されます。
- 3 子どもとその家族は、医療について自由に意見を述べ自ら医療を選択しあるいは拒否する権利があります。
- 4 子どもとその家族は担当医以外の医師の考え(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 子どもは年齢や症状に応じた養育を受ける権利があります。
- 6 子どもとその家族は、自己の診療録の開示を求める権利があります。
- 7 子どもとその家族は、いつでもプライバシーが守られ、個人情報の保護を受ける権利があります。
- 8 子どもの権利条約を守ります。

★ 職員倫理要綱

- 1 職員は、病める子どもたちの治療はもとより、子どもの成長発達を家族とともに支えるよう、医療を受ける者とその家族の人格を尊重し奉仕しなければならない。
- 2 職員は、医療を受ける者に優しい心で接し、医療の内容をよく説明し、理解と信頼を得るよう努めなければならない。
- 3 職員は、医療を受ける者の知る権利と自己決定の権利を尊重し擁護しなければならない。
- 4 職員は、守秘義務を遵守し、個人情報の保護に努めなければならない。
- 5 職員は、国籍、人種、民族、宗教、信条、性別及び年齢にかかわらず、すべてに平等に、優しい心で接しなければならない。
- 6 職員は、常に自らも研鑽に努め、安心して信頼される最善の医療が提供できるように心がけなければならない。
- 7 職員は、互いに尊敬し協力して医療に尽くさなければならない。
- 8 職員は、医療の公共性を重んじ、医療を通じて社会の発展に尽くさなければならない。
- 9 職員は、国が定める医療に関する倫理指針を遵守しなければならない。
- 10 職員は、群馬県職員としての自覚を持ち、お互いに協力して病院の健全な運営に努めなければならない。

～令和6年度の出来事から～



株式会社 STARIUM による AR どうぶつえん体験



ワールド・ドリームサーカス来院



ミュージカルクラブ「アミュー」来院



ケービックス株式会社及び株式会社ザスパの
寄付受納式



世界小児がん啓発キャンペーンにおける
「臨江閣と日本庭園」のライトアップ

第1章 はじめに

課題

- ・ 建物の深刻な老朽化
- ・ 合併症を抱えた妊婦や、
キリーオーバー患者への対応が困難

群馬大学医学部附属病院への 隣接整備（連携）で機能強化

機能強化・充実

小児・周産期医療に係る医療資源の集約
大人の診療科との連携強化（母体救命、移行期医療等）



(出典:マッピングくんま)

第4章 新病院建設に係る基本的な考え方

基本構想

- 総病床数(150床)は維持
- 原則、NICU（新生児集中治療室）等は小児医療センターに、
産科は群大病院に、それぞれ集約する方向で調整を行う

種別	機能	現在	開院時
一般病棟	急性期	109	97~100 (6~9)
(うち産科)		(18)	
新生児集中治療室 (NICU)	高度 急性期	15	42~45
新生児回復治療室 (GCU)		18	
小児集中治療室 (PICU)		8	
合計		150	150

群大病院と2病院での
『総合周産期母子医療センター』の
指定を目指す
⇒県内小児周産期医療のさらなる強化

巻頭言

院長 浜島 昭人

日本では岸田首相が石破首相に代わり、アメリカではバイデン大統領からトランプ大統領に代わるという大きな政治的変動が令和6年度にはありました。また、夏には平和の祭典といわれるオリンピックがパリで開催されました。日本選手は金メダル数、メダル総数ともに海外で開催された五輪では過去最多となり大いに盛り上がりました。一方でウクライナやガザ地区での紛争は現在も続いており、多くの子どもたちが厳しい状況に置かれていることに胸が痛みます。

国内では令和5年5月に新型コロナウイルス感染症は5類感染症となり、日常生活は徐々にコロナ以前に戻ってきました。しかしながら、新型コロナウイルス以外の感染症の流行がみられるようになり、院内では感染対策室を中心として状況に応じた感染対策を継続して行なっています。入院病棟でも様々な制限を行う場合がありましたが、子どもたちが楽しみにしている七夕飾りなどの例年行事は無事行うことができました。今年度は、ワールドドリームサーカスによるパフォーマンス、ミュージカルクラブ「アミュー」によるミュージカルの上演、クリスマスにはザスパ群馬の細貝萌 GM とマスコットであるザスパンダの病棟訪問など、様々なイベントを行なっていただきました。入院中の子どもたちだけでなく大人も楽しむことができました。関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

当院では令和6年度に新たな取組として、心理相談室、入院支援センターを開設しました。心理相談室では、心理士が入院や通院されている患者さんたちの心理的なサポートや心理検査、カウンセリングを予約制で行なっています。また、入院支援センターでは、看護師が入院準備のサポートをすることで入院前の疑問や不安を取り除き、患者さんやご家族が安心して入院治療や検査が行えるように支援を行なっています。

診療面では、令和6年度の外来患者数は前年度よりも増加しました。手術件数、実入院患者数は増加しましたが、延べ入院患者数は減少となりました。令和6年度診療報酬改定、人件費増加、物価高などの影響をうけて多くの病院が赤字と報道されています。当院においても、大幅な赤字となりました。経営改善にむけ、様々な取組を行なっているところです。

当院の移転・再整備に関しては、移転候補地が決定し、マスタープランの策定が終了しました。今後は基本設計へと進むこととなります。アメリカでは、ロサンゼルス・ドジャーズに移籍した大谷翔平選手が、2024年シーズンにおいてMLB初の「1シーズン50本塁打、50盗塁」達成、指名打者のみでシーズンMVPを受賞するなどの大活躍で、ワールドシリーズ制覇に貢献しました。移転後の新病院が、群馬県の小児医療・周産期医療にこれまで以上に貢献できるように着実に準備を進めてまいります。

令和7年6月

目 次

業務編

1. 第一病棟	3
(1) 総合診療科	7
(2) 腎臓内科	7
(3) 神経内科	7
(4) 子どものこころ診療科	8
(5) アレルギー・リウマチ科	8
(6) 感染症科	9
(7) 遺伝科	10
(8) 内分泌代謝科	10
2. 第二病棟	11
(1) 小児外科	11
(2) 形成外科	13
(3) 整形外科	14
3. 第三病棟	17
(1) 循環器科	17
(2) 心臓血管外科	18
(3) 血液腫瘍科	18
4. 小児集中治療部	19
5. 新生児未熟児病棟	22
6. 産科病棟	28
7. 麻酔科	30
8. 放射線科	31
9. 歯科・障害児歯科	32
10. 放射線課	33
11. 検体検査課・生理検査課	35
12. リハビリテーション課	37
13. 栄養調理課	39
14. 臨床工学課	40
15. 心理相談室	42
16. 薬剤部	44
17. 看護部	46
(1) 第一病棟	51
(2) 第二病棟	52
(3) 第三病棟	53
(4) NICU病棟	54
(5) GCU病棟	56
(6) 産科病棟	57
(7) 小児集中治療部	59
(8) 手術室	60
(9) 外 来	62

(10) 入院支援センター	63
(11) サービス向上委員会	65
18. 母子保健室	76
19. 地域医療連携室	79
20. 医療安全管理室	81
21. 感染対策室	85

研究研修編

1. 学会報告	91
◆小児内科	
<循環器科><新生児科><アレルギー・リウマチ科><感染症科><遺伝科>	
◆小児外科	
<一般外科><形成外科>	
◆産科	
◆麻酔科	
◆放射線科	
◆歯科	
◆検体検査課・生理検査課	
◆放射線課	
◆リハビリテーション課	
◆栄養調理課	
◆臨床工学課	
◆薬剤部	
◆看護部	
2. 誌上発表	96
◆小児内科	
<新生児科><アレルギー・リウマチ科><感染症科><血液腫瘍科><遺伝科>	
◆小児外科	
<一般外科>	
◆放射線科	
◆検体検査課・生理検査課	
3. 単行本・その他	98
◆小児内科	
<新生児科><循環器科><感染症科>	
◆放射線科	
4. 班会議等報告書	98
5. 講演	99
◆小児内科	
<アレルギー・リウマチ科><感染症科><遺伝科>	
◆産科	
◆放射線科	
◆歯科	
◆検体検査課・生理検査課	
◆リハビリテーション課	

◆臨床工学課	
6. 講習会・研修会	100
◆小児内科	
＜循環器科＞＜感染症科＞	
◆産科	
◆放射線課	
◆リハビリテーション課	
◆栄養調理課	
◆臨床工学課	
◆看護部	
7. 学会長・座長・その他	101
◆小児内科	
＜神経内科＞＜循環器科＞＜新生児科＞	
◆小児外科	
＜一般外科＞＜形成外科＞	
◆放射線科	
◆リハビリテーション課	
◆臨床工学課	
◆看護部	
8. 学生講義	102
◆小児内科	
＜循環器科＞＜新生児科＞＜アレルギー・リウマチ科＞＜感染症科＞	
◆産科	
◆放射線科	
◆歯科	
◆リハビリテーション課	
◆臨床工学課	
◆看護部	
9. 定期的研究・抄読会・カンファレンス	105
10. 講話会	106
11. クルズス	106
12. CPC	106
13. その他	106
(1) 研究会・セミナー等	
14. 公的資金による研究	108
1 院内研究費による研究	
2 院外研究費による研究	

統計編

1. 管理業務	
(1) 会計	114
①経営分析	
②収益的收入及び支出	
③月別医業収益内訳	

2. 診療業務	
(1) 総括表	120
(2) 月別・科別外来患者受診の状況	122
◆ 1日平均外来患者の状況	
(3) 月別入退院患者数	125
◆ 1日平均入院患者の状況	
(4) 市保健所・保健福祉事務所管内別新規登録患者数	127
◆ 地域別新規登録患者数	
◆ 地域別入院患者の状況	
◆ 地域別利用状況	
(5) 年齢階層別状況（新規登録患者数）	132
◆ 年齢階層別状況	
(6) 救急医療	133
① 救急医療の状況	
② NICU 車市保健所・保健福祉事務所管内別出動状況	
(7) 予防接種実施状況	135
① 月別実施状況	
② 市保健所・保健福祉事務所管内別実施状況	
③ 推 移	
(8) 疾病分類別入院患者数	136
① 第一病棟	
② 第二病棟	
形成外科	
整形外科	
③ 第三病棟	
④ 新生児未熟児病棟	
(9) 麻 酔	141
① 月別麻酔件数	
② 年齢階層別状況	
(10) 歯 科	142
① 診療実績	
② 初診患者紹介元	
③ 年齢別初診来院数	
④ 薬物を用いた全身管理	
(11) 放射線	143
① 依頼科別件数	
② 月別件数	
③ 検査種別件数	
ア CT	
イ MRI	
ウ RI	
エ X-TV	
オ US	
カ 心臓カテーテル	
キ 一般撮影	

	ク ポータブル撮影	
	ケ 画像データコピー	
(12)	臨床検査	147
	①検査の状況	
	②血液製剤取り扱い状況	
	③分割取り扱い状況	
	④幹細胞保存	
(13)	薬 剤	149
	①調剤等の状況	
	ア 処方箋の枚数等	
	イ 調剤件数内訳	
	②注射剤の状況	
	ア 注射箋等の枚数等	
	イ 抗がん薬調製数	
	③注射剤以外の医薬品等の払い出し状況	
	④薬剤情報件数等	
	⑤製剤等の状況 (種類別、製剤件数及び量)	
	⑥薬効別薬品購入額	
(14)	リハビリテーション	154
	①診療点数	
	②延べ治療件数	
	③延べ単位数	
	④年齢別新規患者数	
	⑤リハビリテーション算定区分別実績	
(15)	栄 養	157
	①一般食の種類と食数	
	②離乳食の種類と食数	
	③特別食の種類と食数	
	④調乳の種類及び人数・本数	
	⑤濃厚流動食・成分栄養剤の種類及び人数・本数	
(16)	臨床工学課	160
	①臨床業務症例数	
	ア 体重別体外循環症例数	
	イ 疾患別内視鏡手術症例数	
	②月別日常点検件数	
	③月別人工呼吸器使用中点検件数	
	④月別人工呼吸器回路交換件数	
	⑤月別定期点検件数	
	⑥月別院内修理件数	
(17)	心理相談室	165
	①心理検査	
	ア 心理検査	
	イ 年齢別被検査者数	
	ウ 依頼科	
	②カウンセリング	

ア	カウンセリング	
イ	初回カウンセリング実施時の受診科	
(18)	母子保健室	167
①	精密健康診査	
ア	保健福祉事務所・保健所別受診状況	
イ	科別・年齢別受診状況	
ウ	科別受診状況及びその結果	
②	新生児・未熟児病棟および他病棟入院患児の退院連絡	
③	関係機関との連携状況	
④	関係機関との連携会議	
⑤	親の会への支援	
⑥	群馬県先天性代謝異常等検査事業	
(19)	地域医療連携室	170
①	医療相談件数	
ア	相談内容及び件数(地域医療連携室)	
イ	公費負担医療費申請等事務取扱件数	
ウ	身体障害者手帳等事務取扱件数	
②	子ども虐待防止対策事業	
ア	院内CAPS開催状況	
イ	要支援事例検討会状況	
ウ	支援会議実施状況	
③	関係機関訪問	

総括編

1.	沿革	175
◆	開院後の歩み	176
2.	施設	
(1)	敷地・建物の面積	192
(2)	病棟構成並びに建物配置図	192
(3)	施設・設備の設置状況	193
(4)	付属設備 主なる付属設備一覧	200
(5)	重要物品 主なる医療機器一覧	203
3.	組織	
(1)	機構	207
(2)	人事	208
①	役職員名簿	
②	職種別・部門別職員配置状況	
4.	運営	
(1)	診療制度	211
(2)	院内会議の状況	215
	令和6年度のあゆみ	216
	職員名簿、職員異動状況	217
	編集後記	220

業 務 編

1. 第一病棟

令和6年度、群馬県立小児医療センターでは、神経内科・子どものこころ診療科、アレルギー・リウマチ科、感染症科、内分泌代謝科を中心に診療を行った。入院患者の詳細は別表1-4を参照されたい。

群馬県でも少子化が進み、2023年の合計特殊出生率は1.25と全国平均を僅かに上回っているが、出生数は減少傾向にある。一方、外国人住民は2023年12月末時点で72,315人(県人口の3.8%)と過去最多で、ベトナム人(15,093人)、ブラジル人(11,906人)、フィリピン人(8,627人)など非英語圏出身者が大半を占める。言語障壁に加え、ハラル食やイスラム教の慣習など文化・宗教の違いによる相互理解の課題は大きく、対応には時間を要する。物価上昇に診療報酬が追いつかない中、費用的な裏付けのない多言語・多文化対応は病院経営の負担となっている。

当院および当病棟は、稀少疾患や重症患児への対応に追われており、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士などの献身的な努力により医療提供を維持している。日本全体として医療スタッフの長時間労働や精神的負担は深刻で、医療・福祉業界の離職率は2023年に15.4%に達する(厚生労働省「令和5年雇用動向調査」)。持続可能な医療体制の構築には、医療費削減ありきの診療報酬の抜本的改革、経済的後ろ盾を得た上での労働条件の改善など国全体を巻き込んだ政策転換が必要不可欠である。

(椎原 隆)

表 1 第一病棟主診断別入院患者

疾患名	人	疾患名	人
食物アレルギー	254	川崎病	10
気管支炎	97	COVID-19	9
肺炎	97	アナフィラキシー	9
胃腸炎	67	ミトコンドリア病	9
呼吸不全	52	インフルエンザ	7
てんかん	46	血糖症	6
麻痺	44	細菌性腎炎	6
気管支喘息	38	髄膜炎	6
う蝕	27	腎盂腎炎	4
糖原病2型	23	睡眠時無呼吸症候群	4
大発作持続状態	18	脊髄性筋萎縮症	4
痙攣	16	全前脳胞症	4
リンパ節炎	13	血球貪食症候群	3
脱水症	12	成長ホルモン分泌不全性低身長症	3
ミオパチー	11	先天性多発性関節拘縮症	3
気管軟化症	11	脳症	3
尿路感染症	11	その他	152
筋ジストロフィー	10	合 計	1,089

表 2 第一病棟入院患者年齢構成

新生児	6 人	0.6%
1か月～1歳	145 人	13.3%
1歳	160 人	14.7%
2歳	93 人	8.5%
3歳	88 人	8.1%
4歳	86 人	7.9%
5歳	70 人	6.4%
6歳	76 人	7.0%
7歳	38 人	3.5%
8歳	42 人	3.9%
9歳	28 人	2.6%
10歳	37 人	3.4%
11歳	49 人	4.5%
12歳	32 人	2.9%
13歳	24 人	2.2%
14歳	25 人	2.3%
15歳	20 人	1.8%
16歳	17 人	1.6%
17歳	11 人	1.0%
18歳	11 人	1.0%
19歳	6 人	0.6%
20歳以上	25 人	2.3%
合計	1,089 人	100.0%

表 3 第一病棟科別入院患者数

アレルギー・リウマチ科	380 人	34.9%
神経内科	311 人	28.6%
総合診療科	287 人	26.4%
循環器科	40 人	3.7%
歯科	33 人	3.0%
感染症科	22 人	2.0%
外科 (小児外科)	6 人	0.6%
血液腫瘍科	6 人	0.6%
内分泌代謝科	4 人	0.4%
合 計	1,089 人	100.0%

表 4 第一病棟入院死亡症例及び剖検

	年齢	性別	診療科	在院日数	主病名	剖検
1	6歳0ヶ月	女	総合診療科	2	てんかん重積状態	なし
2	1歳4ヶ月	女	神経内科	57	痙攣重積型二相性急性脳症	なし

(1) 総合診療科

1. 概要

令和6年度は、総合診療科の設立から4年目を迎えた。総合診療科ではチーム医療を重視し、診断および治療方針は週2回のカンファレンスにおいて、複数の診療科の医師が意見を出し合いながら決定している。

2. 診療体制

外来診療は、神経内科(椎原、渡辺、道和、森田、清水有、鈴木)、血液・腫瘍科(鏑木、飯島)、遺伝科(山口)、アレルギー・リウマチ科(野村、清水真、糸永)、感染症科(清水彰)、後期研修医(上島)で構成されている。診療は常に2名体制で行い、判断に迷う場合や患者の待ち時間が長くなる際には、医師間で有機的に連携を図りながら対応している。

急患については、日勤帯であれば随時受け入れを行っており、一次・二次医療機関からの紹介にも柔軟に対応している。

3. 入院対応と診療連携

総合診療科を経由した入院は主に第一病棟が担当する。入院患者数や主たる疾患については第一病棟の業務報告を参照されたい。

紹介のあった症例については、原則としてすべて受け入れる方針をとっている。ただし、常勤医師の不在や専門性の観点から対応が困難な疾患については、他の医療機関への紹介対応を行っている。また、より多様な疾患に対応するために、他医療機関からの医師派遣も受け入れている。

4. 特殊業務

リハビリテーション前の事前評価を担当している。

院内の対象患者に対するシナジス投与も実施している。

5. 地域連携と入院調整

入院が必要と予測される症例や、基礎疾患等により特別な対応を要する患者に関しては、地域医療連携室および外来診療部門が事前相談を受け、円滑な受け入れ調整を行っている。

(野村 滋)

(2) 腎臓内科

腎臓内科は令和6年度も常勤医が不在のままであり、外来診療のみ継続した。腎臓外来は、(火)の1,3,5週を丸山が、(火)の2,4週と(木)の1,3,5週を群馬大学小児科の池内助教が担当した。前年度と同様に、初診患者の受け入れは池内助教の担当日のみとさせていただいたが、令和6年度の延べ受診患者数は461名であった。前年度(450名)よりは少しだけ増加したものの、ピーク時と比較すると50%程度に留まっている。常勤専門医不在のため、急性・慢性ともに腎臓疾患の入院管理はできなかった。常勤医の復活が待たれるところである。

(丸山健一)

(3) 神経内科

令和6年度神経内科外来担当は椎原 隆、渡辺美緒、森田孝次、道和百合、清水有紀、鈴木江里子の6名で、外来患者数は新患71(昨年度87)名、再来2,327(昨年度2,597)名でした。

群馬県内では小児神経疾患に対応できる医療機関が限られており、当院では可能な限りご依頼をお受けしておりますが、ご期待に添えない場合もございます。現在、施設の老朽化が進む中、神経

内科のスタッフの平均年齢も上昇しております。群馬県立小児医療センターは数年後の施設移転を控え、未来を切り開く新たな段階へと踏み出しつつあります。小児神経という武器を手に、情熱を持って困難に立ち向かう医師を募集しております。ともに足下を照らす光とならんことを。

(椎原 隆)

(4) 子どものこころ診療科

子どものこころ診療科は、発達障害や不登校など近年増加する小児精神・発達の課題に対応するため、令和5年度から常勤医1名(森田孝次<神経内科兼任>)で開設しました。令和6年度には公認心理師2名(常勤1名、レジデント1名)が加わり、計3名体制へと拡充。入院病棟は持たず外来診療のみですが、毎週火曜日(午前・午後)と木曜日(午前)に専門外来を行っております。令和6年度の外来実績は初診59名、再診176名(重複ふくまず)で、院内の他科から紹介される低出生体重児や先天性心疾患児の発達相談に加え、県内各地から発達障害や不登校の相談も受け入れております。また、必要に応じて公認心理師が心理検査や心理療法を実施し、地域の保健・教育機関とも連携しながら包括的な支援を提供しています。

過去1年間の主な症例(重複含む)をみると、知的障害・心理発達の障害が84例と最も多く、次いで行動・多動性障害(47例)、慢性疾患児の包括的ケアとしての心身症・生活習慣病関連が23例、不登校・ひきこもりが9例でした。気分障害や神経症性障害(23例)や児童虐待対応(15例)、終末期の心理的ケアなど幅広い領域にできる限りの対応をしております。

診療科の特色として、①慢性疾患を抱える児の心身両面を診るための院内多職種連携、②学校や児童相談所、保健センターなど外部機関とのネットワークを活かした地域支援、③医師と公認心理師が協働で診療計画を立案して検査や治療を提供することが挙げられます。丁寧に話を聞き、子どもと家族が安心して相談できる窓口として機能することを目標に、今後も努めてまいります。

(森田孝次)

(5) アレルギー・リウマチ科

主な診療対象:

- ・アレルギー性疾患(気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、好酸球性胃腸炎、好酸球性食道炎など)
- ・リウマチ性疾患(JIA、SLE、JDM、SSなど)
- ・自己炎症性疾患(PFAPA、FMF、CAPSなど)
- ・慢性炎症性腸疾患(クローン病、潰瘍性大腸炎など)
- ・慢性炎症性疾患(CRMO、ベーチェット病、間質性肺炎など)
- ・不明熱
- ・呼吸器疾患(喉頭・気管軟化症、狭窄)

教育・研究・院外活動:

- ・初期研修医を多数受け入れ、指導
- ・日本小児アレルギー学会ガイドライン作成(食物アレルギー、小児喘息)
- ・感染症・アレルギーに関する講演活動
- ・新しい検査技術(細胞分離法、フローサイトメトリー)を用いた研究
- ・経験症例の蓄積と研究

診療体制:

- ・ 専門外来: アレルギー外来 (月～金午後)、リウマチ外来 (木曜午後)
- ・ 経口食物負荷試験: 主にデイ入院で実施
- ・ 境界領域の診療: 他科の基礎疾患をもつ患者への対応
- ・ 家庭・集団生活への支援
- ・ 「総合診療」と「専門診療」を診療の両輪として取り組んでいる

(野村 滋)

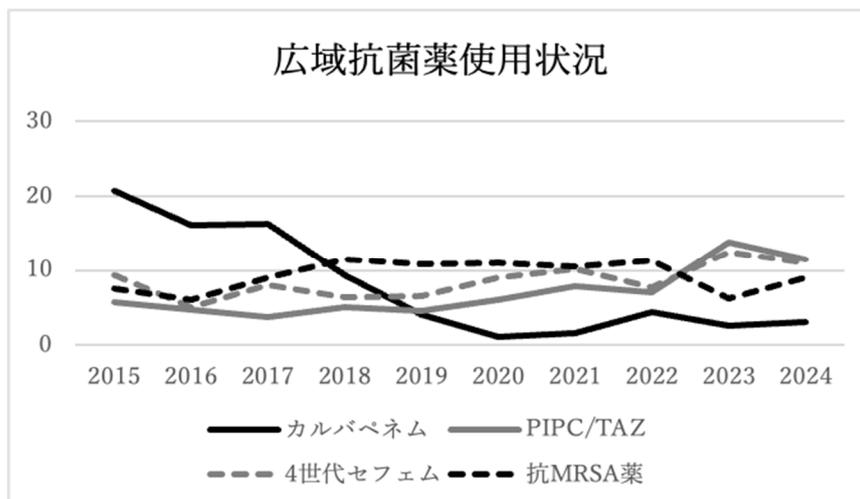
(6) 感染症科

感染症科は、一般的な感染症の外来診療・入院診療を行うとともに、院内各科や院外からの感染症に関するコンサルトを受け付けている。現在は、常勤医師1名で、感染対策室長を兼務している。外来診療は、毎週火曜日と木曜日に行っている。気道感染症・尿路感染症などの一般感染症に加え、骨髄炎、BCG感染症、周期性発熱症候群などの患者の診療も行っている。また、予防接種も積極的に推進しており、重篤な基礎疾患を有するケースや、臓器移植後の患者へのワクチン接種を行っている。

2024年度は、約200例のコンサルト症例を診察した。循環器科、外科、神経内科などからのご相談が多い。重度の基礎疾患を有する児や、PICUに入院中の重症例の感染症に関するご相談を多く頂いている。特に急性感染症を疑う症例で、喀痰や尿のGram染色塗抹の鏡検とその解釈に関するお問い合わせが多く、なるべく迅速に対応できるようにしている。

また、マルチプレックスPCR検査機器であるFilmArrayを導入し、主に気道感染症、脳炎・髄膜炎、菌血症などの診療に利用できるようになり、感染症の病原体診断がつく症例が増加している。

当科では、抗菌薬適正使用を推進している。図は、1,000 patient-daysあたりの広域抗菌薬の使用量(DOT)である。2018年以降、カルバペネム系抗菌薬の使用量が大幅に削減している。2019年度以降は、DOTが5未満で推移しており、2024年度もほぼ横ばいで推移した。広域抗菌薬の使用量が減少するとともに、院内で検出される細菌の薬剤感受性は改善している。黄色ブドウ球菌に占めるMRSAの割合は38%に減少し、緑膿菌のカルバペネム感受性は98%に上昇している。2023年度に増加したピペラシリン・タゾバクタム(PIPC/TAZ)と4世代セフェム(4th Cephem)の使用量は、今年度は小幅に減少した。広域抗菌薬の使用状況を適切にフォローし、長期投与例では変更を提案するなど、抗菌薬適正使用の推進が引き続き必要である。



感染症科では、群馬大学医学部の学生実習、初期研修医の研修を多く受け入れており、感染症診療と抗菌薬使用の基本的な知識を身に付けられるよう研修プログラムを実施している。

学術活動としては、ヨーロッパ小児感染症学会や日本小児感染症学会などで臨床研究の発表、英文・和文誌で学術論文の発表を行った。小児感染症学会のセミナーの主催、感染症に関する講演活動、商業雑誌への寄稿も行った。他に、侵襲性 GBS 感染症の全国サーベイランス、化膿性関節炎・骨髄炎に関する多施設共同研究、新生児術後感染症など、多施設共同研究の協力機関として研究を行っている。

(清水彰彦)

(7) 遺伝科

遺伝科は令和 6 年度に 18 年目を迎えました。常勤医 1 名での体制となり、引き続き山口 有が担当しました。

診療内容は先天性疾患・遺伝性疾患についての診断や情報提供、遺伝相談 (遺伝カウンセリング)、健康管理のための他科紹介などで、外来診療に加えて入院患者のコンサルテーションを行いました。専門外来は金曜午前・午後、月曜午前とともに他科受診に合わせて他の曜日にも受診できるよう調整を行っています。

外来患者数は、新規患者が 82 人、再診 1,523 人でした。診断のための遺伝学的検査を行えるよう、保険診療内での検査以外にも、他施設との共同研究による研究的遺伝子解析の実施体制を整えました。研究的遺伝子解析については、未診断疾患イニシアチブ (IRUD) に高度協力病院として参加し、県内の未診断稀少疾患の患者さんの診断に寄与できるよう努めています。

平成 21 年度より続いている 13 トリソミー・18 トリソミーの家族会「スマイル」および、Down 症候群に対する集団診療「あさがおの会」についても年 2 回ずつ開催しました。

(山口 有)

(8) 内分泌代謝科

内分泌代謝科は、令和 6 年度に常勤医師 1 名 (長沼) が就任し、非常勤医師 1 名 (群馬大学小児科 大澤助教) とともに 2 人体制となった。

主な診療内容は、入院患者のコンサルト (長沼)、週 1 回木曜日の外来 (長沼、大澤) であり、対象疾患は低身長症、甲状腺疾患 (機能亢進症・低下症)、肥満、思春期早発症、低血糖症、高脂血症、その他 (副甲状腺機能亢進症、骨形成不全症等) であった。また、前年度まで内分泌代謝科の入院患者の対応は行っていなかったが、常勤医の在籍により、低身長負荷試験を 7 月より入院にて開始し、2 か月間で 4 名実施した。そのうち 2 名 (成長ホルモン分泌不全症、SGA 性低身長症) に対し、成長ホルモン製剤の導入を行った。

下半期からは常勤医師の産休・育休取得にあたり、外来診療のみとなったが、また令和 7 年度復職後、新規紹介患者の受け入れ開始や、入院対応の増加 (低身長負荷試験、思春期早発症に対する LH-RH 負荷試験、肥満教育入院等) に努めていく方針である。

(長沼純子)

2. 第二病棟

第二病棟は外科系病棟であり、外科、形成外科、整形外科が計 27 床にて運用している。また同じ棟内にある DAY 病棟は外科、形成外科、歯科が 2 床にて運用している。

令和六年度、第二病棟の入院患者数は 756 人であり、令和五年度の 828 人より減少した。

第二病棟在院日数は 6.9 日であり、令和五年度の 7.9 日より短縮した。

延べ患者数は 6,155 人であり、令和五年度の 5,972 人より増加している。

第二病棟一日平均患者数は 16.9 人であり、令和五年度の 16.3 人より増加している。

第二病棟病床利用率は 62.5%であり、令和五年度の 60.4%より増加した。

DAY 病棟病床利用率は 54.5%であり、令和五年度の 47.1%より増加した。

(西 明)

(1) 小児外科

診療体制では、横川先生が大学の医局人事で異動となり、かわりに東京大学から小嶋先生が加わって、西 明、渡邊栄一郎、山口岳史、篠原正樹、小嶋重光の 5 人体制で診療しました。また 10 月に渡邊先生が異動となりかわりに小西先生が来てくれました。すごく元気な渡邊先生から寂しがり屋の小西健一郎先生に替わったことでまたまた雰囲気が変わりました。

手術数 493 例 (昨年度 373 例)、新生児手術例は 32 例 (昨年度 25 例)、腹腔鏡手術 163 件 (昨年度 133 件) でした。

今年度の新しい試みとして非触知精巣の手術に Shehata 法を導入しました。精巣動静脈の長さが不足して陰嚢内までおろせない場合に、反対側の腹壁に精巣を縫合固定して精巣動静脈を洗濯ひものように横に走らせて、そこに腸の重みがかかってゆっくり血管が伸ばされて、二回目の手術で陰嚢内まで精巣を引き下ろすことができるようになるという術式になります。導入してみると術後経過はよいようですので、適応症例があったら施行していきたいと考えています。

さて今年も締め切りに追われて、ついに原稿をとりかかっています。

年に 1 回の連載なのに本当につらいです。週刊ジャンプの先生方を本当に尊敬します。

で、追い詰められた時の常套手段で、なにか書くことがないか、日記を読み返します。

子どもたちのこと、うちの黒猫のこと、ハエトリソウなどの鉢植えのことが日記にたくさん書かれているのに、仕事のことがあまり書かれてません。困りました。

1 月の日記にその日に見た仕事っぽい夢のことが書いてあったのでそのことを書こうと思います。

夢の中で仕事をしている僕

謎のナイス中年男性がきて

「西先生、先生は四の五の言わない小児外科医と聞いていますが本当ですか？」

「はい、私が四の五の言わない小児外科医の西です。」

「実は先生に治療していただきたい GER のクランケがいるのです。こちらです。」

でっかいワニが、デーモンという。

「ぐあー」

「ふむふむ、わかりました。なんとかしましょう。」

・・・しかし UGI するのも大変そうだな。やべーな。

はっ、夢か。

という夢でした。わざわざ手帳に書き残していました。

その日の朝の外科カンファでその夢の話を出したところ、みんな真面目に対応を考えてくれました。腹壁が硬そうなので腹腔鏡手術は難しそうとか、おなかの正中に縦のしわがあるからそれで開腹したら目立たないとか。

ほんとにみんなやさしい。僕の変な夢にきちんと乗っかってくれてありがとう。(ひまなのかしら?) 外科のカンファはいつもこんな話で盛り上がっています。

いろいろな科や手術室や病棟の看護師の方々やメディカルの方々、事務方の皆さんにもいろいろとご迷惑をおかけしていますが、なんとかまた一年乗り切ることができました。ありがとうございました。

(西 明)

手術症例 R6 年度 (重複含む)

正中頸嚢胞, 側頸瘻手術	3	小腸切除	7
気管切開	1	腸重積観血的整復	2
喉頭気管分離術	5	ヒルシュスプルング病根治手術	1
気胸手術 (胸腔鏡)	0	直腸肛門奇形手術 (低位)	9
肺葉切除 (開胸)	0	直腸肛門奇形手術 (中間位・高位)	5
肺葉切除 (胸腔鏡)	2	肛門疾患	9
肺分画症手術 (胸腔鏡)	0	胆道閉鎖症手術	0
A 型食道閉鎖症手術	0	胆道拡張症手術 (開腹)	7
C 型食道閉鎖症手術	1	胆道拡張症手術 (腹腔鏡)	0
食道バンディング	1	脾臓摘出術 (開腹)	0
食道アカラシア手術 (腹腔鏡)	0	水腎症手術	0
胃・食道逆流防止手術	1	膀胱尿管逆流症手術	2
胃・食道逆流防止手術 (腹腔鏡)	10	悪性腫瘍手術	2
横隔膜ヘルニア手術 (開腹)	3	良性腫瘍手術	10
横隔膜ヘルニア手術 (胸腔鏡)	1	腫瘍生検	2
先天性腹壁異常手術	1	中心静脈カテーテル挿入	20
胃手術 (胃瘻含む)	18	鼠径ヘルニア (精巣水腫含む) 手術	38
肥厚性幽門狭窄症手術	6	鼠径ヘルニア (精巣水腫含む) 手術(腹腔鏡)	102
腸閉鎖・狭窄症手術	5	精巣固定術	33
腸回転異常症手術	6	気管支鏡	3
虫垂炎手術 (開腹)	1	上部消化管内視鏡 (治療含む)	53
虫垂炎手術 (腹腔鏡)	21	下部消化管内視鏡 (治療含む)	27
人工肛門造設	15	小腸カプセル内視鏡	20
人工肛門閉鎖	15	その他手術	33
イレウス手術	9	合 計	510

(2) 形成外科

令和6年4月から群馬大学形成外科より正田晃基レジデントが派遣となり、専門医2人(浜島、佐々木淑恵)、レジデント1名の3人体制で診療を行った。10月から群馬大学形成外科より中野京レジデントが派遣となり、4人体制となった。正田晃基レジデントは令和7年3月末で高碓医療センター形成外科に異動となり、令和7年度からは3人体制となった。

<外来診療>

外来診療は月曜日・木曜日の午後に行い、新患患者は月曜日・木曜日の午前中の予約診察として行った。また、月曜日の午前中に外来で血管腫に対するレーザー治療を行った。

令和6年度の新患患者数は461人、再診患者数は4,132人、総数4,593人であった。外来患者数は前年よりも増加した(前年比107.1%)(令和5年度の新患患者数は466人、再診患者数は3,824人で、総数4,290人)。

<手術>

手術は、水曜日・金曜日入院全身麻酔手術及び日帰り全身麻酔手術を行った。また金曜日午後には、手術枠の空きが有る場合に外来局所麻酔手術を行った。

令和6年度の形成外科の手術件数は1,468件で、全身麻酔201件(入院192件、日帰り全身麻酔下手術9件)、局所麻酔1,269件であった。前年度と比較すると手術件数は増加し、特に全身麻酔手術が50件、前年比28%増加した。(令和5年度の形成外科の手術件数は1,369件で、全身麻酔155件(入院144件、日帰り全身麻酔下手術11件)、局所麻酔1,214件)。

手術症例を手術内容区分に従って分類し、その術式とともに以下に示す。

(1) 新鮮熱傷	0件
(2) 顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷	1件
口腔内損傷	1件
(3) 唇裂・口蓋裂	34件
口唇鼻形成術	8件
口蓋形成術	10件(耳鼻科で鼓膜切開もしくは鼓膜チューブ留置術を同時施行4例)
顎裂部骨移植術	13件
鼻形成術	3件
(4) 手、足の先天異常、外傷	15件
多指症手術	4件
合指症手術	2件
合趾症手術	2件
多合趾症手術	3件
多趾症	3件
絞扼輪形成術	1件
(5) その他の先天異常	74件
副耳切除術	6件
耳瘻孔切除術	6件
睫毛内反症手術	6件

舌小帯形成術	8 件
漏斗胸手術 (Nuss 法)	7 件
漏斗胸手術 (Nuss 法術後バー抜去)	7 件
小耳症手術 (肋軟骨移植)	1 件
臍ヘルニア形成術	35 件
(6) 母斑、血管腫、良性腫瘍	78 件
母斑切除術	32 件
良性腫瘍切除術	33 件
爪下外骨腫切除	2 件
血管腫切除術	4 件
静脈奇形硬化療法	7 件
(7) 悪性腫瘍およびそれに関連する再建	1 件
腹部悪性腫瘍切除	1 件
(8) 癬痕、癬痕拘縮、ケロイド	3 件
指癬痕拘縮形成術	1 件
術後癬痕形成エキスパンダー挿入	1 件
胸部ケロイド切除	1 件
(9) 褥創、難治性潰瘍	0 件
(10) 美容外科	0 件
(11) その他	1,261 件
強皮症皮膚生検	1 件
レーザー治療	1,260 件 (全身麻酔下 3 件)

乳児血管腫に対するレーザー治療は、昨年よりも 50 件程増加した。月曜日午前中に 20～30 人に対してレーザー治療を行っており、待合がかなり混雑する状況はかわっていない。プロプラノロール内服治療は血液腫瘍科に依頼しているが、適応症例数は増加している。

熱発、上気道炎などの体調不良により予約手術がキャンセルになった場合にネットを利用したキャンセル枠への申し込みの施行を始めた。手術 1 週間前の術前検査以降に体調不良となることが多いため、キャンセル枠が埋まらないことがほとんどであり、今後運用方法を見直す予定にしている。

(浜島昭人)

(3) 整形外科

1. スタッフ

部長：浅井伸治

資格：日本整形外科学会専門医、義肢装具等適合判定医、身体障害者福祉法第 15 条指定医

参加学会：日本整形外科学会、日本小児整形外科学会、関東小児整形外科研究会、日本小児股関節股関節研究会

非常勤医師：富沢仙一

資格：日本整形外科学会専門医、日本スポーツ協会スポーツドクター、運動器リハビリテーション

ン認定医

参加学会：日本整形外科学会、日本小児整形外科学会、関東小児整形外科研究会、日本リハビリテーション学会、日本足の外科学会、日本創外固定学会、日本二分脊椎研究会、脳性麻痺の外科研究会、日本関節鏡学会、関東整形災害外科学会

2. 総括

令和2年4月1日から富沢仙一先生は非常勤医師として月曜から木曜まで外来診療、手術に参加され診療体制を維持しております。

群馬大学整形外科から品川知司先生が手術に参加されています。

当科の特色は、脳性麻痺や二分脊椎に対する包括的治療の試みと、さらに、変形治癒骨折や低身長に対し骨延長術、創外固定術、小児股関節の手術治療である。

整形外科外来は、21 診察室、22 診察室は診察を主体の部屋とし、23 診察室は処置室とし、ギプス処置、装具作製等を行っています。

骨長補正術は、以前は短肢側の骨延長術のみであったが、8-プレートによる成長抑制術が差の小さい場合には有用であり、片側肥大症例（或いは片側低形成症例）に行われている。

小児股関節疾患について、自己血貯血、股関節造影の後、二期的に骨切りを行う治療対象は1例（大腿骨内反骨切り術1人）であった。

本年の特徴として群馬大学整形外科 品川知司先生のご指導の下、歩行開始後に見つかった股関節脱臼に対し牽引治療（OHT法）を開始した。

	月	火	水	木	金
午前	再来	手術	再来	小手術、BTX	再来
午後	新患	手術	新患	書類ほか	リハビリ

整形外科研修医の後期研修医の研修受け入れはなかった。

群馬大学医学部学5年生4名が各2週間ずつ当科で学生実習を受けられました。

3. 外来

総受診者数3,240人、新患325人、再来2,915人であった。総受診者数は370人増加し、新患は40人増加し、再来者は330人の増加であった。当科における新患数は入院、外来で他科からの予定外の紹介や過去の通院患者の新規受診なども含まれており、診察日の実際の総受診者の記録が電子カルテに反映されないために、実際の受診者数との乖離がある。

外来日には、主に、午前中を再来に、午後を新患にあてた。予定ギプス等の処置は再来終了時刻を目安にギプス処置枠を置いて、行なった。小児整形外科的ギプスは患者数10人に対し112回行った。現在、外来を能率的に進めるために、前日までの予約患者リストにてレントゲン検査者や装具作成者をピックアップし滞りのない流れを作っている。それでも外来の待ち時間が長くなりつつある。

4. 病棟入院患者数

延べ入院患者数は49人であった。

創外固定装着症例は2人、股関節脱臼牽引治療のための入院が1人ありました。

予定外の入院が6人あり内訳は骨折による手術治療が3人、大腿骨骨折の保存的治療1人、化膿性足関節炎1人、蜂窩織炎1人であった。

股関節脱臼に対する牽引治療、下肢の手術が多いため、免荷や骨延長に長期間を要し在院日数は長くなる傾向がある。比較的年長児、学童期にある患者が治療対象となることが多く、赤城特別支援学校が併設されていたことは有用であった。

5. 手術件数

手術は52件、うち麻酔下の股関節脱臼整復およびギプス固定1人、股関節造影検査と自己血貯血を1人に行なった。(別表1参照)。

予定外の手術として、化膿性関節炎による緊急手術が1件、骨折による臨時手術が3件ありました。

なお、手術に関する施設基準について、区分2に分類される手術:「靭帯断裂形成手術等」については、手術なし、区分3に分類される手術:「内反足手術等」については、2例の手術を実施した。脚長補正術に関しては、骨延長術 (Ilizarov Frame 使用) 1例、骨端軟骨発育抑制術 9例 (8プレート使用) を行った。

(※他に8プレートを用いた外反膝の矯正手術を行っている。)

脳性麻痺児に対するボトックス[®]施注を8人に対し約22回行った。

(浅井伸治)

別表 1【手術件数】52件

手術	件数	手術	件数
骨折観血的手術:		偽関節手術 (腓骨遠位)	1
骨折観血的手術 (上腕骨)	1	観血的関節授動 (足)	4
骨折観血的手術 (大腿骨)	2	内反足手術	2
骨折観血的手術 (脛骨)	3		
骨内挿入物除去術:		腱鞘切開術	6
骨内挿入物除去術 (上腕骨)	1		
骨盤内異物除去術	3	骨切り:	2
骨内挿入物除去術 (大腿骨)	7	寛骨臼移動術	1
骨内挿入物除去術 (下腿)	7	大腿骨外反骨切り術	1
骨内挿入物除去術 (足)	3	骨腫瘍切除	1
		骨搔爬術 (足関節)	1
骨延長術 [大腿骨]	1	股関節脱臼非観血的整復術	1
骨延長術 [脛骨および腓骨]	1	手術合計:	57
骨端軟骨発育抑制術 [大腿骨]	11		
骨端軟骨発育抑制術 [脛骨]	2	検査	
		関節造影 (股関節)	1
偽関節手術 (大腿骨)	2	自己血貯血 (全身麻酔下)	1
偽関節手術 (脛骨)	1		

3. 第三病棟

第三病棟（血液腫瘍・循環器）の延べ入院患者数は 6,392 人、1 日平均入院患者数は 17.5 人、年間病床利用率は 58.4% であり、昨年の入院数と比較しやや減少した。

第三病棟は循環器疾患と血液腫瘍疾患という重症疾患を扱う病棟であり、小児がんの化学療法を行う一方で、重症心疾患の術前・術後管理や心不全管理を行うなど、疾患概念が全く違う高度の専門知識と看護力を必要とする患者の看護を同時に行う必要があり看護師の負担は大きくなっている。また、PICU の後方病床として医療的ケアが多い重症患者を PICU から受け入れなければならない状況もあり、毎日ベッドコントロール会議を行い PICU から循環器・心臓血管外科患者の退室や受け入れがスムーズに行われるようにしている。今後も引き続き医療安全を考慮しながら、患者、患者家族を中心に考えられる業務環境を整えていきたい。

(池田健太郎)

(1) 循環器科

令和 6 年度から新たに佐々木先生が赴任され、下山伸哉、池田健太郎、中島公子、浅見雄司、稲田雅弘、佐々木祐登の 6 名体制で診療を行いました。また、群馬大学の後期研修医を 3 週間ずつ受け入れ、小児循環器診療についての研修を行っていただきました。

年間総入院患者数は 378 名、外来患者数は 4,838 名でした。断層心エコーは 7,021 件でした。心臓カテーテル検査は 133 件に施行しており、Catheter intervention は、バルーン拡張術 17 件、血管内コイル塞栓 6 件、経皮的 ASD 閉鎖術 6 件、Amplatzer PDA 閉鎖栓 4 件、カテーテルアブレーション 11 件、BAS 2 件の計 47 件でした。循環器科関連の死亡は 4 件でした (表 1)。

循環器科では重症患者を多く扱っており、毎日循環器科・心臓外科でチームカンファレンスを行い治療方針の検討を行っています。また PICU が円滑に運営できるようベッドコントロール会議を毎日行い緊急患者に対応できるよう努めています。

令和 7 年度も引き続き群馬県内唯一の小児循環器科として質の高い医療を提供できるよう努めていきたいと考えています。

(池田健太郎)

表 1 循環器科関連の死亡患者

No	年齢	性別	死亡日	診 断	解 剖	Ai
1	10m	F	2024.5.30	三尖弁閉鎖、右感度脈起始異常、冠動脈瘻	あり	あり
2	2y	F	2024.7.22	拡張型心筋症	なし	あり
3	6y	F	2024.10.30	ファロー四徴症、肺動脈弁欠損、気管軟化	なし	あり
4	1y	F	2025.1.12	18p 部分モノソミー、16q 部分トリソミー、両大血管右室起始症、肺動脈閉鎖、気管軟化症、唇顎口蓋裂	なし	なし

(2) 心臓血管外科

令和6年度は、メンバー交代はなく岡村 達、松永慶廉、畑岡 努医師の3名が心臓血管外科チームとして診療にあたりました。年間を通して良好な手術成績を残すことができました。重症な心疾患を多く扱っているにも関わらず手術死亡症例なしという良好な成績(人工心肺症例:64例、非人工心肺症例:14例、その他:12例の合計90例)を残すことができたのも、ひとえに小児循環器科を含めた循環器チーム、その他の診療科、診療部門との連携、協力があったからこそと感謝しております。今年も、新生児症例が多く7例でした。ただ、胎児診断例が少なくなっており、今後の課題が見えてきたと考えております。引き続き成績を維持し、症例数増加を目指し努力していきたく思います。

(岡村 達)

(3) 血液腫瘍科

令和6年度の血液腫瘍科総入院数(再入院を含む)は198人と、COVID流行時にはやや減少傾向であったが増加に転じCOVID流行前の診療実績に戻ってきている。

新規診断患者数も19例であり、これも例年と変わらなかった。疾患の内訳は、白血病・リンパ腫が半数以上を占め、非腫瘍性血液疾患、固形腫瘍、脈管系奇形、その他と続いており、これも例年同様である。

数年前から、入院中および退院後の小児がん患者とその家族を支援する目的に、当院に関わりがあったご家族を中心に様々な支援活動をしていただく試みを開始している。当院も含め日本全国の小児がん診療施設が参加する日本小児がん診療グループ(JCCG)の運営、事業に積極的に参加し小児がん診療連携病院としての機能も果たしている。また血友病診療地域中核病院にも認定されており、非腫瘍性疾患の診療も今後さらに充実・発展させていきたい。

(河崎裕英)

4. 小児集中治療部

令和6年(2024年)度は前年度同様、オープンICU形態で運営した。日中は心臓血管外科、循環器科を中心に各科入室者の担当医の協力のもと、本年度から常勤となった橋木と下山とともにPICU医師業務が2人態勢になった。

令和6年(2024年)度にPICUで治療・管理を行った患者数はのべ305名(前年274名)で年々増加傾向を示している(表1)。ベッドコントロールで受け入れ制限日の削減対応を行った結果、PICUへの受け入れ制限を行った日数は減少していたが、再度増加傾向(令和4年度:3日、令和5年度:34日、令和6年度:43日)を認めており、入室者増加の影響も考慮される。

8床の運用で1日平均入院患者数は5.8名(前年5.7名)、平均入室日数は5.7日(前年6.2日)で、入室患者はほぼ同様の傾向を示した(表2)。全入室患者のうち約6割は手術後等の予定入室で、その他は緊急入室で一般病棟入院中の患者状態悪化で入室になったケース30件(前年38件)、外来からの直接入院14件(前年9件)、当院産科での重症先天性心疾患児の出生後の入院(胎児診断後)14件(前年15件)であった。また、他院からの重症者の転院は52件(前年49件)であった(表3)。

令和元年(2019年)度から新型コロナウイルス感染症による感染が拡大したが、令和6年度はPICUへの新型コロナウイルス感染症患者数は6名(前年8名)と増加傾向は認めなかった。また、令和6年度後半にパリビズマブにくわえニルセビマブが県内でも本格的に導入された。令和6年度は、院内RSウイルス感染による入院者数は73人(前年59人)に増加したが、PICU入室者は8人(5年度7人)と大きな増加は認めず、幸いにも陰圧個室使用状況に大きな混乱は来さなかった。

一方、新生児・乳児への緊急開胸ECMO装着などPICU内での手術を含めた緊急処置は4年度3件、5年度3件、令和6年度は5件で同様の推移であり、術後の開胸状態の患者数がわずかで、非緊急時や状態の安定しているケースは処置を可能な限り手術室で対応する方針を継続していることが背景と考えられる。同様に特殊治療も、患者重症度は大きく変わらないが、V-AECMO2件(前年0件)、CHDF2件(前年0件)、血漿交換0件(前年1件)と令和2年度までと比較すると著明な減少が持続しており、各種特殊治療のレベル維持に課題がさらに重要となっている。救急カートワーキングの急変時シミュレーションおよびECMO導入のシミュレーション教育を強化した。また他の特殊治療として、NO吸入治療20件(前年8件)、N2吸入治療4件(前年2件)、その他、体温維持療法4件、腹膜透析3件(前年0件)、PMX0件であった。

科別在室日数では循環器科・心臓血管外科患者が76%(前年64%)(図1)、診療科別入院患者数も図2のごとく循環器科・心臓血管外科が47%(前年45%)、外科が32%(前年24%)を占め、従来と同様に術後患者の管理が中心であった。また、PICU入室者を年齢構成別にみると、新生児(1ヶ月未満)と1歳未満の乳児(1ヶ月~1歳未満)が32%(前年33%)と多くをしめた(図3)。また、PICUにおける死亡患者は6名(前年4名)(約1.9%)であった(拡張型心筋症、急性脳症、重症先天性心疾患2名、窒息、重症神経疾患患者の呼吸不全)。

PICU内の体制の整備としては、主に以下の項目について活動を行った。

令和5年度に重症部門システムおよび生体情報モニター更新を行ったことを受け、新部門システムを利用した安全機能面、特に急変時対応のシステム構築を開始した。また、施設の医療の質の担保のため、集中治療医学会の重症患者登録データベースシステムへの参加準備を開始している。

また、切れ目ない全入院患者への効果的なリハビリを目指し、早期離床リハビリテーション介入を開始し3年目となった。日常の流れの一つになってきたが、さらなる質の向上を目指し、内容の

改善について検討を開始したところである。

従来の院内体制整備支援事業の終了に伴い、国立成育医療研究センターおよび埼玉県立小児医療センターを拠点施設とした厚労省の臓器提供施設連携体制構築事業に参加している。日々の集中治療の質を向上させることを基本とし、体制構築をさらに進め幅広い要望に応えていくべく備えている。

また、県の事業である CDR 事業に本格的に参加を開始した。事例検討を通して改善すべき事項も明らかになり、より良い患者介入を目指して院内の「子どもと家族のサポートチーム」、「緩和ケアチーム」との連携の強化を目指していきたい。

(下山伸哉)

表 1 入室者数

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
入室者数	243	274	305

表 2 平均在室日数

診療科	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
全診療科	6.0	6.2	5.7
循環器科・心臓血管外科	8.2	8.0	9.1
アレルギー・リウマチ科／感染症科	7.0	5.5	1.7
神経内科	2.4	5.7	4.8
血液腫瘍科	9.0	5.0	1.7
整形外科	2.0	1.0	1.0
外科	3.4	4.0	2.5
形成外科	0.9	1.7	5.7
その他内科系診療科	0	0	5.7

表 3 他院からの転院患者疾患名 (); 前年値

疾 患	症 例 数
脳炎・脳症	3 (5)
痙攣重積・意識障害等	7 (12)
先天性心疾患	8 (5)
心筋疾患等	0 (0)
後天性心疾患	1 (3)
呼吸器感染等	17 (16)
急性腹症等	5 (3)
尿路感染症	1 (0)
不慮の事故／外傷	3 (3)
その他	7 (2)
合計	52 (49)

図1 診療科別在室日数

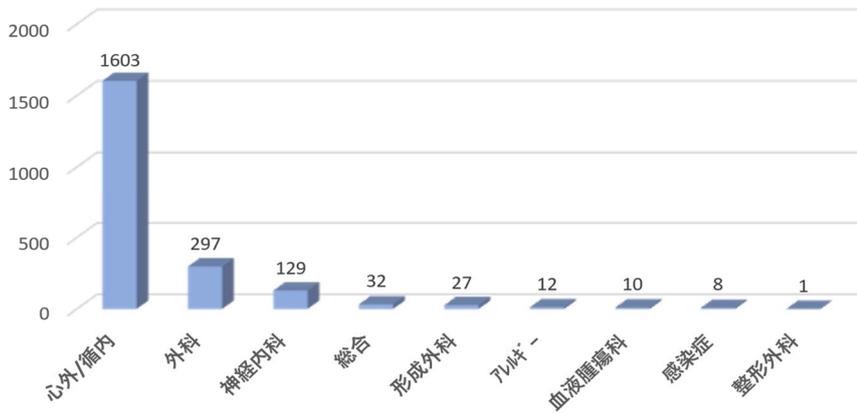


図2 診療科別入院患者割合

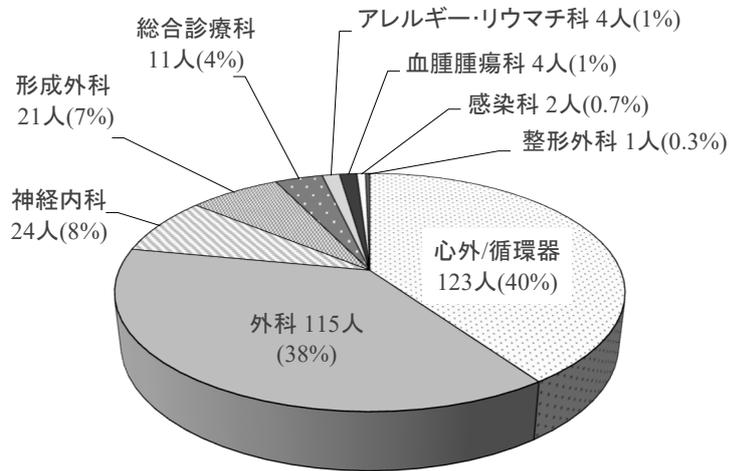
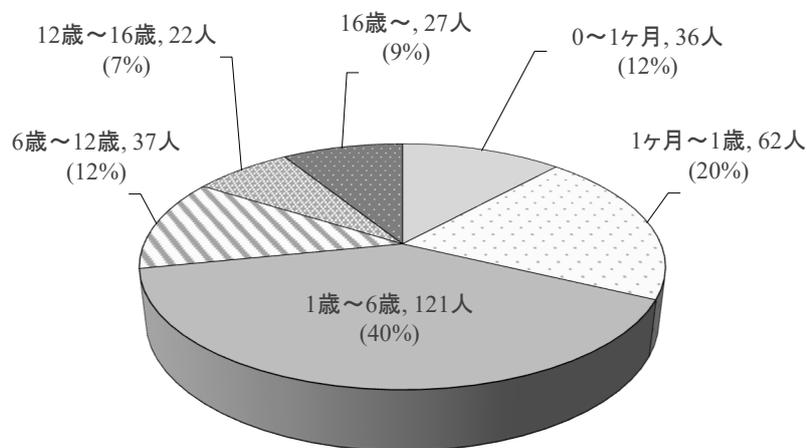


図3 PICU 入院患者年齢分布



5. 新生児未熟児病棟

群馬県の出生数は2023年に1万人を切り、9,950人まで減少している。出生数の減少が続く中で、幸いにして2024年度の当科の入院患者数は233人で、例年と同程度であった。

病床稼働率も例年同様、比較的高水準を維持することができた。極低出生体重児の入院数は48人、このうち28人が超低出生体重児であり、入院患者の重症度についても大きな変化はみられなかった。

今年度も新生児科の医師については、新生児専門医が5名、新生児専門医研修中の医師1名に加えて、小児科後期研修3年目の医師が4カ月交代で1名勤務する体制で診療にあたった。さらに小児科後期研修2年目の医師が3カ月交代で2名ずつ群大の医局から派遣され、最先端の新生児医療を経験できるような人事も導入された。2030年に当院が移転する際には、新生児科の病床が増床される予定である。増床した病床を稼働させるには新生児科医師を大幅に増員することが必要となってくる。若手の医師が実際に専門的な新生児医療に携わることによって新生児医療に興味を持ち、将来、新生児医療を志す医師が増えることを期待している。

昨年度から以前と同じように対面で開催することができるようになった当科開催の各種研修会も例年通り、行うことができた。新生児蘇生法講習会については、Aコース2回、Bコース1回、Sコース5回、救急救命士向けPコース2回を開催するとともに、消防学校でのPコースも開催した。また、3月にはオープンカンファレンスを開催し、当院ならび県内の各病院から持ち寄った症例について活発な討議を行うことができた。今後も県内の周産期医療に貢献できるよう努めていきたい。

(丸山憲一)

◆出生体重の分布

	院内出生	院外出生	総数
500g未満	1	1	2
500～999g	20	6	26
1,000～1,499g	13	7	20
1,500～1,999g	15	5	20
2,000～2,499g	27	10	37
2,500g以上	65	63	128
計	141	92	233

◆在胎期間の分布

	院内出生	院外出生	総 数
22 週	0	1	1
23 週	4	0	4
24 週	1	1	2
25 週	4	0	4
26 週	5	5	10
27 週	5	2	7
28 週	1	0	1
29 週	3	4	7
30 週	6	0	6
31 週	2	0	2
32 週	2	1	3
33 週	3	3	6
34 週	5	2	7
35 週	6	3	9
36 週	13	7	20
37 週	13	15	28
38 週	21	18	39
39 週	24	17	41
40 週	17	10	27
41 週	5	3	8
不明	1	0	1
計	141	92	233

◆疾患の分布

呼吸窮迫症候群	28	肺低形成・肺低形成の疑い	2
胎便吸引症候群	3	先天性胸水・腹水	1
新生児一過性多呼吸	39	新生児持続性肺高血圧症	7
肺浮腫・出血性肺浮腫	1	慢性肺疾患	5
肺出血	2	先天性横隔膜ヘルニア	1
肺炎・肺炎の疑い	1	肺高血圧症	2
気胸・気縦隔	12	胸郭低形成・胸郭低形成の疑い	1
無呼吸発作・反復性無呼吸	26	Dry lung syndrome	1
喉頭軟化症	2	肺分画症・肺分画症の疑い	1

◆疾患の分布

CPAM・CPAMの疑い	1	新生児低血糖症	5
一過性上気道狭窄・上気道狭窄	1	高血糖・一過性高血糖	1
気管狭窄	1	甲状腺機能低下症・先天性甲状腺機能低下症	2
気管気管支軟化症・気管軟化症	1	糖尿病母体児	1
先天性後鼻孔閉鎖・後鼻腔閉鎖・後鼻腔狭窄の疑い	1	尿崩症・尿崩症の疑い	1
先天性肺嚢胞性疾患・先天性肺嚢胞	3	副腎不全・副腎機能低下	1
息こらえ発作・息こらえ	1	カルニチン欠乏症	1
新生児仮死	22	ビオチン欠乏	1
新生児重症仮死	24	敗血症・菌血症・敗血症性ショック	4
新生児けいれん・けいれんの疑い・新生児発作	3	先天性サイトメガロウイルス感染症	1
頭蓋内出血・頭蓋内出血の疑い・頭蓋内出血・血栓	8	感染症 (focus 不明)・感染症の疑い	3
脳室周囲白質軟化症・脳室周囲白質軟化症の疑い	2	細菌性髄膜炎	1
低酸素性虚血性脳症	5	先天性トキソプラズマ感染症・先天性トキソプラズマ感染症の疑い	1
全前脳胞症	1	蜂窩織炎・蜂窩織炎の疑い	1
Erb 麻痺・腕神経叢麻痺	1	GBS 感染症	1
脳静脈血栓症・脳動静脈血栓症・脳静脈血栓症の疑い・脳静脈洞血栓症の疑い	1	先天性カンジダ症	1
脳室上衣下嚢胞	1	真菌感染症・真菌感染症の疑い	1
脳梁欠損・脳梁低形成・脳梁欠損の疑い・脳梁低形成の疑い	3	皮膚カンジダ症・表在性カンジダ症	1
小脳低形成	1	COVID-19 感染症	3
floppy infant	1	母体 HBV キャリア	1
裂脳症・多小脳回	1	縦隔炎	1
墜落産児	2	新生児特発性嘔吐症	4
小頭症	1	腸回転異常症・中腸軸捻転・腸回転異常症の疑い・不全型腸回転異常症	2
脳室拡大・側脳室拡大	1	腸穿孔	4
脳性麻痺	1	胃食道逆流症・胃食道逆流症の疑い	8
低体温・新生児低体温症	1	先天性十二指腸閉鎖	2
大槽拡大・巨大大槽	2	小腸捻転・結腸小腸捻転	3
大脳深部髄質静脈血栓症、出血・大脳深部髄質静脈血栓症の疑い	2	先天性食道閉鎖	1
無熱性けいれん	1	鎖肛・鎖肛の疑い	6
高インスリン血性低血糖症 (一過性・持続性)	1	急性胃粘膜病変	1
晩期循環不全	1	小腸閉鎖	3
新生児高ビリルビン血症	118	ミルクアレルギー・ミルクアレルギーの疑い・好酸球性胃腸炎・乳幼児消化管アレルギー	5
新生児重症黄疸	3	門脈体循環シャント	2
未熟児くる病	28	鼠径ヘルニア	6
汎下垂体機能不全・下垂体機能不全の疑い	1	ヒルシュスブルング病・ヒルシュスブルング病の疑い・ヒルシュスブルング病類縁疾患の疑い	1

◆疾患の分布

哺乳不良・哺乳障害	1	PFO	1
肝膿瘍	1	Ebstein 奇形・Ebstein 奇形の疑い	1
胃軸捻転	3	冠動静脈瘻・冠動静脈瘻の疑い	1
臍帯ヘルニア	1	右心耳瘤	1
体重増加不良	1	右房内弁遺残	1
臍ヘルニア	5	外腸骨動脈狭窄	1
初期嘔吐	2	胎児水腫	1
胆汁うっ滞・一過性胆汁うっ滞・胆汁うっ滞の疑い	1	Noonan 症候群・Noonan 症候群の疑い	1
小腸狭窄	1	VACTERL 連合・VACTERL 連合の疑い	1
胆汁性腹膜炎	1	新生児マルファン症候群	1
総胆管拡張症・総胆管拡張症の疑い	3	口唇裂・口蓋裂	10
亜鉛欠乏症	28	小顎症	1
腹膜炎・汎発性腹膜炎	1	魔歯	1
肝機能障害	1	早期生歯	1
乳児肝血管内皮腫・肝血管内皮腫・肝血管腫・肝血管腫の疑い	2	21 トリソミー・21 トリソミーの疑い	2
胆道閉鎖症・胆道閉鎖症の疑い	1	18 トリソミー	1
嚥下障害	1	13 トリソミー	1
腸管不全関連肝障害	1	11q 部分トリソミー・14q 部分モノソミー	1
縫合不全・食道縫合不全	1	難聴・難聴の疑い	8
腹腔内嚢胞	2	副耳	2
食道重複症	1	未熟児網膜症	4
腹腔内臍静脈瘤	1	白内障・先天性白内障	1
VSD	13	埋没耳	1
DORV	2	鼻腔狭窄・後鼻腔狭窄・鼻腔狭窄の疑い・先天性鼻腔狭窄	1
肺動脈狭窄	3	絞扼耳	1
ASD	1	未熟児貧血	34
ECD・房室中隔欠損症・AVSD	2	貧血・重症貧血・鉄欠乏性貧血・乳児貧血	2
MR	1	血管腫・莓状血管腫・乳児血管腫・血管腫の疑い	5
大動脈弁狭窄	1	DIC	3
大動脈縮窄症・大動脈縮窄の疑い	2	神経芽細胞腫・神経芽細胞腫の疑い	1
大動脈離断症	1	帽状腱膜下出血	1
TGA	1	血球貪食症候群・血球貪食症候群の疑い	1
症候性動脈管開存症・動脈管開存症	13	TAPS	2
上室性不整脈・上室性期外収縮・上室性頻脈	1	溶血性貧血・溶血性貧血の疑い・一過性溶血性貧血	1
心室性期外収縮	1	腹腔内リンパ管腫	1
左上大静脈遺残	4	白血病の疑い	1

◆疾患の分布

頸部縦隔リンパ管腫	1	骨形成不全・骨形成不全の疑い	1
卵巣嚢腫頸捻転	1	脊椎奇形	1
水腎症・水腎症の疑い	12	膝関節脱臼・反張膝・膝関節亜脱臼	2
尿道下裂	2	橈骨欠損	1
腎嚢胞	2	踵足	1
停留精巣・停留精巣の疑い	5	仙骨形成異常・仙骨奇形	1
腎低形成・腎無形成	1	大腿骨骨折	1
嚢胞性異形成腎・多嚢胞性異形成腎	2	先天性橈尺骨癒合	1
尿細管機能障害・尿細管機能障害の疑い	1	単純性血管腫	1
卵巣嚢腫・嚢胞	1	異所性蒙古斑	1
重複腎盂尿管・重複腎盂の疑い	4	点状出血斑	1
尿瘤・尿瘤の疑い	1	皮下気腫	1
小陰茎	1	双胎	28
多指症	1	品胎	3
先天性内反足	1		

◆新生児未熟児病棟死亡症例及び剖検

	年齢	性別	死亡日	病名	剖検	Ai
1	0歳	男	2024.7.12	超低出生体重児 (在胎23週2日、出生体重570g)、呼吸窮迫症候群、新生児重症仮死、慢性肺疾患、新生児遷延性肺高血圧症、無呼吸発作、先天性十二指腸閉鎖、壊死性腸炎、腹膜炎、腸管縫合不全、腸管不全関連肝障害、門脈圧亢進症、脳室内出血、出血後水頭症、敗血症性ショック、新生児一過性高カリウム血症、未熟児貧血、未熟児骨減少症、多発四肢骨骨折、未熟児網膜症、新生児高ビリルビン血症	なし	なし
2	0歳	女	2024.7.26	極低出生体重児 (在胎29週0日、出生体重1,060g)、Noonan症候群の違い、胎児水腫、肺低形成、小脳低形成、心室中隔欠損症、白血病の疑い、新生児重症仮死、新生児遷延性肺高血圧症、肺出血、脳室周囲白質軟化症の疑い、新生児高ビリルビン血症	あり	あり
3	0歳	女	2024.10.24	低出生体重児 (在胎37週4日、出生体重1,726g)、新生児重症仮死、後鼻腔閉鎖/狭窄の疑い、新生児遷延性肺高血圧症、胆道閉鎖症の疑い	なし	なし
4	1歳	女	2024.10.27	極低出生体重児 (在胎33週6日、出生体重1,199g)、18トリソミー、新生児重症仮死、心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、部分肺静脈還流異常、症候性動脈管開存症、脳瘤、水頭症、低位鎖肛、壊死性腸炎、消化管穿孔、未熟児貧血、未熟児骨減少症、低亜鉛血症、肝膿瘍、新生児高ビリルビン血症	なし	なし
5	0歳	男	2024.11.3	超低出生体重児 (在胎26週2日、出生体重839g)、呼吸窮迫症候群、動脈管開存症、低位鎖肛、新生児重症仮死、肺出血、先天性橈尺骨癒合症、新生児高ビリルビン血症	なし	あり
6	0歳	男	2024.12.28	超低出生体重児 (在胎26週0日、出生体重821g)、一絨毛膜二羊膜性双胎第1子、新生児重症仮死、呼吸窮迫症候群、DIC、頭蓋内出血、Deep medullary vein thrombosisの疑い	なし	あり
7	0歳	男	2024.12.29	超低出生体重児 (在胎26週0日、出生体重825g)、一絨毛膜二羊膜性双胎第2子、新生児重症仮死、呼吸窮迫症候群、DIC、頭蓋内出血、血球貪食症候群の疑い、Deep medullary vein thrombosisの疑い	なし	あり
8	0歳	女	2025.2.21	先天性横隔膜ヘルニア、新生児遷延性肺高血圧症、帽状腱膜下血腫、新生児重症仮死、新生児一過性高血糖	なし	なし

6. 産科病棟

令和6年度は常勤医4名と、群馬大学産科婦人科及び国立成育医療研究センターから宿日直要員としての派遣医3名の体制であった。

臨床成績概要を表1に示す。分娩件数241件(前年度219件)、新規外来患者数554名(前年度521名)、延べ入院患者数405名(前年度363名)、母体搬送依頼総数75件(前年度55件)、受入数45件(前年度35件)は全て前年度より増加した。母体搬送受入率60.0%(前年度63.6%)だけがわずかに減少した。受入不可の30件中、NICU満床によるものが10件と例年通り最多であった。当院からの母体搬出数22件は前年度16件より増加、母体合併症によるもの8件(36.4%)とNICU満床によるもの7件(31.8%)がほぼ同数であった。前者については、高年妊娠や生殖補助医療による妊娠による母体ハイリスク症例や無痛分娩ニーズの増加も見込まれる中で、総合周産期母子医療センターとしての機能強化なしでは、これらの数値が増加あるいは回復することは難しい。

令和4年9月から当科で開始したNIPT(非侵襲性出生前遺伝学的検査)については、令和6年度の実施件数は87件で、前年度34件の約2.5倍となった。これには、県内産科施設や妊婦への浸透、受検要件における母体年齢の撤廃、予約方法変更、価格改定、結果判定時間の短縮などが影響したと考えられる。また、NIPTを含む出生前遺伝学的検査に関する専門外来受診者の増加は、新規外来患者数増加の一因になっている。

(京谷琢治)

表 1 産科臨床成績概要 (令和 6 年度)

新規外来患者数	554 名	母体搬送依頼連絡数	75 件
入院患者数	405 名	母体搬送受入数	45 件
		受入不可数	30 件
分娩件数合計	241 件	受入率	60.0 %
単胎分娩	221 件	母体搬送搬出数	22 件
双胎分娩	18 件	新生児科満床	7 件
品胎分娩	2 件	逆搬送	3 件
多胎分娩率	8.3 %	母体合併症	8 件
帝王切開数	77 件 32.0 %	地域制考慮	1 件
単胎	61 件 27.6 %	産科満床	1 件
双胎	14 件 77.8 %	その他	2 件
品胎	2 件 100.0 %		
予定	37 件 48.1 %	児入院先	
緊急	40 件 51.9 %	新生児科	121 名 (※)
		循環器科	15 名
		(※) 産科付属児からの入院例を含む	
出生体重別出生数		出生前遺伝学的検査	
< 1000g	22 名 8.4 %	カウンセリング総数	137 件
1000-1499g	16 名 6.1 %	OSCAR検査	13 件
1500-1999g	17 名 6.5 %	NIPT	87 件
2000-2499g	37 名 14.1 %	絨毛染色体検査	0 件
2500-3999g	169 名 64.3 %	羊水染色体検査	25 件
4000g≦	2 名 0.8 %		
合計	263 名		
死産児数	13 名		

7. 麻 醉 科

令和6年は、コロナ禍を経て減少していた手術件数が大幅に増加した。麻酔科一同、手術・麻酔が安全に行われるよう、感染対策と術前評価に留意して日々周術期管理に臨んでいる。

令和6年は、麻酔管理上極めて重要な2種類の薬剤の出荷制限が発生するという、困難な一年になった。上半期は、アナペイン製剤の新製造所への業務移管実施中に、逸脱によるポリアンプル製剤の製造遅延が発生したため、出荷量が減少する事態に陥った。アナペイン製剤はポプスカイン製剤と並び、神経ブロックや硬膜外麻酔に欠かせない局所麻酔薬であり、当院でも神経ブロックでの使用量を制限するなどの制約を受ける事態となった。

下半期においては、フェンタニル製剤の海外生産工場における製造過程逸脱、ならびに無通告監査に対する改善対応のために製造停止を行った影響で、フェンタニルの供給制限が発生した。フェンタニルは全身麻酔に欠かせないオピオイド鎮痛薬であり、同薬の供給制限は、アナペイン製剤の出荷減少よりも遥かに大きな影響を引き起こした。特に、大手術では術後鎮痛としてフェンタニル持続静注を頻用してきており、使用量を制限したり、調整性の劣る他剤を代用として用いたりするなど、様々な対応を迫られた。

一方で、塩酸モルヒネについて再考し、有効性について再認識する機会ともなった。今後フェンタニルが安定的に供給される状況になったとしても、今回の経験から、フェンタニルに主軸を置きながら、塩酸モルヒネも有効に活用していくことが望ましいと考える。

麻酔科の人事については、常勤医は前年度と同様に4人であったが、円滑に手術室運営を行うことが出来た。また、昨年度に引き続きレジデント枠が限定的になり、曜日限定の研修を行った。研修の形態は年々変化してきているが、小児専門病院として可能な限り研修受け入れを継続していきたい。

今年度の麻酔科管理手術件数は859件であり、昨年度の759件より100件、大幅に増加した。次年度も各科と協力しながら、手術件数増加が一時的な増加に留まらないようにしていきたいと考えている。今後も安全な医療が提供できるよう周術期管理と手術室運営に努めていきたい。

(松本直樹)

8. 放射線科

4月より医師1名、診療放射線技師12名で放射線業務を行っている。この13名のスタッフ間では撮影目的、撮影条件、等について意見交換が行われ情報を共有しながら早期診断に役立つように一丸となって放射線検査を行っている。4月から核医学は群馬大学から核医学専門医、月曜午後は獨協医科大学より読影医が新たに加わった。

検査件数はX線検査; 25,399件、超音波検査; 1,390件、CT; 450件 (Aiを含む)、MRI; 1,094件 (Aiを含む)、核医学; 154件であった。この他、他院で撮影された画像についてもCT, MRIを中心に随時読影している。

現在、放射線科は出生前診断にも関わっている。出生前画像診断としてMRIは超音波検査を補完する検査として、その重要性は確立している。当院でも適応疾患に胎児MRI診断を行っている。今年度は44件である。胎児MRIの適応に関しては検査前に産科医と放射線科医で目的を十分検討している。出生前胎児MRIについては産科医、新生児科医、小児外科医、診療放射線技師、放射線科医で診断、分娩方式、出生後の対応についてカンファレンスを行い、出生後については診断、治療、出生後経過について確認している。

最近では、MRI bone-like imaging が撮影されるようになり、脊椎や骨の評価、石灰化について評価している。被ばく低減にもつながり今後は、一部CTの代替え検査としても活用できる。

小児画像検査では適応が十分検討されるべきである。放射線科医は可能な限り検査前に適応について依頼医と検討し、適応と判断した場合は最適な件を選択し、放射線診療技師と最適条件で検査を行っている。

(桑島成子)

9. 歯科・障害児歯科

平成 17 年に歯科・障害児歯科が開設されて 20 年目となる今年度も、運営状況は前年度以上の結果を残すことができた。人事異動等による歯科医師・歯科衛生士の交替はあったが、構成人員の変更はなく例年通りの診療体制を維持して診療を実施した。

新規患者数は 590 名 (年度比 3%増) と増加傾向は継続し、院外紹介率も 76.3%と過去最高を記録した昨年度を 5%上昇する結果となった。総受診者数は 4,415 名 (前年度比 3%増) で、増加する新規患者と院内入院患者の周術期管理に対応するため、コロナ禍から三次歯科医療の安定的な提供を柱とする方針は継続し、一次・二次医療機関への逆紹介を積極的に実施した。

全身麻酔下歯科治療は 406 症例 (前年度比 10%増) と開設以降初めて年間 400 症例以上を実施した。一方で新規患者の増加により治療までの待機期間に大きな変化はなく、平均約 2 ヶ月前後で推移した。コロナ禍以降、季節性・流行性の感染症が通年で発生し、治療が延期となるケースが多く、空き枠を最小限にするため緊急性の高い症例や待機患者の差し替えで対応したことが症例数増加につながったと考えられた。

新規受診患者は例年同様 6 歳未満が最も多く、依頼内容も知的能力障害や発達障害児、低年齢児の多数歯齲蝕 (うしょく = 虫歯)、過剰埋伏歯、舌小帯異常、粘液嚢胞等と大きな変化はなかった。

病院歯科として、今年度も各病棟への歯科衛生士による病棟ラウンドを継続し、周術期口腔機能管理のみならず NST 活動に伴う摂食嚥下機能障害への対応など、入院全患者を対象とした関わりを今後も継続したいと考えている。また、摂食嚥下専門外来の「もぐもぐ外来」は今年度も外部医師を招聘し、当院言語聴覚士と連携して実施した。患者さんや保護者からの評判も良く、今後も継続していきたいと考えている。

今年度の運営状況は、概ねコロナ禍以前に戻ったと感じられる 1 年であったが、コロナ禍を経て群馬県における当科の位置付けを再考し、三次歯科医療を優先した新たな診療体制を再構築して運営した 1 年でもあった。当科の運営実績は、少子化や疾病構造の変化による影響は今のところ少なく、毎年増加傾向を継続することができている。一方で、患者数の増加に伴う業務量の増加と、近年対応を迫られている医療従事者の「働き方改革」とのバランスを取ることは難しく、まだまだ業務改善を含めた試行錯誤する必要があると考えている。医療の質やサービスの低下をなるべく抑えた「働き方改革」を模索しながら、我々医療スタッフも継続して働きやすい環境を目指し、引き続き「群馬県における障害児歯科の最後の砦」として質の高い医療を安定的に提供できるよう努力していきたい。

(木下 樹)

10. 放射線課

【人 事】

令和6年度は多くの人事異動があり、当課の技師長が、がんセンター技術部長として異動、主幹が課長となった。また、レジデント1名が退職し、1名が正規職員としてがんセンターへ異動となった。転入者は、がんセンターの技術部長が役職定年制度により技師長として当課に配属され、更にレジデント1名が新規配属となった。

昨年度より産育休を取得していた1名が7月初旬より復帰、1名が7月末より育休取得し、半年後の2月に復帰となった。

【業務・設備】

産育休による減員等はあったが、正規職員7名、レジデント2名、会計年度職員3名と受付事務担当職員1名の体制で業務を遂行した。

認定資格に関しては、10名の職員が告示研修(放射線技師の業務範囲の拡大に対する研修)を終えている。更にAi認定診療放射線技師の認定資格を2名、放射線被ばく相談員の認定資格を1名が取得した。今後も技術向上のために様々な認定資格の取得を推進していきたい。

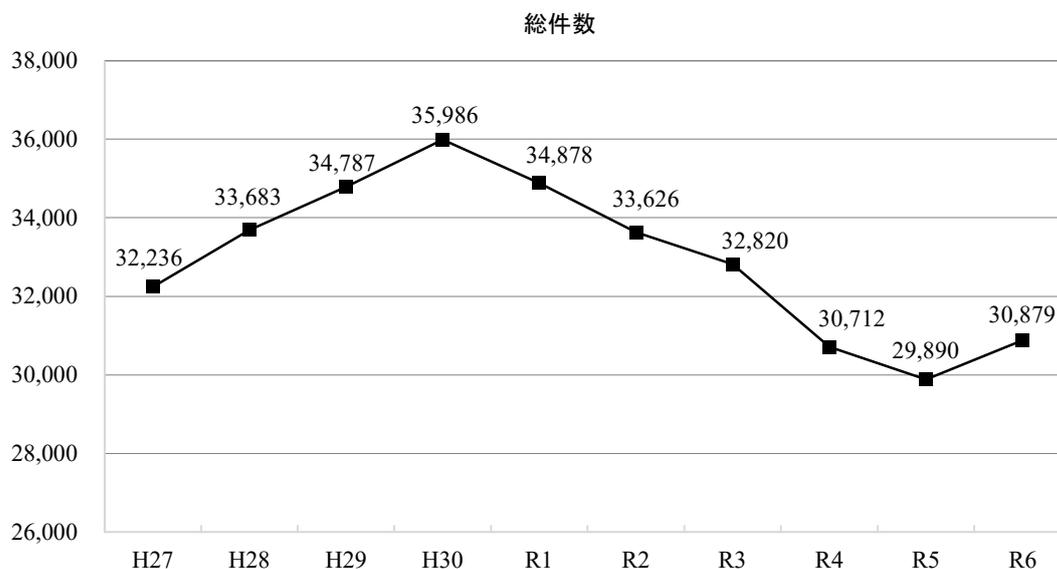
学生実習については学生を現場に迎え入れ、現場実習と講義を実施することができた。

機器に関しては、10年を超え更新時期を迎える装置が控えており、関係部署と協議しながら病院の建て替え再整備も考慮しつつ、適正な更新計画を進めていきたい。

人員不足で業務多忙な中、大きな事故無く業務を行ってくれたスタッフに深く感謝する。

【検 査】

各検査の前年度件数比は、CT検査137.6%、MRI検査107.8%、RI検査57.5%、X線透視検査100.5%、超音波検査99.0%、カテーテル検査97.4%、一般撮影検査104.4%、ポータブル撮影110.5%、画像コピー96.8%で全体として103.3%であった。令和元年の新型コロナウイルス発生以降患者数の減少に伴い検査数も減少傾向となっていたが、令和6年度は増加に転じた。過去10年間の全件数の移行を以下に示す(令和6年度詳細は統計編)。



【学会・研修等】

本年度の学会・研修会等の参加は以下のとおりである。

学 会 ・ 研 修 会 名	期 日	場 所
第 80 回日本放射線技術学会総会学術大会	4/11～4/14	横浜市
第 47 回日本小児放射線技術研究会	4/13	横浜市
第 73 回群馬県核医学研究会	5/21	web 開催
第 38 回臨床画像診断懇話会テクニカル分科会	7/12	前橋市
第 114 回千葉核医学技術研究会	7/18	web 開催
群馬 GE HealthCare 第 9 回 CT ユーザーミーティング	7/30	web 開催
第 18 回群馬 Gyro Users Meeting	7/31	web 開催
第 25 回群馬県 CT・MRI 研究会	8/31	前橋市
令和 6 年度成育医療研修会	9/10,17	web 開催
第 8 回群馬血友病連携セミナー	10/24	web 開催
第 115 回千葉核医学技術研究会	10/25	web 開催
第 62 回全国自治体病院学会	10/31～11/1	新潟市
第 32 回群馬 CT 研究会	11/9	前橋市
第 31 回南関東 SOMATOM 研究会	11/13	web 開催
第 42 回群馬 MR 医学研究会	11/14	前橋市
REVORAS User's Voice	11/14	web 開催
告示研修	11/16,1/26	前橋市
第 14 回根本塾	11/21	web 開催
2024 年度北毛地区診療放射線技師勉強会	11/28	渋川市
日本放射線技術学会第 71 回関東支部研究発表会	12/7～8	高崎市
第 28 回 MR 実践・先端講座	12/14	web 開催
第 291 回東京支部技術フォーラム 放射線管理防護・計測研究班	1/28	web 開催
第 32 回南関東 SOMATOM 研究会	3/17	web 開催

(高木 崇)

11. 検体検査課・生理検査課

【人 事】

令和6年度は、正規職員11名（うち1名は産育休代替職員）、レジデント4名の合計15名でスタートし、年度を通して15名で24時間体制を維持した。

【業 務】

検体検査部門では、生化学、凝固の試薬を変更し、経費削減を行った。亜鉛検査の単独採血管を廃止し、採血量の減少、インシデント削減になった。また病理部門では、CPCを4回開催し、4例を検討した。

【設 備】

生化学部門では、全自動化学発光測定装置、フローサイトメトリーが更新された。生理検査部門では、筋電図・誘発電位検査装置および心電計（gatewayを含む）が更新された。

【委 員 会】

臨床検査委員会は2回開催した。内部精度管理報告を行い、検査に使用している機器が適正に管理されていることが承認された。また、外部精度管理調査に参加し、良好な結果であったことを報告した。凝固試薬、フェリチン試薬、プロカルシトニン試薬の変更が承認された。

輸血療法委員会は6回開催した。月別の血液製剤使用率や廃棄率を報告し、廃棄削減の協力を呼びかけた。安全な輸血療法およびその適正化を目的として、血液製剤を取り扱う部門を対象に輸血監査を実施した。

【検査件数】

総検査件数は、387,748件で、対前年度比100.6%であった。以下、対前年度比として%を（ ）内に示す。増加した部門は、生化学検査244,897(101.5%) 生理検査13,500(109.8%)、細菌検査15,757(102.2%)、輸血検査2,768(103.3%)であった。一方、減少した部門は、血液検査62,048(98.2%)、免疫血清28,092(96.3%)、一般検査9,580(88.3%) 病理検査1,787(97.4%)であった。

【学会・研修会等】

参加状況を表1に示した。また、日本医学検査学会で2題、群馬県庁臨床検査技師会学術研修発表会で1題の口演発表を行った。

学会及び研修会参加状況は、以下のとおりである。

表 1 学会・研修会などへの参加状況

研 修 ・ 学 会 等	日 程	開 催 地
第 73 回日本医学検査学会 in 金沢	5 月 11 日～12 日	金 沢
ZS050 講習会	5 月 22 日～5 月 24 日	東 京
第 72 回日本輸血・細胞治療学会学術総会	5 月 30 日～6 月 1 日	東 京
日本超音波医会第 97 回学術集会	5 月 31 日～6 月 2 日	横 浜
第 65 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会)	6 月 20 日～6 月 26 日	オンデマンド
第 49 回日本超音波検査学会学術集会	7 月 20 日～7 月 21 日	仙 台
第 147 回医用超音波講義講習会	8 月 20 日～11 月 20 日	オンデマンド
第 39 回輸血検査基礎実技研修会	6 月 16 日	前 橋
第 25 回日本検査血液学学術集会	7 月 20 日～7 月 21 日	広 島
全自動輸血検査装置 Erytra Eflexis 見学会	8 月 8 日	東 京
全国自治体病院学会	10 月 31 日～11 月 1 日	新 潟
日本心エコー図学会第 21 回秋期講習会	11 月 2 日～11 月 3 日	Web
2024 年度臨床検査部会オンラインセミナー	11 月 15 日～2 月 17 日	オンデマンド
第 68 回群馬県医学検査学会	12 月 1 日	高 崎
第 41 回小児臨床検査研究会	12 月 7 日	福 岡
タスクシフトシェアに関する厚生労働大臣指定講習会	1 月 26 日	前 橋
第 36 回日本臨床微生物学会総会・学術集会	1 月 24 日～1 月 26 日	名古屋
第 27 回エコーウィンターセミナー	2 月 8 日～2 月 9 日	松 本
I'm SAFER	2 月 8 日	前 橋
化学管理者講習会	2 月 25 日	前 橋
第 15 回神戸甲状腺診断セミナー	2 月 3 日	神 戸
群馬県庁検査技師会学術発表会	2 月 15 日	前 橋
令和 6 年度群馬県臨床検査精度管理調査報告会	3 月 3 日	前 橋

(三宅妙子、丸山裕子)

12. リハビリテーション課

【人 事】

令和6年度は、理学療法士5名(正規職員3名、レジデント研修生1名、再任用1名)、作業療法士3名(正規職員2名、レジデント研修生1名)、言語聴覚士3名(正規職員2名、会計年度任用職員1名)の合計11名で業務を開始した。6月に正規職員の理学療法士1名が育児休業から復帰したため、理学療法非常勤スタッフ2名の招聘は年内で終了とした。また、作業療法においても、正規職員が1名増員となりレジデント研修生の応募もあったため、作業療法非常勤スタッフ3名の招聘も年内で終了となった。

【業 務】

1. 常勤職員の増加(正規職員1名、レジデント研修生2名)に伴い、4月より運動器リハビリテーション料の施設基準を(Ⅱ)から(Ⅰ)に変更した。
2. 重症者に対する早期からの急性期リハビリテーションの提供を推進するために新設され「急性期リハビリテーション加算」を6月より算定しはじめた。
3. リハビリテーション実施計画書ならびにリハビリテーション総合実施計画書についての運用方法を変更した。
4. 特別支援学校機能強化事業(文科省補助事業)外部専門家派遣として、2件の依頼を受託した。

【業 績】

令和6年度の新規患者数は、入院318名、外来294名の合計612名であり、前年度(832名)と比べると減少した。一方、延べ治療件数は、年間で10,447件(前年度8,941件)であった。治療件数の増加は常勤職員が増えたことによる影響が強く、とくに作業療法の件数の増加が目立つ。疾患別リハビリテーション料などの詳細は統計編に示した。

【臨床実習受け入れ】

院内感染予防対策の基準に従い、つぎのとおり臨床実習の受け入れを行った。

1. 学生
 - ① 群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻(4年生1名、総合臨床実習Ⅰ期)
令和6年8月19日～10月11日
 - ② 群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻(4年生1名、総合臨床実習Ⅱ期)
令和6年10月21日～12月13日
 - ③ 群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻(3年生3名、基本的臨床技能実習Ⅱ)
令和6年12月10・11・20日
 - ④ 群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻(3年生2名、臨床実習Ⅰ期)
令和7年2月3日～2月13日
 - ⑤ 群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻(3年生1名、臨床実習Ⅱ期)

令和7年2月17日～3月6日

- ⑥ 群馬パース大学リハビリテーション学部理学療法学科 (2年生2名、見学実習)

令和7年2月17日～2月21日

- ⑦ 群馬パース大学リハビリテーション学部作業療法学科 (2年生2名、見学実習)

令和7年2月17日～2月19日

- ⑧ 群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻 (2年1名、見学実習)

令和7年3月3日～3月14日

2. 有資格者

- ① 利根中央病院 (作業療法士、言語聴覚士)

令和6年7月23日、8月13日

- ② 内田病院 (理学療法士、作業療法士)

令和6年7月26日

- ③ 内田病院 (言語聴覚士)

令和6年9月17日、10月21日、11月25日

【学会・研修会等】

本年度の学会および研修等の参加状況は、以下のとおりである。

件名	日程	開催地
第66回日本小児神経学会学術集会	5/30～6/1	名古屋 (web)
群馬県理学療法士協会第57回技術講習	7/14	前橋
群馬県作業療法士会令和6年度現職者共通研修	7/21	前橋
令和6年群馬県小児保健会研究集会	9/7	前橋
第56回日本小児呼吸器学会	9/20～9/21	幕張
群馬県作業療法士会臨床実習指導者講習会	9/28～9/29	前橋
日本LD学会第33回大会	10/19～20	神戸
第58日本作業療法学会	11/9～11/10	札幌
第49回日本重症心身障害学会学術集会	11/8～11/9	神戸
嚙下リハサポート主催webセミナー	11/17	Web
よこはま発達相談室主催オンデマンドweb講座	12/7～12/22	Web
令和6年度ImSAFER	2/8	前橋
第4回CPフォーラム	2/15～2/16	幕張

(熊丸めぐみ)

13. 栄養調理課

【人 事】

令和6年度は育児休業の職員が復職し、正規職員3名（管理栄養士3名）と委託会社職員14名で業務を始動した。

【業 務】

1. 食数は、一般食延べ34,813食（前年度比95.5%）、離乳食延べ6,450食（同132.9%）、特別食延べ1,463食（同188.8%）であった。調乳数は、ミルクの人数延べ11,759人（同95.6%）、本数81,364本（同95.5%）、濃厚流動食・成分栄養剤等の人数延べ9,638人（同78.3%）、本数34,576本（同81.5%）であった。
2. 栄養指導は、全体で284件（前年度305件）、そのうち入院栄養指導が263件（同284件）、外来栄養指導が21件（同21件）であった。
3. 栄養委員会は、令和6年6月、9月、12月、令和7年3月の4回開催し、電子カルテのプロファイル情報（食物アレルギー・未摂取食品）と移動食事カレンダーの連携、ペースト粥の形態改善、離乳初期食の形態変更等について協議した。
4. 食物アレルギー患者への対応として、1日入院の食物負荷試験（3日/週、4名/日）の負荷食材の提供と食生活全般や加工食品の表示の見方などの指導を行った。
5. 令和5年度に引き続き「非常時における代替給食に関する覚書」締結業者との合同訓練を11月に実施した。昨年度の課題を修正しつつ、給食の患者別仕分けマニュアルを他課の協力を得て確認した。
6. NST（栄養サポートチーム）臨床実施修練に看護師3名、管理栄養士2名が出席した。所定の研修を修了し、栄養サポートチーム加算に関する施設基準を満たしたことから、令和7年3月に栄養サポートチーム加算の届出を行った。

【学会・研修会等】

今年度は、群馬小児保健会研究集会で1題、群馬栄養改善学会で2題の口演発表を行った。学会及び研修会の参加状況は、以下のとおりである。

件 名	期 日	場 所
第71回日本栄養改善学会	9/6～9/8	大阪市
第28回日本病態栄養学会学術集会	1/17～1/18	京都市
第40回日本栄養治療学会学術集会	2/14～2/15	横浜市
NST 実地修練（40時間研修）	6/8～12/10	前橋市

（島田純子）

14. 臨床工学課

【人 事】

今年度は、正規職員 4 名で業務を行った。

【設 備】

医療機器購入は、人工呼吸器 (VN800、V800) 各 1 台、開放型保育器 (インファウーマ アイ) 1 台、体外式ペースメーカ (PACE203H) 1 台を更新し、加温加湿器 (F&P 950 System) 2 台を新規購入した。また、JMS 経腸栄養ポンプ (EN-SP50) 10 台を追加購入した。

【業 務】

今年度の体外循環症例は 64 症例で、昨年度比 101.5% (昨年度 63 症例) となった。平均体重は 11.4 ± 9.0kg で、無輸血手術は 3 症例 (4.7%)、手術室抜管は 2 症例 (3.1%) であった。術式別の症例数は、VSD closure 25 症例 (39.1%) が最も多く、次に ASD closure 8 症例 (12.5%)、房室中隔欠損症手術 (AVSD repair) とフォンタン手術 (TCPC) がそれぞれ 5 症例 (7.8%) であった。また、緊急人工心肺下心臓外科手術は 3 件で、その内 2 件は、大動脈縮窄症と大動脈離断症 (Arch repair) であった。また、もう 1 件の緊急手術は、ECMO 導入中の手術 (導管交換) で、PICU にて ECMO から人工心肺に乗せ替えて手術を施行した。

心臓カテーテル検査は 130 症例で、昨年度比 92.2% (昨年度 141 症例) となった。その内バルーン拡張術 20 症例 (15.4%)、心臓電気生理学的検査 13 症例 (10.0%)、心筋焼灼術 12 症例 (9.2%)、動脈管開存症カテーテル治療 7 症例 (5.4%)、心房中隔欠損カテーテル治療 4 症例 (3.1%)、経皮的心房中隔裂開術とコイル塞栓術がそれぞれ 2 症例 (1.5%) であった。また、緊急心臓カテーテル検査は、完全大血管転移症の経皮的心房中隔裂開術 (BAS) の 1 件であった。

内視鏡手術は 177 症例で、昨年度比 128.3% (昨年度 138 症例) であった。緊急手術となった 18 症例 (10.2%) の内 15 症例が腹腔鏡下虫垂切除術であった。

血液浄化療法の症例は 2 症例で、双方とも ECMO 管理中であり、サイトカイン除去と尿量減少による浮腫軽減を目的に CHDF 導入となった。

一酸化窒素吸入療法は 25 症例で、心臓周術期が 19 症例、新生児領域が 6 症例であった。

その他、低酸素吸入療法が 3 症例、植込み型ペースメーカおよび ICD フォローアップが 65 症例と脳低温療法が 5 症例であった。

ME 機器管理業務では、人工呼吸器、保育器、シリンジポンプ、輸液ポンプ、麻酔器、人工心肺装置、血液浄化装置、補助循環装置、体外式ペースメーカ、除細動器、分娩監視装置、セントラルモニターなど計 644 台の定期点検を行った。除細動器については、年 1 回のメーカー定期点検の他、3 ヶ月毎にスタッフによる除細動器安全点検や消耗品チェック等を行っている。また、AED に関しては、設置部署で日常点検を行い、定期的な点検チェックシートの提出にて管理を行っている。PICU・NICU・手術室設置の血液ガス分析装置においては、スタッフによる日常メンテナンスの他、1 ヶ月毎に定期点検を実施している。

人工呼吸器の使用 midpoint 検は、毎日機器の設定や動作確認、呼吸器回路の不具合等のチェックを行い、安全性の確保に努めている。今年度は 5,280 台の使用 midpoint 検を行った。また、今年度は、加温

加湿器の電源を入れ忘れたり、逆に未使用の人工呼吸器の加温加湿器の電源が ON になっていたりした状況を数件発見した。その他、人工呼吸器の回路交換を定期的 (1~2 ヶ月毎) に実施し、今年度は 99 件行った。

ME 機器の使用前に行う日常点検としては、人工呼吸器や麻酔器、シリンジポンプ、輸液ポンプをはじめ、除細動器や保育器、人工心肺装置、補助循環装置、血液浄化装置、低圧持続吸引器など累積 8,539 台行った。麻酔器始業点検は、日毎に担当者 1 名が業務開始前までに全手術室 (5 台) の点検を行い、安全性の確保に努めている。今年度の始業点検では、麻酔器ではなかったが、点検中に麻酔管理システムの液晶画面のトラブルを発見した。また、心臓カテーテル検査室設置の麻酔器においては、全身麻酔症例毎に始業点検を行っている。

その他、教育業務として看護部、各病棟に対する ME 機器説明会やトラブル対応等の勉強会をはじめ、在宅へ移行する患者様や御家族の方への機器説明や臨床工学技士養成校への外部講師も行った。

【学会・研修等】

今年度の学会及び研修会の参加状況は、下記の通りである。

件 名	期 日	場 所
第 22 回群馬県臨床工学技士会学術大会	6/30	群馬県
第 40 回日本人工臓器学会教育セミナー	8/1~9/30	Online
第 49 回日本体外循環技術医学大会	10/12~10/13	北海道
第 26 回日本成人先天性心疾患学会学術集会	1/10~1/12	大阪府
第 27 回相模心臓血管外科懇話会	1/18	東京都
臨床実習指導者講習会	2/15~16	WEB

(関 明彦)

15. 心理相談室

【人 事】

当室は、令和6年4月に開設され、入通院されている患者様の心理的サポートをしている。令和6年度の心理相談室員は、心理師2名(正規職員1名、レジデント研修生1名)に加え、招聘心理師3名で構成されている。

【業 務】

①心理検査

総合周産期母子医療センター業務の一環として、極低出生体重児の成長発達確認(1歳6か月、3歳、6歳時点の発達検査等)および、その他主治医が必要とした児に対して心理検査を行っている。また、入通院されている患児のなかで、生活上に困難を抱えている児等に対して主治医が必要と判断した際にも心理検査を実施している。

令和6年度、検査件数は対象178名で、延べ254検査、新生児科からの依頼が71%、続いて神経内科からの依頼が12%、子どものこころ診療科からの依頼が8%となり、その他多くの診療科から依頼が入った。

②カウンセリング

入通院されている児・家族に対して、主治医の指示のもとカウンセリングを実施している。対象家族数は、54家族、対象者数は75人、延べ実施回数は214回となっている。カウンセリングの主訴については、「心理的発達障害(自閉症を含む)」「行動・情緒の問題(多動症を含む)」「登校の問題」が多いほか、「周産期の心理支援」「育児支援」など様々なものがあった。

③関係機関との支援会議

入通院している児および家族において環境調整や対応の再検討等が必要な場合に地域機関(学校、保育所等)と連携を図っている。令和6年度は4名の児に関して支援会議を開催し、児相談所、市町村、学校、保育園、放課後等デイサービス等と連携した。

④多職種連携について

周産期の母体のメンタルヘルスを鑑み、入通院されている妊産婦についての情報共有・連携、心理師介入を目的とした産科ラウンド(毎週火曜日)に参加している。

在宅療養支援委員会ラウンド(第1、3火曜日)に参加し、長期入院患児や家族の心理的な面での情報提供を行っている。

⑤子ども虐待防止対策事業(地域医療連携室・心理相談室)

院内の虐待防止対策の強化のため、地域医療連携室と協働で事務局を担っている。虐待の早期発見・再発防止のため、院内スタッフおよび地域機関と連携を図っている。定例の要支援事例検討会議(奇数月1回)のほか、緊急時には臨時会議(FAST緊急招集)にて児童相談所への通告・相談等について検討をした(詳細は地域医療連携室記載を参照)。

⑥精神科コンサルト

当院は精神科医師が不在であり、招聘精神科医師よりコンサルテーションを受ける機会を通じて、見立てや対応を検討している。令和6年度は、12回精神科コンサルトを実施している(実人数9人、延べ人数12人)。

(金井麻梨)

16. 薬 剤 部

【人 事】

令和 6 年度は正規職員が 8 名、嘱託職員 2 名、調剤助手 3 名と昨年度と同じ人員配置で業務を行った。

【業 務】

チーム医療の推進に関しては、薬剤師が ICT ラウンド・コアチームのメンバーとして参加し、感染防止対策加算 1 の取得に貢献した。また、AST のメンバーとして抗菌薬適正使用支援加算の取得にも貢献した。TDM については、医師から依頼を受けて各種検査値に基づき、最適な投与計画を提案し、抗菌薬の適正使用に貢献した。また、特定抗菌薬使用届の提出を徹底し、耐性菌の発生予防に寄与した。PICU で平日行われているカンファレンスに薬剤師 1 名が参加し、抗菌薬を含めた医師の処方設計を支援した。

<薬剤管理指導業務・退院時服薬指導業務>

薬剤管理指導業務は、産科病棟、新生児病棟、第 1 病棟、第 2 病棟、第 3 病棟の患者に対し年間 1,460 件 (昨年度より 380 件増加) の薬剤管理指導業務を行った。また、退院時薬剤情報管理指導料の算定を 76 件 (昨年度より 68 件減少) 行った。

当院の採用薬を常時在庫している保険薬局は少ないため、外来時に支障なく院外処方に対応できるよう院外処方の説明を行い、初回時には在庫の有無を電話確認するなど円滑に外来に移行できるよう対応した。

在宅療法支援担当看護師長と連携し、無菌調製剤を必要とする外来患者と無菌調剤を応需できる保険薬局の間を調整し、院外処方せん応需と在宅患者訪問薬剤管理指導を実施できた。

<調剤業務>

入院処方箋枚数はほぼ横ばいで、院外処方箋の発行率は 93.0%だった。

なお、医師業務負担軽減の一環として、院外処方箋に関する調剤薬局からの疑義照会受付の窓口としての薬剤部の対応は、948 件であった。対応の結果処方変更となった場合、医師の業務負担軽減のため電子カルテへの薬剤部での代行入力は 464 件であった。院内処方箋、注射箋に関する医師への問い合わせは 1,437 件であった。また、医師に代わり薬剤師が 1,327 件 (院内処方箋、注射箋) の代行修正を行った。入院時の持参薬の鑑別報告は 117 件 231 剤数となった。

<無菌調製業務>

抗悪性腫瘍薬の調製及び TPN の無菌調製を実施した。

抗悪性腫瘍薬の注射剤は調製者の被曝が問題となることから、平日だけではなく休祭日も薬剤師が安全キャビネット内で調製を行った。特に揮発性の高い薬剤は、調製者保護のため抗がん剤曝露閉鎖システムによって調製している。

退院後も在宅で TPN を継続して使用している患児については、TPN を無菌調製できる調剤薬局との連携、退院時には調剤薬局での対応可能日までの輸液の調製・交付を行うなど、個々のケー

スに応じてきめ細かい対応を行った。

<製剤業務>

医師の要望により市販されていない小規格の坐剤、麻薬を含む MK 注腸液、内服薬を注射剤にする安息香酸 Na 注射液等の調製を行った。

<DI 業務>

「薬剤部インフォメーション」として、医薬品の適正使用に関する情報や薬事委員会で採用となった医薬品に関する情報提供を行った。厚生労働省からの「医薬品・医療機器等安全性情報」は情報が迅速に伝わるようメールによる直接配信を行った。また、各部署からの照会に随時応じ、情報提供件数は 152 件であった。

<医薬品の適正管理>

在庫管理システムを使用し経営課と協力、入在庫管理を行った。また、各病棟に定数配置されている医薬品については、定数を見直し院内在庫の適正化に努め、期限切れ薬品等、病棟配置薬の定期点検を実施した。

<入院支援センター業務>

6 月より稼働した入院支援センターの業務として、看護師の聞き取りにより現在服用中の薬がある場合には、お薬手帳のコピー等をもとに 130 件の報告書を作成した。

【薬事委員会】

令和 6 年 5 月 16 日、9 月 5 日、12 月 12 日、令和 7 年 3 月 6 日、計 4 回開催した。新規採用医薬品 86 品目（うち院外専用 30 品目）、購入中止医薬品 34 品目（うち製造中止品 22 品目）について承認された。特定の患児のみに使用し、それ以外は在庫を置かない一時採用品は 72 件だった。また、事務局提案による後発医薬品への切り替えは 9 品目であった。

(佐藤真理子)

17. 看護部

【看護要員】

- ・看護職 現員数 233 名 (看護師 198 名、助産師 17 名)
正規 216 名、再任用 5 名、会計年度任用職員 12 名
産育休 18 名
- ・看護補助者 18 名 (会計年度職員)
- ・保育士 7 名 (会計年度職員) * 令和 6 年 4 月 1 日現在

-
- ・採用数 正規 12 名 (看護師)
会計年度任用職員 8 名 (看護師 3 名、看護補助者 5 名)
 - ・退職数 正規 7 名 (看護師)
会計年度任用職員 7 名 (看護師 2 名、保育士 2 名、看護補助者 3 名)

【組織】

令和 6 年度は、入院支援センターを新設し、管理者として看護師長 1 名 (総務担当師長兼任) を配置した。看護部として、看護部長 1 名、副看護部長 1 名、各部署看護師長 10 名 (うち新任看護師長 2 名)、教育担当師長 1 名、在宅療養支援担当師長 1 名、GRM (看護師長) 1 名の看護師長計 13 名、感染管理認定看護師 (主任) 1 名を配置し、連携を取りながら看護部の充実を図った。群馬県立病院経営強化プラン、「病院としての機能強化」、「人材確保・育成」、「健全な経営」を元に小児専門病院として質の高い看護の提供を行うことを重点課題にあげ取り組んだ。

【看護活動】

看護部の理念

「あたたかな心で患者と家族を支えます」

【令和 6 年度の目標】

1. 質の高い看護の提供

1) アセスメント力を高め、患者の状態に適した (必要な) 看護を導き出し、実践する

(1) フィジカルアセスメントの向上により、患者の状態に適した看護を実践する

副看護師長を中心とした OJT の強化を行う

(2) カンファレンス記録方法の統一を行い、日常的にカンファレンスを実施する

(3) 患者を取り巻く全ての人たちと連携をとり、安全な医療を提供する

Team STEPPS®の充実 (連携の不適切事象の 20%削減)

ナッジを活用した取り組み (各部署 1 事例以上)

2. 人材育成・人材確保

1) 自己の看護観を持ち、専門職として力を発揮する

(1) キャリアプランシートを導入により、個々のキャリアプランを共有し、支援する

3. 経営の健全化

- 1) 一人ひとりが参画し、働きやすい環境をつくる
 - (1) 各部署で看護業務に関係する業務改善に取り組む
各部署一事例以上に取り組み、院内発表会を実施する
 - (2) 入院支援センターの開設により、入院にかかる業務負担を軽減する
 - (3) 看護実践評価と業務負担軽減の両立を図る看護記録方法の検討を行う
 - (4) 看護業務改善のために DX 活用を推進する
 - 2) 診療報酬改定に合わせた体制を整備する
 - (1) 身体拘束最小化に向けた院内体制整備に参画する
- ### 4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供
- 1) 入院時の説明、問診の DX 活用を推進する
- ### 5. 有事の事態への対応
- 1) 災害に対応できる体制を整備する
院内対応への参画と部署内の準備

【評 価】

1. 質の高い看護の提供

アセスメント力強化のための OJT を副看護師長が中心となり実践した。現場で看護実践中に声かけを実施して内容を副看護師長会議で共有し、部署を越えてお互いを認め合い承認することで取り組みを継続できた。また、副看護師長自身が考えを引き出すコミュニケーション等を学び直し、スタッフと副看護師長、相互の成長に繋がった。次年度は関わる人材を拡大していく事が課題である。カンファレンスについては、各部署実施率 52~100%、平均 59%であった。次年度はカンファレンス内容やファシリテーション力など質の向上が課題である。

医療安全管理に関しては、連携の不適切事象は昨年度比較で 19%増加した。言葉にしないことによるエラーが多いこと、思い込みが要因と考えられたため、再分析して対策に取り組んで行く。ナッジ理論を活用した取り組みは、全部署実施 12 件、実施率 100%であった。医療安全、感染対策、患者目線での取り組み等各部署の特性を考慮した効果的な実践となり、病棟内での問題解決に繋がった。

2. 人材育成・人材確保

キャリアプランシートの導入により、一人ひとりが自分のキャリアを考える機会となり、管理者側は個々のキャリアプランを確認できることで、人材育成、部署配置に活用できた。また、研修受講シートを導入して研修を実践活かしていく仕組み作りが整備された。クリニカルラダーの看護実践評価の充実に関しては副看護師長 WG で評価指標を作成し、実践評価に活用できた。新規資格取得では、認定看護管理者 1 名、がん専門看護師 1 名、感染看護認定看護師 1 名が認定審査に合格した。

人材確保に関しては、看護実習受け入れ 7 校、実人数 309 人、延べ 1,656 人であった。病院局や他県立 3 病院と協働し学生就職説明会に参加すると共に院内では、説明会を 3 月に 2 回実施。インターンシップは 8 月、2 月に計 4 回開催し、参加者合計は 53 名であった。今後も周産期医療と小児医療の魅力発信に努めて行く。

3. 経営の健全化

10月の共同指導で指摘された内容についてマニュアルの修正等を実施した。業務改善活動の取り組みは、15件であった。入院支援センターが6月から稼働し、9月より予定入院対応100%を達成でき、患者家族の利便性、病棟スタッフの業務負担軽減となった。超過勤務理由である看護記録の基準を見直し、入院時の記録の簡素化を図り業務負担軽減となった。身体抑制最小化については、指針が完成したため、4月から試行し6月までに実践とする。

4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供

患者サービスに関する動画作成6件、アレルギー確認用紙に多言語対応のQRコードの導入を実施し、患者家族の利便性と看護職員の負担軽減に繋がった。

5. 有事の事態への対応

院内全体での活動はなかったが、部署内での活動を実施できていたため、共通問題の共有と解決が次年度の課題である。

【次年度の課題】

群馬県立病院経営強化プランを元に目標設定する。

1. 質の高い看護の提供
2. 人材育成・人材確保
3. 経営の健全化

重点課題として経営健全化に取り組む。また、新病院建設に向けた基本設計と全国自治体病院学会in群馬開催に対して担当者役割を発揮する。

(福田 円)

令和6年度院外研修(学術集会・研修会・セミナー・救護など)

主催	研修・学会名	日程	場所	氏名	人数	
長期	認定看護管理者セカンドレベル	6月14日～12月6日	群馬県看護協会	小林志のぶ	1	
	実習指導者養成講習会	7月22日～9月27日	群馬県立県民健康科学大学	山崎綾美	1	
	認定看護管理者ファーストレベル	9月4日～1月16日	群馬県看護協会	星山友絵 田夕貴子 後藤真紀	3	
学会・学術集会・研修会等	日本小児ストーマ・排泄・創傷管理セミナー	6月12日～14日	おだわら市民交流センター UMECO	柳田安友加 都丸真	2	
	第1回群馬県臓器移植院内コーディネーター研修会	7月30日	群馬県健康づくり財団	藤井美香 樋口真梨子	2	
	BLSプロバイダーコース	8月9日	東京トレーニングラボ (日本ACLS協会主催)	石関梨華 荒木里香 荒渡美佳 渡邊佳世	4	
	PALSプロバイダーコース	9月28日～29日	群馬県立小児医療センター	石関梨華 荒木里香 荒渡美佳 渡邊佳世	4	
	ELNEC-JPPC(小児緩和ケア)研修	10月5日～6日	三重大学医学部看護学科	小島大 岩井明淳	2	
	NST専門療法士習得のための研修	10月2日～4日・ 12月17日～18日	国立病院機構高崎総合医療センター	岩井淳	1	
	関東甲信越地区母子保健事業研修会	11月11日	群馬県社会福祉総合センター	荒木七生	1	
	群馬ストーマリハビリテーション講習会	11月16日	講習会はオンライン受講 実習は前橋赤十字病院	七五三木大樹 大谷ゆう子	2	
	J-MELS 公認講習会ベーシックコース	11月17日	群馬大学医学部附属病院 第1スキルラボセンター	田中絢子	1	
	栄養サポートチーム(NST)加算算定のための実地修練(40時間)	6月8日～11月24日	JCHO 群馬中央病院	荒木有美 木暮奈櫻	2	
	令和6年度医療的ケア児等支援者養成研修	11月1日～12月31日	YouTubeによる動画配信 (限定公開)	遠藤恵理	1	
	第1・2回群馬県特定行為研修修了者フォローアップ研修会	11月30日・1月18日	群馬県庁	諏佐和也	1	
	令和6年度保護具着用管理責任者教育	1月21日	群馬労働基準協会連合会	諏佐和也	1	
	ImSAFERによる事例分析研修	2月8日	群馬県庁	鈴木清恵 山友絵 高橋洋智 小池美	4	
	第2回群馬県臓器移植院内コーディネーター研修会	3月4日	群馬県健康づくり財団	樋口真梨子	1	
	R6年度臨床教授等合同研修会	3月13日	群馬県立県民健康科学大学	山崎綾美	1	
	群馬県看護協会	「論理的思考」に基づいた課題レポートの書き方	6月6日	群馬県看護協会研修センター		2
		看護研究の基礎 ～初めての看護研究～	7月8日	群馬県看護協会研修センター		1
		看護研究を支援するリーダーのための研修	7月22日	群馬県看護協会研修センター		1
災害支援ナース養成研修		7月30日～31日	群馬県看護協会研修センター		1	
感染管理 ～職場で中心となって活動するためのポイント～		9月3日	群馬県看護協会研修センター		1	
褥瘡・創傷ケア(中級編)～看護実践能力を高めるための知識と技術～		9月10日	群馬県看護協会研修センター		1	
糖代謝異常を合併した妊産褥婦への看護		10月5日	群馬県看護協会研修センター		1	
クレームのない より良い組織づくり		10月11日	群馬県看護協会研修センター		1	
こころといのちのゲートキーパー		11月16日	群馬県看護教育センター		1	
周産期のメンタルヘルスケア		11月30日	群馬県看護協会研修センター		1	
災害支援ナース養成研修		1月23日～24日	群馬県看護協会研修センター		1	
群馬県助産師活用推進事業「助産師研修出向」		2月6日～7日	前橋赤十字病院		2	

員 県 合 市 同 町 研 村 修 職	講師になったときの話し方・進め方	8月9日	群馬県自治研修センター	大谷 ゆう子	1
	Excelを使った統計手法の基礎	9月25日	群馬県自治研修センター	飯田 尚絵	1
	ティーチング&コーチング	12月17日	群馬県自治研修センター	狩野 由紀	1
	業務改善に向けた段取り力向上	2月4日	群馬県自治研修センター	石坂 泰子 松本 直子	2

(1) 第一病棟

令和6年度は、看護師27名、保育士2名、看護補助者3名で始動した。5月には新規採用看護師4名が配属。6月からキャリアアップチャレンジ管理研修のため1名看護部長室配属、9月に看護補助者1名が退職となった。10月から看護師1名が配属となり以降31名体制となった。11月より看護補助者1名が配属となった。

【令和6年度第一病棟看護目標】

1. 質の高い看護の提供
 - 1) カンファレンスを毎日実施し、患者の状態に適した看護を実践する
 - 2) 確認不足によるヒヤリハット事例を昨年度より削減する
 - 3) 手指衛生のタイミングを遵守しアウトブレイク事例が発生しない
2. 人材育成・人材確保
 - 1) 個々のキャリアプランを作成し、昨年度からの課題がクリアできる
(自ら選択した院内研修に1件以上参加する)
3. 経営の健全化
 - 1) 入退院支援センターの開設により入院にかかわる業務を委譲し、時間外業務が削減できる
 - 2) クリニカルパスを新規3件以上運用する
 - 3) 看護業務に関する業務改善に取り組む
4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供
 - 1) 入院時説明をDX運用する
5. 有事の事態への対応
 - 1) 救急カートシミュレーションを実施し、急変対応行動のできない項目を昨年度より減少する

【結果・評価】

目標1について

- 1) カンファレンス開催率の月平均は68.1(上期51.3%・下期76.3%)%であった。土日祝日の開催が少なかったため、毎日開催することが課題である。死亡事例のカンファレンスでは、情報共有により、急変時への対応を検討でき、ナースステーション内の心電図モニター表示件数を増加し、循環器疾患患者やけいれんによる夜間緊急入院時は、心電図モニターの装着を実施することとした。さらに急変時にすぐに対応できるよう、救急カートと心電図モニターの配置方法を変更した。
- 2) チューブ関連のヒヤリハット報告件数が36件、確認不足により発生件数は136件と上昇し、目標達成はできなかった。患者誤認も8件と多いため来年度も削減できるよう継続し取り組む。
- 3) 手指衛生のタイミングの他者評価や、朝カンファレンス時に感染対策レクチャーに取り組み、感染症によるアウトブレイク発生は0件であった。引き続き適切なタイミングでの手指衛生を実践し、感染症のアウトブレイク発生0件を継続する。

目標2について

- 1) 各自のキャリアプランから希望した研修参加はでき、各自がラダーでの課題に取り組んだ。特に2年目スタッフの教育計画は予定通りに進み、ケース発表を通じてその成長を病棟内で承

認することが出来た。

目標3について

- 1) 入院患者の約半数は緊急入院であり、夕方の入院発生に伴う時間外勤務発生が多く、業務改善まで至らなかった。
- 2) 新規クリニカルパスとして食物負荷 DAY・1泊2日入院・CT/MRI 検査入院の3件を運用できた。
- 3) 業務改善として、食物負荷試験の専属担当配置・看護補助者への業務委譲・申し送り時間の短縮・電子カルテカードの環境整備・入院案内のDX化・ナッジ理論による手順の変更(気管支鏡検査時のベッド配置・胃瘻チューブ保管・呼吸器回路表示等)に取り組んだ。アミボイス導入は進まなかった。

目標4について

- 1) 入院案内動画は完成し、運用を開始した。ただし実際に使用したスタッフは56.2%だったため、入院案内方法手順の修正が課題である。

目標5について

- 1) 評価方法の変更により、昨年度との比較ができなかった。救急カート・急変時・アナフィラキシーのシミュレーションを実施できた。急変時、医師への報告方法に課題があったため、S-BARの勉強会を開催し、報告方法について周知した。またリーダーの役割・スタッフ間の連携について課題が確認できたため、来年度も継続する。

(北爪幸子)

(2) 第二病棟

令和6年度は、看護師21名、保育士2名、看護補助者3名で始動した。5月には新期採用看護師2名が配属となり、7月に会計年度職員1名配属、9月末に看護師1名が産休に入り、11月に育休復帰者が2名配属、以降は看護師25名体制であった。

【令和6年度第二病棟看護目標】

1. 質の高い看護の提供

- 1) アセスメント力を高め、患者の状態に適した(必要な)看護を導き出し、実践する
 - (1) フィジカルアセスメントの向上により、患者の状態に適した看護を実践する
副看護師長を中心としたOJTの強化を行う
 - (2) 医療接遇を学び、コミュニケーション力・対応力を磨いて看護実践に活かす

2. 人材育成・人材確保

- 1) 自己の看護観を持ち、専門職として力を発揮する
 - (1) キャリアプランシートを作成し、個々のキャリアプランを共有する

3. 経営の健全化

- 1) 一人ひとりが参画し、働きやすい環境をつくる
 - (1) DXを活用した業務改善に取り組む
 - (2) 経過表の充実を図り、その他の記録にかかる時間を短縮する
- 2) 診療報酬改定に合わせた体制を整備する

(1) 身体拘束最小化に向けた院内体制整備に参画する

4. 有事の事態への対応

1) 災害に対応できる体制を整備する

(1) 院内対応への参画と部署内の準備を進め、災害訓練に参加する

【結果・評価】

目標 1 について

1)–(1) 副看護師長を中心に勉強会を実施し、質問や助言等の声掛けによって OJT の強化を図ることが出来た。また、カンファレンスで看護計画の妥当性や内容について話し合い、計画へ反映させて実践へ繋げることが出来るようになってきている。継続して取り組む。

1)–(2) 医療接遇についてポスター掲示や、朝の会での指さし呼称による注意喚起をして日々意識を高めた。また、家族対応で困った場面などをカンファレンスで話し合う際は、自分たちの対応を振り返り、改善点を見出せるようになってきた。今後も継続して対応力を磨いていく。

目標 2 について

1) キャリアプランシートを作成し、個々のキャリアプランを共有することができた。

目標 3 について

1)–(1) タブレット内に抑制筒使用患者家族の KYT 用イラストを作成。タブレットを使って該当患者に KYT を実施し、転倒転落リスクについて家族の意識を高めることが出来た。KYT 実施患者のヒヤリハットの発生は 0 件であった。

1)–(2) 疾患別の術後の看護指示のセット化を図って経過表に反映させ、処置や指導が漏れなく実施できるよう工夫した。補完体制の見直しで記録時間を確保できるようにしたが、病休者が多くて補完係をつけられない日も多く、今後も検討が必要である。

2) 身体抑制時のエクセルチャート入力等の院内ルールの徹底を図り、抑制に関するケア内容の看護計画への反映や、少しの時間でも抑制を外すためにはどうするかをカンファレンスで話し合うことが出来たため継続とする。

目標 4 について

1) 朝の会を活用して災害 Q&A トレーニングを実施し、上期の消防訓練を経て修正したアクションカードは、下期の消防訓練時に評価し部署全体へ周知を行った。災害対応は日頃からの備えが重要なため、今後も継続していく。

(小林志のぶ)

(3) 第三病棟

令和 6 年度は、看護師 25 名、保育士 3 名、看護補助者 3 名体制で始動した。5 月に新規採用看護師 4 名配属となり、29 名体制であった。

【令和 6 年度第三病棟看護目標】

1. 質の高い看護の提供

- 1) フィジカルアセスメントの向上により患者・家族の状態に適した安全な看護を実践する
- 2) 患者のニーズをとらえ、必要な看護を提供する

2. 人材育成・人材確保

- 1) 自己の目標を明確にし、お互いに支援し合い、成長する

3. 経営の健全化

- 1) 他部署・多職種と連携し、病床を効率的に活用する
- 2) 業務改善し、超過勤務が減少する

4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供

- 1) 患者家族指導のデジタル化を進める

5. 有事の事態への対応

- 1) 防災シミュレーションの実施 (年2回)

【結果・評価】

目標1について

リーダークラスのスタッフを中心とし、カンファレンスや振り返り時にスタッフ同士が意見交換しやすい職場環境を整えた。日々のカンファレンスを開催し、看護計画の評価や患者情報の共有を行い、開催率は65%であった。

目標2に関して

PNSを活用し、指導体制を強化し、クリニカルラダーも全員が目標を達成できた。

目標3について

他部署と連携し、夜間休日の入院受け入れも円滑に行えた。PNSを活用し、お互いを補完し合い、時間外の削減に繋がった。

目標4に関して

病棟案内・転倒防止の動画は継続して活用し、今年度は内服指導の動画を作成した。次年度の活用を予定している。

目標5について

定期的な防災訓練に積極的に参加することができ、自部署でも防災対策を見直し、防災シミュレーションを2回実施した。

(鈴木清恵)

(4) NICU 病棟

令和6年度は、看護師35名(会計年度2名含む)、看護補助者2人で始動した。4月に育児休暇に1名入り7月に育児休暇に1名入り、病休者1名、8月に退職者1名。9月、10月に育児休暇明け計2名配属となり、3月末の時点で33名体制であった。

【令和6年度NICU病棟目標】

1. 質の高い看護を提供する

- 1) フィジカルアセスメント力を高め患者・家族の状態に適した看護を実践する
 - (1) フィジカルアセスメント研修に参加する
 - (2) フィジカルアセスメント研修をもとに病棟内でOJTを実施し言語化する
 - (3) 担当看護師が1回/月以上テーマを出してカンファレンスをする

(4) 患者を取り巻くすべての人たちと連携をとり、安全な医療を提供する

①ナッジ理論を用いた業務改善を1つ以上行い、院内発表をする

②確認行動のDX化(正確な確認行動の動画作成)

2. 人材育成・人材確保

1) 自己の看護観を持ち、専門職として力を発揮する

(1) 個々のキャリアプランを捉え、キャリアプランシートを作成する

3. 経営の健全化

1) 他部署と連携しベットコントロールをする

2) 看護業務改善のためにDX活用を推進する

(1) 音声入力システム(アミボイス)を使いカンファレンスの記録をする

3) 業務改善し、超過勤務を減少する

(1) PNSマインドの強化をする

(2) 休憩時間を確実に確保する

4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供

1) 入院時、病棟内案内動画の作成をする

5. 有事の事態への対応

1) 防災対策を整備・見直しをする

(1) 院内の防災訓練に20人/年以上参加する

(2) 地震時のBCP(病棟レベル)の決定をする

【結果・評価】

目標1について

1) 予定した全ての看護職員が研修に参加できた。副師長が先導して意図的に看護を言語化し、OJTを実施。PNSの強化によりペア活動を通してOJTとなる場面を意図的に確保できた。

2) カンファレンスは、病棟全体では「インシデント」に関すること、グループ内では「看護ケア検討」に関して実施した。認定看護師の支援のもと看護倫理に関するカンファレンスも検討できた。

3) NGチューブ自己抜去予防としてミトン着用の判断に向けた取り組みを行った。患者の成長発達という視点も考慮しつつ、事故抜去を28%削減の成果を得た。

4) 確認行動の映像化を十分に活用しきれていない。しかし、各種監査を行い、日々の業務の中でも、ベストプラクティス行動を取れていない時には、互いに声掛けするなど確認行動への意識も高まっている。

目標2について

1) キャリアプランシートを、師長・副師長面接にも活用できた。次年度の委員会・係決定の時にも活用予定である。

目標3について

1) ナッジ理論を用いた休憩時間確保に向けた業務改善の取り組みでは、看護補助者との協働や各担当の業務内容の見直しをした。それに加え、朝の作戦会議、PNSマインドの強化によりPNS監査項目が顕著に改善を認めた。取り組み続ける毎に勤務中の休憩時間看取得率が向上した。

- 2) アミボイスが活用できる設置場所を検討する。

目標4について

- 1) 入院時、病棟案内の動画自体は完成しているため、デバイスの管理方法を決定し活用可能な状態にしていく。

目標5について

- 1) 院内の防災訓練に29人参加できた。アクションカードの見直しをし、病棟内でもその他に2回実施できた。
- 2) BCPは、基礎知識を学習した。作成した発災後6時間までのBCPは、病棟の防災マニュアルに追加していく。また、上期に洗い出した必要物品に関しては、院内の保管や管理状況に沿って準備していく。今後は、院内のBCPの改訂に沿った変更を実施していく。

(星山友絵)

(5) GCU 病棟

令和6年度は、看護師27名(再任用2名含む)、看護補助者2名で始動した。5月に新規採用看護師2名が配属され、以降は看護師29名体制であった。

【令和6年度GCU病棟目標】

1. 質の高い看護の提供
 - 1) フィジカルアセスメント力向上を高め患者・家族に寄り添った看護を実践する
 - (1) フィジカルアセスメント研修をもとにOJTを実施する(年2回以上)
 - (2) 外来と連携し継続看護を実践する
 - (3) カンファレンスを看護実践につなげるシステムを作る
 - (4) 患者を取り巻くすべての人達と連携をとり安全な医療を提供する
 - ① コミュニケーションエラーによる患者誤認を0件にする
 - ② ナッジ理論を活用した取り組みを実践する(1事例以上)
2. 人材育成・人材確保
 - 1) 自己の看護観を持ち、専門職として力を発揮する
 - (1) キャリアプランシートの導入により、個々のキャリアプランを共有する
3. 経営の健全化
 - 1) 一人ひとりが参画し、働きやすい環境を作る
 - (1) 業務改善を通して経営に参加する
 - (2) カンファレンスの記録時には音声入力システムを使用する
 - 2) 診療報酬改定に合わせた体制を整備する
 - (1) 身体拘束最小限化に向けた院内体制を共有し理解する
4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供
 - 1) 入退院時の説明動画を英語仕様で作成する
5. 有事の事態への対応
 - 1) 地震対応訓練を全員が経験する

【結果・評価】

目標 1 について

フィジカルアセスメント能力を高めるために、病棟患者を想定したシミュレーションを実施し、参加率は 100%であった。実施前のアンケートでは「急変時の対応が自信を持ってできない」と答えたスタッフがいたが、実施後は全員が自信を持って対応できるようになった。外来での継続看護については、新生児外来で退院後の患者・家族の様子を確認でき、外来看護師と連携することで、患者の成長に合わせた支援を実施することに繋がった。今後も継続とする。カンファレンスについては、実施方法、記録方法のルールを決め取り組んだ。カンファレンス実施率は 4 月には 50%であったが 3 月には 90%となった。看護計画の評価、看護実践の充実となった。患者誤認防止については、朝の安全唱和で定期的に注意喚起を促し、コミュニケーションエラーによる患者誤認は発生しなかった。安全な医療提供に向けての取り組みでは、母乳やミルク実施前の確認行動についてナッジ理論を活用したが、確認行動不足によるインシデントが発生したため、今後実施方法を再検討し修正していく。

目標 2 について

看護師長、副看護師長の間でキャリアプランシートの内容を共有し、スタッフの考えを確認しながらスキルアップを支援することができた。

目標 3 について

各勤務帯の業務内容の見直しや、カンファレンス実施時の音声入力システム活用などによって、時間の効率的な活用につなげることができた。

目標 4 について

身体拘束最小限化に向けた院内の取り組みをスタッフに周知し、記入漏れを定期的に確認しながら病棟全体で取り組むことができた。

目標 5 について

入退院時の説明動画を英語仕様で作成することはできたが、対象者がいなかったため使用には至っていない。

目標 6 について

病棟の患者に合わせて地震発生を想定したシナリオを作成、スタッフ全員が訓練に 100%参加することができた。

(高橋洋子)

(6) 産科病棟

令和 6 年度は、看護師 8 名、助産師 14 名による合計 23 名、看護補助者 1 名体制で始動。8 月より助産師 1 名産休となり、22 名体制であった。

【令和 6 年度 産科病棟看護目標】

1. 質の高い看護の提供

1) アセスメント力を高め、患者の状態に適した看護を実践する

- (1) 日常的なカンファレンスを継続し、看護実践のための看護記録方法を統一する
- (2) 急変時対応のシミュレーションを行う

(3) 患者を取り巻く全ての人たちと連携をとり、安全な医療を提供する

①Team STEPPS®を活用し、連携の不適切事象を 20%削減する

②ナッジ理論を活用した取り組みを 1 事例以上行う

2. 人材育成・人材確保

1) 自己の看護観を持ち、専門職として力を発揮する

(1) キャリアプランシートを活用し、自己の課題に合わせた研修を受講する (一つ以上)

3. 経営の健全化

1) 一人ひとりが参画し、働きやすい環境をつくる

(1) 動画の活用により看護業務の負担を軽減する

(2) 業務負担を軽減するために、新規クリニカルパスの導入を推進する

2) 産後ケアや母乳外来の収益増加に向けた働きかけをする

4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供

1) 入院時オリエンテーションの動画を作成する

5. 有事の事態への対応

1) 自然災害やシステムダウン時の対応ができる体制を整備する

【結果・評価】

目標 1 について

1) カンファレンス実施率は月平均 70%であり、内容を看護記録へ反映できたスタッフは 5 割程であった。今後も継続する。

2) NCPR と出血のポイント学習及び、シミュレーションを実施できた。

3) Team STEPPS®のコアスキルの中で、リーダーシップとフィードバックに重点を置き、医師と共に事象を肯定的に振り返った。連携の不適切事象を昨年度より 40%削減できた。また、外来診察が安全でスムーズに行えるようナッジ理論を活用した取り組みを行った。

目標 2 について

1) キャリアプランシートをもとに全員が自己の課題に合わせた研修を受講できた。

目標 3 について

1) 指導動画の視聴を看護計画に反映させたことで積極的に動画が活用され、指導の統一が図れた。また、分娩誘発パスを新規作成した。次年度より活用する。

2) 産後ケア運用手順の改定やポスターを刷新した。産後ケアの利用者が昨年の 36.6%増加した。産後ケア件数が増加した分、母乳外来利用者は昨年の 31.2%減となったが全体の収益としては増加した。

目標 4 について

1) 入院時オリエンテーション動画を作成した。

目標 5 について

1) システムダウン時の紙カルテや伝票を整理し、必要書類を病床数分用意するなど整備できた。

(小池智美)

(7) 小児集中治療部

令和6年度は、看護師27名、看護補助者2名体制で始動。6月に看護師1名が配属、11月に看護師1名が産休となり、最終、看護師27名体制であった。

【令和6年度 PICU 病棟目標】

1. 質の高い看護の提供

1) アセスメント力を高め、重症疾患の子どもに必要な看護を導き出し、実践する

- (1) シミュレーションにより、フィジカルアセスメントの質を向上させる
- (2) カンファレンスを毎日行い、記録を充実させ、情報共有と意思統一を図る
- (3) 患者を取り巻く全ての人たちと連携をとり、安全な医療を提供する

①Team STEPPS®の充実 (連携の不適切事象の20%削減)

②ナッジを活用した取り組み (1事例以上)

2. 人材育成・人材確保

1) 自己の看護観を持ち、専門職として力を発揮する

- (1) キャリアプランシートを活用し、個々の目的やビジョンを明確にする
- (2) ビジョンの実現に向けて、主体的に専門職としての研鑽を重ねる
- (3) キャリアプランや看護観、看護実践を語り合い、知識や経験を共有する

3. 経営の健全化

1) 一人ひとりが参画し、働きやすい環境をつくる

- (1) 業務改善に取り組み、院内発表を実施する
- (2) 業務改善により、ケアするための時間と自己研鑽するための時間を確保する

2) 診療報酬改定に合わせた体制を整備する

- (1) 身体拘束最小化に向けた院内体制を理解し、身体拘束最小化に取り組む

4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供

1) 入院時オリエンテーションの動画を活用した患者サービスを提供する

5. 有事の事態への対応

1) 地震発生時の対応訓練を全員が経験する

【結果・評価】

目標1について

1)–(1) アセスメント力の向上を目的とし、学習会や技術チェック、シミュレーションを毎月1回以上実施した。その結果、学習や訓練を通じて身につけた知識やスキルをOJTにより看護実践で活かすという仕組みができ定着した。全ての看護師が指導者の役割を担い、自身の経験と強みをいかしたOJTを実践することが課題である。

1)–(2) 多職種カンファレンス実施率99%、看護師カンファレンス実施率70%だった。カンファレンスの記録方法を変更し、検討した内容は看護計画に反映させ、情報共有と意思統一を図った。

1)–(3)–① 連携の不適切事象は24件あり、20%削減させることはできなかった。確認行動時の誤伝達防止と伝達する内容を省略することによるエラーの防止に取り組む。

1)-(3)-② ナッジ活用した感染対策を実施した。その結果、患者エリアに入る前と入った後の手指衛生遵守率と手指消毒薬使用量は、昨年度より上昇した。

目標 2 について

1)-(1) キャリアプランシートを活用し、個々のビジョンを明確にすることができた。

1)-(2) 主体的に専門職としての研鑽を重ねることができるよう、互いに協力し、個々が希望する院内外の研修を受講することができた。

1)-(3) カンファレンスの定着により、看護実践や倫理について語り合う時間が増え、知識や経験を共有することができ、個々の看護観や倫理観の醸成につながった。

目標 3 について

1) 4 項目について業務改善に取り組み、1 項目について院内発表を実施することができた。業務改善により、ケアするための時間と自己研鑽するための時間を確保することはできなかった。

2) 身体拘束最小化に取り組むために、多職種カンファレンスにおいて、身体拘束の必要性と身体拘束の方法について、チームで検討することを開始した。

目標 4 について

1) PICU 入室案内について動画を作成することができた。入退院支援センターと協働し、子どもと家族にとってわかりやすく、繰り返し確認できる入室案内のツールとして活用し、患者サービスにつなげる。

目標 5 について

1) 地震発生時の対応訓練を全員が経験することができた。臨場感を高め、ラダーレベルに求められる役割を意識した行動がとれるようになることが課題である。

(柴田夕貴子)

(8) 手術室

令和 6 年度は、看護師 12 名 (会計年度任用 1 名含む)、看護補助者 1 名で始動した。看護師は 6 月に 1 名が育休から復帰した。

【令和 6 年度手術室目標】

1. 質の高い看護の提供

1) アセスメント力を高め、患者の状態に適した (必要な) 看護を導き出し、実践する

(1) フィジカルアセスメントの向上により、患者の状態に適した看護を実践する

副看護師長を中心とした OJT の強化を行う

(2) 手術室看護記録、カンファレンス記録の記載方法の統一を行う

(3) ヒヤリハット事例を PNS パートナーと振り返り、安全な医療を提供する

2. 人材育成・人材確保

1) 自己の看護観を持ち、専門職として力を発揮する

(1) 自己の看護観をまとめ、キャリアプランシートを作成する

(2) e-ラーニング・セーフティプラスを活用して、日々の看護実践に生かす

(3) 看護実践評価表、手術室ラダーを活用し、専門職としてレベルアップする

3. 経営の健全化

- 1) 手術パス導入後の問題点を挙げて、情報共有しやすい記録に見直す
- 2) 他職種と連携し、業務整理とタスクシフトを行う

4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供

- 1) 機器管理の整備を行う
- 2) 術前訪問を標準化する

5. 有事の事態への対応

- 1) 有事に対応できるようシミュレーションを実施する
- 2) 災害時に対応できる体制を整備する

【結果・評価】

目標 1 について

フィジカルアセスメントの場면을副看護師長同士で共有して関わりの承認事例を分類、基準作成の土台作りができ、1月に勉強会を実施した。術前訪問の記録に関する勉強会を実施し、カンファレンスの記載漏れをスタッフへ周知した。インシデント KYT からの安全唱和の活用で看護師の針刺事故は1件、検体関連は0件だった。ヒヤリハットレポート作成は9割がパートナーと振り返り、カンファレンスを行った。ナッジの活用では手術室入口のインターホン誘導と入室時の立ち位置を表示することで、自動ドアを同時に開けないことについて改善が見られた。

目標 2 について

キャリアプランシートを基にした面接では、スタッフが役割認識を改める前向きな発言が聞かれたので、今後実践に繋がることを期待したい。毎月の手術室会議でe-ラーニング視聴後の意見交換を実施した。クリニカルラダーは4名がレベルアップ、手術室ラダーは各自が課題解決に取り組んだ。研修受講シートの運用で、具体的な行動と学びを認識した。看護研究は2名が取り組んでいる。

目標 3 について

形式監査に基づき、記録で改善すべき点を中心に勉強会を行った。勉強会后、再度形式監査を行いスタッフへフィードバックした。看護実践評価でも記載漏れや重複が指摘され、今後の課題が明確になった。麻酔カート部屋置きのマニュアルを作成し、運用が定着している。心外、整形の物品・衛生材料の管理を見直したが、術式の変更や医師の異動で使わなくなったものの活用を検討したい。

目標 4 について

始業前点検簿紙運用を廃止して電子媒体へ変更し、安全の担保ができる内容を CE に確認して点検項目を新たに作成した。始業前点検に要する時間は削減することができた。医療機器管理システムを導入し機器台帳の入力ができた。術前訪問時および入室時に家族から受けた質問を集め、質問に対しての返答集を作成して術前訪問のマニュアルを改訂している。

目標 5 について

2グループにシナリオ配布し練習してもらい、1月にシミュレーションを実施した。デブリーフィングからできている事と今後の課題を抽出した。担当が中心となって防災訓練のマニュアルを見直した。

(村上容子)

(9) 外 来

令和6年度は、看護師15名(常勤5名、再任用1名、会計年度9名)、看護補助者1名で始動した。5月末で再任用看護師1名が入院支援センターへ異動し、6月に会計年度看護師を1名採用した。3月末時点では、看護師15名、看護補助者1名であった。

【令和6年度外来目標】

1. 質の高い看護の提供
 - 1) アセスメント力を高め、患者の状況に適した看護を導き出し、実践する
 - (1) 目的、運営方法、記録方法を明確にしたカンファレンスの実践を毎日行う
 - (2) TeamSTEPPS®を活用し、安全な外来看護ケアを提供する
2. 人材育成・人材確保
 - 1) 自己の看護観をもち、専門職として働きやすい環境をつくる
 - (1) キャリアプランシートの導入により、個々のキャリアプランを共有し、支援する
3. 経営の健全化
 - 1) 一人ひとりが参加し、働きやすい環境をつくる
 - (1) 業務上の問題点を抽出し、改善につなげる対策に取り組む
 - (2) 入院支援センターと連携し、スムーズで負担のない入院のシステムを構築する
 - 2) 診療報酬改定に合わせた体制を整備する
 - (1) 外来における、身体拘束最小化の基準を作成し、外来全体で取り組む
4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供
 - 1) 外来受診時の手続き時間短縮に取り組み、胃瘻者・患者家族の負担軽減につなげる
5. 有事の事態への対応
 - 1) 災害に対応できる体制を整備する
 - (1) 地震マニュアル・アクションカードを見直し、修正を行う
 - (2) アクションカードを利用し、シミュレーションを実施する

【結果・評価】

目標1について

1) カンファレンスは毎日開催できなかつたため目標達成できなかつた。しかし運営のルールを決定し、スタッフ全員で運営を行い、開催率上期55%から下期72%と上昇し定期的に運営できるようになった。外来継続看護計画立案も会計年度職員の50%が立案することができた(前年度0)。チェックバックはクラークにも協力してもらい外来全体で取り組んだが、復唱の定着までには至っていない。

目標2について

1) キャリアプランシートは全員が記載し各自の看護の方向性を確認した。また、委員会・係・グループ活動の報告を師長と見直し、目標達成までの過程の共通認識を持った。

目標3について

1) ナッジを導入し、受診時の行き先を果物で示し、わかりやすくした。整形外科での受け付け忘れが0件になった。また計測時の状態を写真で表示し、事前準備をわかりやすくした。入院

支援センターとは、スタッフ配置により内科・外科どちらの入院にも対応できるよう協力できた。問題があったときには早期に話し合い、修正し、手順に反映させた。外来全体で共通認識を持てた。

2) 外来における、身体拘束の状況を確認し、処置時の基準を作成できた。

目標4について

1) 再診機を導入した。効果的に利用するために、一時間に一診療を外来受診する患者家族にお願いし、再診ルールを明文化した。またホームページ活用を医事課と協力し紹介初診の患者に受診前、自宅でアンケートを記載し持参できるようにアナウンスできた。平均30分程度記載時間がかかっていたが、22人短縮することができた。

目標5について

1) アクションカードの地震版を完成させた。地震対策として、パソコンや機材に免振マットを敷いた。防災訓練では、火元となり具体的な課題が明確になったため、取り組む。

(黒田佐織)

(10) 入院支援センター

令和6年度の新規部署として、入院支援センターが始業した。看護師長1名、再任用看護師2名で始動。入院する患者とその家族が、安心して療養生活を送れるよう、入院が決定した時点から継続的な支援を行うとともに、入院支援・部署横断的システムの構築と運営により病院運営・経営への参画を目指し、6月から実質業務を開始した。最終的に1,532件の入院説明に関わり、電話や対面の相談窓口としても106件の実績となった。

【令和6年度入院支援センター目標】

1. 質の高い看護の提供

1) 入院にかかる外来・病棟の業務負担を軽減し双方の質の高い看護の提供に貢献する

指標1: 外来の業務負担の変化

指標2: 病棟の業務負担の変化

2) 患者・家族への入院にかかる説明を強化し、入院に向けた準備が整うようになる

指標: 患者満足度調査で、説明に関する評価が向上する

2. 人材育成・人材確保

1) 入院支援センター職員の強みを生かし、キャリアプランシートを活用して成長する

指標: 職員満足度において病院全体の満足度平均より高いポイントである

3. 経営の健全化

1) 入院にかかる外来・病棟の業務負担を軽減する

(1) 入院にかかる説明・情報収集・入力業務を担う

2) 診療報酬の改定に合わせた体制を整備する

(1) 身体拘束最小化に向けた院内体制整備に参画する

(2) 多職種と連携し、入院支援加算を取得する→中間評価にて修正: 多職種と連携し、入院支援加算を取得するための準備をする

4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供

1) 入院時の説明に DX を活用する

指標: 3 件以上

5. 有事の事態への対応

1) 災害に対応できる体制を整備する

指標: 入院支援センターとしてのマニュアルを作成する

【結果・評価】

目標 1 について

外来での入院説明業務と予定入院患者送り状作成について全面的に業務移行することが出来た。しかし、病棟の負担軽減については、病棟ごとに業務を代行できる内容が異なり、現場スタッフの負担軽減を実感するまでには至らない部署もあったと推察する。次年度は更なる改善に取り組みたい。

外来の患者満足度調査結果では、昨年より 1.3 倍の回答を得ることが出来たが、看護師の対応についての満足度に変化はなかった。入院支援センターでの電話相談や対面相談の様子では、感謝の言葉は聞かれるものの客観的なデータとしては表現できなかった。

目標 2 について

スタッフそれぞれの経験値や知恵を出し合い、より良い連携をとれるよう取り組むことができた。職員満足度結果において指標を達成することはできなかったが、新しい部署の始動としては、お互いの強みを発揮しあい補い合いながら業務を確立することが出来た。

目標 3 について

目標 1 と同様に、病棟により業務負担の軽減割合が異なり、十分な成果をデータとして表すことは出来なかった。しかし、褥瘡対策委員として、褥瘡対策に関する診療計画書の改定と運用変更に関わり、病院内の多職種の業務負担軽減に貢献することは出来た。

身体拘束最小化に向けた院内体制の整備についての協働と入院支援加算取得開始については、院内の体制整備を含め次年度への課題となった。

目標 4 について

転倒転落防止動画を入院前に視聴する仕組みを構築し、アレルギー・禁止項目情報記入用紙と宗教に対する配慮を希望する方へのリーフレットにて、多言語 QR コードを活用することが出来た。

目標 5 について

災害時マニュアルについては、部署の作成ではなく、外来スタッフの一員として行動できるよう対応を変更した。今後も有事の際は外来の一員として行動できるよう、訓練や協議を重ねていきたい。

次年度の課題として、患者家族への説明業務のブラッシュアップのために客観的評価を実施し、説明業務の貢献度が低い病棟への支援についても解決に向け取り組んでいく。

(石坂泰子)

(11) サービス向上委員会

委員長: 大野貴英 (事務局長) 副委員長: 高尾 淳 (総務課長)

委員: 関 絵里香 (医事課) 清水真理子 (Dr) 篠原正樹 (Dr) 関口彩実(生理検査課)
木村壮平 (放射線課) 沖村南美 (リハビリ) 原田明菜 (栄養) 高山広志 (薬剤)
木暮聡子 (歯科衛生士) 綾部朱莉 (地域連携室) 石坂泰子 (総務担当師長)
西尾 迪 (第一病棟) 木口亜美 (第二病棟) 遠藤恵理 (第三病棟) 松岡亜美 (NICU)
佐藤宏美 (GCU) 高倉和枝 (産科病棟) 今井文弥 (PICU) 熊谷扶美子 (手入室)
野村まゆみ (外来)

開催日: 定例奇数月 第3火曜日 16:30～

【目的】

1. 患者・家族の権利を尊重し、思いやりのある医療サービスを提供する。
2. マスタープラン策定に向け、患者・家族等の声を収集し繋げていく。

【活動報告】

1) 患者経験価値調査 (PX)

NHA (日本ホスピタルアライアンス) で行っている患者経験価値調査 (PX) を行った。この調査は医療の質指標 (Quality Indicator: QI) の一つで、患者満足度調査 (Patient Satisfaction=PS) が主観的な「満足」を評価するのに対し具体的で客観的な「経験」を尋ねるのが特徴で、医療の質改善に向けて具体的な課題が抽出しやすいとされている。PX を向上させることで患者の健康アウトカムの向上や医療資源利用の効率性向上、医療過誤の減少などに影響することが証明されている調査である。今年度はQRコードを利用したWEBアンケートを併用した。入院患者・家族を対象に有効回答数120名、外来患者・家族101名の回答を得た。昨年と比較し、看護職員、医師とのコミュニケーション等、各カテゴリの評価とともに総合評価が向上し平均スコアを10.2上回った。

2) ご意見箱

合計18件。改善済2件。取り組み継続7件。対応困難1件で、案件は施設設備に関する事、スタッフの対応に関する事等が多く、該当部署に伝達し、改善又は取組継続となった。

3) 移転再整備に向けたアンケート調査

令和6年9月2日から9月30日で実施し、WEB回答40件、紙回答74件の計114件の回答を得た。本調査は移転再整備に向けて、新病院に対するニーズや意見を収集し、再整備マスタープランの策定をはじめより良い病院を作るための参考資料とすることを目的に、患者さまやご家族を対象とし行われた。新病院に望むこととしては「多くの診療科を有し、こどもの様々な病気・ケガに対応できる病院」と「小児救急患者を受け入れて集中管理を行うなど、こどもの命を守る病院」で約50%の回答となっている。

4) ボランティア

ボランティア活動は読み聞かせ、家族宿泊棟清掃、クリニクラウンに加え、新たにアロママッサージが実施された。意見交換会は実施できなかった。

(高尾 淳)

令和 6 年度患者満足度調査

I 目 的

NHA 患者アンケート調査を行い患者が医療サービスを受ける中での経験を「患者経験価値 (Patient Experience=PX) 調査」で、患者が病院で経験する一連のプロセスに着目し、患者サービスのプロセス改善により患者満足度の改善を目指す。また入院患者アンケート調査で NHA 加盟病院との比較により当院の現状を知る。

II 調査期間

病棟: 令和 6 年 9～10 月

外来: 令和 6 年 8～9 月

III 調査対象

調査期間内に当センターに入院または外来受診した患者と家族

病棟: 第一病棟・第二病棟・第三病棟・産科病棟・PICU・NICU・GCU

外来: 総合内科・循環器科・神経内科・アレルギー科・新生児科・腎臓内科・呼吸器科・形成外科・外科・心臓血管外科・整形外科・血液腫瘍科・耳鼻科・脳神経外科・麻酔科・内分泌代謝科・産科

IV 調査結果

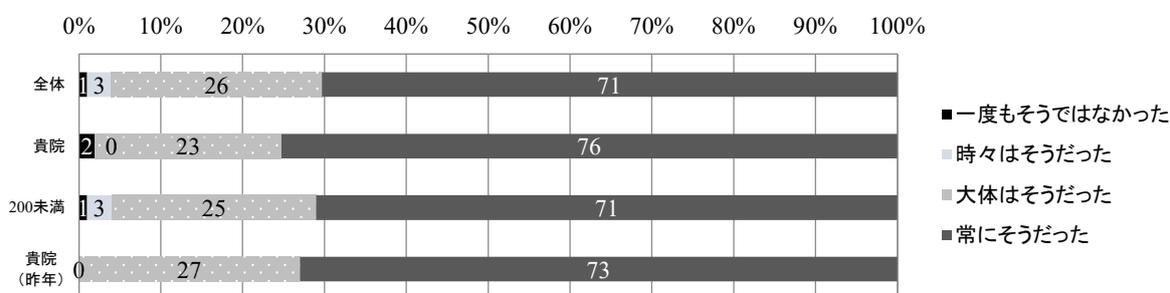
NHA 規定の調査用紙にて以下の内容に関して調査分析を行った。

1) 調査内容

看護師とのコミュニケーション、医師とのコミュニケーション、病院職員の対応、病院の環境薬剤に関するコミュニケーション、退院時の情報提供、外来時の対応

2) 入院患者 120 名から回収 (有効回答名)

①この入院中看護師は礼儀と誠意をもって接しましたか。



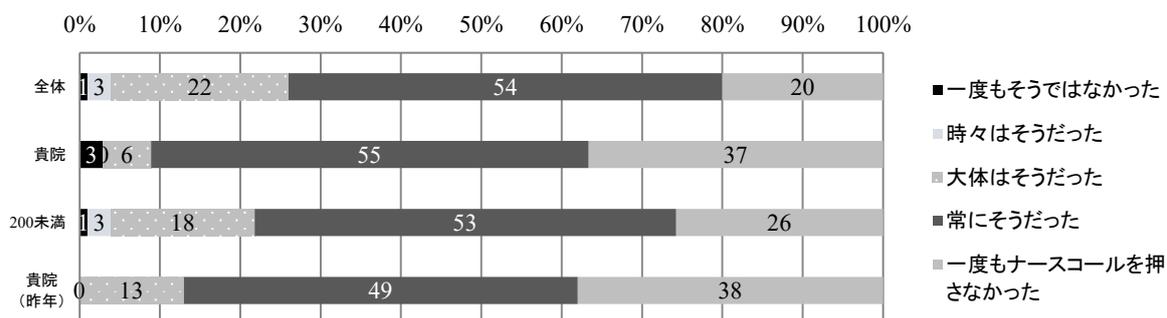
②この入院中、看護師は、あなたの話を注意深く聴きましたか。



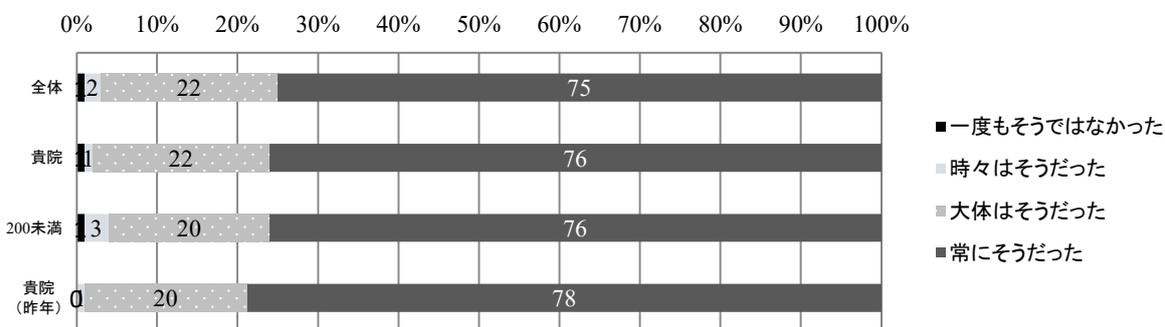
③この入院中、看護師は、あなたにわかりやすく説明をしましたか。



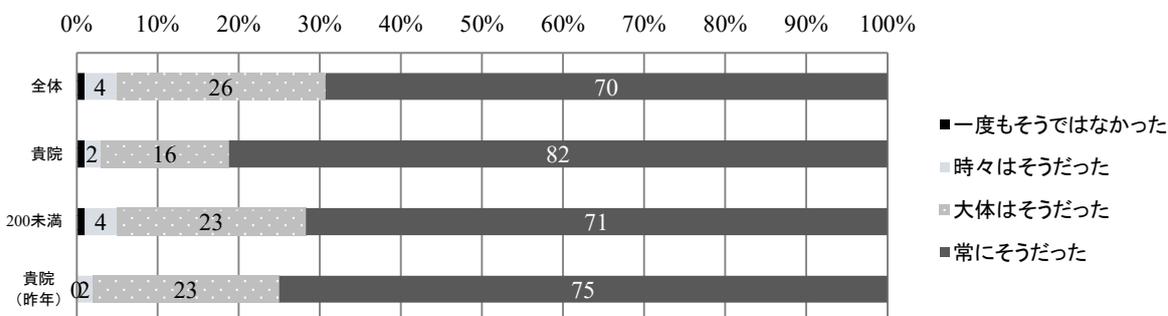
④この入院中、ナースコールを押した後、すぐに援助が受けられましたか。



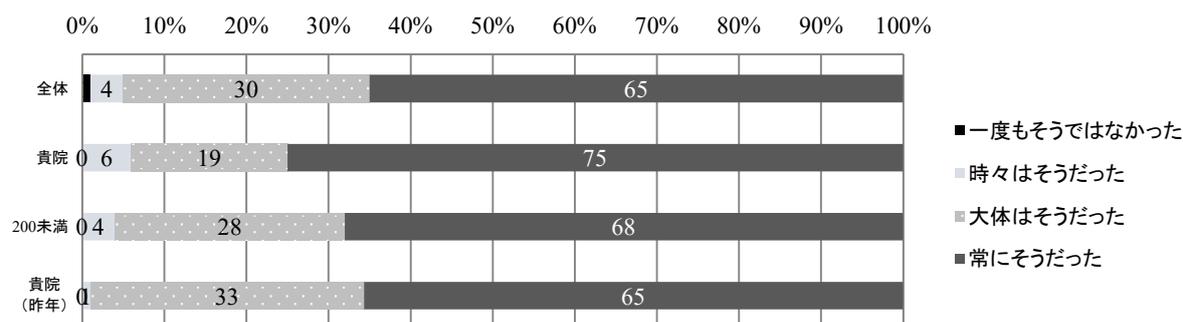
⑤この入院中、医師は、礼儀と敬意をもってあなたに接しましたか。



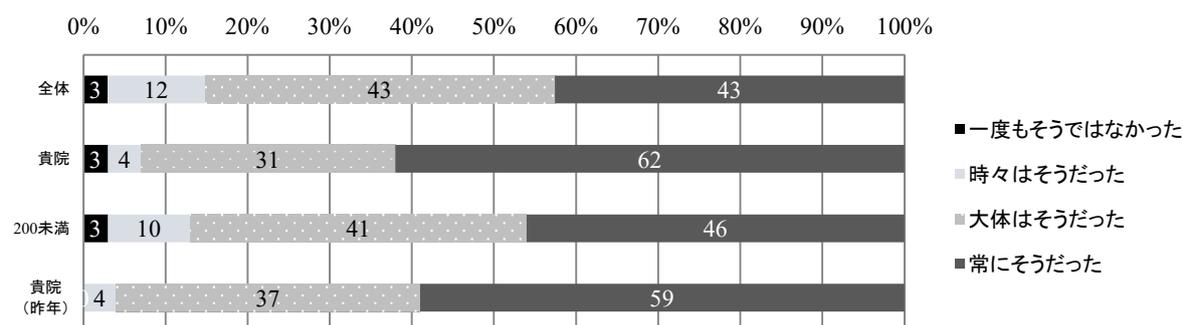
⑥この入院中、医師は、あなたにわかりやすく説明をしましたか。



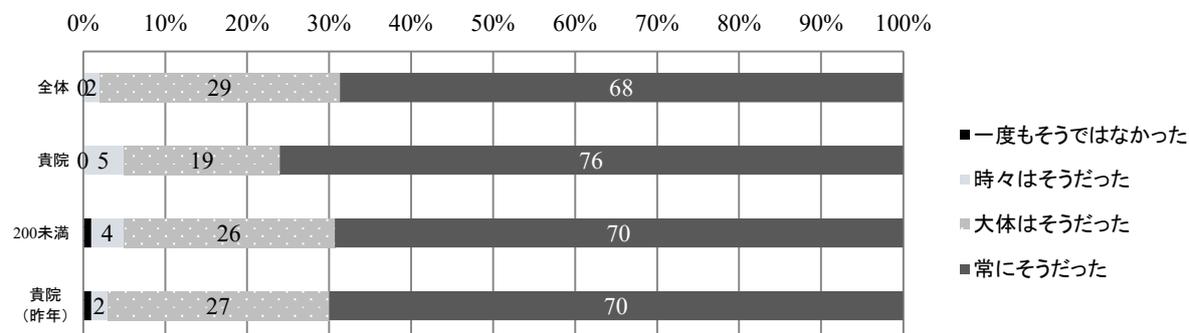
⑦この入院中、あなたの病室とトイレは、清潔に保たれていましたか。



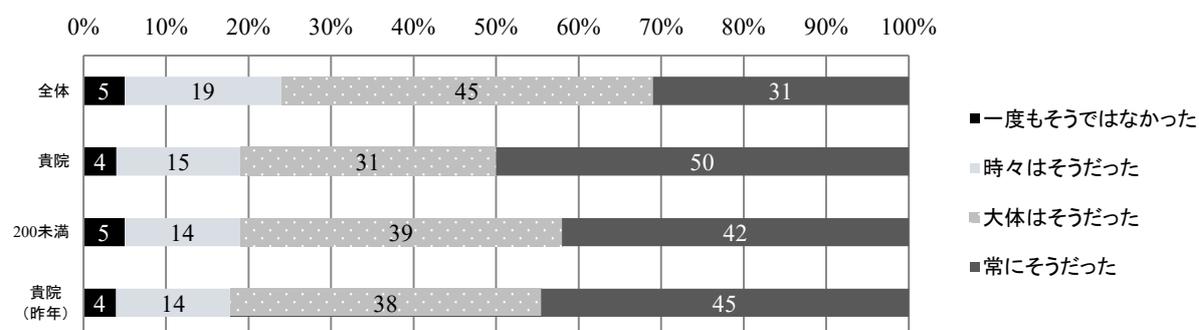
⑧この入院中、あなたの病室の周囲は、夜間静かでしたか。



⑨この入院中、安全に医療サービスが行われていると感じましたか。



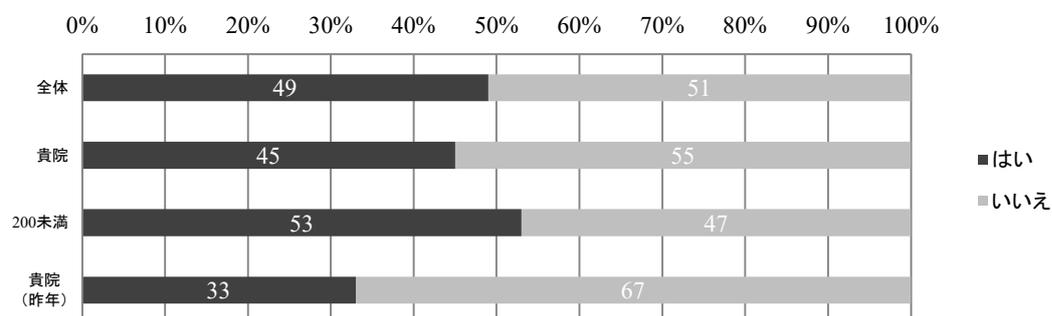
⑩この入院中、食事内容として満足のものでしたか。



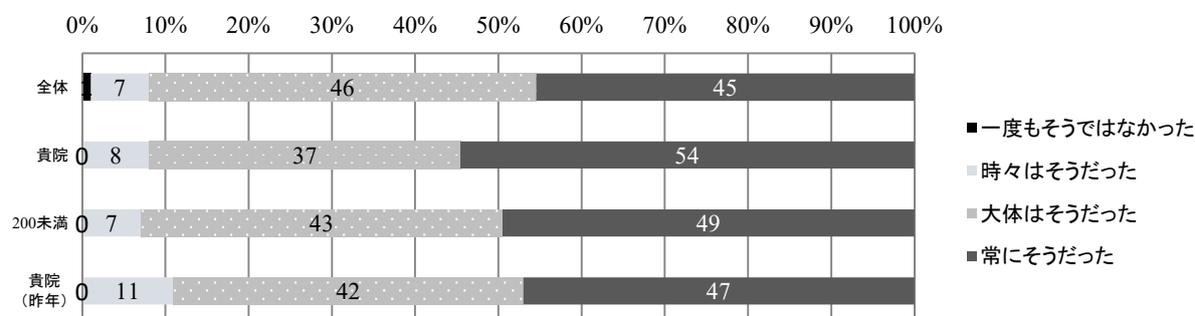
⑪ トイレや尿器・便器を使用する際に、すぐに介助を受けられましたか。



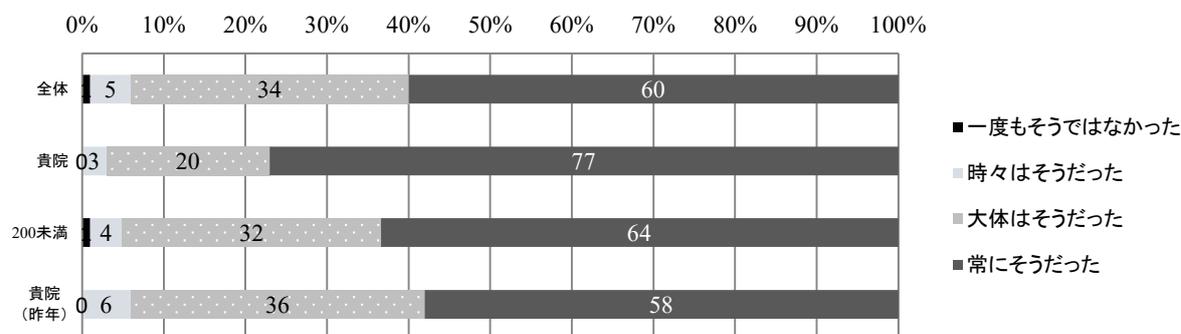
⑫ この入院中、痛み止めの薬を必要としましたか。



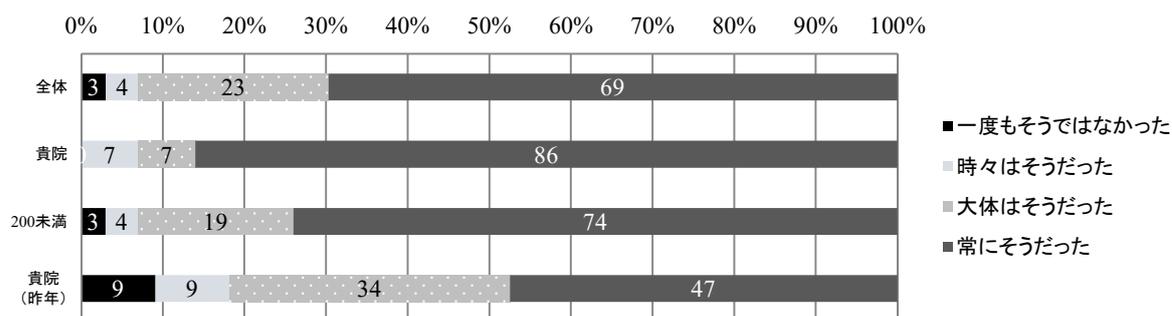
⑬ 入院中、あなたの痛みは良くコントロールされましたか。



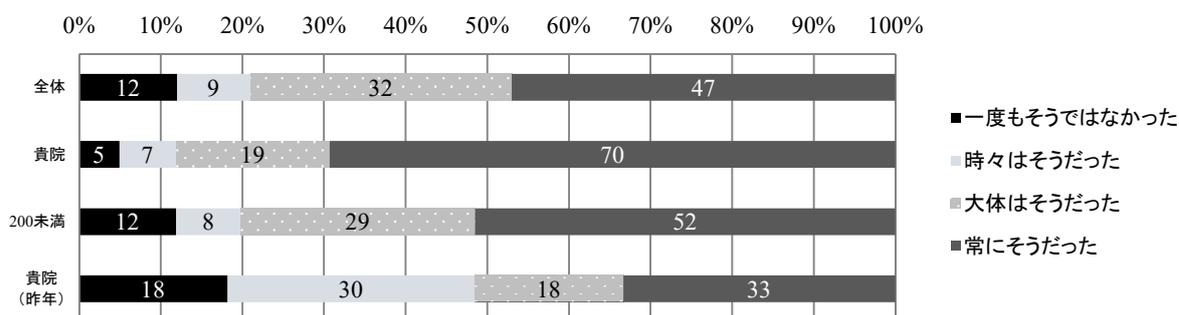
⑭ 入院中、病院のスタッフはあなたの痛みを減らすため、できるすべてのことをしてくれましたか。



⑮新しい薬を渡される前に、病院スタッフは、それが何のための薬であることを説明しましたか。



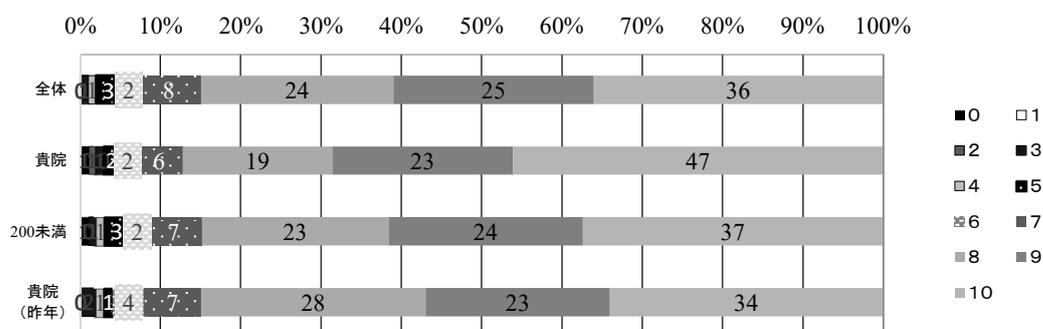
⑯新しい薬を渡される前に、病院スタッフは、生じる副作用についてわかりやすく説明しましたか。



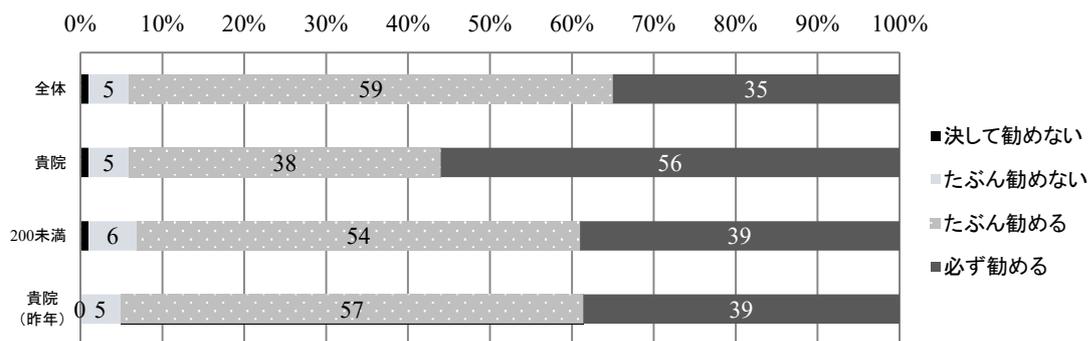
⑰この入院中、医師や看護師、または他の病院スタッフは、退院後のあなたに必要な援助について話をしましたか。



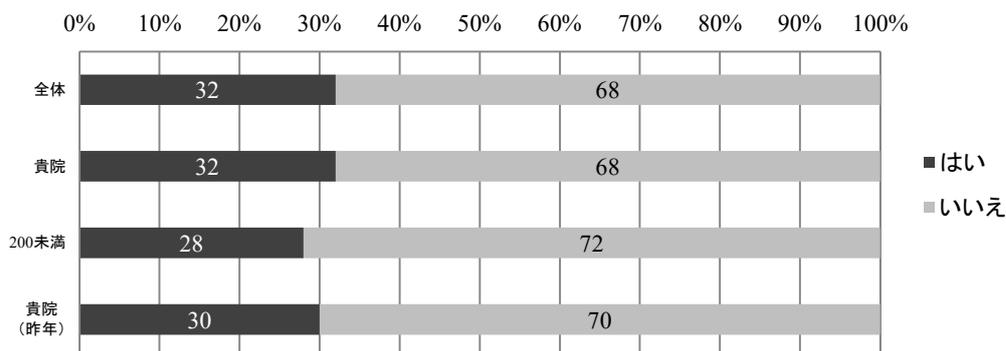
⑱入院中のこの病院を0から10点で評価してください(最も悪い場合を0点、最も良い場合を10点)



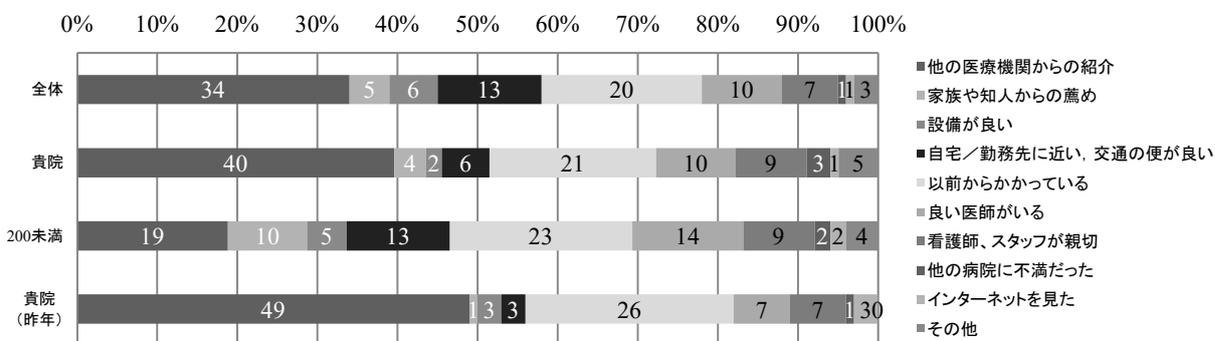
⑱あなたは、この病院を友人や家族に勧めますか



⑳あなたはこの病院に緊急(救急)患者として入院されましたか。

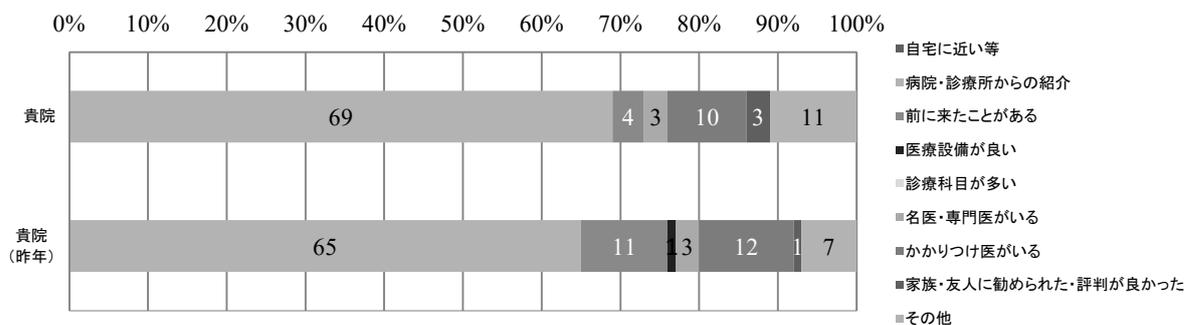


㉑この病院を選択した理由をお選びください(複数選択可)

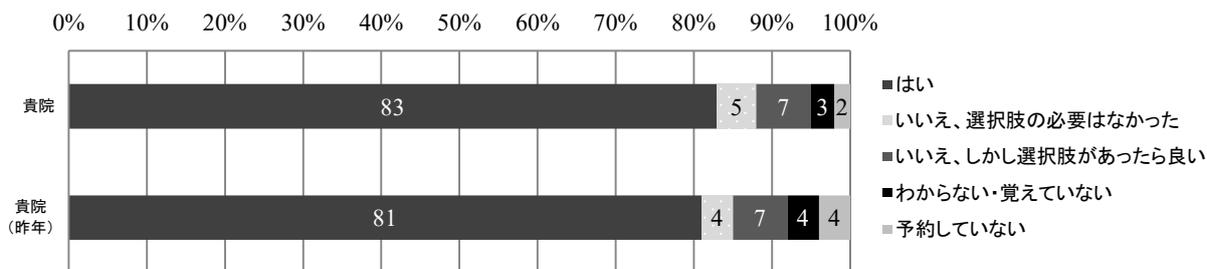


3) 外来より 101 名回収

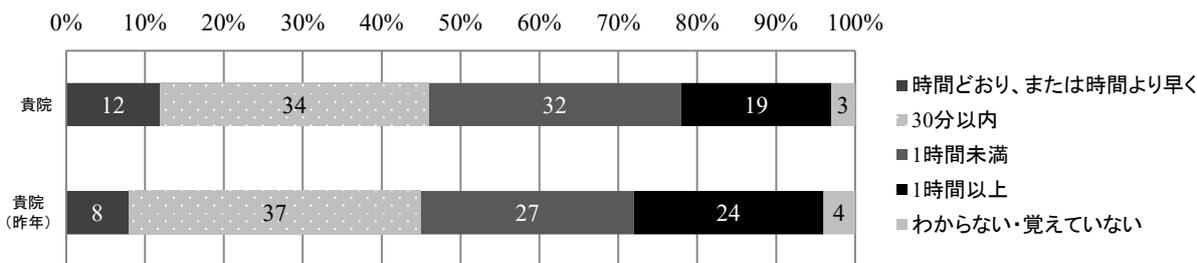
㉒あなたが当院を選んだ一番大きな理由は何ですか？



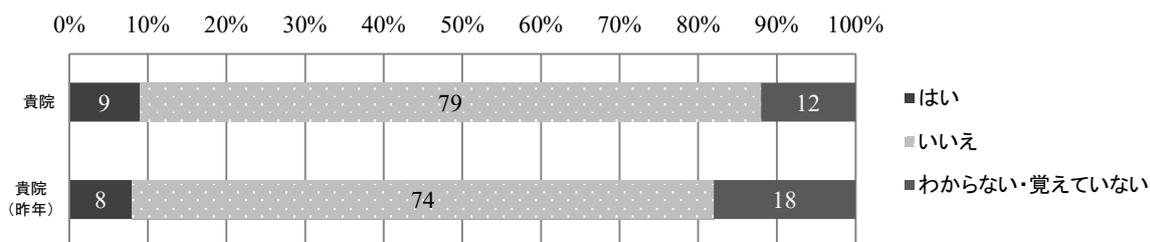
②診察予約時間の選択肢はありましたか？



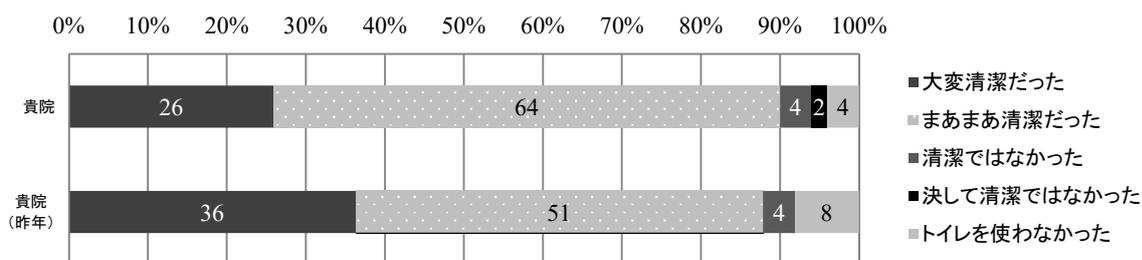
③診察予約時間後、診察が始まるまでどのくらい時間がかかりましたか？



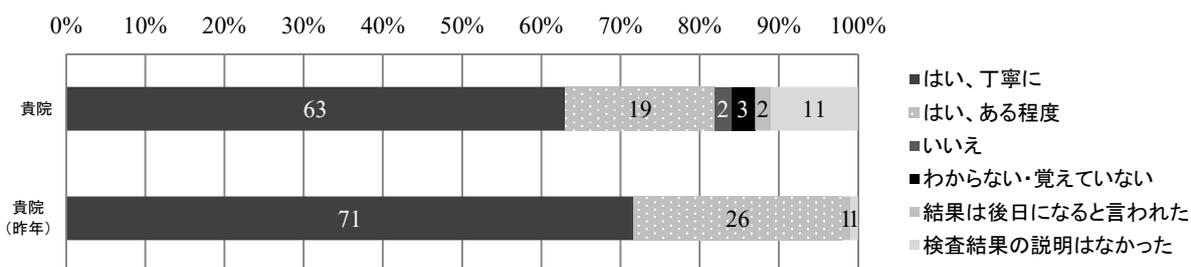
④待ち時間の目安を伝えられましたか？



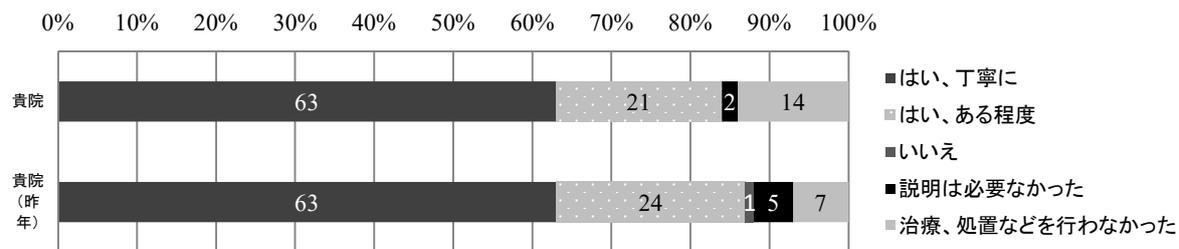
⑤外来のトイレはどの程度清潔でしたか？



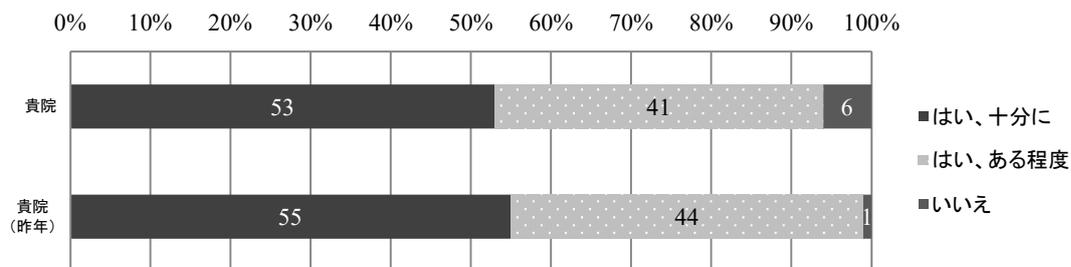
⑥医師は、検査結果をあなたにわかりやすく説明しましたか？



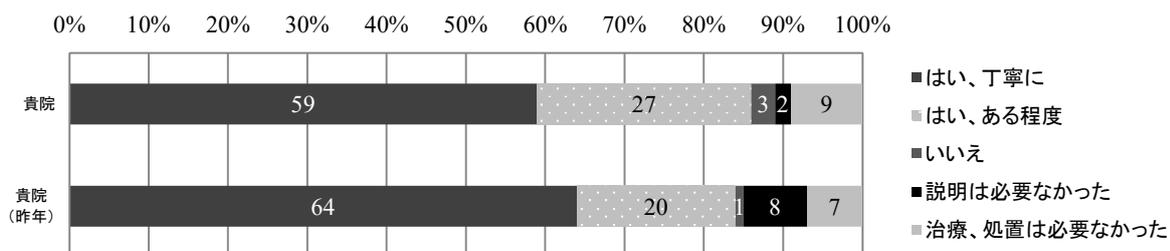
⑦治療前に医師は、治療内容の説明をしましたか？



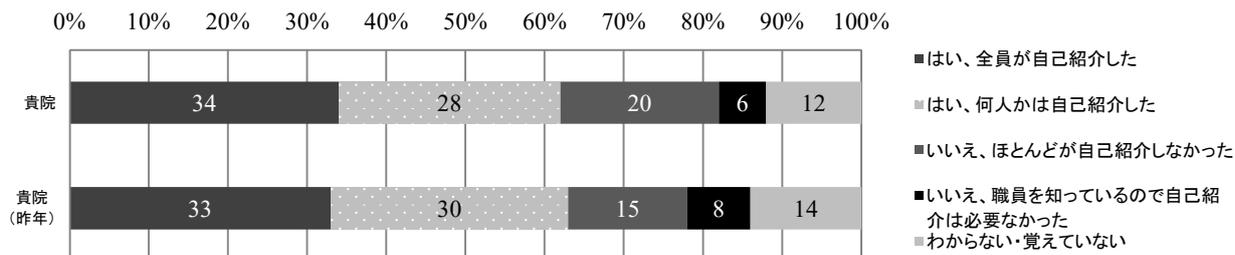
⑧あなたは、話したかったことを医師に十分に伝えられましたか？



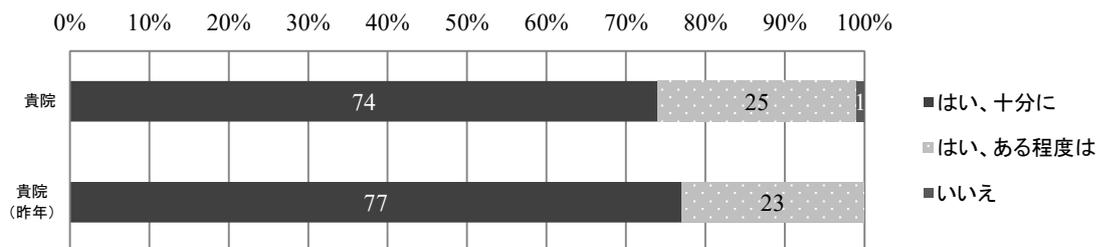
⑨医師はあなたが理解できる方法で、治療や処置の理由を説明しましたか？



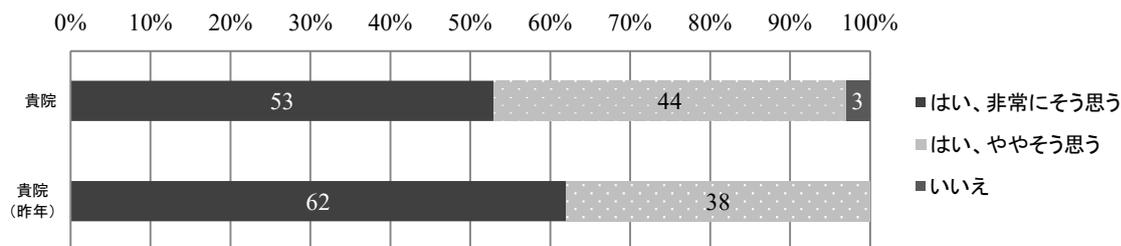
⑩診療に関わる職員は自己紹介しましたか？



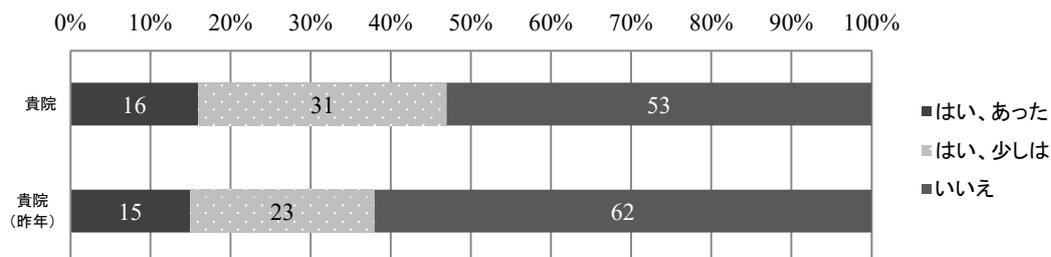
⑪職員はあなたに誠実に対応しましたか？



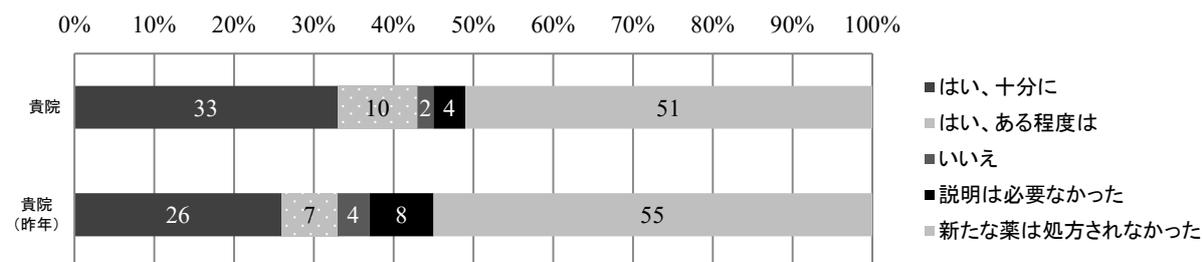
⑫あなたの意思が治療方針に十分反映されたと感じましたか？



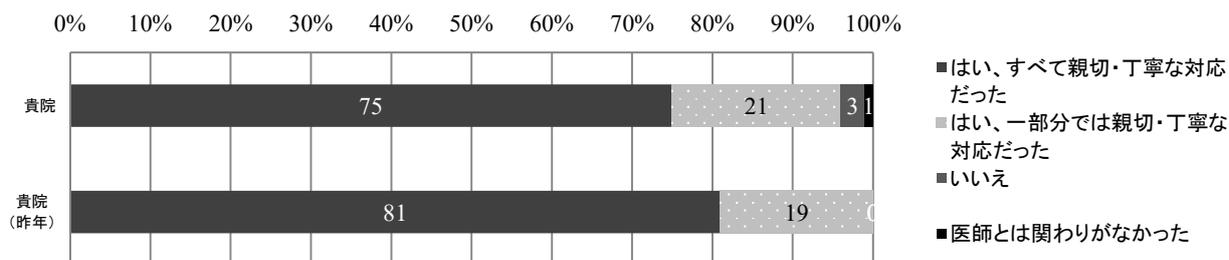
⑬あなたは、伝えられる情報が職員によって異なっているという経験がありましたか？



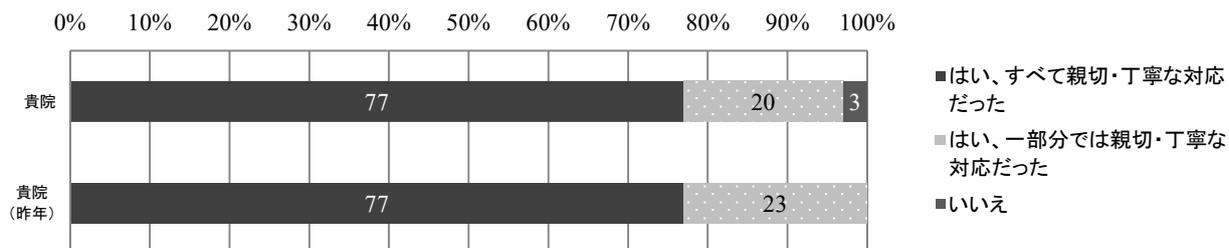
⑭医師や職員は新たな処方薬を服用する方法を説明しましたか？



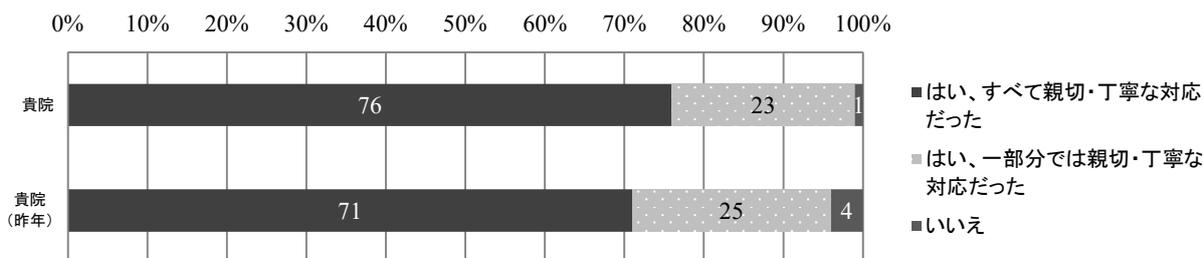
⑮医師の対応は親切・丁寧な対応でしたか？



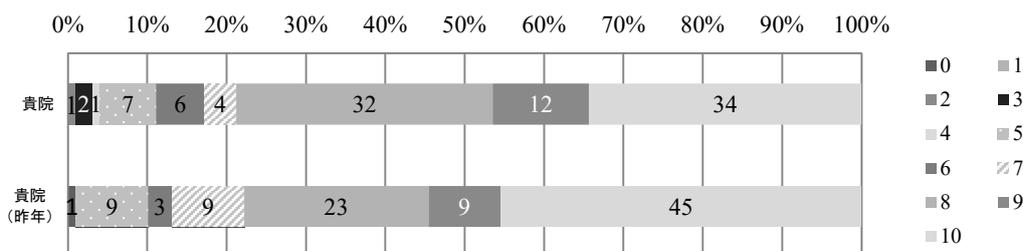
⑯看護師の対応は親切・丁寧な対応でしたか？



⑰医師・看護師以外の職員の対応は親切・丁寧な対応でしたか？



⑱当院の外来経験はあなたにとって価値のあるものでしたか？



4) 結果

NHA 調査分析から入院患者について以下の報告があった。

- ・全体で 84 施設中 8 位、昨年度 C レベルから B レベルに下がり、スコアも 69.17 で平均スコア 58.89 を上回った。
- ・薬剤に関するスコアは大幅な向上が見られた。処方された新しい薬に対する説明について高評価を得られたことが要因とみられる。
- ・外来調査は昨年度よりも待ち時間における設問では 78%が 1 時間未満となり、昨年度の 72%を上回ったものの、説明・対応不足等があり、評価をやや落とすものとなった。

V まとめ

今年度は QR コードを利用した WEB アンケートを併用した。昨年と比較し、看護職員、医師とのコミュニケーション等、各カテゴリの評価は向上し、総合評価では高い数値となり、他院と比較したスコアでは平均を 10.28 上回る評価であった。

引き続き選ばれる病院になるための更なる改善に努めていきたい。

(サービス向上委員会)

18. 母子保健室

(1) はじめに

当室は、昭和 57 年のセンター開院時から『高度医療を背景として、保健所や市町村の母子保健に対する専門的保健指導を担う部門』として設置され、現在、子どもたちの健やかな成長と発達を支援することを理念とし、入通院児をもつ家族支援に対応するため、多様な相談を受けつつ関係機関との連絡調整機能を担っている。

令和 6 年度の母子保健室の室員は、室長 (院長が兼務)、保健師 1 名 (病院局会計年度)、看護師 1 名 (病院局会計年度)、事務 1 名 (知事部局会計年度) の 4 名体制で業務にあたった。令和 5 年度末に病院局保健師不在のまま、知事部局の駐在保健師引上げと会計年度保健師が退職となったため、母子保健室業務の見直しがされた。

事務職員は、医事課に席を置き先天性代謝異常等検診事業と周産期医療情報システム事業を担当した。保健師と看護師は地域医療連携室内に母子保健室としての席を移し業務にあたった。

近年、社会情勢の変化から患者の家族背景が複雑化しているケースが非常に多く、多様な支援が求められている。また出生数の減少と低体重児出生に伴い早期からの妊産婦やそのご家族への個別支援が必要となっている。母親がメンタルヘルスに問題を抱えるケースも多く、児の発達障害や虐待予防も見据えて信頼関係づくりをしながら母支援を行う必要性を求められており、院内外関係者の協力と共に地域と連絡調整を行いながら家族支援を行っている。

(2) 令和 6 年度実績

①精密健康診査

市町村で実施している股関節検診や乳幼児健診の結果、精密検査が必要と認められ当院を受診した児については、必要に応じて市町村保健師と連携を図り、受診結果の把握やその後の支援を行っている。

令和 6 年度を受診者は 61 人で、この内、異常なし 7 人 (11.5%)、要観察 37 人 (60.7%)、要治療 13 人 (21.3%)、他医療機関紹介 4 人 (6.5%) であった。外来や市町村でフォローアップしている。

②新生児・未熟児病棟入院児の退院連絡

退院後の養育状況の把握と育児支援を目的として、退院後 2 週間以内に住所地の市町村に退院連絡票 (情報提供書) を医事課より送付をし、保健師あるいは助産師による家庭訪問を依頼している。入院中に養育状況や哺乳状況等に心配がある場合には、退院前より市町村と情報共有し、退院後は早期に家庭訪問を行い連携しながら育児支援を行っている。また必要に応じてご家族や医師、病棟看護師、市町村保健師と共に退院支援会議を開催し、ご家族が自宅で安心して育児ができるように調整をしている。

令和 6 年度の訪問依頼件数は 173 件であった。訪問依頼の返信数は 100 件であった。今年度より市町村が継続支援を必要と判断した新生児についてのみ訪問報告書の依頼をしている。これら報告のあったお子さんについては、必要に応じて外来受診時に声掛けをして養育状況や母親の育児負担等について伺い市町村と連携をして支援をしている。

③育児相談及び関係機関との連携状況

入通院をしている妊産婦や乳幼児を中心に様々な問題を抱える方の思いを傾聴して必要な支援について院内、更には市町村とも情報共有し支援にあたっている。妊産婦は身近に支援者がいないことが多く、グローバルな影響でコミュニケーションの弊害が生じることも多くなっている。また産後2週間健診や1か月健診で、EPDS高値の方には、母の不安な気持ちを傾聴し市町村に繋げ、産後うつや虐待等の予防を行っている。出生後の育児に関しても支援者が身近にいないことや、養育力等に心配なケースもあり連携は不可欠となっている。

相談件数は、家族からの相談が547件、市町村との連携が363件、院内関係部署との連絡調整が179件であった。支援や事業に伴う関係機関との連絡総数は1,116件で、連絡方法別にみると、電話が517件、面接が599件であった。今年度は妊産婦への相談支援が多くなっている。

④関係機関連携会議

家族背景が複雑化する中で、必要な支援が得られないケースも多く市町村関係課との情報共有を行い、安心安全に妊娠出産を迎えられるよう、あるいは自宅での生活が様々な支援を受けながら特に母親が負担を抱え込まないような支援を調整できるよう会議を開催している。環境等の調整が必要な家庭の支援のため、地域機関(市町村、児童相談所、学校、保育所等)との間で連携会議を開催しており、令和6年度は7回母子保健室として関わった。

⑤家族会

<あさがおの会>

あさがおの会は、当院に入通院をしている3歳未満のダウン症のお子さんとそのご家族の家族会で、同じ疾患をもつご家族同士での交流を目的に平成21年度より開催をしている。今年度も6月と11月に実施した。遺伝科医師と神経内科の医師が中心になり、院内の外来、第3病棟、PICU、リハビリテーション課、栄養調理課、歯科、保育士、地域医療連携室、医事課のスタッフの協力をいただきながら、ミニ講義とフリートークでの交流を図った。参加したご家族は、お子さんの食事や遊び、療育の他に、仕事との両立など様々な悩みや思いを参加者同士で共有することができていた。

<にこちゃんカフェ>

にこちゃんカフェは、当院に入通院をしている6歳未満の口唇口蓋裂のお子さんとそのご家族を対象にしている家族会で平成29年度より開催している。今年度は、口唇口蓋裂を患って治療を続けている当事者とそのご家族に参加を依頼しお話をいただいた。日常生活の中での悩みや病気との付き合い方、学校生活で大変であったことなどの話もあり、ご家族からは共有でき前向きになれた等のご意見をいただき好評であった。

⑥先天性代謝異常等検査

本事業の事務局として、患者情報の管理(精密検査対象児及び継続治療児等のフォローアップ)を行っている。平成25年10月からタンデムマス法検査の導入がされ、令和6年4月から国実証事業による2疾患(重症複合免疫不全症及び脊髄性筋萎縮症)が公費負担に追加され、現在、発見可

能な疾患が 22 疾患となっている。令和 6 年度の先天性代謝異常等検査検討会議では、2 疾患の検査実施状況が報告された他、公費対象の更なる拡大について協議が行われた。

⑦産後ケア事業

令和元年度から産後ケア事業を受け入れ産科病棟で開始された。現在は医事課が中心になり事務手続きは行っており、産後ケアの利用者の中で特に育児面や母のメンタル面等で心配のあるケースについては産科と連携をとっている。母親が育児を抱えることなく安心して生活ができるように産後ケアだけでなく、市町村ごとの様々なサービスの利用について市町村との情報共有を行って母親への支援に結び付けている。

⑧研修会等

看護大学学生に対して実習中の講義等を適時行った。病院に勤務する保健師業務や他職種連携で行政や福祉との連携について事例を通して理解を深められるように行った。

(3) まとめ

母子保健室はセンター開院時から病院と地域との橋渡し役として、多くの保護者から相談を受け、相談内容に応じて支援をおこないつつ関係機関との連絡調整の役割を担ってきた。

特に、ここ数年は未受診妊婦、メンタル疾患を抱える妊産婦、養育にあたっては養育力の低下、家庭内の機能不全状態、育児支援者の不在、経済的困窮、障害受容が困難な家族の他、外国籍の方も多く文化の違いやコミュニケーションの難しさも加わり、多様な対応を求められ関係機関との連絡調整や家族支援に時間を要する事例はますます増加している。

市町村が相談窓口を一元化するように母子保健室も令和 6 年度末をもって閉室となり、今後は地域医療連携室の一員として保健師活動を行っていくことが決まっている。今後も疾患を抱えながら成長していく子どもたちと見守るご家族が安全かつ安心して日常生活が過ごせるよう、主治医と相談しながら多職種のチームの一員として得意分野を最大限発揮した相談体制に努め、関係セクションとの協働を継続し、家族やご本人の支援を市町村と連携をして取り組んでいきたいと考えている。

(安達美恵子)

19. 地域医療連携室

【組 織】

地域医療連携室は2階のリハビリテーション室隣に新設後7年目を迎えた。地域医療連携室(相談窓口)にはメディカルソーシャルワーカー(MSW)2名(年度途中より会計年度1名)、在宅療養支援担当の看護師長1名、専任の看護師1名、非常勤で保健師、看護師各1名が常時勤務している。在宅療養・退院に向けた支援、福祉制度の案内、心配事やお困り事の相談などを受けている。患者様をご紹介いただく窓口(予約・受付窓口)は受付の地域医療連携担当が受けて地域医療連携室長および当該科医師と相談して対応している。退院時共同指導料2、介護等連携指導加算、患者サポート体制充実加算の3つの加算を取得し、毎週、金曜日午前には定例の患者サポートカンファレンスを行っている。医療連携のより一層の充実に向けて取り組みをすすめている。

【活 動】

(1) 医療相談件数

①相談内容及び件数(地域医療連携室)について

相談件数として最も多かったのは[転院・退院・入所]であり、総計1,389件であった。第一病棟・新生児病棟・外来からの相談が多く、新生児病棟からの退院や一般病棟への転棟、成人移行期支援、福祉施設への入所の調整などが含まれている。次いで多かった相談が[福祉サービス]であり、総計1,349件となった。外来からの相談が約74%を占めており、身体障害者手帳や特別児童扶養手当、障害児福祉手当、児童発達支援事業所・放課後等デイサービス、相談支援事業所の案内等の相談があった。[その他]も総計1,510件と件数が多く、虐待対応等、患児に関して院内外の他職種・他機関とのやりとりが含まれていた。

また[退院後フォロー][訪問看護][医療給付費制度]の相談件数も多かった。[退院後フォロー]は総計975件。地域医療連携室には入退院支援加算3の専任看護師が在籍しており、新生児科から退院した患児が初回外来に来た際、面談を実施している。その後も継続して面談をおこなっているため、令和6年度の[退院フォロー]のうち面談が約86%を占めた。[訪問看護]では利用者の多い第一病棟・第三病棟、さらに訪問看護と連携して在宅療養支援をおこなっている外来からの相談が多かった。[医療給付制度]では外来・第三病棟・新生児病棟からの相談が多く、外来・第三病棟では小児慢性特定疾病医療給付の案内や自立支援医療(育成医療)の案内、新生児病棟では未熟児養育医療制度の案内が主であった。

(2) 子ども虐待防止対策事業

①院内CAPS開催状況

院内で虐待が疑われる事例が生じた場合、虐待対応チームのコアメンバーを緊急招集し、緊急CAPSを開催する。令和6年度は計15回おこなわれた。そこでは事例の概要を共有し、児童相談所への通告・相談について検討した。

また、一つの事例に対して複数回会議を開催することもあった。そのような事例では、院内の虐待対応チームだけでなく、児童相談所や市町村の保健師、警察等との連携も図り、その後の対応について協議した。

②要支援事例検討会状況

奇数月の第二水曜日 17時から開催。令和6年度に事例として扱った延べ人数は38名であり、月齢・年齢としては〔高校生・その他〕が8名、分類としては〈養育環境〉が15件と最多であった。これらの理由として、特定妊婦への継続した支援をおこなったことが挙げられる。未婚や経済的困窮、親族からの支援体制の不足等、様々な課題を抱える妊婦・家族に対し、他職種・他機関と連携しながら支援をおこなった。また、産後は児の名前で要支援事例となるため、〔1～6か月〕の児の延べ人数も必然的に多くなった。〔3歳～学齢前児童〕も〈養育環境〉が気になるとして複数の事例が挙がり、継続的に支援をしたため、延べ人数が11名と他の年代よりも多くなった。

当検討会では、それぞれの事例に対して、今後の対応を複数のスタッフで検討している。また、地域医療連携室では、検討会後や要支援事例として終結した後も、継続してケース支援できるよう心掛けている。

③職員向け虐待対応研修

虐待対応チームでは、養育支援体制加算のため、養育支援体制を確保するための職員研修を年2回実施している。

(3) 支援会議実施状況

地域医療連携室主催の支援会議は計26回。会議の内容としては〈在宅支援〉が最も多く9件であった。その中でも〔1～6か月〕が4名、〔7～12か月〕が3名と、他の年代よりも多く会議がおこなわれた。〈その他〉も6件と多く、具体的な内容としては保育園・児童発達支援事業所入所や成人期移行のための会議、一時保護中の患児についての関係者会議などがおこなわれた。

(4) 患者サポート会議実施状況

患者サポート会議とは、患者サポート体制充実加算（医療従事者と患者との会話を促進するため、患者又は家族等に対する支援体制を評価した加算）の算定のための会議である。地域医療連携室では原則、毎週金曜日 9:30～開催しており、令和6年度は年間33回の開催で、対象患児の延べ人数は223名となった。

(野村 滋)

20. 医療安全管理室

1. 令和6年度医療安全管理体制

医療安全管理室長 副院長兼 河崎裕英

専任安全管理推進者 (ゼネラルリスクマネージャー: GRM) 看護師長 福島富美子

非常勤職員 1名

委員会等	開催日	構成員	令和6年開催実績
医療安全管理委員会 <医療安全管理体制の方針決定機関> 委員長: 河崎副院長 副委員長: 福島 GRM	原則毎月 第2火曜日	28名	定例12回
死亡症例検討委員会 委員長: 河崎副院長 副委員長: 野村医療局長	原則月1回 開催日随時決定	23名	11回開催
リスクマネジメント委員会 <医療安全対策の実行機関> 委員長: 福島 GRM 副委員長: 小池看護師長	原則毎月 第3水曜日	28名	定例12回
看護部リスクマネジメント委員会 <看護部内の医療安全対策検討> 委員長: 福島 GRM 副委員長: 小池看護師長	原則毎月 第3水曜日	11名	定例12回
患者相談窓口	責任者: 河崎副院長		相談件数 4件

2. 令和6年度医療安全講演会・研修開催状況

対象	開催日	参加人数	参加率	テーマ・内容	講師
全職員対象	R6.7.16	467	98.3%	医療における説明義務・カルテ記載・同意書の意義	水沼直樹 病院局法律相談弁護士
	R6.9.24~10.24	424	88.5%	患者確認と指差呼称	e-ラーニング
	R6.4/12/15/22	187	49.3%	統一救急カート勉強会	下山伸哉 部長 木島久仁子 主幹 田村芳子 主任 野村ちひろ 主任
コメディカル	R6.6.4	12	100%	BLS研修	黒岩徹 主幹 高橋裕也 主任
看護師	①R6.6.12 ②R7.2.26	14	100%	KYT 危険予知訓練研修 ①今年度年度の目標 ②取り組み発表	福島富美子
看護師技術部	R6.7.1~12.18	300	100%	急変時の対応 1.2.3	e-ラーニング
看護補助者	R6.8.1/31	19	100%	看護補助者研修 (確認行動・安全な行動)	福島富美子
医師 看護師	R6.9.20	388	81.2%	災害対策サルからヒトへ ~災害時の初期対応~	森田孝次 部長
コメディカル	R6.10.22/30	31	58.5%	急変時の対応	木島久仁子 主幹

3. 医療事故及びヒヤリ・ハット事例調査集計

1) 医療事故及びヒヤリ・ハット報告数

1,139 件。R5 年度比較 170 件増加 (17.5%増) 3b: 8 件 レベル 4 以上の発生なし。
年間件数は増加したが、全体の 85%はレベル 1 以下であった。

2) 項目別発生割合

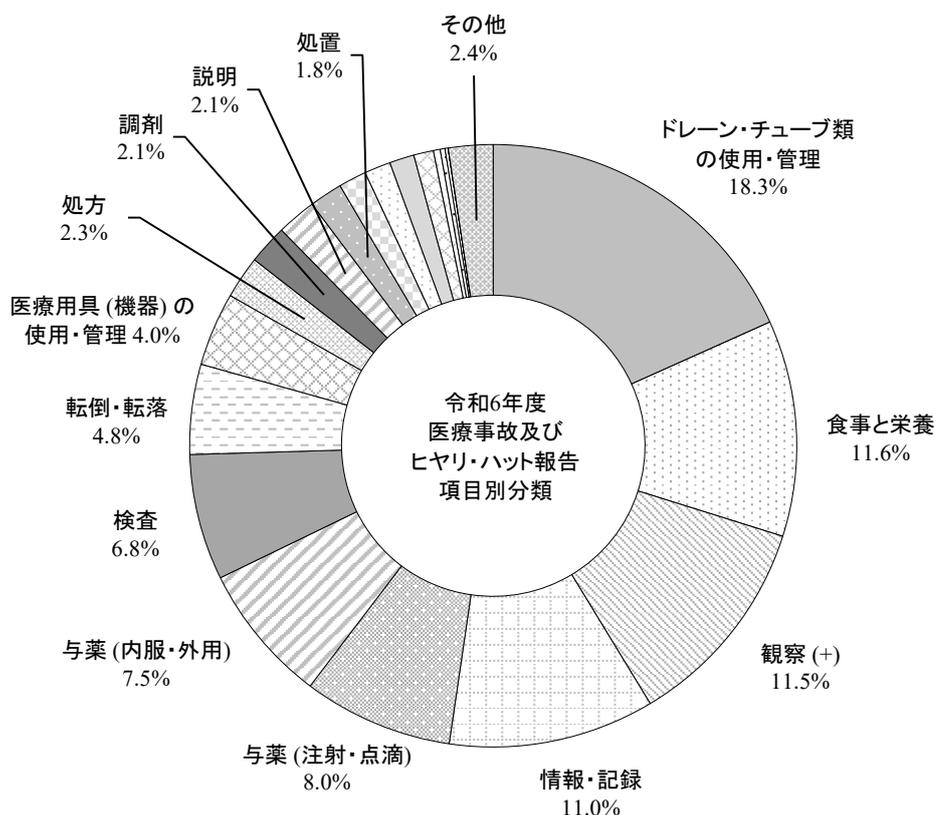
①ドレーン・チューブの使用管理 18.3% ②食事と栄養 11.6% ③観察 11.5%の順。

3) 患者誤認

55 件発生 (32 件増加)。ほとんどが 0~1 レベルであった。医師が関係したもの 12 件 (21%)、
看護部 36 件 (65%)。内容は、①情報・記録、②検査が多かった。

4) 連携

医師と看護師間 95 件 (44.8%)・看護師間 71 件 (33.4%)。内容は与薬 (注射・点滴) が多かった。



	レベル 件数	0	1	2	3a	3b	4a	4b
	ドレーン・チューブ類の使用・管理	208	18	106	67	15	2	0
食事と栄養	132	94	36	1	1	0	0	0
観察 (+)	131	5	113	9	3	1	0	0
情報・記録	125	101	23	0	1	0	0	0
与薬 (注射・点滴)	91	28	53	8	1	1	0	0
与薬 (内服・外用)	85	34	49	2	0	0	0	0
検査	77	29	24	24	0	0	0	0
転倒・転落	55	1	51	3	0	0	0	0
医療用具 (機器) の使用・管理	45	10	30	4	1	0	0	0
処方	26	21	5	0	0	0	0	0
調剤	24	23	1	0	0	0	0	0
説明	24	16	8	0	0	0	0	0
処置	20	2	12	5	0	1	0	0
手術	17	4	11	0	0	2	0	0
感染防止	16	0	8	8	0	0	0	0
環境整備	15	9	6	0	0	0	0	0
輸血	12	7	4	1	0	0	0	0
事務	4	3	1	0	0	0	0	0
リハビリテーション	3	0	2	0	1	0	0	0
分娩	2	0	0	0	1	1	0	0
麻酔	0	0	0	0	0	0	0	0
排泄の介助	0	0	0	0	0	0	0	0
清拭・入浴介助等	0	0	0	0	0	0	0	0
移送	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科医療用具 (機器)・材料の使用・管理	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	27	19	8	0	0	0	0	0
合 計	1,139	424	552	131	24	8	0	0

4. 患者・家族相談件数

相 談 内 容	件数
医師・看護師に関する事	3 件
看護に関する事	1 件
計	4 件

5. 医療安全地域連携加算に係る相互評価

日 程	評価を実施した施設	評価を受けた施設
令和6年 11月18日	加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター	加算Ⅰ 群馬県立心臓血管センター
令和7年 1月20日	加算Ⅰ 群馬県立心臓血管センター	加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター
令和7年 2月18日	加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター	加算Ⅱ 北関東循環器病院

6. リスクマネジメント委員会活動

委員長: 福島 富美子

副委員長: 小池 智美

委員: 松永部長 (心外)、山口部長 (外科)、宮川部長 (新生児)、鏑木部長 (血腫)、森田部長 (内科)、三森医長 (麻酔)、餅川医長 (産科)、稲田医長 (循環器)、平田副主幹 (第一)、青木副主幹 (第二)、石関副主幹 (第三)、黒岩主任 (NICU)、須藤主任 (GCU)、千明副主幹 (産科)、齊藤主任 (OPE)、荒木主任 (PICU)、大谷主幹 (外来)、南雲主任 (薬剤部)、浅見技師 (検査)、下田主任 (放射線)、中野主任 (栄養)、高柳主任 (リハビリ)、高橋主任 (CE)、井上レジデント (歯科)、高尾総務課長 (事務局)、オブザーバー河崎副院長

1) 活動内容

(1) 事故及びヒヤリ・ハット報告の周知、問題の共有、対策検討、知識の修得

(2) WG 活動

フィッシュ活動	THANKS カードの普及・利用率向上の推進、便りの発行
TeamSTEPPS®	TeamSTEPPS ツールを活用したチームワーク向上の取り組み チームワークアンケート実施、便り発行
災害対策	院内ラウンド、災害研修、地震車体験、便り発行
5S 活動	院内ラウンド、5S 活動発表、便り発行

7. 今後の課題

- 1) 確認不足・連携不足によるヒヤリハット事象削減の取り組み
- 2) 各部署の取り組みの支援強化
- 3) 安全活動の見える化

(福島富美子)

21. 感染対策室

1. 令和6年度感染対策体制

感染対策室長 清水彰彦 (ICD) (兼任)

感染対策医師 小泉亜矢 (ICD) (兼任)

専従感染対策担当看護師 (感染管理認定看護師: ICN) 石川さやか

感染対策担当検査技師 松村雅寛 (兼任)

感染対策担当薬剤師 高橋大輔 (兼任)

2. 委員会活動報告

委員会等	開催日	構成員
院内感染対策委員会 ＜感染対策体制の方針決定機関＞ 委員長: 清水彰彦 副委員長: 小泉亜矢	毎月第4水曜日	46名
リンクナース会 委員長: 石川さやか	毎月第3月曜日	10名

1) 院内感染対策委員会活動

委員会は毎月開催で年12回開催された。活動内容として、細菌ウイルス検出状況・抗菌薬使用状況報告・血流感染/SSIサーベイランス報告・AST活動・ICT活動の報告が実施された。

2) リンクナース会活動

活動目標を「手指衛生における自部署の問題点を抽出し、改善策を立案し実践する」として、活動を実施した。各部署の特殊性を考察したうえで問題点・改善計画を立案し、改善策実施前後で遵守率が向上したか評価した。その結果、1患者に1日使用した手指消毒薬量を部署別にグラフ化したところ、多くの部署で手指消毒薬使用量が増えていた。また全部署での合計比較を行ったところ、令和元年度は21.3mlであったが、令和6年度は28.9mlとなっており、一番使用量が多くなった。

3. 感染対策室活動報告

1) 感染防止対策カンファレンス

開催日	主催	内容	備考
6月19日	群馬県感染症対策連絡協議会	令和6年度群馬県感染症対策連絡協議会総会・特別講演会	WEB開催・共催
8月23日	小児医療センター	令和6年度 渋川地区 感染対策カンファレンス	共催
9月13日	渋川医療センター	令和6年度 渋川地区 新興感染症等を想定した訓練	共催
11月8日	渋川医療センター	令和6年度 渋川地区 感染対策カンファレンス	共催
12月6日	小児医療センター	令和6年度 渋川地区 新興感染症等を想定した訓練	共催
12月10日	群馬県感染症対策連絡協議会	令和6年度群馬県感染症対策連絡協議会 合同カンファレンス	WEB開催・共催
2月21日	群馬県感染症対策連絡協議会	令和6年度群馬県感染症対策連絡協議会 合同訓練	WEB開催・共催

2) 相互チェック

開催日	評価を実施した施設	評価を受けた施設
令和6年6月21日(金)	利根中央病院	小児医療センター
令和6年9月20日(金)	小児医療センター	太田総合記念病院

3) ICT ラウンド

毎週木曜日に病棟(第一・第二・第三・産科・NICU・GCU・PICU)は毎週、技術部(検査課・リハ課・放射線課・CE課)・薬剤部・外来・手術室は月1回ラウンドを実施した。標準予防策実施状況・環境清掃状況・感染対策物品管理状況などを確認した。毎回報告書を作成し、ラウンドを実施した部門へ配布し改善を求めた。相互チェックで指摘された項目もラウンド項目に追加し、改善できた。

4) AST 活動

令和6年度のAST活動について、医師からコンサルトがあった症例・重症感染症・抗菌薬や投与量の変更が必要な患者等に随時介入した。広域抗菌薬・抗MRSA薬使用患者・菌血症患者等においては、週1回の特定抗菌薬ラウンドを併せて実施した。ラウンド対象患者は延べ174名と過去最多であったが、ラウンドにより抗菌薬の適正使用を推進し、感染症治療の有効性・安全性を高めることができた。

また、本年度診療報酬改訂にて抗菌薬適正使用体制加算が新設された。当院におけるAWaRe分類のAccess比率は56~59%程度であり、算定要件の60%には届かなかった。しかし、サーベイランスに参加する医療機関全体でAccessの使用率は2.4~4%程度であり、上位30%以内という算定要件を満たしたため、当院でも2024年10月より算定を開始した。これは、抗菌薬の使用実績に基づく新たな評価制度である。AWaRe分類を意識して活用することで、治療効果を高めるだけでなく、将来的な薬剤耐性菌の発生リスク低減にも貢献したいと考えている。

5) 研修開催状況

(1) 全職種対象

開催日	内容	講師	参加人数	備考
6月3日から 7月12日	手指衛生研修	ICT/ICT リンク委員	514名	参加率96.7%
10月23,24,25日 (10/20~11/22 動画視聴)	感染性廃棄物について	石川看護師	486名	参加率83.04%

(2) AST 研修

開催日	内容	講師	参加人数	備考
2024年10月24日 (10/29~11/30 動画視聴)	小児の抗菌薬適正使用 と薬剤耐性(AMR)対策	明神翔太医師	当日69名 動画214名	参加率79.05%
2025年2月7日 (2/24~3/10 動画視聴)	感染症と抗菌薬の基本	高橋大輔薬剤師 松村雅寛検査技師	当日66名 動画191名	参加率71.78%

(3) 部門別研修

開催日	内 容	講 師	参加人数	備考
4月4日	感染症と感染対策	清水彰彦医師	19名	新入職・異動者
4月10日	小児の感染対策	石川看護師	19名	新入職・異動者
7月31日、8月1日	看護補助者研修	石川看護師	18名	看護助手
10月28日	ラダー別研修	石川看護師	12名	新人・異動者

6) 新型コロナウイルス関連

- (1) 新型コロナウイルスマニュアル修正
- (2) 新型コロナウイルス患者入院受け入れ対応
- (3) 診療材料・個人防護具等の備蓄物品管理
- (4) 職員濃厚接触者・陽性者対応

7) その他

- (1) 感染対策マニュアル改訂
- (2) アウトブレイク対応
- (3) 広報活動: ICT 日より 4 回発行
- (4) 病院局感染対策担当者会議出席
- (5) 外来患者インフルエンザワクチン接種調整
- (6) 職員抗体価検査結果管理・ワクチン接種対応
- (7) 外部施設への感染対策実施指導
- (8) 感染対策相談対応
- (9) 院外講師

開催日	主 催	内 容	担 当 者
6月28日 9月6日 11月22日	渋川地区医師会	高齢者施設等における感染対策 第一回: 高齢者施設等の感染対策 (総論) 第二回: 感染対策各論 第三回: 演習 (手指衛生・防護具着脱等)	石川看護師
8月31日	高崎健康福祉大学	流行性ウイルス感染症 疾患の理解と予防、暴露後の対応	清水彰彦医師
1月30日	渋川市育都推進部こども支援課	園児・職員を守るための感染対策～感染症拡大防止のヒント～	清水彰彦医師
11月19日	県立赤城養護学校小児センター校	現在流行中の感染症 嘔吐物処理について	石川看護師

(石川さやか)

研究研修編

1. 学会報告

◆小児内科

<循環器科>

- 1) 池田健太郎, 佐々木祐登, 稲田雅弘, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉, 内藤滋人. 焼灼により VT 波形の変化を認め治療に難渋した ILVT の小児例. 第 35 回両毛不整脈セミナー, Web 開催, 2024. 6. 15.
- 2) 池田健太郎, 佐々木祐登, 稲田雅弘, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉. 当院における経皮的心房中隔欠損症閉鎖術後頭痛の頻度とリスク因子. 第 60 回小児循環器学会学術集会, 福岡, 2024. 7. 11.
- 3) 浅見雄司, 稲田雅弘, 新井修平, 中島公子, 池田健太郎, 下山伸哉, 畑岡 努, 松永慶廉, 岡村 達. 大動脈離断症の二心室修復術前後の左室流出路狭窄と術式選択の考察. 第 60 回小児循環器学会総会・学術集会, 福岡, 2024. 7. 11.
- 4) 中島公子, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 下山伸哉, 畑岡 努, 松永慶廉, 岡村 達, 池田健太郎. Fontan 術後症例における Gd-EOB-DTPA を用いた肝臓造影 MRI 検査で観察される造影不良域の病理学的検討. 第 60 回小児循環器学会学術集会, 福岡, 2024. 7. 12.
- 5) 中島公子, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 下山伸哉, 畑岡 努, 松永慶廉, 岡村 達, 池田健太郎. 生後 3 か月で完全大血管転位症と診断され大動脈スイッチ術後に West 症候群を発症した男児例. 第 60 回小児循環器学会学術集会, 福岡, 2024. 7. 12.
- 6) 下山伸哉, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 池田健太郎, 岡 徳彦. ECMO 導入後に診断した共通肺静脈閉鎖の 1 例. 第 60 回日本小児循環器学会, 福岡, 2024. 7. 12.
- 7) 稲田雅弘, 佐々木祐登, 浅見雄司, 中島公子, 池田健太郎, 下山伸哉, 畑岡 努, 松永慶廉, 岡村 達. TGAⅢ型で Rastelli 手術後に早期に心室中隔欠損症の狭小化に伴う左室流出路狭窄が進行した 2 例. 第 60 回日本小児循環器学会学術集会, 福岡, 2024. 7. 12.
- 8) 佐々木祐登, 池田健太郎, 稲田雅弘, 浅見雄司, 中島公子, 橘木浩平, 下山伸哉. 小児における着用型自動除細動器の使用経験. 第 225 回日本小児科学会群馬地方会, 前橋, 2024. 7. 21.
- 9) 熊木裕之, 臼田由美子, 熊丸めぐみ, 下山伸哉. 当院 PICU において呼吸理学療法の介入状況. 日本小児呼吸器学会, 浦安, 2024. 9. 20.
- 10) 中島公子, 池田健太郎, 佐々木祐登, 稲田雅弘, 浅見雄司, 下山伸哉. 不適切洞性頻脈による頻拍誘発性心筋症にイバブラジンが有効であった男児例. 第 33 回日本小児心筋疾患学会, 第 43 回日本小児循環動態研究会合同学術集会, 倉敷, 2024. 10. 26.
- 11) 中島公子, 山下英治, 小坂橋紀通, 池田健太郎. 先天性心疾患の移行医療. 第 21 回日本循環器看護学会学術集会 (シンポジウム), 東京, 2024. 11. 9.
- 12) 佐々木祐登, 池田健太郎, 稲田雅弘, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉, 中村紘規, 内藤慈人, 中島 忠. TV-ICD 植込みを施行した SCN5A A735E 変異の 9 才男児例. 第 28 回日本小児心電学会学術集会, 津, 2024. 11. 30.
- 13) 池田健太郎, 佐々木祐登, 稲田雅弘, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉. air embolism の 1 例～GADELIUS の罨～. 第 11 回 informal JCIC 関東甲信越研究会, さいたま, 2024. 12. 8.
- 14) 中島公子, 小坂橋紀通. 単心室症術後女性に対するプレコンセプションケア循環器内科と小児科の共同診療を通じてー. 第 226 回日本小児科学会群馬地方会講話会, 前橋, 2024. 12. 8.
- 15) 中島公子, 畠山信逸, 平戸純子, 関 満, 佐々木祐登, 稲田雅弘, 浅見雄司, 下山伸哉, 池田健太郎. Fontan 関連肝臓病 (FALD) における Gd-EOB-DTPA を用いた造影 MRI 所見と病理組織像の比較. 第 26 回成人先天性心疾患学会学術集会, 大阪, 2025. 1. 10.

- 16) 池田健太郎, 佐々木祐登, 稲田雅弘, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉, 内藤滋人. 焼灼により VT 波形の変化を認め治療に難渋した ILVT の小児例. 第 35 回 JCIC 学術集会, 博多, 2025. 1. 23.
- 17) 浅見雄司, 田中健佑, 京谷琢治, 佐々木祐登, 稲田雅弘, 中島公子, 池田健太郎, 下山伸哉. 右房性三心房心との鑑別を要した発達した分界稜を胎児期に観察した一例. 日本胎児心臓病学会第 31 回学術集会, 福山, 2025. 2. 23.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 人口動態統計から推測した群馬県における施設外出生数の推移. 第 127 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2024. 4. 21.
- 2) 土橋里美, 小柳晴加, 宮川陽一, 鍋木浩太, 市之宮健二, 小泉亜矢, 丸山憲一. 腸瘻造設後肛門側腸管に壊死性腸炎を発症した長域型 Hirschsprung 病の 1 例. 第 127 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2024. 4. 21.
- 3) 鍋木浩太, 丸山憲一, 小泉亜矢, 市之宮健二, 宮川陽一, 小柳晴加, 畠山信逸. 出生直後に腹腔内臍静脈瘤内血栓を確認した重症新生児仮死の 1 例. 第 60 回日本小児放射線学会学術集会, 東京, 2024. 6. 22.
- 4) 清水佑基, 丸山憲一, 小泉亜矢, 市之宮健二, 鍋木浩太, 宮川陽一, 小柳晴加, 西 明, 篠原正樹. 先天性食道閉鎖症根治術後に留置された持続吸引用チューブが気管内に迷入した新生児の一例. 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 大阪, 2024. 7. 13.
- 5) 市之宮健二, 小柳晴加, 宮川陽一, 鍋木浩太, 小泉亜矢, 丸山憲一. 薬剤性胎児腎不全により肺低形成をきたした極低出生体重児例. 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 大阪, 2024. 7. 13.
- 6) 市之宮健二, 小柳晴加, 宮川陽一, 鍋木浩太, 小泉亜矢, 山口 有, 道和百合, 丸山憲一. 巨大水腎症に対し外科的治療を要した 13 トリソミー症候群. 第 225 回日本小児科学会群馬地方会, 前橋, 2024. 7. 21.
- 7) 丸山憲一, 小泉亜矢, 市之宮健二, 鍋木浩太, 宮川陽一, 小柳晴加. 当科に入院した計画外の施設外分娩出生例の検討. 第 30 回群馬県救急医療懇談会, 前橋, 2024. 9. 29.
- 8) 鍋木浩太, 丸山憲一, 小泉亜矢, 市之宮健二, 宮川陽一, 小柳晴加. 約 1 か月の間に経験した, 先天性胆道拡張症胎児診断例の 2 例. 第 40 回群馬周産期研究会, 前橋, 2024. 10. 12.
- 9) 丸山憲一, 小泉亜矢, 市之宮健二, 鍋木浩太, 宮川陽一, 小柳晴加. 当科に入院した計画外の施設外分娩出生例の検討. 第 68 回日本新生児育成医学会・学術集会, 松本, 2024. 11. 8.
- 10) 松野早紀, 小柳晴加, 宮川陽一, 鍋木浩太, 市之宮健二, 小泉亜矢, 丸山憲一, 山口 有, 京谷琢治, 小嶋重光, 西 明. 胎児期に十二指腸閉鎖先天性心疾患を指摘されていた VACTERL 連合の 1 例. 第 226 回日本小児科学会群馬地方会, 前橋, 2024. 12. 8.
- 11) 松原圭太郎, 小柳晴加, 宮川陽一, 鍋木浩太, 市之宮健二, 小泉亜矢, 丸山憲一, 山口岳史, 西明, 平戸純子. 胆道穿孔後の先天性胆道拡張症に対し早期に根治術を行った極低出生体重児. 第 227 回日本小児科学会群馬地方会, 桐生, 2025. 3. 9.

<アレルギー・リウマチ科>

- 1) 後藤海人, 房安直子, 糸永宇慧, 他. 4 歳までに発症したピーナッツアレルギー児の 11 歳までの予後. 第 73 回日本アレルギー学会学術大会 (MS19-4), 2024.
- 2) 徐アレキサンダー, 糸永宇慧, 他. 本邦における医療機関を受診した果物アレルギーの臨床像. 第

73 回日本アレルギー学会学術大会 (MS21-4), 2024.

- 3) Yanagida N, Chiyotanda M, Kimura H, Sato S, Takahashi K, Nagakura K, Ogura K, Itonaga T, Miura Y, Fusayasu N, Ebisawa M. Recombinant Gad c1 improves diagnostic efficacy of cod allergy. 第 73 回日本アレルギー学会学術大会 (EO6-2), 2024.
- 4) 石橋誠二郎, 河合 慧, 糸永宇慧, 他. 幼児期発症のクルミアレルギー児の 10 歳までの経過に関する臨床的検討. 第 38 回日本小児アレルギー学会 (O5-5), 2024.
- 5) 河合 慧, 石橋誠二郎, 糸永宇慧, 他. 6 歳までに発症したカシューナッツアレルギー児における 12 歳までの経過に関する検討. 第 38 回日本小児アレルギー学会 (O5-6), 2024.
- 6) 小倉聖剛, 竹井真理, 伊藤 悠, 糸永宇慧, 他. 牛乳アレルギーに対する経口負荷試験の実施時期と予後. 第 38 回日本小児アレルギー学会 (O11-3), 2024.
- 7) 清水真理子. 小児非食道好酸球性消化管疾患の欧米新基準での分類. アレルギー・好酸球研究会 2024 セッション 4-2, 2024.
- 8) 清水真理子. ダニ舌下免疫療法導入後の心窩部痛を呈した好酸球性食道炎の 1 例. 第 51 回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会 ポスター発表, 2024.

<感染症科>

- 1) Shimizu A, Shimizu M, Nomura S. Phenotypic and genetic characterization of carbapenem-resistant *Pseudomonas aeruginosa* strains isolated from a tertiary children's hospital in Japan. Annual Congress of European Society of Pediatric Infectious Diseases, Copenhagen (Denmark), 2024. 5. 22.
- 2) 清水彰彦. 院内アウトブレイクに関与したカルバペネム耐性緑膿菌 (CRPA) 24 株の解析. 第 98 回日本感染症学会学術総会, 神戸, 2024. 6. 27.
- 3) 清水彰彦. ピチピチの真鯖. 第 65 回 IDATEN インタラクティブカンファレンス, 大阪, 2024. 8. 12.
- 4) Shimizu A, Ishikawa S, Takahashi D. Changes in the use of broad-spectrum antimicrobials observed after the COVID-19 pandemic. 56th Annual Meeting of Japanese Society of Pediatric Infectious Diseases, Nagasaki, 2024. 11. 17.
- 5) 清水彰彦. 感染症と鑑別困難な病態や疾患 IDATEN 企画! ベトナムからのプレゼント. 第 56 回日本小児感染症学会学術集会 (シンポジウム), 長崎, 2024. 11. 17.

<遺伝科>

- 1) 上島可奈子, 渡辺栄一郎, 鍋木浩太, 丸山憲一, 山口 有. SOX10 遺伝子に病的バリエーションを認められた Waardenburg 症候群の 1 家系. 第 225 回日本小児科学会群馬地方会講和会, 群馬, 2024.7.21.
- 2) Yamaguchi Y, Fujimoto A. A case of Crouzon syndrome with acanthosis nigricans complicated by facial fibrous dysplasia. 日本人類遺伝学会第 69 回大会, 札幌, 2024.10.10.
- 3) 山口 有, 本島敏乃. 腎性低尿酸血症と MEN1 遺伝子欠失を認めた 11q13.1 微細欠失の 1 例. 第 47 回日本小児遺伝学会学術集会, 東京, 2025.2.28-3.1.

◆小児外科

<一般外科>

- 1) 篠原正樹, 横川英之, 山口岳史, 渡辺栄一郎, 高澤慎也, 西 明. 当院における小腸カプセル内視鏡施行症例の後方視的検討. 第 61 回日本小児外科学会学術集会, 福岡, 2024. 5. 29.
- 2) 横川英之, 篠原正樹, 山口岳史, 渡辺栄一郎, 西 明. 無瘻孔型鎖肛に対する endoscopically guided percutaneous anorectoplasty の検討. 第 61 回日本小児外科学会学術集会, 福岡, 2024. 5. 29.

- 3) 西 明, 渡邊栄一郎, 篠原正樹, 横川英之, 山口岳史. 当院で施行した GERD に対する胃食道離断術 5 例の検討. 第 61 回日本小児外科学会学術集会, 福岡, 2024. 5. 29.
- 4) 山口岳史, 渡邊栄一郎, 横川英之, 篠原正樹, 西 明. 腸回転異常症の再手術に関わる因子の検討. 第 61 回日本小児外科学会学術集会, 福岡, 2024. 5. 29.
- 5) 渡邊栄一郎, 斎藤 傑, 紺野 亮, 高澤慎也, 一瀬諒紀, 三宅和恵, 柿原 知, 石川将己, 石丸哲也, 西 明, 福田晃也, 笠原群生, 小原 收, 川島祐介, 藤代 準. 便プロテオーム解析を用いた胆道閉鎖症・葛西術後の肝病態に関する研究. 第 61 回日本小児外科学会学術集会, 福岡, 2024. 5. 29.
- 6) 渡邊栄一郎, 畠山信逸, 大川夏輝, 西 明, 山口岳史, 横川英之, 篠原正樹, 高澤慎也, 佐々木 保. Cine-MRI を用いた CIIP に対するシンバイオティクス投与効果の検証. 第 60 回日本小児放射線学会学術集会, 東京, 2024. 6. 21.
- 7) 小山亮太. 新生児卵巣嚢胞の予後予測因子としての胎児期嚢胞径の変化についての検討. 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 大阪, 2024. 7. 13.
- 8) 渡邊栄一郎, 西 明, 山口岳史, 篠原正樹, 小嶋重光, 高澤慎也. 絞扼性イレウス術後に発症した後天性下部食道狭窄の 1 幼児例. 第 58 回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2024. 9. 28.
- 9) 渡邊栄一郎. 協力的で理想的な社会人そして家庭人である外科医 (Academic Surgeon) について考える. 第 40 回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 東京, 2024. 10. 26.
- 10) 山口岳史, 西 明, 渡邊栄一郎, 篠原正樹, 小嶋重光. 左肺低形成を伴う先天性横隔膜ヘルニア術後の 3 歳女児の気道異物による右主気管支閉塞. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会, 宇都宮, 2024. 11. 21.
- 11) Shinohara M, Kojima S, Yamaguchi T, Watanabe E, Takazawa S, Nishi A, Ishikita E, Kaburagi T, Iijima M, Kawasaki H. 化学療法後の残存腫瘍に対して外科的摘出を行うも再発を来した小児虫垂原発悪性リンパ腫の 1 例 (A Childhood Case of Appendiceal Primary Malignant Lymphoma with Recurrence after Chemotherapy and Residual Tumor Removal). 第 66 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2024. 12. 13.
- 12) 小嶋重光, 黒川李奈, 成島聖子, 須田 亙, 高澤慎也, 西 明, 藤代 準, 渡邊栄一郎. 最新技術を用いた短腸症候群患児の腸内細菌叢解析. 第 54 回日本小児消化管機能研究会, 大阪, 2025. 2. 8.

<形成外科>

- 1) 山田有実, 佐々木淑恵, 浜島昭人, 牧口貴哉. 基部捻転により血流障害を生じた true human tail の一例. 第 67 回日本形成外科学会学術集会, 神戸, 2024. 4. 10.
- 2) 正田晃基, 佐々木淑恵, 浜島昭人. 局所皮弁を組み合わせて再建した耳介部色素性母斑の一例. 第 5 回群馬県形成外科研究会, 前橋, 2024. 6. 22.
- 3) 佐々木淑恵, 正田晃基, 浜島昭人. 下腿両骨骨折を伴う絞扼輪症候群の一例. 第 5 回群馬県形成外科研究会, 前橋, 2024. 6. 22.
- 4) 浜島昭人. シンポジウム 漏斗胸に対する Nuss 法手術 —当院における工夫—. 第 42 回昭和大学医学部形成外科学教室同門会学術集会, 東京, 2024. 9. 14.
- 5) 正田晃基, 佐々木淑恵, 浜島昭人. 二分肋骨を合併した漏斗胸に対する Nuss 法の経験. 第 23 回 Nuss 法漏斗胸手術手技研究会, 鹿児島, 2024. 10. 5.
- 6) 浜島昭人. シンポジウム キャリアの節目: 入局・専門医・管理職. 第 33 回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京, 2024. 10. 18.
- 7) 佐々木淑恵, 正田晃基, 中野 京, 古賀康史, 浜島昭人. 初めての耳介形成 ～遺残耳介を利用した耳垂形成～. 第 7 回日本耳介再建学会, 札幌, 2024. 11. 2.

- 8) 浜島昭人. 小児の救急—形成外科的な対応法—. 小児救急地域医師研修会, 渋川, 2025. 2. 14.
- 9) 中野 京, 正田晃基, 佐々木淑恵, 浜島昭人, 牧口貴哉. 髪の毛の編み込みによる頭部の創部のパーゼ固定方法. 第 30 回日本形成外科手術手技学会, 名古屋, 2025. 3. 1.

◆産 科

- 1) 木暮さやか, 京谷琢治, 上原理紗, 諏訪裕人. 異なる妊娠管理を行った胎児甲状腺腫の 3 例. 第 60 回日本周産期新生児医学会学術集会, 大阪, 2024. 7. 13.
- 2) 諏訪裕人, 京谷琢治, 上原理紗, 木暮さやか. 鼻背部腫瘤として発症した胎児筋線維腫の 1 例. 第 60 回日本周産期新生児医学会学術集会, 大阪, 2024. 7. 13.
- 3) 塚越真由, 木暮さやか, 諏訪裕人, 京谷琢治. 子宮卵管造影検査後に生じた胎児甲状腺腫の 2 例. 第 40 回群馬周産期研究会, 前橋, 2024. 10. 12.
- 4) 諏訪裕人, 塚越真由, 木暮さやか, 京谷琢治. 胎児水腫をきたした Noonan 症候群の 1 例. 第 31 回オープンカンファレンス, 渋川, 2025. 3. 8.
- 5) 塚越真由, 諏訪裕人, 木暮さやか, 京谷琢治. 胎児期に大量腹水と urinoma を認めた水腎症の 1 例. 第 31 回オープンカンファレンス, 渋川, 2025. 3. 8.

◆麻酔科

- 1) 坂本 崇, 松本直樹, 三森亮太. 大動脈縮窄症の修復術中に血管吻合部の狭窄を経食道エコーにて診断し、修復した一例. 日本心臓血管麻酔学会第 29 回学術大会, 広島, 2024. 9. 21.
- 2) 坂本 崇, 松本直樹, 三森亮太. 総肺静脈還流異常症の修復術中に上大静脈カニューレクション部の狭窄を診断し、修復を行った一例. 日本心臓血管麻酔学会第 29 回学術大会, 広島, 2024. 9. 22.

◆放射線科

- 1) 大植孝治, 桑島成子, 谷 千尋, 服部真也, 宮寄 治. WEB 画像登録システムを用いた小児腎腫瘍のコンサルテーション. 第 60 回日本小児放射線学会, 東京, 2024. 6. 22.

◆歯 科

- 1) 瀬下愛子, 木下 樹. 乳幼児期から介入をおこなった重症先天性好中球減少症児の 1 症例. 令和 6 年度群馬県小児保健会, 前橋, 2024. 9.7.
- 2) 大隅麻貴子, 柚木泰広, 佐藤璃奈, 瀬下愛子, 楠 幸代, 木下 樹. 脳性麻痺患者に生じた基底細胞母斑症候群が疑われる多発性菌原性角化嚢胞の 1 例. 第 41 回日本障害者歯科学会, 沖縄, 2024. 12.14.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 新井奈津子, 田原貴子, 神山晴美, 小川公代. 手術室にて発見された赤血球製剤の溶血事例. 第 73 回医学検査学会 in 金沢, 金沢, 2024. 5. 11-12.
- 2) 松井重憲, 酒井智子, 原田真葵, 神山晴美, 小川公代. ARCHITECT 1000i における TSH の自動 5 倍希釈測定値の評価. 第 73 回医学検査学会 in 金沢, 金沢, 2024. 5. 11-12.

◆放射線課

- 1) 清水宏史. 小児心臓カテーテル検査における患者下肢固定具の作成. 第 62 回全国自治体病院学会, 新潟, 2024. 11. 1.

◆リハビリテーション課

- 1) 熊木裕之, 臼田由美子, 熊丸めぐみ, 下山伸哉. 当院 PICU における理学療法士における呼吸理学療法. 第 56 回日本小児呼吸器学会, 千葉, 2024. 9. 20.
- 2) 臼田由美子, 浅野 香, 渡辺美緒. 在宅人工呼吸器症例におけるリハニーズと生活支援の連携. 第 49 回日本重症心身障害学会学術集会, 神戸, 2024. 11. 8.
- 3) 六本木温子, 小澤 恵, 河合健人, 十枝はるか, 吉岡和哉. 群馬県における母子保健領域への作業療法士の連携および活用について—各市町村へのアンケート調査から—. 第 56 回日本作業療法学会, 札幌, 2024. 11. 9.

◆栄養調理課

- 1) 中野由希子, 原田明菜, 島田純子. インスタグラムを用いた情報発信について～栄養調理課の取り組み～. 令和 6 年度群馬小児保健会研究集会, 前橋, 2024. 9. 7.
- 2) 中野由希子, 原田明菜, 島田純子. 小児専門病院における GLIM 基準を用いた栄養評価の取り組み. 第 42 回群馬栄養改善学会, 高崎, 2025. 2. 22.
- 3) 原田明菜, 中野由希子, 高尾 淳, 島田純子. 非常時における代替給食締結業者との合同訓練について. 第 42 回群馬栄養改善学会, 高崎, 2025. 2. 22.

◆臨床工学課

- 1) 下田隼人. 小児体外循環における血液凝固分析装置を使用した初回ヘパリン投与量の検討. 第 49 回日本体外循環技術医学学会大会, 北海道, 2024. 10. 13.
- 2) 高橋祐樹. 体外循環の教育について. 第 3 回群馬県体外循環研究会, 群馬, 2025. 1. 19.

◆薬 剤 部

- 1) 原田喜三恵. GCU 病棟における服薬指導—病棟看護師との連携—. 第 51 回日本小児臨床薬理学会学術集会, 東京, 2024. 11. 15.

◆看 護 部

- 1) 渡邊敦美. 小児専門病院に勤める看護師と助産師の連携への要望～母乳育児支援に焦点を当てて～. 第 65 回日本母性衛生学会総会・学術集会, シーガイアコンベンションセンター, 宮崎, 2024. 10. 18-19.
- 2) 田島伴美. 小児専門病院に勤める看護職者が行っている母乳育児支援の実践と解明. 第 65 回日本母性衛生学会総会・学術集会, シーガイアコンベンションセンター, 宮崎, 2024. 10. 18-19.
- 3) 金子友香. 慢性疾患をもつ子どもの療養に伴う父親の経験に関する研究. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本城ホール・熊本市市民会館シアーズホーム夢ホール, 熊本, 2024. 12. 7-8.
- 4) 石関梨華. 中高生がん患者の主体的な意思決定に向けた支援—多職種のインタビューから—. 第 39 回日本がん看護学会学術集会. グランドメルキュール札幌大通公園札幌市教育文化会館, 札幌, 2025. 2. 22-23.

2. 誌上発表

◆小児内科

<新生児科>

- 1) 小泉亜矢. 母子感染の最新知識 各論 細菌, 原虫, 真菌感染症 リステリア. 周産期医学. 54: 605-608, 2024.
- 2) 丸山憲一, 小泉亜矢, 市之宮健二, 鍋木浩太, 宮川陽一, 小柳晴加. 当科に入院した計画外の施設外分娩出生例の検討. 群馬県救急医療懇談会誌. 19: 22-24, 2025.
- 3) 丸山憲一. SGA 児の新生児合併症と管理 消化器系: 胎便関連性腸閉塞を中心に. 周産期医学. 59: 192-194, 2025.

<アレルギー・リウマチ科>

- 1) Itonaga T, Yanagida N, Nagakura K, Asaumi T, Tokunaga M, Nishino M, Takahashi K, Ogura K, Sato S, Ebisawa M. Three-year prognosis after low-dose oral food challenge for children with wheat allergy. *Allergology International* 73 (3): 416-421, 2024.
- 2) Yanagida N, Minoura T, Sato S, Takahashi K, Nagakura KI, Ogura K, Itonaga T, Miura Y, Fusayasu N, Ebisawa M. Timing of initial symptom onset during milk and wheat challenges: A retrospective study. *Immunity, Inflammation and Disease* 12 (2): e1174, 2024.
- 3) 清水真理子. 便粘液中好酸球検査に関する最近の知見. 小児内科 56 巻 (増刊号): 50-52, 2024.
- 4) 清水真理子, 糸永宇慧, 野村 滋 他. 日本小児アレルギー学会誌 38 巻 4 号掲載論文 (共著), 2024.

<感染症科>

- 1) 清水彰彦. 小児術後発熱のマネジメント. 小児感染免疫. 36 (2): 175-182, 2024.
- 2) 清水彰彦. 心血管 感染性心内膜炎. 小児科診療 87 (suppl-2): 144-148, 2024.
- 3) 清水彰彦. 小児臨床検査 2024 感染症検査 各感染症の検査 感染性心内膜炎を疑ったときに必要な検査. 小児内科 56 (増刊): 556-558, 2024.
- 4) 清水彰彦. ワクチン接種と全身麻酔を伴う手術はどのくらい間隔を空けるべきか? J-IDEO. 8 (4): 648, 2024.
- 5) 清水彰彦, 伊藤健太. 感染症カンファレンス実況中継 17 10 歳女児, 発熱・腹痛・呼吸困難 J-IDEO. 8 (6): 918-928, 2024.
- 6) 清水彰彦. 心臓手術後に二次的胸骨閉鎖を行う患者の周術期抗菌薬はいつまで何を投与するべきか? J-IDEO. 9 (1): 112, 2025.
- 7) Shimizu A, Shimoyama S, Ikeda K, Oka N. The Relationship Between the Positive Drain Tip Cultures and the Incidence of Surgical Site Infection After Pediatric Cardiovascular Surgery. *Pediatr Infect Dis J.* 2025 Jun 1; 44 (6): 522-525. Epub 2025 Jan 14.

<血液腫瘍科>

- 1) Yamato G, Tsumura Y, Muramatsu H, Shimada A, Imaizumi T, Tsukagoshi H, Kaburagi T, Shiba N, Yamada Y, Deguchi T, Kawai T, Terui K, Ito E, Watanabe K, Hayashi Y. Cytokine profiling in 128 patients with transient abnormal myelopoiesis: a report from the JPLSG TAM-10 trial. *Blood Adv.* 2024 Jun 25; 8 (12): 3120-3129.

<遺伝科>

- 1) Yamaguchi Y, Okuno H, Tokuoka S, Kita Y, Sanosaka T, Kohyama J, Kurosawa K, Sakai N, Miya F, Takahashi T, Kosaki K, Okano H. Accumulation of ether phospholipids in induced pluripotent stem

cells and oligodendrocyte-lineage cells established from patients with Sjögren-Larsson syndrome. Congenit Anom (Kyoto). 65: e12587, 2025.

◆小児外科

<一般外科>

- 1) 西 明, 渡辺栄一郎, 小嶋重光, 篠原正樹, 山口岳史, 平戸純子. 【Hirschsprung 病類縁疾患-診断・治療最前線-】Hypoganglionosis (腸管神経節細胞僅少症) 回盲部温存した回腸大量切除, 空腸-回腸 Santulli 吻合+虫垂瘻造設の治療経過, 小児外科. 56: 1212-1216, 2024.

◆放射線科

- 1) Enokizono M, Kurokawa R, Yagishita A, Nakata Y, Koyasu S, Nihira H, Kuwashima S, Aida N, Kono T, Mori H. Clinical and neuroimaging of monogenic cerebral small vessels from the prenatal to adolescent developmental stage. Japanese Journal of Radiology. 42: 109-125, 2024.
- 2) 桑島成子. 胎児 MRI. 画像診断. 44 (11): 142-151, 2024.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 浅見杏子, 奥村茉里, 諸岡 望, 丸山裕子, 神山晴美, 小川公代. 患者急変時を想定した救急カー・トシミュレーション研修の実施と改善に向けた取り組み. 群臨技会誌. 63: 25-28, 2024.
- 2) 新井菜津子, 田原貴子, 神山晴美, 小川公代. 血液製剤の安全な管理のための ATR705-RC05 の導入について. 群臨技会誌. 63: 21-24, 2024.

3. 単行本・その他

◆小児内科

<新生児科>

- 1) 小泉亜矢. 母子感染予防. 今日の治療指針 2025. 東京, 医学書院, 2025, p1400-1402.

<循環器科>

- 1) 中島公子. 特集 完全把握をめざす小児の心疾患 先天性心疾患 (各論) 三尖弁閉鎖症. 小児内科 56-4, 2024-4, p579-581.

<感染症科>

- 1) 清水彰彦. 61 ワクチン. 加藤元博, 石川洋一編, 新 小児薬用量 改定第 10 版. 東京, 診断と治療社, 2024, p590-613.

◆放射線科

- 1) 桑島成子. 胎児 MRI. 小児神経の画像診断 改訂第 2 版, 週順社, 2024, p137-145.
- 2) 桑島成子. MRI の基礎知識. 周産期の画像診断 第 3 版, 東京医学差, 2024, p30-34.

4. 班会議等報告書

- 1) 実施なし

5. 講演

◆小児内科

<アレルギー・リウマチ科>

- 1) 糸永宇慧. 長期コントロール指標 Recap of atopic eczema (RECAP) の日常診療への活用. 第 41 回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会 モーニングセミナー4, 2024.
- 2) 糸永宇慧. 長期コントロール指標 Recap of atopic eczema (RECAP) の日常診療への活用. 第 48 回日本小児皮膚科学会学術大会ランチョンセミナー1, 2024.

<感染症科>

- 1) 清水彰彦. カルバペネム耐性緑膿菌 (CRPA) を減らすために. 渋川地区感染対策講演会, 渋川, 2024. 8. 23.
- 2) 清水彰彦. 小児呼吸器感染症の考え方・ガイドラインの使い方. 第 72 回群馬県小児科医会総会, 高崎, 2024. 11. 2.
- 3) 清水彰彦. 知っておきたい予防接種. 宮城県立こども病院感染対策兼抗菌薬適正使用研修会, 仙台, 2025. 1. 24.
- 4) 清水彰彦. 園児・職員を守るための感染対策～感染症拡大防止のヒント～ 渋川地区幼稚園・保育所・認定こども園保健会講演会, 渋川, 2025. 1. 30.

<遺伝科>

- 1) 山口 有. 症例から学ぶ周産期遺伝医療～群馬県の課題と今後～. 群馬産婦人科周産期フォーラム, 群馬 (web), 2025. 3. 25.

◆産科

- 1) 京谷琢治. 産科診療における胎児心エコー. 第 31 回胎児心臓病学会学術集会ランチョンセミナー, 2025. 2. 23.
- 2) 諏訪裕人. 超音波による胎児診断. 群馬産婦人科超音波フォーラム, 2025. 3. 25.

◆放射線科

- 1) 桑島成子. 血友病性関節症—MRI による定期検査. 第 8 回群馬血友病連携セミナー, 前橋, 2024. 10. 24.
- 2) 桑島成子. 正常所見から読み解く胎児 MRI. 第 42 回群馬 MRI 医学研究, 前橋, 2024. 11. 14.
- 3) 桑島成子. 胎児 MRI. 第 28 回日本磁気共鳴学会, WEB 開催, 2024. 12. 14.

◆歯科

- 1) 木下 樹. 特別支援学校に通う子供たちの口腔機能の育成と管理. 令和 6 年度渋川特別支援学校医療的ケア研修会, 渋川, 2024. 8. 28.
- 2) 木下 樹. 障害児の病診連携. 令和 6 年度第一回障害児 (者) 歯科診療協力医研修会, 前橋, 2024. 11. 28.
- 3) 木下 樹. 知っておきたいお口の話. 令和 6 年度群馬県立小児医療センターダウン症児親の会 (あさがおの会), 渋川, 2024. 11. 29.
- 4) 木下 樹. 小児の発育を考慮した口腔機能の発達支援. 令和 6 年度桐生歯科医師会学術講演会, 桐生, 2025. 3. 1.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 丸山裕子. 学校心臓検診 2 次検診心エコーのポイント, 令和 6 年度学校心臓検診講習会, ハイブリッド開催 (前橋), 2024. 7. 25.

◆リハビリテーション課

- 1) 熊丸めぐみ. 小児先天性心疾患児に対するリハビリテーション. 第 59 回東北発達心臓病研究会, 仙台 (web), 2024. 11. 9.

◆臨床工学課

- 1) 下田隼人. ハイブリッド車を使った電力確保の実演/防災ミニ講話. 群馬県防災わくわく体験会, 医療的ケア児等支援センター「やっほ」, 2025. 3. 9.

6. 講習会・研修会

◆小児内科

<循環器科>

- 1) 池田健太郎, 学校心臓検診 2 次検診のポイント. 令和 5 年度学校心臓検診講習会, 前橋, 2024. 7. 25.
- 2) 下山伸哉. 急性期川崎病の管理. 第 10 回群馬小児循環器セミナー, 渋川, 2024. 8. 3.
- 3) 中島公子. 「心臓の解剖 overview」. 第 10 回群馬小児循環器セミナー, 渋川, 2024. 8. 3.
- 4) 池田健太郎. WPW 症候群 左側副伝導路. 第 17 回小児不整脈セミナー, 静岡, 2024. 9. 7.
- 5) 池田健太郎. AVRT と AVNRT~EPS・ABL 入門~ 専門医セミナー, 前橋, 2024. 10. 15.

<感染症科>

- 1) 清水彰彦. 日本小児感染症学会 第 3 回小児感染症ハイレベルセミナー, 東京, 2025. 2. 15.

◆産科

- 1) 京谷琢治. 胎児エコーファントムを使ったハンズオンセミナー レベル 1 「ファントムで始める胎児エコースクリーニング」講師. 第 31 回胎児心臓病学会学術集会, 2025. 2. 22.

◆放射線課

- 1) 大河原有希. 周産期におけるチーム医療. 県民健康科学大学 2024 年度保健医療チーム連携論 II (群馬県における周産期医療を支える保健医療チーム連携), 群馬県立小児医療センター, 2024. 7. 19.
- 2) 高木 崇. 医療連携実習・PACS による画像情報配信による情報連携. 県民健康科学大学 2024 年度保健医療チーム連携論 II (チーム医療における医療情報連携の仕組み), 群馬県立小児医療センター, 2024. 7. 22.
- 3) 清水宏史, 木村壮平. 医療コミュニケーションと医療連携の実際. 県民健康科学大学 2024 年度保健医療チーム連携論 II (チーム医療における医療情報連携の仕組み), 群馬県立小児医療センター, 2024. 7. 23.

◆リハビリテーション課

- 1) 六本木温子. 視点を変えて『できた』を増やす工夫. 特別支援学校機能強化事業研修会 (校内研

修), 前橋, 2024. 10. 2.

- 2) 六本木温子. 令和6年度第4回専門アドバイザー研修会. 特別支援学校機能強化事業研修会, 前橋, 2024. 11. 7.
- 3) 代 美穂. 装具・補装具の作成について. 各種医療機関ではたらきかけ. 群馬県理学療法士協会 R6 年度小児リハ部研修会, 前橋, 2025. 1. 19.
- 4) 熊丸めぐみ. 小児先天性心疾患患者の理学療法. 第13回日本循環器理学療法学会サテライトカンファレンス, web, 2025. 1. 23-24.

◆栄養調理課

- 1) 島田純子. 非常時の食事提供に関する取組～代替給食に係る合同訓練～. 給食関係者のための平常時から災害の備えをすすめるための研修会, 沼田, 2024. 10. 8.
- 2) 島田純子. 非常時における給食提供の取組～代替給食の合同訓練～. 令和6年度ミールネット渋川研修会, 渋川, 2024. 11. 20.

◆臨床工学課

- 1) 高橋祐樹. ME 機器の取り扱い. 令和6年度看護部新規採用者オリエンテーション, 群馬, 2024. 4. 10.
- 2) 下田隼人. 令和6年度学校における医療的ケア児等支援看護師養成研修. 群馬大学医学部附属病院, 2024. 8. 26, 8. 28, 12. 25.
- 3) 高橋祐樹. 第8回群馬県臨床工学技士会呼吸器セミナー. Web, 2025. 2. 8.

◆看護部

- 1) 大谷ゆう子. 日本小児ストーマ・排泄・創傷管理セミナー. おだわら市民交流センターUMECO, 小田原市, 2024. 6. 12-14.
- 2) 齊藤織恵 (16日のみ), 小林理恵. 消防学校救急科 新生児蘇生法 (Pコース) インストラクター. 群馬県消防学校, 前橋, 2024. 12. 16-17.

7. 学会長・座長・その他

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 椎原 隆, 森田孝次. 第81回日本小児神経学会関東地方会 (会長,事務局), Web 開催, ライブ配信 2024. 10. 20. オンデマンド配信 2024. 11. 1-30.

<循環器科>

- 1) 池田健太郎. 第28回日本小児心電学会学術集会 (座長), 要望演題1「ACHDに対するアブレーション」, 2024. 11. 29.
- 2) 池田健太郎. 第11回 informal JCIC 関東甲信越研究会 (座長), 「一般演題3」, さいたま, 2024. 12. 8.
- 3) 中島公子. 第26回成人先天性心疾患学会学術集会 (座長), 一般口演「フォンタン1 FALD」, 大阪. 2025. 1. 10.
- 4) 池田健太郎. 第35回 JCIC 学術集会 (座長), 一般演題7「BAS1」, 2025. 1. 24.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 一般演題 (口演)「消化管 (3)」, 大阪, 2024. 7. 14.
- 2) 小泉亜矢. 第 68 回日本新生児成育医学会・学術集会, 一般演題「感染 2」, 松本, 2024. 11. 9.

◆小児外科

<一般外科>

- 1) 西 明. 第 61 回日本小児外科学会学術集会 (座長), ポスター1-06「消化管」, 福岡, 2024. 5. 29.

<形成外科>

- 1) 浜島昭人. 第 5 回群馬県形成外科研究会 (座長), 「症例検討会」, 前橋, 2024. 6. 22.
- 2) 浜島昭人. 第 23 回 Nuss 法漏斗胸手術手技研究会 (座長), セッション 7 長期成績, 鹿児島, 2024. 10. 5.

◆放射線科

- 1) 桑島成子. 第 60 回日本小児放射線学会 (座長), シンポジウム 2「ここまで来た胎児画像診断と治療」, 東京, 2024. 6. 22.
- 2) 桑島成子, 樋口徹也. 第 462 回日本医学放射線学会関東地方会 (座長), 一般演題「小児、核医学」, 高崎, 2024. 12. 21.

◆リハビリテーション課

- 1) 臼田由美子. 第 56 回日本小児呼吸器学会学術集会 (座長), 一般演題 4「呼吸理学療法」, 千葉, 2024. 9. 20.

◆臨床工学課

- 1) 下田隼人. 第 8 回群馬県臨床工学技士会呼吸器セミナー (主催), Web, 2025. 2. 8.

◆看護部

- 1) 石坂泰子. 群馬県選手団本部役員 (救護担当), 第 23 回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」. SAGA サンライズパーク, 佐賀, 2024. 10. 24-29.
- 2) 大谷ゆう子. 一般演題 A【ストーマケア・業務改善】座長, 第 36 回群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会, 群馬県公社総合ビル, 前橋, 2025. 3. 15.

8. 学生講義

◆小児内科

<循環器科>

- 1) 下山伸哉. 群馬大学医学部小児科臨床講義 心疾患, 前橋, 2024. 8. 3.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 子どもの保健. 新島学園短期大学, 高崎, 2024. 4. 5, 12, 26, 5. 10, 17, 24, 6. 14, 28, 7. 5, 12, 19, 26, 8. 2, 7.
- 2) 丸山憲一. 健康障害と回復過程各論Ⅶ. 渋川看護専門学校, 渋川, 2024. 4. 10, 17, 24, 5. 1, 8, 15,

22, 29, 6. 5, 12.

- 丸山憲一. 新生児学, 周産期ハイリスク論Ⅱ. 高崎健康福祉大学大学院, 高崎, 2024. 4. 17, 24, 5. 1, 8, 15, 22, 29, 6. 5, 12, 19, 26, 7. 3, 10, 17, 24, 11.13, 20, 27, 12. 4.
- 丸山憲一, 小児・新生児. 群馬県消防学校, 前橋, 2024. 12. 16.

<アレルギー・リウマチ科>

- 野村 滋. 小児の救急. 群馬県消防学校, 前橋, 2024. 12.

<感染症科>

- 清水彰彦. 流行性ウイルス感染症疾患の理解と予防 曝露後の対応. 高崎健康福祉大学認定看護師教育課程講義, 高崎, 2024. 8. 21.

◆産 科

- 京谷琢治. 群馬大学チームワーク実習, 渋川, 2024. 6. 14.

◆放射線科

- 桑島成子. 小児画像診断. 獨協医科大学, 栃木, 2024. 11. 29.

◆歯 科

- 木下 樹. 老年看護学各論Ⅰ. 渋川看護専門学校看護学生講義, 渋川看護専門学校, 2024. 5. 21.
- 木下 樹. 人体の構造と機能Ⅳ. 渋川看護専門学校看護学生講義, 渋川看護専門学校, 2024. 5. 10, 5. 24.
- 木下 樹. 健康障害と回復過程各論Ⅱ. 渋川看護専門学校看護学生講義・実習, 渋川看護専門学校, 2024. 11. 1.
- 木下 樹. 障害児, 有病児の歯科保健, 群馬県高等歯科総合衛生士学院講義. 前橋市群馬県高等歯科衛生士学院, 2025. 2. 18.

◆リハビリテーション課

- 六本木温子. 発達過程作業療法治療学. 群馬医療福祉大学, 前橋, 2024. 6. 25, 7. 9.
- 六本木温子. 作業療法基礎実習Ⅰ・Ⅱ. 群馬パース大学, 高崎, 2024. 8. 7.
- 熊丸めぐみ. 呼吸・循環系理学療法学. 国立大学法人秋田大学, Web, 2024. 11. 18.
- 熊丸めぐみ. 重度発達障害理学療法学. 国立大学法人秋田大学, Web, 2024. 11. 18.

◆臨床工学課

- 深町直之, 下田隼人. 体外循環手術に伴う技術指導. 非常勤講師. 麻布大学 獣医学部, 神奈川, 2024. 4. 10, 2024. 5. 22, 2024. 6. 19, 2024. 7. 3, 2024. 7. 17, 2024. 8. 21, 2024. 9. 4, 2024. 10. 16, 2024. 11. 6, 2024. 11. 27, 2025. 1. 15, 2025. 2. 5.
- 深町直之. 生体機能代行装置学Ⅰ「人工心肺システムの構成」. 東京工科大学 医療保健学部 臨床工学科, 東京, 2024. 4. 8, 2024. 5. 24, 2024. 5. 31, 2024. 6. 7, 2024. 6. 14, 2024. 6. 21.
- 深町直之. 生体機能代行装置学Ⅱ「体外循環の実際と安全対策」. 東京工科大学 医療保健学部 臨床工学科, 東京, 2024. 6. 28, 2024. 7. 5, 2024. 7. 12, 2024. 7.19, 2024. 7. 26, 2024. 8. 2.
- 深町直之. 「循環代行技術学Ⅱ: PCPS, IABP」. 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新

潟, 2024. 6. 22.

- 5) 深町直之, 「生体機能代行装置実習Ⅰ」. 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2024. 6. 29, 2024. 7. 20.
- 6) 深町直之. 「生体機能代行装置実習Ⅱ」. 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2024. 7. 27, 2024. 8. 3.

◆看護部

- 1) 千明理恵. 母子と家族の心理社会学. パース大学, 高崎, 2024. 4. 15.
- 2) 大平典子. 小児看護とは. 渋川看護専門学校, 渋川, 2024. 4. 24, 5. 2.
- 3) 福田 円. 小児看護の魅力. 渋川看護専門学校, 渋川, 2024. 5. 10.
- 4) 青木秀佳. 小児看護学方法「病気・障害を持つ子どもと家族の看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2024. 5. 28.
- 5) 石関梨華. 健康障害の病期別の子どもと家族への看護—終末期にある子どもと家族への看護—. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2024. 5. 30.
- 6) 松田直美. 小児看護学方法「子どもにおける疾病の経過と看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2024. 6. 4.
- 7) 野田暁子. 小児看護学方法「子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2024. 6. 4.
- 8) 殿木裕美. 小児看護学方法子どものアセスメント「系統看護学講座 小児看護学概論小児臨床看護総論」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2024. 6. 11.
- 9) 小林理恵. 小児看護学方法「新生児の看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2024. 6. 25.
- 10) 飯田尚絵. 小児看護学方法「検査・処置を受ける子どもの看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2024. 7. 2, 7. 9.
- 11) 村上容子. 小児看護学各論Ⅰ「さまざまな状況にある子どもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2024. 7. 9, 7. 16.
- 12) 小林理恵. 小児看護学方法Ⅰ「新生児の看護」. 「染色体異常・胎児環境により発症する先天異常と看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2024. 7. 16.
- 13) 柴田夕貴子. 小児看護学各論Ⅰ「先天性疾患のある子どもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2024. 8. 30, 9. 6.
- 14) 齊藤織恵. 「ハイリスク 新生児のケア」. 高崎医師会看護専門学校, 高崎, 2024. 9. 6.
- 15) 佐藤直美. ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援. 高崎市医師会看護専門学校, 高崎, 2024. 9. 4, 9. 9.
- 16) 浅野 香. 小児看護各論Ⅰ「さまざまな状況にある子どもと家族の看護(慢性期・医療的ケア)」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2024. 9. 4, 9. 11, 9. 18.
- 17) 石関梨華. 「終末期の子どもと家族の看護」. 「小児がんの子どもとその家族の看護」. 「苦痛や疼痛のある子どもの看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2024. 9. 19, 9. 26, 10. 3.
- 18) 小池智美. 母性・父性看護学各論Ⅱ「周産期のハイリスク分娩」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2024. 11. 12, 11. 19, 11. 26.
- 19) 黒田佐織. 小児看護学各論Ⅱ「検査や処置を受ける子どもと家族への看護」, 「検査や処置に必要な看護技術」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2024. 11. 13, 11. 20, 11. 27.
- 20) 星山友絵. 母性・父性看護学各論Ⅱ「(周産期のハイリスク) 新生児 NICU」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2024. 11. 29.

- 21) 黒岩 徹. 小児看護学各論Ⅱ(小児看護技術: 検査処置・救急救命処置). 渋川看護専門学校, 渋川, 2024. 11. 25, 12. 2, 12. 9.
- 22) 木島久仁子, 富樫哲雄. 子どもの一次救命処置. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2025. 1. 15.

9. 定期的研究・抄読会・カンファレンス

<循環器科>

定期的研究

- ・単心室循環患者における Gd-EOB-DTPA (EOB・プリモビスト®) を用いた MRI 検査による非侵襲的肝臓病変評価法の検討

月曜日	8:00~8:30	PICU カンファレンス	
	12:00~	総合診療科カンファレンス	
	16:45~	産科病棟カンファレンス	
	17:00~17:30	PICU カンファレンス	
	17:00~	内科系合同カンファレンス	
	17:00~	新生児科カンファレンス	
	17:00~	小児外科合同カンファレンス	
	17:00~	第一病棟カンファレンス	
	17:30~	血液腫瘍科カンファレンス	
	18:00~	血液腫瘍科抄読会	
	18:00~19:00	循環器カンファレンス	
	18:00~	第一病棟・新生児科カンファレンス (適時)	
	火曜日	8:00~8:30	PICU カンファレンス
		13:30~	産科・新生児科合同カンファレンス 産科・新生児科合同カンファレンス終了後~ 産科・新生児科抄読会
15:00~16:00		麻酔科抄読会	
16:30~17:00		心臓カテーテルカンファレンス	
17:00~17:30		PICU カンファレンス	
水曜日		8:00~8:30	PICU カンファレンス
	16:00~16:30	出生前合同カンファレンス	
	17:00~17:30	PICU カンファレンス	
木曜日	8:00~8:30	PICU カンファレンス	
	10:30~12:00	全科症例検討会・総回診	
	12:00~	総合診療科カンファレンス	
	13:00~15:00	外科病棟症例カンファレンス	
	14:00~16:00	群大小児科教授回診 (第3木曜)	
	16:30~	出生前診断カンファレンス (適時)	
	16:45~	産科病棟カンファレンス	
	17:00~17:30	PICU カンファレンス	
金曜日	7:45~8:30	循環器科・心臓血管外科合同カンファレンス	
	8:00~8:30	PICU カンファレンス	

9:00～9:30	抄読会
12:30～	アレルギー・リウマチ科／感染症科勉強会
16:00～17:0	心臓外科症例カンファレンス
17:00～	産科・新生児科合同カンファレンス
17:00～17:30	第三病棟会
17:00～17:30	PICU カンファレンス

月一回 神経内科・遺伝科症例検討会

10. 小児医療センター講話会

1) 実施なし

11. クルズス (臨床講義)

1) 実施なし

12. CPC

1) 第 115 回 2024. 7. 3

No314 循環器科: 下山

11 カ月 女 (臨床診断: 無脾症, 単心室症, 血管奇形)

2) 第 116 回 2024. 9. 12

No315 循環器科: 池田

11 カ月 女 (臨床診断: 心肺停止)

3) 第 117 回 2025. 2. 6

No316 産科: 京谷

0 日 男 (臨床診断: 死産児)

4) 第 118 回 2025. 3. 21

No317 新生児科: 市之宮

1 日 女 (臨床診断: ヌーナン症候群疑い, 肺低形成)

13. その他

(1) 研究会・セミナー等

◆小児内科

<新生児科>

- 1) 令和 6 年度群馬県新生児蘇生法研修会 S コース (第 1 回), 2024.9.7.
- 2) 令和 6 年度群馬県新生児蘇生法研修会 A コース (第 2 回), 2024.9.7.
- 3) 第 6 回群馬県立小児医療センター新生児蘇生法 (NCPR) スキルアップ講習会 (S コース), 2024. 10. 10.
- 4) 第 24 回群馬県立小児医療センター新生児蘇生法講習会 (NCPR) (B コース), 2024. 10. 17.
- 5) 令和 6 年度群馬県新生児蘇生法研修会 S コース (第 2 回), 2024. 11. 23.
- 6) 令和 6 年度群馬県救急隊員向け新生児蘇生法研修会 (第 1 回), 2024. 11. 23.
- 7) 令和 6 年度群馬県消防学校救急科新生児蘇生法実習 (第 1 班), 2024. 12. 16.
- 8) 令和 6 年度群馬県消防学校救急科新生児蘇生法実習 (第 2 班), 2024. 12. 17.

- 9) 令和6年度群馬県新生児蘇生法研修会 Sコース (第3回), 2025. 1. 25.
- 10) 令和6年度群馬県新生児蘇生法研修会 Aコース (第3回), 2025. 1. 25.
- 11) 令和6年度群馬県新生児蘇生法研修会 Sコース (第4回), 2025. 2. 15.
- 12) 令和6年度群馬県救急隊員向け新生児蘇生法研修会 (第2回), 2025. 2. 15.

◆産科・新生児科

- 1) 第31回群馬県立小児医療センター総合周産期母子医療センターオープンカンファレンス, 2025. 3. 8.

14. 公的資金による研究

1 院内研究費による研究

(1) 自主研究事業

■推奨テーマ

No.	研 究 テ ー マ	氏 名
1	稀少遺伝性疾患の遺伝子診断支援	山 口 有
		椎 原 隆
		道 和 百 合
		森 田 孝 次
2	Non-IgE-GIFA、EoE/Non-EoE-EGID の病態解明のためのプロテオーム解析	清 水 真 理 子
		糸 永 宇 慧
		山 田 佳 之
		長 沼 純 子
		市 之 宮 健 二
		渡 辺 栄 一 郎
3	超稀少難治性疾患・Chronic Idiopathic Intestinal Pseudo-Obstruction (CIIP) に関する腸内細菌叢解析研究	西 明
		渡 辺 栄 一 郎

■一般テーマ

No.	研 究 テ ー マ	氏 名
1	整形撮影の再現性の確保と再撮影の防止	戸 塚 綾 美
2	アンモニア測定における適切なアラート設定の検討	田 原 貴 子
		太 田 未 唯 亜
3	胎内音を聞かせることができる物品を準備することで、児の不安を軽減し、良好な眠りを確保できるような環境を整える	田 中 絢 子
		篠 原 由 実 子
4	発達障害児の歯科診療や摂食指導における視覚的アプローチの応用	木 下 樹
		石 田 圭 吾
5	プリパレーション・ディストラクションの定着に向けた取り組み	石 関 梨 華
6	リラックスできる環境の整備 ースヌーズレンルームの実施と充実を図る	矢 島 美 季
7	食物アレルギー負荷試験における負荷食品の効率的な提供方法の検討	原 田 明 菜
		島 田 純 子
		中 野 由 希 子
8	栄養調理課の防災対策・感染対策	中 野 由 希 子
		島 田 純 子
		原 田 明 菜
9	NICUポータブル撮影におけるクベース周囲の散乱線分布の把握	下 田 寛 貴
10	子どもが安心できる、やさしい医療環境づくり	狩 野 美 紀
		後 藤 麗 美
11	当院PICUにおいての呼吸理学療法の介入状況	熊 木 裕 之

No.	研 究 テ ー マ	氏 名
12	移行期支援プログラムのシステム構築の検討	中島 公子
		黒田 佐織
		佐川 有子
		木島 久仁子
		熊丸 めぐみ
13	小児医療センター再整備マスタープランに伴う効率的な給食施設・設備の検討	島田 純子
		中野 由希子
		原田 明菜
14	COVID-19流行による群馬県内の母乳育児率の変化についての検討	丸山 憲一
15	PICUにおける急変時の対応への教育訓練	荒木 美樹
16	患者サービス向上、看護師の業務軽減につながる入院オリエンテーションの作成	野田 暁子
17	小児科領域のリハビリテーション職種の卒後OJT教育について	臼田 由美子
		千代 初音
		沖村 南美
		茂木 真那
18	血小板数目視の検討	高橋 裕子
		萩原 涼太
19	幼児聴力検査のニーズ把握と課題への取り組み	小野寺 奈央
		松下 郁江
		船井 南那
20	障害児の口腔ケアに関するコメディカルへ教育プログラムの検討	坂口 真弓
		木下 樹
21	PICUにおける看護実践能力の向上	山田 めぐみ
22	人工知能(Chat GPT-4)を用いた効果的な院内感染対策活動の実証	清水 彰彦
		石川 さやか
23	胸部撮影時における被検者骨盤部被ばく線量の測定	茂木 彰子
		笠間 結衣
24	病棟説明や医療的ケア指導のデジタル化	高橋 裕也
		青木 秀佳
		黒岩 徹
		木島 久仁子
25	死後MRI検査におけるFLAIR撮像条件の最適化	清水 宏史
26	当院における生殖腺防護を用いるX線撮影の再撮影率と防護の精度について	児玉 俊弥
27	回診用X線装置と透視装置の線量比較について	笠間 結衣
28	新生児を対象とした、ABO不適合のスクリーニング検査の有用性の検討	新井 菜津子
29	胎児診断症例の家族支援体制の整備	鈴木 清恵
30	小児医療センター看護部の看護研究支援体制の充実	金子 友香

No.	研 究 テ ー マ	氏 名
31	PICUの環境評価と今後の課題	下 山 伸 哉
		富 樫 哲 雄
		田 村 芳 子
		野 村 ち ひ ろ
32	PICUにおける効果的なリハビリテーションの実施	田 村 芳 子
33	スマイルの会 (13・18トリソミー症候群親の会) 継続的支援	浅 野 香
		山 口 有
		小 泉 亜 矢
34	外来における患者家族指導体制統一への試み	黒 田 佐 織
		松 本 直 子

2 院外研究費による研究

- 1) 石北悦子. NPO法人日本小児がん研究グループ, 2023年度おおまさり研究助成. 小児急性前骨髄球性白血病におけるゲノム統合解析と人工知能を利用したdrug screeningによる新規薬剤探索. 研究代表者: 石北悦子.
- 2) 渡辺栄一郎. (公財)川野小児医学奨学財団, 第35回 (令和6年度) 研究助成, 病理標本網羅的タンパク解析によるHirschsprung病ならびにHirschsprung病類縁疾患の新規診断バイオマーカー探索と病態解明及び新規治療法探索研究. 研究代表者: 渡辺栄一郎.
- 3) 丸山憲一. 日本学術振興会科学研究費助成事業. 基盤研究 (C) (一般), VRを用いた出生直後における新生児のアセスメント学習アプリの開発と有用性の検討. 研究代表者: 寺口顕子.
- 4) 小西健一郎. 日本学術振興会科学研究費助成事業. 若手研究, CLEIA法によるPGE-MUM測定を用いた壊死性腸炎の早期診断・病勢評価法確立. 研究代表者: 小西健一郎.
- 5) 小西健一郎. (公財) 武田科学振興財団. 医学系研究助成, 壊死性腸炎の早期診断・病勢評価法確立に向けて. 研究代表者: 小西健一郎.
- 6) 林 泰秀. 日本学術振興会科学研究費助成事業. 基盤研究 (C) (一般), 網羅的メチル化解析を中心とした小児急性骨髄性白血病の統合的解析とその臨床応用. 研究代表者: 林 泰秀, 研究分担者: 外松学. 河崎裕英.
- 7) 河崎裕英. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業, 小児がん経験者の生活習慣病の実態調査と病態解析, 予防対策. 研究代表者: 嶋田明, 研究参加者: 河崎裕英.

統計編

1 管理業務

(1) 会 計

①経営分析

区 分			単位	令和6年度	5年度			
病 床 利 用 率			%	66.2	68.6			
患 者 数	1 日 平 均 患 者 数	入 院	人	99.0	103.0			
		外 来	人	179.0	174.0			
	外 来 入 院 比 率		%	119.9	112.6			
	職 員 1 人 1 日 当 り 患 者 数	医 師	入 院	人	2.3	2.5		
			外 来	人	4.2	4.2		
		看 護 師	入 院	人	0.5	0.5		
外 来			人	0.8	0.8			
収 入	患 者 1 人 当 り 診 療 収 入	入 院 診 療 収 入		円	87,282	84,908		
		う ち	薬 品 収 入	円	3,493	3,344		
			検 査 収 入	円	792	839		
			放 射 線 収 入	円	96	127		
		外 来 診 療 収 入		円	18,779	17,257		
		う ち	薬 品 収 入	円	5,663	4,201		
			検 査 収 入	円	3,166	3,244		
			放 射 線 収 入	円	857	904		
		費 用	患 者 1 人 当 り 材 料 費	材 料 費		円	12,506	11,907
				う ち	薬 品 費	円	7,048	6,255
診 療 材 料 費	円				5,151	5,342		
診 療 収 入 に 対 する 割 合	投 薬 ・ 注 射 収 入		%	9.4	7.7			
	検 査 収 入		%	4.2	4.3			
	放 射 線 収 入		%	1.0	1.1			
対 医 業 収 益 比	医 療 材 料 費	薬 品 費		%	13.5	12.2		
		そ の 他 の 医 療 材 料 費		%	13.5	12.3		
		計		%	23.3	22.7		
	職 員 給 与 費		%	95.2	88.7			
検 査 の 状 況	患 者 100 人 当 り	検 査 件 数		件	489	482		
		放 射 線 件 数		件	39	37		
	検 査 技 師 1 人 当 り	検 査 件 数		件	29,958	32,177		
		検 査 収 入		千円	12,785	14,094		
	放 射 線 技 師 1 人 当 り	放 射 線 件 数		件	4,411	3,736		
		放 射 線 収 入		千円	5,811	5,390		

4年度	3年度	2年度	元年度	平成30年度	29年度
63.3	73.4	72.0	71.9	76.2	70.9
95.0	110.2	108.0	107.8	114.2	106.3
179.0	183.9	181.3	198.5	197.7	189.9
124.9	110.7	111.8	120.7	115.7	119.4
2.2	2.4	2.3	2.3	2.6	2.6
4.1	4.0	3.9	4.3	4.5	4.6
0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
0.8	0.8	0.8	0.9	0.9	0.9
88,802	84,236	84,094	86,660	85,762	84,584
4,475	4,769	4,319	4,895	6,197	3,366
1,275	1,196	848	950	729	736
141	116	151	151	130	141
18,635	18,326	18,792	17,285	16,019	16,557
5,689	4,780	4,582	4,587	3,746	4,648
3,274	3,351	2,955	2,748	2,702	2,706
893	889	931	932	911	973
13,618	12,982	13,276	12,984	12,538	12,815
8,221	7,494	7,750	7,680	7,391	7,365
5,070	5,185	5,200	5,004	4,855	5,113
10.3	9.6	9.0	9.7	10.1	8.5
4.8	4.7	3.9	4.0	3.7	3.8
1.1	1.1	1.1	1.2	1.1	1.2
15.8	14.4	15.0	15.3	14.8	15.0
15.9	14.4	10.1	10.0	9.8	10.5
25.6	24.4	25.2	25.3	24.7	25.5
88.9	80.4	84.6	81.5	77.2	81.4
484	522	506	527	522	552
40	39	40	40	40	42
31,456	40,160	35,193	41,763	46,990	42,742
15,503	17,926	13,636	15,307	16,071	13,992
5,134	5,470	5,604	5,998	5,998	5,896
7,257	7,370	7,824	8,393	8,226	8,428

②収益的收入及び支出

科目	年度	令和 6年度		5 年 度		4 年 度	
		決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
病 院 事 業 収 益		6,563,019	100.0	6,391,182	100.0	6,712,871	100.0
医 業 収 益		4,166,381	63.5	4,100,500	64.2	4,059,375	60.5
入 院 収 益		3,161,629	48.2	3,198,145	50.0	3,079,389	45.9
外 来 収 益		815,610	12.4	731,665	11.4	807,022	12.0
そ の 他 医 業 収 益		189,143	2.9	170,690	2.7	172,964	2.6
医 業 外 収 益		2,396,636	36.5	2,290,638	35.8	2,653,496	39.5
受 取 利 息 配 当 金		708	0.0	21	0.0	24	0.0
補 助 金		48,969	0.7	296,700	4.6	461,858	6.9
負 担 金 ・ 交 付 金		1,944,778	29.6	1,625,387	25.4	1,687,068	25.1
長 期 前 受 金 戻 入		258,823	3.9	279,530	4.4	292,853	4.4
そ の 他 医 業 外 収 益		143,357	2.2	89,000	1.4	211,693	3.2
特 別 利 益		2	0.0	44	0.0	0	0.0
病 院 事 業 費 用		7,031,770	100.0	6,568,770	100.0	6,706,365	100.0
医 業 費 用		6,943,357	98.7	6,462,082	98.4	6,544,947	97.6
給 与 費		3,965,920	56.4	3,635,541	55.3	3,610,442	53.8
材 料 費		996,187	14.2	953,322	14.5	1,061,989	15.8
経 費		1,455,723	20.7	1,323,367	20.1	1,309,556	19.5
減 価 償 却 費		475,912	6.8	487,470	7.4	526,406	7.8
資 産 減 耗 費		6,313	0.1	21,255	0.3	4,953	0.1
研 究 研 修 費		43,303	0.6	41,127	0.6	31,600	0.5
医 業 外 費 用		88,376	1.3	106,688	1.6	116,701	1.7
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費		8,687	0.1	6,675	0.1	5,928	0.1
母 子 保 健 指 導 費		15	0.0	174	0.0	242	0.0
雑 損 失		79,674	1.1	99,839	1.5	110,531	1.6
特 別 損 失		37	0.0	0	0.0	44,717	0.7
収 支 差		▲ 468,751		▲ 177,588		6,506	

(単位：千円・%)

3 年 度		2 年 度		元 年 度		平成 30 年度		29 年 度	
決算額	構成比								
6,669,940	100.0	6,381,193	100.0	6,319,790	100.0	6,402,746	100.0	5,961,445	100.0
4,401,491	66.0	4,308,666	67.5	4,383,884	69.4	4,482,505	70.0	4,182,516	70.2
3,386,956	50.8	3,315,995	52.0	3,420,381	54.1	3,576,199	55.9	3,281,682	55.0
815,383	12.2	828,131	13.0	823,283	13.0	772,753	12.1	767,134	12.9
199,152	3.0	164,540	2.6	140,220	2.2	133,553	2.1	133,700	2.2
2,268,449	34.0	2,015,516	31.6	1,920,837	30.4	1,920,241	30.0	1,778,930	29.8
23	0.0	47	0.0	108	0.0	99	0.0	100	0.0
192,073	2.9	116,443	1.8	18,508	0.3	19,650	0.3	19,486	0.3
1,605,499	24.1	1,484,109	23.3	1,471,043	23.3	1,460,339	22.8	1,331,884	22.3
290,467	4.4	290,441	4.6	275,018	4.4	251,611	3.9	256,644	4.3
180,387	2.7	124,476	2.0	156,160	2.5	188,541	2.9	170,815	2.9
0	0.0	57,011	0.9	15,069	0.2	0	0.0	0	0.0
6,546,815	100.0	6,591,783	100.0	6,509,005	100.0	6,342,390	100.0	6,132,370	100.0
6,434,519	98.3	6,443,706	97.8	6,384,197	98.1	6,208,675	97.9	6,024,962	98.2
3,538,301	54.0	3,643,097	55.3	3,573,702	54.9	3,462,612	54.6	3,404,643	55.5
1,099,585	16.8	1,108,538	16.8	1,130,922	17.4	1,127,676	17.8	1,090,952	17.8
1,238,977	18.9	1,130,995	17.2	1,138,901	17.5	1,125,771	17.7	1,031,407	16.8
520,697	8.0	534,469	8.1	490,824	7.5	445,725	7.0	453,151	7.4
11,588	0.2	2,008	0.0	12,413	0.2	11,320	0.2	5,113	0.1
25,371	0.4	24,598	0.4	37,437	0.6	35,572	0.6	39,695	0.6
112,296	1.7	90,752	1.4	108,471	1.7	103,383	1.6	107,408	1.8
6,023	0.1	6,844	0.1	10,022	0.2	13,849	0.2	15,155	0.2
360	0.0	160	0.0	403	0.0	193	0.0	201	0.0
105,913	1.6	83,748	1.3	98,045	1.5	89,341	1.4	92,053	1.5
0	0.0	57,325	0.9	16,337	0.3	30,332	0.5	0	0.0
123,125		▲ 210,590		▲ 189,215		60,356		▲ 170,925	

③月別医業収益内訳

区分		月別						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
入院収益	入院料	116,962,143	202,933,396	200,355,714	169,710,113	167,350,355	172,352,644	152,518,898
	給食料	3,007,976	4,580,730	5,070,396	4,471,684	4,098,817	3,946,289	3,884,501
	投薬	1,232,810	3,020,660	1,121,400	1,430,648	2,037,240	403,458	952,104
	注射	7,796,640	9,763,640	10,456,906	9,955,693	10,592,953	8,532,261	9,701,505
	処置及び手術	57,182,530	56,289,000	60,593,490	58,220,597	51,011,836	45,418,623	76,821,938
	検査	1,889,320	3,319,880	3,050,156	3,590,898	2,792,539	1,168,902	1,548,566
	X線	204,660	561,720	423,050	346,452	209,854	103,326	305,239
	その他	8,505,550	7,394,070	6,943,378	12,649,875	11,233,564	9,377,724	11,281,154
	計	196,781,629	287,863,096	288,014,490	260,375,960	249,327,158	241,303,227	257,013,905
外来収益	初診料	1,476,860	1,540,080	1,444,833	1,554,559	1,623,025	1,468,675	1,507,537
	再診料	3,679,950	3,642,930	3,688,269	4,280,410	4,338,745	3,927,002	4,023,848
	投薬	48,620	64,290	41,286	43,570	47,730	33,649	50,360
	注射	12,817,830	25,906,280	17,838,641	18,813,183	24,791,436	27,100,976	19,638,252
	処置及び手術	4,292,220	4,896,870	5,399,570	5,568,114	4,507,837	5,587,617	5,409,011
	検査	10,908,780	10,842,530	10,726,359	13,413,931	14,061,962	11,575,493	11,336,054
	X線	2,749,440	2,633,030	2,584,730	3,508,050	3,941,228	3,453,777	3,143,071
	その他	23,232,338	21,878,864	24,222,829	20,118,855	20,833,131	23,823,874	21,037,214
	計	59,206,038	71,404,874	65,946,517	67,300,672	74,145,094	76,971,063	66,145,347
その他	15,310,086	29,754,254	13,736,438	16,702,089	12,599,494	13,030,859	10,923,437	
合計	271,297,753	389,022,224	367,697,445	344,378,721	336,071,746	331,305,149	334,082,689	

(単位：円・%)

11月	12月	1月	2月	3月	令和6年度計	5年度計	対前年比
198,920,939	194,991,120	187,123,178	190,513,750	220,895,677	2,174,627,927	2,303,520,290	94.4
4,255,716	4,391,696	4,118,921	3,922,526	4,753,230	50,502,482	51,445,617	98.2
677,719	1,183,354	1,255,917	692,692	710,949	14,718,951	11,349,957	129.7
9,498,127	8,761,215	8,602,611	9,034,028	9,113,539	111,809,118	114,590,607	97.6
54,665,084	57,393,226	49,113,184	38,185,396	48,910,353	653,805,257	593,907,559	110.1
2,136,942	2,545,854	1,835,672	1,892,251	2,910,005	28,680,985	31,590,881	90.8
400,366	217,484	142,046	322,925	225,025	3,462,147	4,792,884	72.2
10,445,199	11,931,649	12,121,783	10,072,168	12,065,524	124,021,638	86,947,533	142.6
281,000,092	281,415,598	264,313,312	254,635,736	299,584,302	3,161,628,505	3,198,145,328	98.9
1,215,687	1,417,897	1,356,082	1,274,625	1,463,873	17,343,733	17,453,486	99.4
3,637,490	4,607,994	3,917,380	3,478,368	4,383,561	47,605,947	45,307,880	105.1
26,908	189,476	74,748	-29,795	35,880	626,722	714,259	87.7
6,552,439	12,881,633	9,729,456	21,700,485	47,576,917	245,347,528	177,412,736	138.3
4,526,579	5,717,120	6,005,070	5,279,934	7,312,378	64,502,320	53,968,079	119.5
10,378,157	11,297,188	11,265,447	9,125,763	12,586,940	137,518,604	137,540,255	100.0
2,559,197	3,206,981	2,964,508	2,806,750	3,665,527	37,216,289	38,329,273	97.1
25,792,343	19,302,213	22,220,014	18,128,077	24,859,003	265,448,755	260,939,514	101.7
54,688,800	58,620,502	57,532,705	61,764,207	101,884,079	815,609,898	731,665,482	111.5
13,464,166	▲ 2,115,194	13,640,450	10,834,872	41,262,053	189,143,004	170,689,588	110.8
349,153,058	337,920,906	335,486,467	327,234,815	442,730,434	4,166,381,407	4,100,500,398	101.6

2 診療業務

(1) 総括表

区 分			令和6年度	5年度	4年度	
外 来	診療日数	A	243日	243日	243日	
	新患者数	B	3,144人	3,144人	3,319人	
	延患者数	C	43,433人	42,397人	43,307人	
	平均通院日数	D	C/B	13.8日	13.5日	13.0日
	日平均新患者数	E	B/A	12.9人	12.9人	13.7人
	日平均患者数	F	C/A	178.7人	174.5人	178.2人
入 院	診療日数	G	365日	366日	365日	
	病床数	H	150床	150床	150床	
	新入院患者数	I	3,479人	3,130人	3,200人	
	退院患者数	J	3,464人	3,139人	3,193人	
	延入院患者数	K	36,223人	37,666人	34,677人	
	病床利用率	L	$K/G/H*100$	66.2%	68.6%	63.3%
	病床回転率	M	$\{(I+J)*1/2\}/H/L$	35.0回	30.5回	33.6回
	平均在院日数	N	$K/\{(I+J)/2\}$	10.4日	12.0日	10.8日
	外来入院比率	O	$C/K*100$	119.9%	112.6%	124.9%
	入院率	P	$I/B*100$	110.7%	99.6%	96.4%
	日平均新入院数	Q	I/G	9.5人	8.6人	8.8人
日平均患者数	R	K/G	99.2人	102.9人	95.0人	

3 年度	2 年度	元 年度	平成30年度	29 年度	28 年度
242 日	243 日	240 日	244 日	244 日	243 日
3,286 人	2,909 人	3,301 人	3,284 人	3,007 人	3,141 人
44,493 人	44,068 人	47,630 人	48,239 人	46,334 人	46,340 人
13.5 日	15.1 日	14.4 日	14.7 日	15.4 日	14.8 日
13.6 人	12.0 人	13.8 人	13.5 人	12.3 人	12.9 人
183.9 人	181.3 人	198.5 人	197.7 人	189.9 人	190.7 人
365 日	365 日	366 日	365 日	365 日	365 日
150 床					
3,214 人	3,096 人	3,294 人	3,311 人	3,021 人	3,026 人
3,225 人	3,088 人	3,307 人	3,297 人	3,033 人	3,025 人
40,208 人	39,432 人	39,469 人	41,699 人	38,798 人	39,098 人
73.4 %	72.0 %	71.9 %	76.2 %	70.9 %	71.4 %
29.2 回	28.6 回	30.6 回	28.9 回	28.5 回	28.2 回
12.5 日	12.8 日	12.0 日	12.6 日	12.8 日	12.9 日
110.7 %	111.8 %	120.7 %	115.7 %	119.4 %	118.5 %
97.8 %	106.4 %	99.8 %	100.8 %	100.5 %	96.3 %
8.8 人	8.5 人	9.0 人	9.1 人	8.3 人	8.3 人
110.2 人	108.0 人	107.8 人	114.2 人	106.3 人	107.1 人

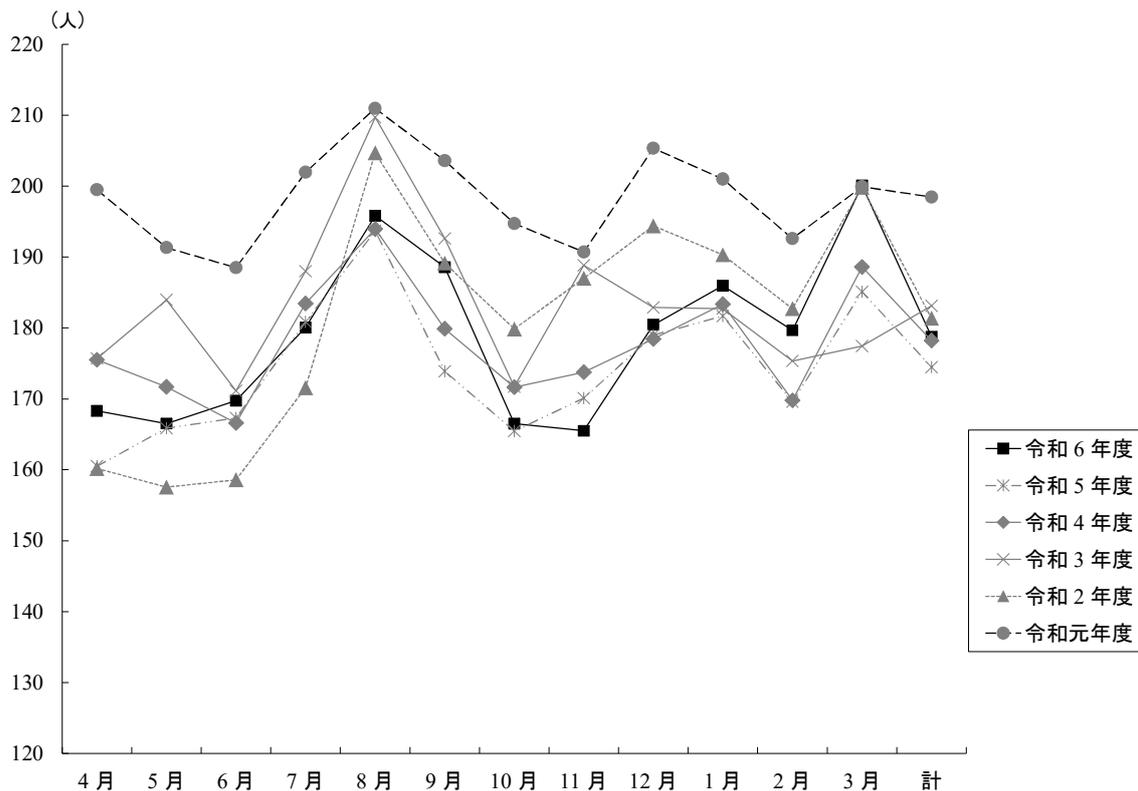
(2) 月別・科別外来患者受診の状況(人)

区分		月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
一般内科	初診		34	49	43	58	50	47	31
	再診		140	153	133	151	172	148	149
	延数		174	202	176	209	222	195	180
内分泌代謝科	初診		0	0	2	0	4	0	0
	再診		19	37	31	33	47	36	22
	延数		19	37	33	33	51	36	22
腎臓内科	初診		2	4	4	1	1	0	0
	再診		32	26	40	48	51	31	31
	延数		34	30	44	49	52	31	31
アレルギー・ リウマチ科/ 感染症科	初診		5	3	3	1	6	2	6
	再診		202	224	216	208	215	190	293
	延数		207	227	219	209	221	192	299
血液腫瘍科	初診		2	3	4	2	1	1	1
	再診		74	61	62	77	96	61	57
	延数		76	64	66	79	97	62	58
リハビリ	初診		0	0	0	0	0	0	0
	再診		346	394	378	427	409	416	420
	延数		346	394	378	427	409	416	420
小児精神科	初診		2	1	0	0	1	1	0
	再診		81	76	79	93	86	84	80
	延数		83	77	79	93	87	85	80
遺伝科	初診		3	1	3	2	3	3	1
	再診		72	62	80	106	129	95	93
	延数		75	63	83	108	132	98	94
眼科	初診		0	0	0	0	0	0	0
	再診		5	3	13	5	15	8	12
	延数		5	3	13	5	15	8	12
耳鼻咽喉科	初診		0	0	0	0	0	0	1
	再診		21	20	15	27	17	16	13
	延数		21	20	15	27	17	16	14
循環器科	初診		15	26	21	18	23	31	24
	再診		373	320	312	418	437	427	412
	延数		388	346	333	436	460	458	436
神経内科	初診		4	2	8	10	6	4	9
	再診		226	187	180	208	213	181	178
	延数		230	189	188	218	219	185	187
一般外科	初診		36	25	24	35	30	27	26
	再診		317	292	330	385	412	306	330
	延数		353	317	354	420	442	333	356
形成外科	初診		37	29	39	42	48	43	39
	再診		301	331	358	365	362	377	311
	延数		338	360	397	407	410	420	350
整形外科	初診		16	12	12	22	17	10	12
	再診		262	170	147	220	266	198	194
	延数		278	182	159	242	283	208	206
脳神経外科	初診		0	0	0	0	0	0	0
	再診		1	1	0	4	2	0	2
	延数		1	1	0	4	2	0	2
新生児科	初診		30	31	27	33	29	25	21
	再診		225	228	200	251	284	225	231
	延数		255	259	227	284	313	250	252
産科	初診		43	44	34	45	41	32	44
	再診		271	334	274	296	249	224	267
	延数		314	378	308	341	290	256	311
歯科	初診		35	27	36	22	36	35	35
	再診		302	321	287	348	354	299	318
	延数		337	348	323	370	390	334	353
合計	初診		264	257	260	291	296	261	250
	再診		3,270	3,240	3,135	3,670	3,816	3,322	3,413
	延数		3,534	3,497	3,395	3,961	4,112	3,583	3,663
診療実日数			21	21	20	22	21	19	22
日平均患者数			168.3	166.5	169.8	180.0	195.8	188.6	166.5

(単位：人・%)

11月	12月	1月	2月	3月	令和6年度計	5年度計	対前年比
44	48	55	38	48	545	609	89.5
127	163	154	150	165	1,805	2,032	88.8
171	211	209	188	213	2,350	2,641	89.0
0	0	0	0	0	6	0	-
18	23	20	21	30	337	313	107.7
18	23	20	21	30	343	313	109.6
0	1	0	0	0	13	11	118.2
32	70	23	30	34	448	439	102.1
32	71	23	30	34	461	450	102.4
5	7	5	4	9	56	44	127.3
233	265	227	255	275	2,803	2,438	115.0
238	272	232	259	284	2,859	2,482	115.2
3	2	1	1	1	22	21	104.8
52	81	71	59	89	840	838	100.2
55	83	72	60	90	862	859	100.3
0	0	0	0	0	0	0	-
375	377	398	383	396	4,719	4,466	105.7
375	377	398	383	396	4,719	4,466	105.7
2	1	1	1	0	10	7	-
84	77	87	54	84	965	824	117.1
86	78	88	55	84	975	831	117.3
8	6	4	1	1	36	29	124.1
85	107	85	75	140	1,129	1,019	110.8
93	113	89	76	141	1,165	1,048	111.2
0	0	0	0	0	0	0	-
3	12	1	10	5	92	67	137.3
3	12	1	10	5	92	67	137.3
0	0	0	0	0	1	1	-
12	19	21	24	22	227	181	125.4
12	19	21	24	22	228	182	125.3
24	11	22	10	25	250	272	91.9
386	384	381	305	433	4,588	4,643	98.8
410	395	403	315	458	4,838	4,915	98.4
2	6	3	9	8	71	87	81.6
184	190	208	169	203	2,327	2,597	89.6
186	196	211	178	211	2,398	2,684	89.3
30	34	29	21	26	343	354	96.9
296	327	302	285	370	3,952	3,880	101.9
326	361	331	306	396	4,295	4,234	101.4
27	40	37	38	42	461	466	98.9
282	348	354	323	420	4,132	3,824	108.1
309	388	391	361	462	4,593	4,290	107.1
8	10	6	15	11	151	132	114.4
176	158	184	155	229	2,359	2,458	96.0
184	168	190	170	240	2,510	2,590	96.9
0	0	0	0	0	0	0	-
1	1	2	0	0	14	20	70.0
1	1	2	0	0	14	20	70.0
27	28	17	25	19	312	291	107.2
199	208	220	207	276	2,754	2,624	105.0
226	236	237	232	295	3,066	2,915	105.2
48	42	45	38	50	506	490	103.3
240	257	249	243	260	3,164	2,984	106.0
288	299	294	281	310	3,670	3,474	105.6
21	29	38	24	23	361	330	109.4
276	277	283	261	308	3,634	3,606	100.8
297	306	321	285	331	3,995	3,936	101.5
249	265	263	225	263	3,144	3,144	100.0
3,061	3,344	3,270	3,009	3,739	40,289	39,253	102.6
3,310	3,609	3,533	3,234	4,002	43,433	42,397	102.4
20	20	19	18	20	243	243	100.0
165.5	180.5	185.9	179.7	200.1	178.7	174.5	102.4

◆1日平均外来患者の状況



(単位：人)

月 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和6年度	168.3	166.5	169.8	180.0	195.8	188.6	166.5	165.5	180.5	185.9	179.7	200.1	178.7
5年度	160.5	165.9	167.3	180.9	193.7	173.9	165.5	170.1	179.0	181.7	169.6	185.1	174.5
4年度	175.5	171.7	166.6	183.5	194.0	179.9	171.7	173.8	178.5	183.4	169.8	188.6	178.2
3年度	175.7	183.9	171.1	188.0	209.7	192.6	171.7	188.8	182.9	182.7	175.3	177.4	183.1
2年度	160.2	157.6	158.6	171.6	204.7	189.2	179.9	187.0	194.4	190.3	182.7	199.8	181.3
元年度	199.5	191.3	188.5	202.0	211.0	203.6	194.7	190.7	205.4	201.0	192.6	199.9	198.5

(3) 月別入退院患者数

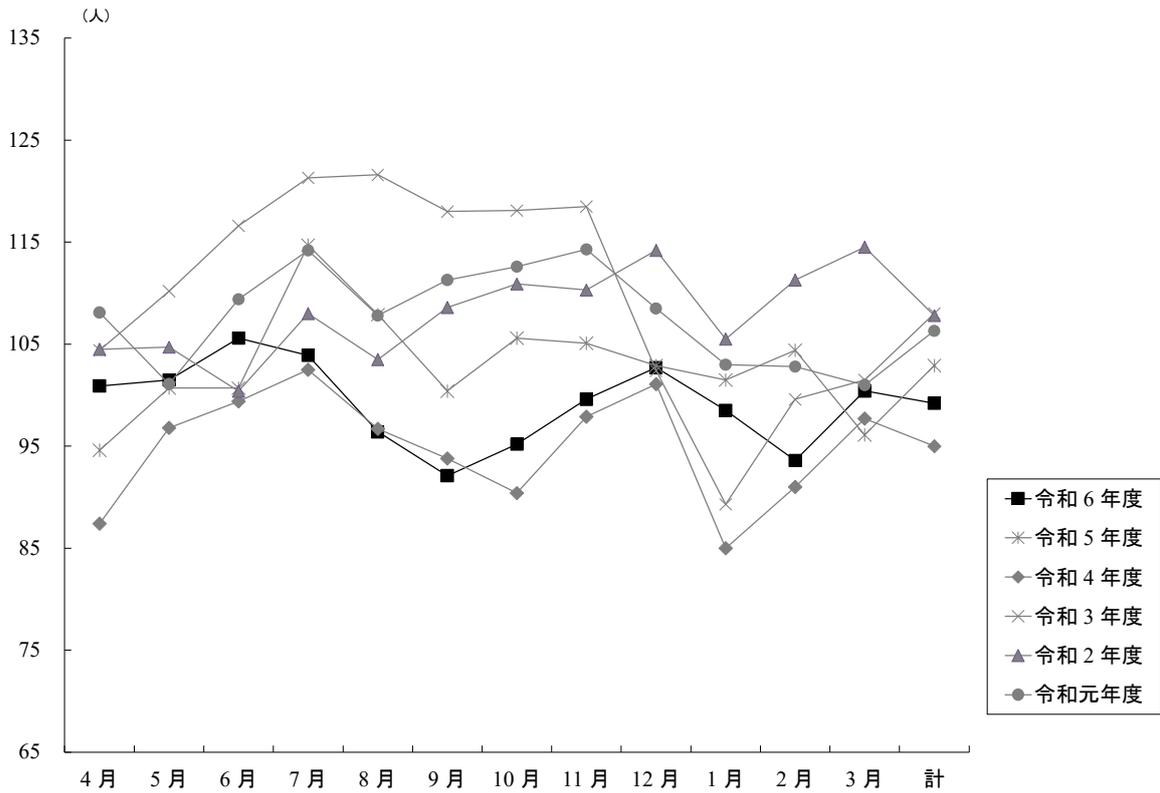
(単位：人・%)

病棟	月別 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和6 年度計	5年度 計	対前年 比
		第	入院	(8) 68	(3) 95	(3) 87	(4) 110	(5) 108	(3) 97	(4) 92	(7) 81	(11) 91	(14) 84	(5) 75	(10) 101	(77) 1,089
	退院	(1) 77	(1) 89	(4) 89	(3) 110	(2) 121	(3) 91		(2) 88	(3) 100	(7) 88	(3) 80	(2) 107	(31) 1,133	(31) 1,039	109.0
一	月末在院者数	14	22	19	20	10	16	19	17	16	19	16	18			
	延患者数	566	636	637	675	600	494	615	593	648	709	565	634	7,372	7,515	98.1
	1日平均	18.9	20.5	21.2	21.8	19.4	16.5	19.8	19.8	20.9	22.9	20.2	20.5	20.2	20.5	98.4
第	入院	(10) 94	(11) 82	(10) 93	(12) 115	(9) 102	(8) 95	(9) 87	(7) 88	(18) 97	(16) 108	(13) 88	(16) 108	(139) 1,157	(95) 1,003	115.4
	退院	(11) 88	(10) 84	(7) 97	(14) 110	(9) 112	(9) 90	(6) 88	(10) 92	(15) 104	(17) 97	(14) 89	(14) 107	(136) 1,158	(112) 990	117.0
二	月末在院者数	20	19	18	21	11	15	17	10	6	16	14	17			
	延患者数	567	609	604	613	577	518	529	500	546	500	439	551	6,553	6,317	103.7
	1日平均	18.9	19.6	20.2	19.7	18.6	17.3	17.1	16.7	17.6	16.1	15.7	17.8	18.0	17.3	104.3
第	入院	(10) 33	(14) 39	(12) 41	(10) 50	(10) 50	(9) 37	(11) 35	(15) 41	(14) 55	(9) 53	(14) 29	(9) 57	(137) 520	(137) 529	98.3
	退院	(10) 28	(11) 44	(7) 51	(10) 43	(8) 57	(7) 39	(10) 33	(6) 50	(13) 61	(8) 54	(6) 36	(8) 50	(104) 546	(113) 556	98.2
三	月末在院者数	19	17	12	19	14	14	17	17	12	12	13	21			
	延患者数	522	610	524	482	545	523	489	555	595	567	405	575	6,392	7,537	84.8
	1日平均	17.4	19.7	17.5	15.5	17.6	17.4	15.8	18.5	19.2	18.3	14.5	18.5	17.5	20.6	85.0
P I C U	入院	(16) 8	(20) 6	(17) 3	(21) 2	(16) 5	(16) 2	(16) 3	(14) 10	(27) 8	(25) 9	(20) 8	(20) 10	(228) 74	(203) 66	112.1
	退院	(20) 1	(25) 1	(23) 1	(19) 1	(21) 1	(16) 2	(20) 1	(24) 1	(33) 1	(32) 1	(29) 1	(29) 1	(291) 8	(263) 8	100.0
	月末在院者数	7	7	4	7	7	7	6	5	6	7	5	6			
	延患者数	191	200	174	194	183	158	151	190	209	195	142	150	2,137	2,094	102.1
	1日平均	6.4	6.5	5.8	6.3	5.9	5.3	4.9	6.3	6.7	6.3	5.1	4.8	5.9	5.7	103.1
新 生 児 ・ 未 熟 児	入院	(20) 24	(17) 22	(23) 22	(17) 20	(10) 19	(13) 16	(11) 15	(18) 21	(30) 23	(14) 15	(18) 18	(20) 19	(211) 234	205	114.1
	退院	(22) 23	(18) 21	(24) 19	(18) 23	(10) 20	(14) 11	(15) 10	(19) 18	(36) 25	(14) 11	(18) 15	(22) 18	(230) 214	(19) 188	113.8
	月末在院者数	26	26	28	24	23	27	28	30	22	26	29	28			
	延患者数	772	750	887	868	773	788	938	906	905	825	775	884	10,071	10,438	96.5
	1日平均	25.7	24.2	29.6	28.0	24.9	26.3	30.3	30.2	29.2	26.6	27.7	28.5	27.6	28.5	96.8
産 科	入院	41	33	36	41	29	30	24	38	29	33	33	38	405	359	112.8
	退院	42	34	32	44	29	32	27	35	32	26	38	34	405	358	113.1
	月末在院者数	10	9	13	10	10	8	5	8	5	12	7	11			
	延患者数	410	340	342	390	310	282	229	244	281	257	295	318	3,698	3,765	98.2
	1日平均	13.7	11.0	11.4	12.6	10.0	9.4	7.4	8.1	9.4	8.3	10.5	10.3	10.1	10.3	98.2
合 計	入院	(64) 268	(65) 277	(65) 282	(64) 338	(50) 313	(49) 277	(51) 256	(61) 279	(100) 303	(78) 302	(70) 251	(75) 333	(792) 3,479	(538) 3,130	111.2
	退院	(64) 258	(65) 273	(65) 288	(64) 331	(50) 339	(49) 265	(51) 251	(61) 284	(100) 323	(78) 277	(70) 259	(75) 316	(792) 3,464	(538) 3,139	110.4
	月末在院者数	96	100	94	101	75	87	92	87	67	92	84	101			
	延患者数	3,028	3,145	3,168	3,222	2,988	2,763	2,951	2,988	3,184	3,053	2,621	3,112	36,223	37,666	96.2
	1日平均	100.9	101.5	105.6	103.9	96.4	92.1	95.2	99.6	102.7	98.5	93.6	100.4	99.2	102.9	96.4
	病床利用率	67.3	67.6	70.4	69.3	64.3	61.4	63.5	66.4	68.5	65.7	62.4	66.9	66.2	68.6	96.5

(注)入院・退院欄の上段は転棟患者数

病床利用率は、運用病床数150床で算出

◆1日平均入院患者の状況



(単位：人)

月 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和6年度	100.9	101.5	105.6	103.9	96.4	92.1	95.2	99.6	102.7	98.5	93.6	100.4	99.2
5年度	94.6	100.7	100.7	114.7	107.9	100.4	105.6	105.1	102.9	101.5	104.4	96.1	102.9
4年度	87.4	96.8	99.4	102.5	96.7	93.8	90.4	97.9	101.1	85.0	91.0	97.7	95.0
3年度	104.4	110.2	116.6	121.3	121.6	118.0	118.1	118.5	102.4	89.3	99.6	101.5	108.0
2年度	104.5	104.7	100.4	108.0	103.5	108.6	110.9	110.3	114.2	105.5	111.3	114.5	107.8
元年度	108.1	101.1	109.4	114.2	107.8	111.3	112.6	114.3	108.5	103.0	102.8	101.0	106.3

(4) 市保健所・保健福祉事務所管内別新規登録患者数

(単位：人・%)

月別 管内別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和 6 年度計	構 成 比	5 年 度 計	対 前 年 比
前橋市	49	41	40	60	49	51	62	50	65	59	36	65	627	19.9	637	98.4
高崎市	51	61	51	58	64	55	55	49	49	39	41	51	624	19.8	626	99.7
安中	9	9	4	6	2	8	1	8	0	0	2	1	50	1.6	54	92.6
渋川	49	42	43	44	56	51	35	35	48	33	48	48	532	16.9	506	105.1
藤岡	6	1	4	2	10	5	4	10	6	4	3	6	61	1.9	64	95.3
富岡	3	7	5	2	3	2	2	3	5	7	2	0	41	1.3	40	102.5
吾妻	11	8	16	15	8	9	8	16	4	18	6	8	127	4.0	111	114.4
利根沼田	11	15	17	16	12	12	14	9	18	22	12	14	172	5.5	204	84.3
伊勢崎	29	29	30	39	25	27	23	27	22	35	38	24	348	11.1	329	105.8
桐生	7	8	7	9	15	9	10	6	5	7	6	10	99	3.1	99	100.0
太田	22	7	8	5	19	10	8	12	15	11	13	15	145	4.6	148	98.0
館林	4	3	5	5	5	5	6	4	8	6	4	4	59	1.9	34	173.5
県外	13	26	30	30	28	17	22	20	20	22	14	17	259	8.2	292	88.7
令和 6 年度計	264	257	260	291	296	261	250	249	265	263	225	263	3,144	100	3,144	100.0
5 年度計	245	273	275	279	298	249	273	250	259	264	228	251	—	—	3,144	—

(注)この表は、当センターに初診で登録された患者の集計である。したがって、即入院患者数が含まれたものである。

◆地域別新規登録患者数

区 分	令和6年度	5年度	対前年比
総 計	3,144	3,144	100.0
市 計	2,360	2,376	99.3
町 村 計	525	476	110.3
県 外 計	259	292	88.7
前橋市保健所	627	637	98.4
前 橋 市	627	637	98.4
高崎市保健所	624	626	99.7
高 崎 市	624	626	99.7
安中保健福祉事務所	50	54	92.6
安 中 市	50	54	92.6
渋川保健福祉事務所	532	506	105.1
渋 川 市	300	298	100.7
榛 東 村	73	59	123.7
吉 岡 町	159	149	106.7
藤岡保健福祉事務所	61	64	95.3
藤 岡 市	60	62	96.8
神 流 町			—
上 野 村	1	2	50.0

区 分	令和6年度	5年度	対前年比
富岡保健福祉事務所	41	40	102.5
富 岡 市	32	31	103.2
下 仁 田 町	2	4	50.0
南 牧 村			—
甘 楽 町	7	5	140.0
吾妻保健福祉事務所	127	111	114.4
中 之 条 町	39	39	100.0
東 吾 妻 町	24	21	114.3
長 野 原 町	11	8	137.5
嬭 恋 村	15	5	300.0
草 津 町	28	23	121.7
高 山 村	10	15	66.7
利根沼田保健福祉事務所	172	204	84.3
沼 田 市	107	117	91.5
片 品 村	7	10	70.0
川 場 村	8	8	100.0
みなかみ町	30	48	62.5
昭 和 村	20	21	95.2

区 分	令和6年度	5年度	対前年比
伊勢崎保健福祉事務所	348	329	105.8
伊勢崎市	307	295	104.1
玉村町	41	34	120.6
桐生保健福祉事務所	99	99	100.0
桐生市	54	64	84.4
みどり市	45	35	128.6
太田保健福祉事務所	145	148	98.0
太田市	145	148	98.0
館林保健福祉事務所	59	34	173.5
館林市	9	9	100.0
板倉町	1		—
明和村	2	2	100.0
千代田町	3	2	150.0
大泉町	27	15	180.0
邑楽町	17	6	283.3

(単位：人・%)

区 分	令和6年度	5年度	対前年比
県外計	259	292	88.7
北海道		1	—
青森県		1	—
宮城県	1		—
秋田県		2	—
山形県		1	—
福島県	2	1	200.0
茨城県	4	5	80.0
栃木県	23	25	92.0
埼玉県	130	138	94.2
千葉県	9	19	47.4
東京都	47	46	102.2
神奈川県	22	22	100.0
新潟県		6	—
福井県	1		—
山梨県	1	1	100.0
長野県	5	7	71.4
静岡県	1	3	33.3
愛知県	2	3	66.7
三重県		3	—
滋賀県	3		—
京都府	1		—
大阪府		1	—
兵庫県	1	3	33.3
和歌山県		2	—
鳥取県	1	1	100.0
広島県	1		—
福岡県	1	1	100.0
長崎県	1		—
鹿児島県	2		—
国内計	259	292	88.7
国外			

(単位：人・%)

区 分	令和6年度	5年度	対前年比
伊勢崎保健福祉事務所	326	325	100.3
伊勢崎市	285	296	96.3
玉村町	41	29	141.4
桐生保健福祉事務所	120	107	112.1
桐生市	72	64	112.5
みどり市	48	43	111.6
太田保健福祉事務所	186	191	97.4
太田市	186	191	97.4
館林保健福祉事務所	67	29	231.0
館林市	6	11	54.5
板倉町			—
明和村	1	2	50.0
千代田町	3		—
大泉町	24	11	218.2
邑楽町	33	5	660.0

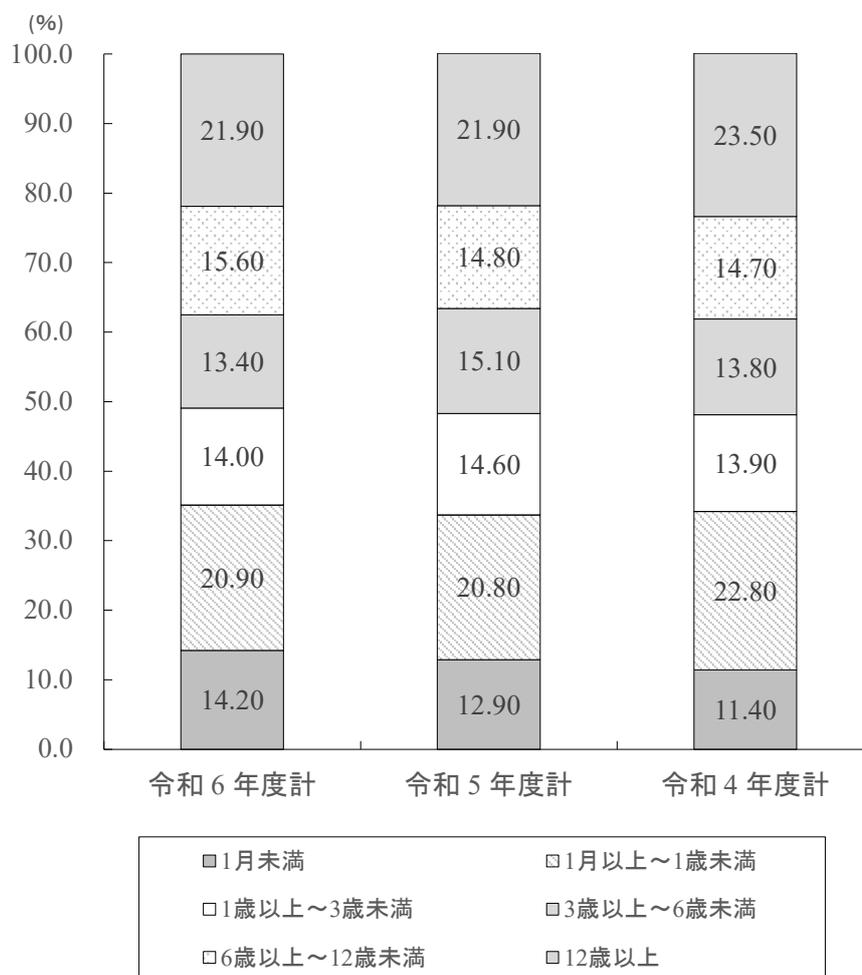
区 分	令和6年度	5年度	対前年比
県外計	206	181	113.8
北海道		1	—
秋田県	1	1	25.0
茨城県	2	2	25.0
栃木県	24	19	25.0
埼玉県	143	112	25.0
千葉県	3	10	25.0
東京都	10	18	90.5
神奈川県	15	7	80.0
新潟県		2	—
長野県	2	4	94.7
愛知県		1	—
三重県		2	—
滋賀県	3		—
京都府	2		—
兵庫県		2	—
鹿児島県	1		—
国内計	206	181	113.8
国外			

(5) 年齢階層別状況(新規登録患者)

(単位：人・%)

年齢	区分	男	女	令和6年度計	5年度計	対前年比
1月未満		225	222	447	405	110.4
1月以上～1歳未満		314	344	658	654	100.6
1歳以上～3歳未満		246	195	441	459	96.1
小計		785	761	1,546	1,518	101.8
3歳以上～6歳未満		244	177	421	474	88.8
6歳以上～12歳未満		281	208	489	465	105.2
12歳以上		95	593	688	687	100.1
令和6年度計		1,405	1,739	3,144		100.0
令和5年度計		1,447	1,697		3,144	
対前年比		97.1	102.5	100.0		

◆年齢階層別状況(新規登録患者) 令和4年度～令和6年度



(6) 救急医療

①救急医療の状況(診療状況より)

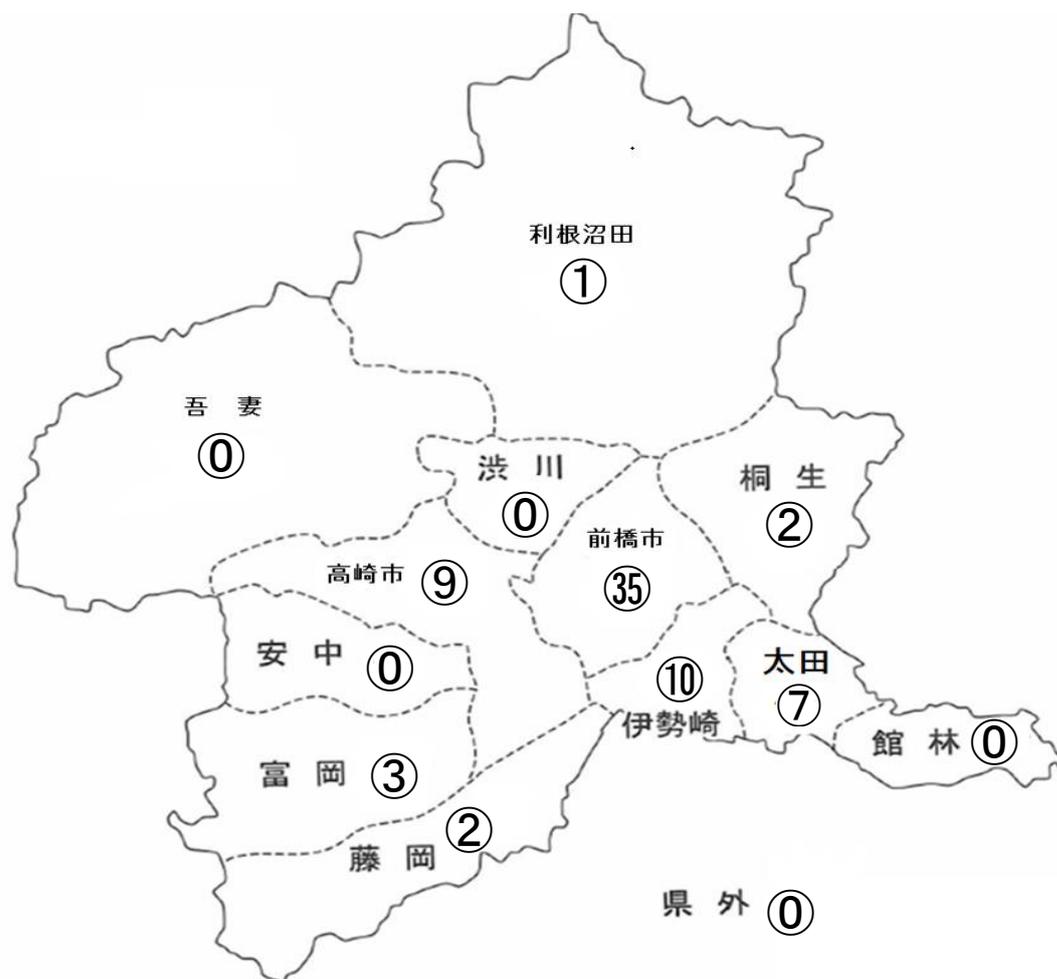
(単位：人・%)

区分		月別												令和 6年 度計	5年 度計	対前 年比
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
N I C U 車	時間外	0	0	3	2	2	2	3	3	4	0	0	2	21	31	67.7
	時間内	3	2	2	4	4	0	4	4	3	2	5	2	35	28	125.0
	休日	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	3	1	13	8	162.5
	計	4	3	6	6	7	3	8	8	8	3	8	5	69	67	103.0
救 急 車 ・ そ の 他	時間外	79	78	85	95	73	58	71	80	74	70	68	87	918	978	93.9
	時間内	12	13	19	7	15	18	14	15	19	13	9	10	164	153	107.2
	休日	26	46	30	40	32	45	32	32	67	77	49	40	516	516	100.0
	計	117	137	134	142	120	121	117	127	160	160	126	137	1,598	1,647	97.0
合 計		121	140	140	148	127	124	125	135	168	163	134	142	1,667	1,714	115.2

(注)「時間内」とは、平日の8:30～17:15である。それ以外の時間を「時間外」に区分した。

土曜は「時間外」とした。

② NICU 車市保健所・保健福祉事務所管内別出動状況（搬入元医療機関等）



出動区分		年度		5年度 出動件数	4年度 出動件数	3年度 出動件数	2年度 出動件数	元年度 出動件数	平成 30年度 出動件数	29年度 出動件数	28年度 出動件数	27年度 出動件数
		令和6年度 出動件数	対前年比									
救急患者		69	103.0%	67	61	81	55	95	99	95	90	99
内 訳	休日及び 時間外	34	113.3%	30	33	49	29	54	48	39	40	58
	時間内	35	94.6%	37	28	32	26	41	51	56	50	41
その他		18	78.3%	23	20	17	28	17	20	49	43	31
合計		87	96.7%	90	81	98	83	112	119	144	133	130

(注) 「その他」は、当センター入院中の患者を他の医療機関へ搬出したもの、及び他の医療機関の要請により当センター以外の他の医療機関へ搬送を行ったもの等である。

(7) 予防接種実施状況

①月別実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
B C G ポ リ オ	1		3	2	3	1			1	1	2	1	15
五種混合				1	4		2	6	5	5	4	2	29
四種混合	6	3	5	2	1		2	1				1	21
三種混合													
二種混合													
麻しん・風しん	2	2		1	1	2	4	2	2	4	2	3	25
麻 し ん													
風 し ん													
日本脳炎	4	1	1		3	2	1	1	2	3	1	1	20
ヒ ブ	4	3	6	1	1		1					1	17
肺炎球菌	6	3	5	1	5	1	5	7	4	5	2	2	46
子宮頸がん予防	1	1				5		5	1	1		4	18
水 痘	3	1	1	1	3	1	4	4	2	5	2	2	29
B型肝炎	4	2	7	2	3	1	1	5	3	4	1	1	34
ロタウイルス	1	1	1					1	1	1			6
計	32	17	29	11	24	13	20	32	21	29	14	18	260

②市保健所・保健福祉事務所管内別実施状況

	前橋市	高崎市	安中	渋川	藤岡	富岡	吾妻	利根沼田	伊勢崎	桐生	太田	館林	県外	計
B C G ポ リ オ	4	4	1	3				1	1		1			15
五種混合	8	8	3	4				2		1	1		2	29
四種混合	5	2		4				3	4	1	1		1	21
三種混合														
二種混合														
麻しん・風しん	6	4	1	5				1	2	3	2		1	25
麻 し ん														
風 し ん														
日本脳炎	11	3		1						3			2	20
ヒ ブ	4	1		3				2	4	1	2			17
肺炎球菌	11	8	2	8				4	5	2	3		3	46
子宮頸がん予防	6	3		5			3				1			18
水 痘	5	6		8				3	2	2	2		1	29
B型肝炎	10	6	2	6				3	3	1	2		1	34
ロタウイルス	3	2					1							6
計	73	47	9	47			4	19	21	14	15		11	260

③推 移

年 度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
実施件数	231	154	157	95	82	56	50	109	213	241	246	206	266	260

(8) 疾病分類別入院患者数

① 第一病棟

第一病棟科別入院患者数

アレルギー・リウマチ科	380 人	34.9%
神経内科	311 人	28.6%
総合診療科	287 人	26.4%
循環器科	40 人	3.7%
歯科	33 人	3.0%
感染症科	22 人	2.0%
外科 (小児外科)	6 人	0.6%
血液腫瘍科	6 人	0.6%
内分泌代謝科	4 人	0.4%
合 計	1,089 人	100.0%

②第二病棟

令和6年度 入院症例 (他科入院で外科手術した症例も含む、重複含む)

<u>頸部</u>		<u>イレウス</u>	
正中頸嚢胞、側頸瘻	3	腸重積症	12
気管切開 (喉頭気管分離) 目的	6	イレウス (保存治療)	11
<u>肺・気管支</u>		イレウス (手術治療)	9
肺嚢胞性疾患	3	<u>胆道、脾臓</u>	
<u>横隔膜</u>		胆道拡張症	7
横隔膜ヘルニア	4	<u>腫瘍</u>	
<u>食道</u>		神経芽腫	2
先天性食道狭窄	1	その他の悪性腫瘍	2
先天性食道閉鎖症	1	良性腫瘍	9
胃食道逆流症	11	<u>生殖泌尿器</u>	
<u>腹壁</u>		水腎症	1
腹壁破裂	1	膀胱尿管逆流症	2
<u>鼠径ヘルニア</u>		停留精巣 (萎縮含む)	32
鼠径ヘルニア (精索水腫含む)	139	<u>皮膚、筋、骨格</u>	
<u>置</u>		リンパ節腫大	2
肥厚性幽門狭窄症	6	リンパ管腫	5
胃瘻造設目的	12	血管腫	2
<u>十二指腸・小腸、結腸、腸間膜</u>		<u>その他</u>	
小腸閉鎖・狭窄	6	便秘	13
腸回転異常	6	内視鏡 (治療含む)	61
Hirschsprung 病	3	CVカテーテル敗血症	4
消化管穿孔 (新生児)	5	CVカテーテル挿入目的	17
消化管穿孔 (新生児以外)	5	腸炎	10
人工肛門閉鎖目的	14	その他	138
<u>虫垂</u>			
急性虫垂炎	29	合計	619
<u>直腸、肛門</u>			
直腸肛門奇形	16		
肛門疾患	9		

形成外科

(うちカッコ内は日帰り全身麻酔の入院患者数)

口唇顎裂	10	母斑	32
口唇口蓋裂	21	良性腫瘍	33
口蓋裂	3	爪下外骨腫	2
		血管腫・血管奇形	12 (2)
多指症・合指症	6		
多趾症・合趾症	5	悪性腫瘍	1
多合趾症	3		
絞扼輪症候群	1	指癒痕拘縮	1
副耳	6 (2)		
先天性耳瘻孔	6		
睫毛内反症	6		
舌小帯短縮症	8		
漏斗胸	14		
小耳症	1		
臍ヘルニア	35 (2)		

整形外科

【手術件数】57件

手術	件数	腱鞘切開術	6
骨折観血の手術：	6	骨切り：	2
骨折観血の手術(上腕骨)	1	寛骨臼移動術	1
骨折観血の手術(大腿骨)	2	大腿骨外反骨切り術	1
骨折観血の手術(脛骨)	3		
骨内挿入物除去術：	21	骨腫瘍切除	1
骨内挿入物除去術(上腕骨)	1	骨搔爬術(足関節)	1
骨盤内異物除去術	3		
骨内挿入物除去術(大腿骨)	7	股関節脱臼非観血的整復術	1
骨内挿入物除去術(下腿)	7		
骨内挿入物除去術(足)	3	手術合計：	57
骨延長術[大腿骨]	1	検査：	
骨延長術[脛骨および腓骨]	1	関節造影(股関節)	1
骨端軟骨発育抑制術[大腿骨]	11	自己血貯血(全身麻酔下)	1
骨端軟骨発育抑制術[脛骨]	2		
偽関節手術(大腿骨)	2		
偽関節手術(脛骨)	1		
偽関節手術(腓骨遠位)	1		
観血的関節授動(足)	4		
内反足手術	2		

③第三病棟

血液腫瘍科

「業務編 3.第三病棟 (3)血液腫瘍科」内、業務内容参照。

④新生児未熟児病棟

◆出生体重の分布

	院内出生	院外出生	総 数
500g 未満	1	1	2
500 ～ 999g	20	6	26
1,000 ～ 1,499g	13	7	20
1,500 ～ 1,999g	15	5	20
2,000 ～ 2,499g	27	10	37
2,500g 以上	65	63	128
計	141	92	233

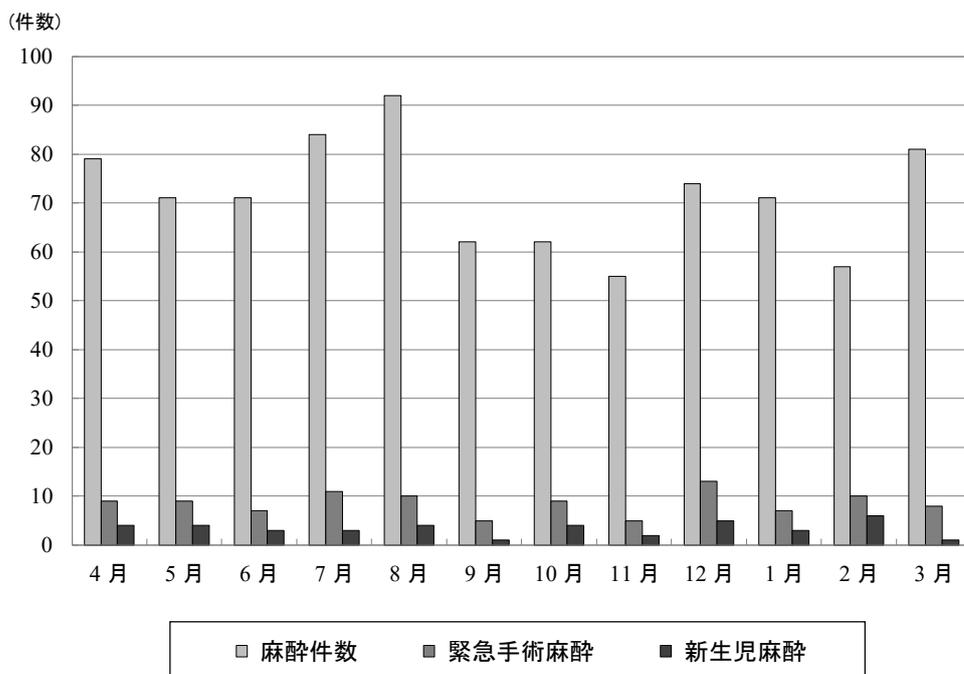
◆在胎期間の分布

	院内出生	院外出生	総 数
22 週	0	1	1
23 週	4	0	4
24 週	1	1	2
25 週	4	0	4
26 週	5	5	10
27 週	5	2	7
28 週	1	0	1
29 週	3	4	7
30 週	6	0	6
31 週	2	0	2
32 週	2	1	3
33 週	3	3	6
34 週	5	2	7
35 週	6	3	9
36 週	13	7	20
37 週	13	15	28
38 週	21	18	39
39 週	24	17	41
40 週	17	10	27
41 週	5	3	8
不明	1	0	1
計	141	92	233

(9) 麻 酔

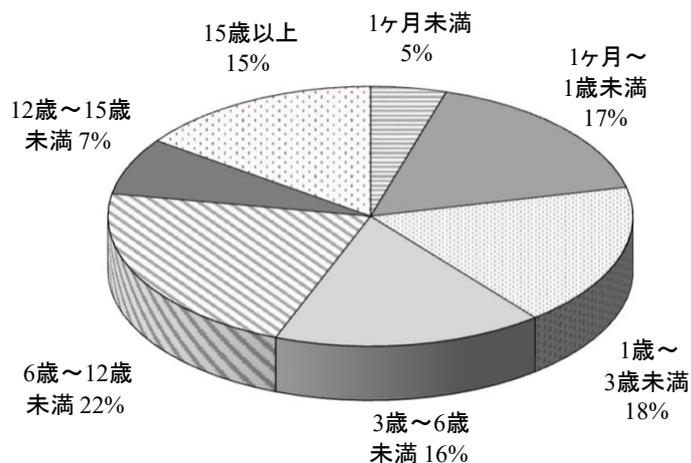
① 2024年度 月別麻酔件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
麻酔件数	79	71	71	84	92	62	62	55	74	71	57	81
緊急手術麻酔	9	9	7	11	10	5	9	5	13	7	10	8
新生児麻酔	4	4	3	3	4	1	4	2	5	3	6	1



② 2024年度 年齢階層別状況

1ヶ月未満	40
1ヶ月～1歳未満	144
1歳～3歳未満	153
3歳～6歳未満	143
6歳～12歳未満	188
12歳～15歳未満	61
15歳以上	130



(10) 歯 科

①診療実績

	令和6年度	5年度	4年度	3年度	2年度	元年度	平成30年度	29年度	28年度
診 療 日 数 (日)	242	243	244	242	244	239	244	244	243
初 診 患 者 数 (人)	590	573	546	513	502	465	460	412	377
再 診 患 者 数 (人)	3,406	3,324	3,447	3,841	3,733	3,896	3,807	3,611	3,028
急 患 患 者 数 (人)	312	356	298	430	414	483	516	445	400
延 来 院 患 者 数 (人)	4,415	4,273	4,362	4,734	4,618	4,736	4,611	4,357	3,847
常 勤 歯 科 医 数 (人)	3	3	3	3	3	3	3	3	3
正 規 歯 科 衛 生 士 (人)	3	3	2	2	2	1	1	1	1
非 正 規 歯 科 衛 生 士 (人)	2	1	2	2	2	3	3	3	3
非 常 勤 歯 科 衛 生 士 (人)	1	1	1	1	1	1	1	1	1

②初診患者紹介元

	令和6年度	5年度	4年度	3年度	2年度	元年度	平成30年度	29年度	28年度
院 内	137 (23.2%)	161 (28.1%)	155 (28.4%)	151 (29.4%)	190 (37.8%)	159 (34.2%)	179 (38.9%)	148 (35.9%)	158 (41.9%)
院 外	452 (76.6%)	408 (71.2%)	388 (71.1%)	357 (69.6%)	307 (61.2%)	305 (65.6%)	277 (60.2%)	261 (63.3%)	215 (57.0%)
そ の 他	1 (0.2%)	4 (0.7%)	3 (0.5%)	5 (1.0%)	5 (1.0%)	1 (0.2%)	4 (0.9%)	3 (0.8%)	3 (1.1%)

③年齢別初診来院数

年齢 (以上～未満)	令和6年度	5年度	4年度	3年度	2年度	元年度	平成30年度	29年度	28年度
0～3	199	185	203	182	198	193	205	173	165
3～6	236	235	216	200	176	168	144	148	118
6～12	117	127	104	103	105	82	85	68	68
12～18	24	22	16	15	19	13	19	11	13
18～	11	4	7	5	4	9	7	12	12

④薬物を用いた全身管理

	令和6年度	5年度	4年度	3年度	2年度	元年度	平成30年度	29年度	28年度
鎮 静 法	99	111	76	66	56	61	55	100	73
歯科外来全身麻酔	406	368	358	365	385	377	344	343	264

(11) 放射線

①依頼科別件数

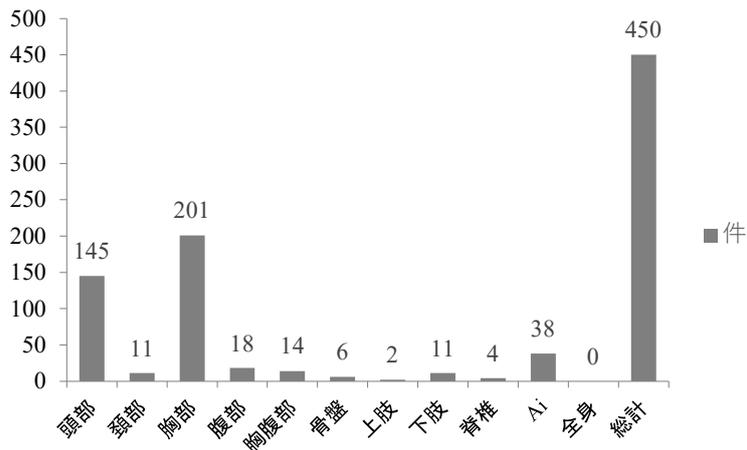
検査 依頼科	CT	MRI	RI	X線TV	エコー	カテーテル	一般撮影	ポータブル撮影	フィルムコピー	総計 (件)
アレルギー・ リウマチ科	8	24	4	1	23	0	170	57	49	336
リハビリ科	0	0	0	0	0	0	18	0	0	18
遺伝科	2	31	0	0	7	0	85	0	26	151
総合診療科	21	70	0	8	100	0	633	1	81	914
外科	45	164	30	316	643	0	1,852	1,010	252	4,312
感染症科	1	8	4	4	13	0	34	17	0	81
形成外科	94	28	37	0	97	0	903	69	77	1,305
血液腫瘍科	12	164	28	6	89	0	99	84	85	567
産科	21	55	0	0	0	0	109	115	18	318
子どものこころ 診療科	0	6	0	0	0	0	7	0	1	14
歯科	58	0	0	0	0	0	357	5	14	434
耳鼻科	3	0	0	0	1	0	0	0	6	10
循環器内科	124	153	40	17	83	894	2,963	2,464	288	7,026
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	13	1	0	14
新生児科	31	200	3	60	165	6	150	2,512	155	3,282
神経内科	15	118	0	9	34	0	73	189	255	693
腎臓内科	0	2	8	0	73	0	6	0	1	90
整形外科	14	48	0	8	38	0	10,289	366	154	10,917
正常新生児科	0	10	0	0	12	0	6	10	1	39
内分泌代謝科	1	11	0	0	12	0	59	208	8	299
脳外科	0	2	0	0	0	0	0	0	2	4
放射線科	0	0	0	0	0	0	36	0	19	55
総計	450	1,094	154	429	1,390	900	17,862	7,108	1,492	30,879

②月別件数

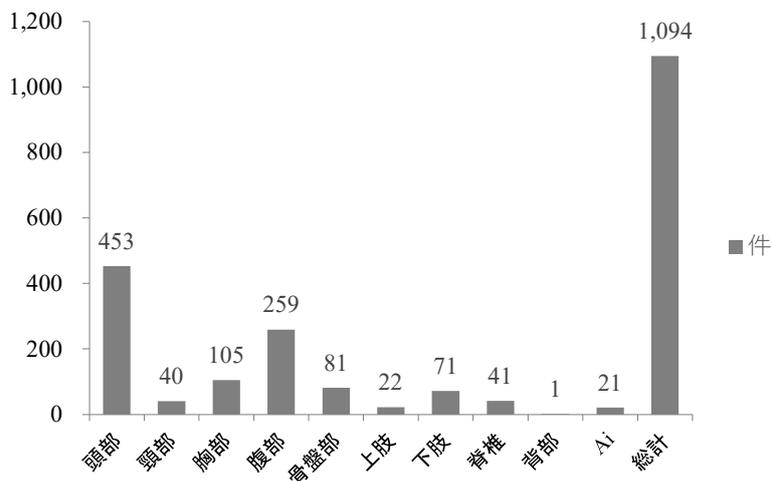
検査 検査月	CT	MRI	RI	X線TV	エコー	カテーテル	一般撮影	ポータブル撮影	フィルムコピー	総計 (件)
4月	22	76	13	49	127	40	1,588	619	112	2,646
5月	27	75	8	35	106	78	1,380	643	143	2,495
6月	38	81	4	33	133	93	1,449	564	166	2,561
7月	35	117	21	35	159	79	1,695	586	113	2,840
8月	46	131	10	39	162	137	1,815	596	140	3,076
9月	40	82	17	46	95	63	1,679	522	118	2,662
10月	50	70	3	31	115	48	1,424	604	90	2,435
11月	28	77	0	27	88	48	1,271	597	119	2,255
12月	36	103	14	38	94	73	1,373	619	114	2,464
1月	44	87	2	33	103	83	1,387	613	125	2,477
2月	39	95	27	23	91	76	1,133	574	125	2,183
3月	45	100	35	40	117	82	1,668	571	127	2,785
総計	450	1,094	154	429	1,390	900	17,862	7,108	1,492	30,879

③検査種別件数

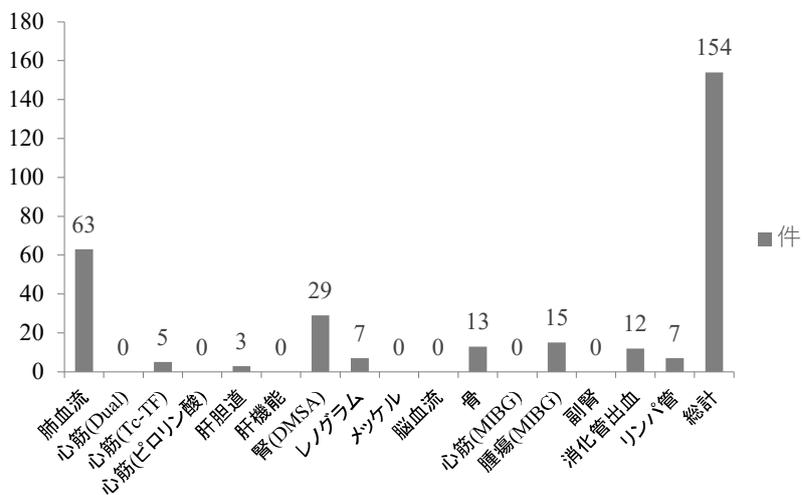
ア CT



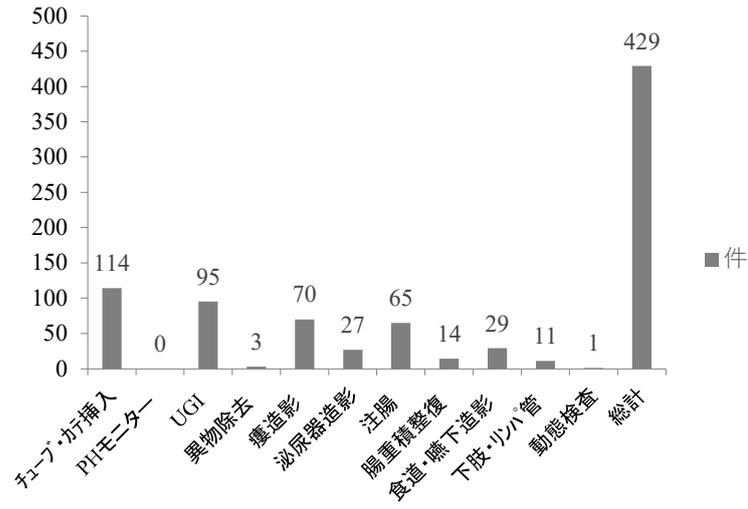
イ MRI



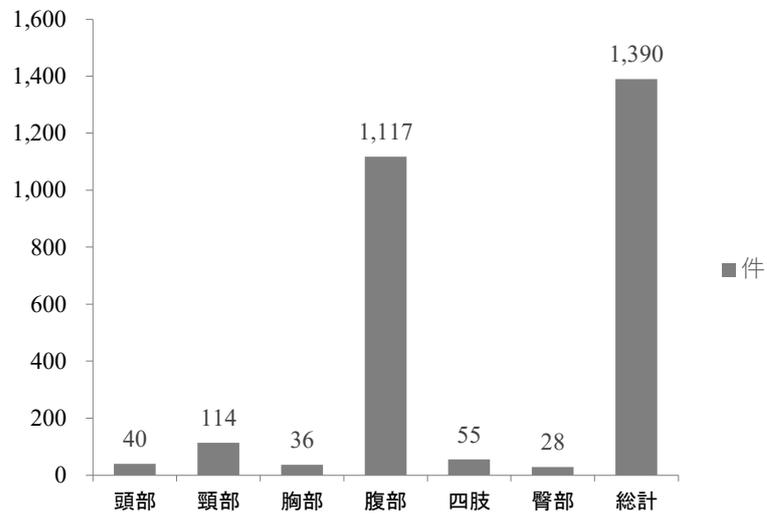
ウ RI



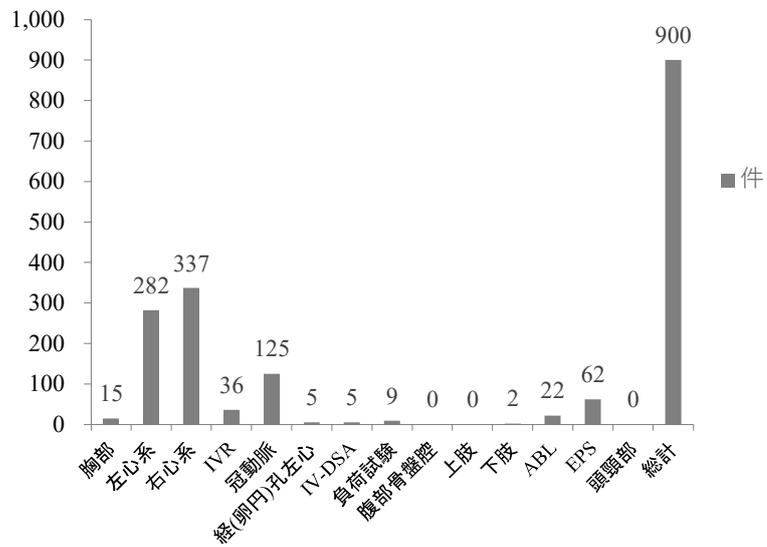
エ X-TV



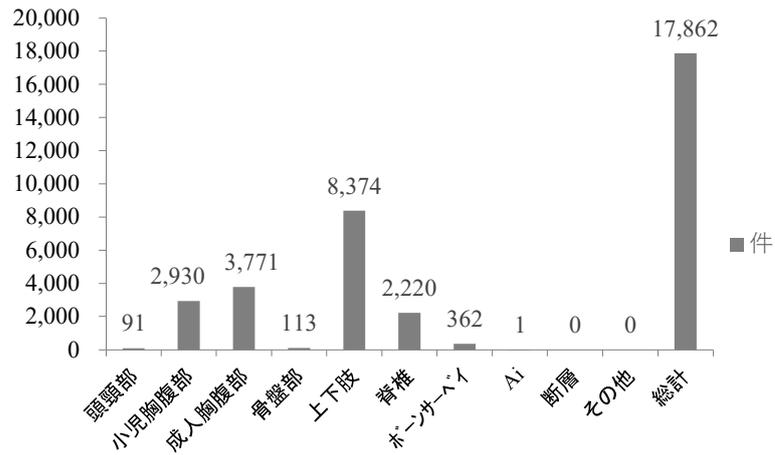
オ US



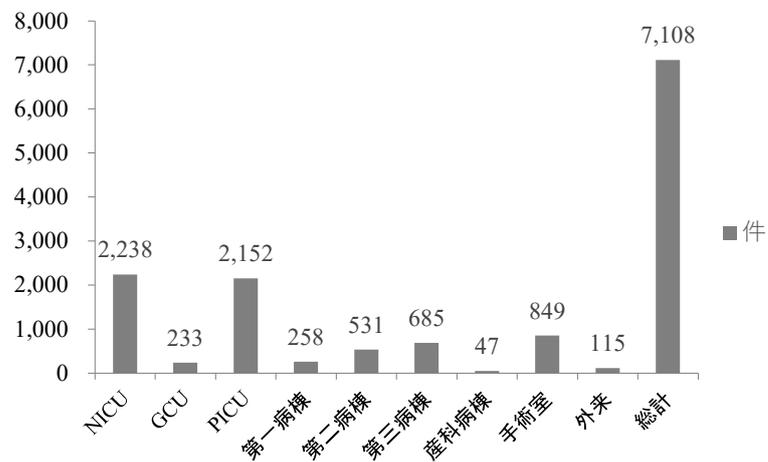
カ 心臓カテーテル



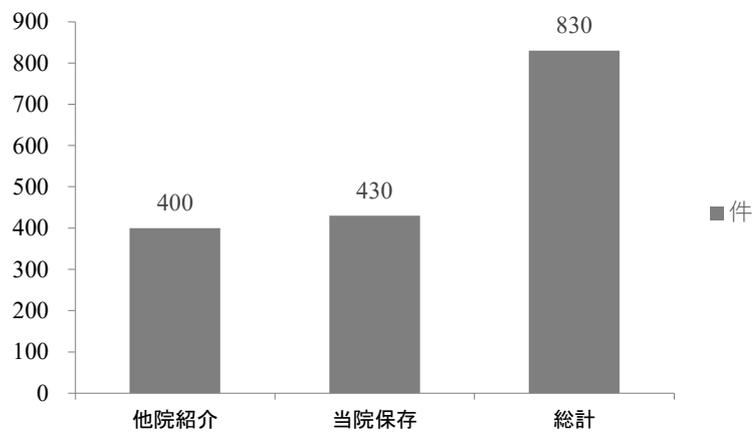
キ 一般撮影



ク ポータブル撮影



ケ 画像データコピー



(12) 臨床検査

①検査の状況

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生 化 学	20,409	20,800	21,121	24,213	21,946	17,447
血 液	5,159	5,419	5,770	6,428	5,674	4,237
免 疫 血 清	2,334	2,372	2,347	2,761	2,587	1,962
一 般	604	742	856	1,149	965	727
生 理	1,112	1,005	1,003	1,183	1,223	1,116
細 菌	1,351	1,368	1,477	1,427	1,025	1,141
病 理	135	136	212	190	182	120
輸 血	236	244	256	268	241	192
薬 物 (再掲)	56	61	61	67	54	56
ア レ ル ギ ー (再掲)	311	282	413	353	310	282
特 殊 検 査 (再掲)	12	20	20	8	12	8
外 部 委 託	819	835	723	925	1,052	701
総 合 計 (再掲除く)	32,159	32,921	33,765	38,544	34,895	27,643

②血液製剤取り扱い状況

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
赤 血 球 液	1 単位	3	1	2	4	2	3
	2 単位	33	29	50	50	34	18
洗 浄 赤 血 球 液	1 単位	0	0	0	0	0	0
	2 単位	0	0	0	0	0	0
小 計	36	30	52	54	36	21	
新 鮮 凍 結 血 漿	120	9	4	0	0	1	
	240	34	7	35	44	6	
	480	0	0	0	0	0	
小 計	43	11	35	44	20	7	
濃 厚 血 小 板	2 単位	0	0	0	0	0	
	5 単位	0	0	0	0	0	
	10 単位	18	16	27	40	22	15
	15 単位	0	0	0	0	0	
	20 単位	0	0	0	0	0	
濃 厚 血 小 板 HLA	10 単位	0	0	0	0	0	
洗 浄 血 小 板	10 単位	0	0	0	0	1	
洗 浄 血 小 板 HLA	10 単位	0	0	0	0	0	
小 計	18	16	27	40	22	16	
合 成 血	0	0	0	0	0	0	
貯 血 式 自 己 血	0	0	0	0	0	0	
合 計	97	57	114	138	78	44	

③分割取り扱い状況

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
赤 血 球 液	1 単位	7	3	6	12	6	6
	2 単位	41	27	64	78	47	32
小 計	48	30	70	90	53	38	
濃 厚 血 小 板	5 単位	0	0	0	0	0	
	10 単位	15	6	26	60	24	14
	15 単位	0	0	0	0	0	
	20 単位	0	0	0	0	0	
小 計	15	6	26	60	24	14	
合 計	63	36	96	150	77	52	

④幹細胞保存

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月
幹 細 胞 保 存	0	0	0	0	0	0

(単位：件、%)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	前年度比
19,968	19,051	22,457	20,497	16,944	20,044	244,897	241,244	101.5
4,926	4,588	5,806	5,174	3,941	4,926	62,048	63,190	98.2
2,193	2,221	2,583	2,409	1,932	2,391	28,092	29,163	96.3
830	715	790	863	588	751	9,580	10,854	88.3
1,170	1,209	1,277	1,118	847	1,237	13,500	12,296	109.8
1,354	1,240	1,639	1,528	1,068	1,139	15,757	15,421	102.2
132	129	162	112	110	167	1,787	1,834	97.4
208	205	236	241	202	239	2,768	2,680	103.3
55	36	34	70	44	58	652	625	104.3
217	225	243	212	233	420	3,501	2,850	122.8
8	0	0	16	8	12	124	171	72.5
649	741	739	669	623	843	9,319	8,892	104.8
31,430	30,099	35,689	32,611	26,255	31,737	387,748	385,574	100.6

(単位：本、%)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	前年度比
3	3	0	5	2	0	28	18	155.6
39	28	47	27	22	29	406	419	96.9
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
42	31	47	32	24	29	434	437	99.3
1	1	0	1	0	0	17	14	121.4
21	18	38	7	7	27	264	206	128.2
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
22	19	38	8	7	27	281	220	127.7
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
14	12	20	23	12	14	233	267	87.3
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
0	0	0	0	0	0	0	4	0.0
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
2	0	0	2	0	0	5	0	0.0
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
16	12	20	25	12	14	238	271	87.8
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
1	0	0	0	0	0	1	4	25.0
81	62	105	65	43	70	954	932	102.4

(単位：bag数、%)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	前年度比
6	8	0	11	6	0	71	44	161.4
49	34	41	33	29	44	519	347	149.6
55	42	41	44	35	44	590	391	150.9
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
12	12	16	24	15	10	234	210	111.4
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
0	0	0	0	0	0	0	2	0.0
12	12	16	24	15	10	234	212	110.4
67	54	57	68	50	54	824	603	136.7

(単位：件)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	0	0	0	0	0

(13) 薬 剤

①調剤等の状況

ア 処方箋の枚数等

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
外 来	枚 数	90	106	85	93	70	78	
	件 数	152	169	141	145	102	121	
	剤 数	331	441	178	311	121	329	
入 院	枚 数	1,166	1,224	1,170	1,353	1,156	1,053	
	件 数	2,686	2,983	2,642	3,178	2,777	2,551	
	剤 数	14,160	15,703	13,335	16,340	14,002	12,235	
	麻薬 (内数)	枚 数	5	7	6	10	8	9
		件 数	5	7	6	10	8	9
		剤 数	5	7	6	10	8	9
合 計	枚 数	1,256	1,330	1,255	1,446	1,226	1,131	
	件 数	2,838	3,152	2,783	3,323	2,879	2,672	
	剤 数	14,491	16,144	13,513	16,651	14,123	12,564	
院 外 処 方 箋	枚 数	1,173	1,117	1,050	1,136	1,155	1,048	
	発行率(%)	92.9	91.3	92.5	92.4	94.3	93.1	

イ 調剤件数内訳

区 分	錠 剤	散 剤	水 剤	外 用	注射薬	計
外 来	315	237	77	955	69	1,653
入 院	7,426	16,486	4,205	5,777	117	34,011
割 合 (%)	21.7%	46.9%	12.0%	18.9%	0.5%	35,664

②注射剤の状況

ア 注射箋等の枚数等

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
個人セット	枚 数	1,651	1,763	1,705	1,755	1,779	1,561	
	本 数	15,713	21,663	15,212	15,458	18,017	11,861	
	HIS (内数)	枚 数	1,481	1,569	1,544	1,575	1,606	1,438
		本 数	12,347	18,113	11,731	11,645	14,868	10,530
	PICU (内数)	枚 数	170	194	161	180	173	123
		本 数	3,366	3,550	3,481	3,813	3,149	1,331
血 液 製 剤 (外用剤を含む)	本 数	127	106	147	146	101	77	
	外用剤 (内数)	(本数)	2	3	12	10	1	2
麻 薬	枚 数	189	180	203	230	186	143	
	本 数	352	425	553	580	516	222	
毒 薬	枚 数	111	135	122	141	117	105	
	本 数	173	405	375	409	230	153	
輸液 (高カロリー)	本 数	106	106	116	91	114	53	
薬品請求伝票	枚 数	266	261	274	319	277	241	
	本 数	1,523	1,587	1,711	2,663	2,796	2,244	
ビ ド マー	本 数	6,098	6,066	6,497	7,211	6,849	5,615	
合 計	枚 数	2,217	2,339	2,304	2,445	2,359	2,050	
	本 数	24,092	30,358	24,611	26,558	28,623	20,225	

(※) IVH - 枚数 : 1 日 1 枚として集計。

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
78	73	112	111	81	79	1,056
114	102	186	170	127	124	1,653
157	110	552	357	195	154	3,236
1,150	1,130	1,275	1,213	996	1,196	14,082
3,052	2,583	3,080	3,172	2,443	2,864	34,011
16,667	12,848	17,592	17,015	13,322	14,384	177,603
6	3	9	7	7	7	84
6	3	9	7	7	7	84
6	3	9	7	7	7	84
1,228	1,203	1,387	1,324	1,077	1,275	15,138
3,166	2,685	3,266	3,342	2,570	2,988	35,664
16,824	12,958	18,144	17,372	13,517	14,538	180,839
1,207	1,111	1,267	1,216	1,127	1,320	13,927
93.9	93.8	91.9	91.6	93.3	94.4	93.0

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1,419	1,492	1,782	1,752	1,385	1,712	19,756
12,281	12,824	15,801	15,095	10,286	13,649	177,860
1,279	1,319	1,588	1,570	1,267	1,573	17,809
10,023	9,857	11,843	11,561	8,466	11,436	142,420
140	173	194	182	118	139	1,947
2,258	2,967	3,958	3,534	1,820	2,213	35,440
133	79	126	108	61	84	1,295
7	4	8	1	3	0	53
183	154	171	168	136	185	2,128
381	307	439	389	290	380	4,834
141	95	115	116	91	115	1,404
276	196	367	187	150	206	3,127
104	117	129	87	99	98	1,220
273	238	327	240	219	269	3,204
2,835	1,765	2,161	1,988	2,480	2,474	26,227
6,755	5,043	5,808	6,248	5,632	5,835	73,657
2,016	1,979	2,395	2,276	1,831	2,281	26,492
22,765	20,331	24,831	24,102	18,998	22,726	288,220

イ 抗がん薬調製数

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
抗がん薬調製数	本 数	51	45	44	83	79	45

③注射剤以外の医薬品等の払い出し状況

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
薬品請求伝票	枚 数	131	130	140	145	137	130
	本 数	1,198	1,106	890	1,287	1,117	809
ビドマー支給	本 数	328	278	247	396	415	369
合 計	枚 数	131	130	140	145	137	130
	本 数	1,526	1,384	1,137	1,683	1,532	1,178

④薬剤情報件数等

区 分		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
薬剤情報提供件数		34	51	38	39	29	28
薬剤管理指導(保険請求分)		131	116	110	127	130	111
退院時薬剤情報管理料件数		11	17	17	8	8	13
D I 情 報		14	16	13	13	8	16
薬 剤 鑑 別	患 者 数	13	9	11	7	10	9
	延べ剤数	22	16	24	28	19	24
医薬品安全性情報報告件数		0	0	0	0	0	0

⑤製剤等の状況(種類別、製剤件数及び量)

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
散 剤	件 数	39	34	29	29	44	57
内 用 液 剤	件 数	1	3	2	2	2	1
軟 膏	件 数	0	0	0	0	0	0
坐 剤	件 数	1	0	0	0	1	0
	数量(本)	90	0	0	0	90	0
外 用 液 剤	件 数	0	0	0	1	0	1
外用液剤(無菌調製)	件 数	10	9	11	20	21	19
注 射 剤(無菌調製)	件 数	23	21	14	52	49	21
合 計	件 数	74	67	56	104	117	99

<主な製剤内訳>

液剤(内用)	ミダゾラムシロップ	2.1 L
散剤(内用)	HMS - 1	371 件
	トロミ剤	220 件
軟 膏	30%カラヤ入り亜鉛華単軟膏	0.5 Kg
坐 剤	ワコピタル坐剤 10mg	180 個
無 菌 製 剤	フラッシュ用生食(5mL)	277 本
	エタノールロック注(1mL)	158 本
	MK注腸液(2.6mL)	80 本

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
64	36	46	32	36	52	613

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
129	132	141	189	134	134	1,672
1,104	892	1,067	1,572	965	848	12,855
374	159	285	224	234	187	3,496
129	132	141	189	134	134	1,672
1,478	1,051	1,352	1,796	1,199	1,035	16,351

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30	25	51	48	32	31	436
93	125	130	130	124	133	1,460
0	7	4	3	4	2	94
10	9	13	26	5	9	152
5	9	8	11	9	16	117
6	12	14	22	24	20	231
0	0	0	0	0	0	0

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
76	54	47	49	68	65	591
2	1	2	3	2	2	23
0	1	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	0	0	180
0	0	1	1	0	1	5
21	13	10	17	21	18	190
40	23	25	19	17	7	311
139	92	85	89	108	93	1,123

⑥薬効別薬品購入額

(単位：円・%)

薬効分類	令和5年度	令和6年度	構成比率
中枢神経系用薬	18,481,002	11,162,134	2.25%
末梢神経系用薬	3,777,917	4,199,113	0.85%
感覚器官用薬	2,627,388	2,007,933	0.41%
循環器官用薬	11,324,640	11,933,493	2.41%
呼吸器官用薬	4,071,765	4,804,706	0.97%
消化器官用薬	7,400,767	4,501,447	0.91%
ホルモン剤	22,424,183	15,183,148	3.06%
泌尿生殖器官及び肛門用薬	272,821	716,491	0.14%
外皮用薬	1,122,708	2,383,746	0.48%
ビタミン剤	666,948	765,306	0.15%
滋養強壯剤	9,029,195	8,954,029	1.81%
血液及び体液用剤	10,369,616	11,897,274	2.40%
その他の代謝性医薬品	118,700,721	130,470,271	26.33%
腫瘍用剤	11,221,398	19,559,094	3.95%
アレルギー用薬	496,531	2,761,203	0.56%
抗生物質製剤	9,391,759	10,610,445	2.14%
化学療法剤	97,630,915	173,050,076	34.92%
生物学的製剤	36,884,267	37,822,927	7.63%
調剤用薬	4,633,481	4,957,954	1.00%
診断用薬	1,733,747	2,766,862	0.56%
麻薬	1,305,829	1,618,649	0.33%
その他	36,037,996	33,442,606	6.75%
計	409,605,594	495,568,907	100.00%

(14) リハビリテーション

① 診療点数

区 分	理学療法	作業療法	言語療法	合 計
入 院	1,273,070	393,951	203,205	1,870,226
外 来	989,327	538,424	820,040	2,347,791
合 計	2,262,397	932,375	1,023,245	4,218,017

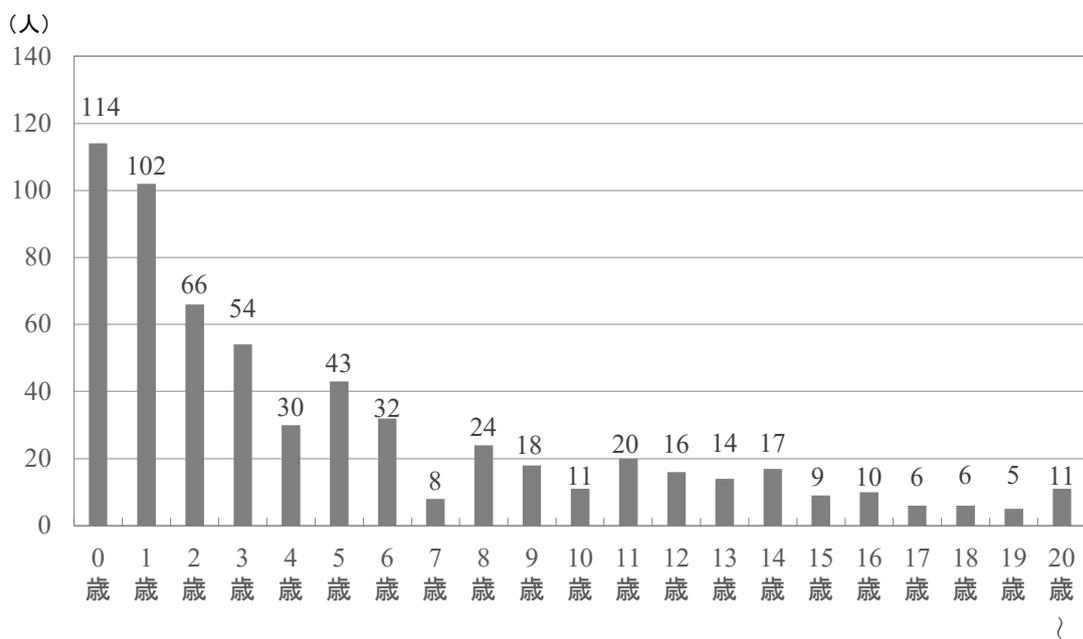
② 延べ治療件数

区 分	理学療法	作業療法	言語療法	合 計
入 院	3,275	1,211	648	5,134
外 来	2,316	1,300	1,697	5,313
合 計	5,591	2,511	2,345	10,447

③ 延べ単位数

区 分	理学療法	作業療法	言語療法	摂食機能療法	聴力検査	合 計
入 院	5,472	1,804	775	151	2	8,204
外 来	4,720	2,505	3,571	4	70	10,870
合 計	10,192	4,309	4,346	155	72	19,074

④ 年齢別新規患者数 (612人)



⑤リハビリテーション算定区分別実績

理学療法

	入 院		外 来	
	単 位 数	診療点数	単 位 数	診療点数
運動器疾患リハビリテーションⅠ	1,522	281,570	237	43,845
急性期リハ加算(運動Ⅰ)	60	3,000		
初期リハ加算(運動Ⅰ)	396	16,605		
早期加算(運動Ⅰ)	700	18,475		
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ	952	166,600	45	7,875
急性期リハ加算(呼吸Ⅰ)	403	20,150		
初期リハ加算(呼吸Ⅰ)	680	30,600		
早期加算(呼吸Ⅰ)	829	21,430		
心大血管疾患リハビリテーションⅠ	649	133,045	2	410
急性期リハ加算(心大Ⅰ)	160	8,000		
初期リハ加算(心大Ⅰ)	301	13,545		
早期加算(心大Ⅰ)	440	11,240		
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	258	51,600	33	6,600
急性期リハ加算(脳血管Ⅱ)	0	0		
初期リハ加算(脳血管Ⅱ)	24	1,080		
早期加算(脳血管Ⅱ)	87	2,330		
廃用症候群リハビリテーションⅡ	220	32,120	2	292
急性期リハ加算(廃用Ⅱ)	65	3,250		
初期リハ加算(廃用Ⅱ)	132	5,940		
早期加算(廃用Ⅱ)	181	4,585		
がん患者リハビリテーション料	170	34,850		
障害者リハビリ(6歳未満)	690	155,250	2,517	566,325
障害者リハビリ(6歳～18歳)	870	169,650	1,694	330,330
障害者リハビリ(18歳以上)	141	21,855	190	29,450
退院時リハビリ指導	140件	42,000		
リハ総合計画評価(医療)	81件	24,300	14件	4,200
合 計	5,472	1,273,070	4,720	989,327

作業療法

	入 院		外 来	
	単 位 数	診療点数	単 位 数	診療点数
運動器疾患リハビリテーションⅠ	82	15,170	64	11,840
急性期リハ加算(運動Ⅰ)	11	550		
初期リハ加算(運動Ⅰ)	22	990		
早期加算(運動Ⅰ)	45	1,195		
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ	101	17,675	0	0
急性期リハ加算(呼吸Ⅰ)	74	3,700		
初期リハ加算(呼吸Ⅰ)	90	4,050		
早期加算(呼吸Ⅰ)	101	2,580		
心大血管疾患リハビリテーションⅠ	100	20,500	0	0
急性期リハ加算(心大Ⅰ)	0	0		
初期リハ加算(心大Ⅰ)	7	315		
早期加算(心大Ⅰ)	49	1,225		
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	168	33,600	23	4,600
急性期リハ加算(脳血管Ⅱ)	0	0		
初期リハ加算(脳血管Ⅱ)	13	585		
早期加算(脳血管Ⅱ)	44	1,130		

廃用症候群リハビリテーションⅡ	246	35,916	4	584
急性期リハ加算(廃用Ⅱ)	28	1,400		
初期リハ加算(廃用Ⅱ)	98	4,410		
早期加算(廃用Ⅱ)	167	4,175		
がん患者リハビリテーション料	38	7,790	0	0
障害者リハビリ(6歳未満)	856	192,600	1,691	380,475
障害者リハビリ(6歳～18歳)	127	24,765	714	139,230
障害者リハビリ(18歳以上)	86	13,330	9	1,395
退院時リハビリ指導	14件	4,200		
リハ総合計画評価(医療)	7件	2,100	1件	300
合 計	1,804	393,951	2,505	538,424

言語療法

	入 院		外 来	
	単 位 数	診療点数	単 位 数	診療点数
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ	24	4,200	0	0
急性期リハ加算(呼吸Ⅰ)	12	600		
初期リハ加算(呼吸Ⅰ)	24	1,080		
早期加算(呼吸Ⅰ)	24	660		
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	159	31,800	43	8,600
急性期リハ加算(脳血管Ⅱ)	0	0		
初期リハ加算(脳血管Ⅱ)	0	0		
早期加算(脳血管Ⅱ)	39	1,050		
廃用症候群リハビリテーションⅡ	0	0	0	0
急性期リハ加算(廃用Ⅱ)	0	0		
初期リハ加算(廃用Ⅱ)	0	0		
早期加算(廃用Ⅱ)	0	0		
がん患者リハビリテーション料	12	2,460	0	0
障害者リハビリ(6歳未満)	544	122,400	2,591	582,975
障害者リハビリ(6歳～18歳)	36	7,020	937	182,715
障害者リハビリ(18歳以上)	0	0	0	0
摂食機能療法(3ヶ月以内)	151件	27,935	4件	740
摂食機能療法(3ヶ月以上)	0件	0	6件	1,110
遊戯聴力検査	0件	0	64件	32,000
乳児加算	0件	0	28件	9,800
標準純音聴力検査	2件	700	6件	2,100
退院時リハビリ指導	10件	3,000		
リハ総合計画評価(医療)	1件	300	0件	0
合 計	775	203,205	3,571	820,040

(15) 栄 養

①一般食の種類と食数

食種	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
幼児食	1	185	256	216	316	301	466	447	353	203	273	113	242	3,371
	2	306	420	233	229	320	245	233	374	267	329	291	511	3,758
学 童 食	1	123	150	352	283	276	154	169	293	263	162	47	54	2,326
	2	191	192	217	218	204	205	387	330	413	214	73	157	2,801
	3	363	309	266	268	272	176	44	51	39	119	259	281	2,447
	4	170	446	388	344	445	184	91	112	160	203	202	411	3,156
妊産婦食		929	832	844	994	732	708	562	578	684	533	684	772	8,852
全 粥 食		440	683	676	508	387	331	365	214	329	541	401	509	5,384
七分粥食		7		9	22	21		10	8	4	12		5	98
五分粥食		19	21	26	29	31	35	29	15	23	31	12	22	293
三分粥食		3	5	11	21	18	23		10	9	12		13	125
流 動 食		49	76	18	28	45	35	8	22	30	25	68	38	442
心カテ食		13	13	25	23	31	11	10	12	11	19	11	21	200
術 前 食			1	1					1					3
D A Y 食		2	3	3	4	2	3	1	2	1	3	2	1	27
歯科DAY食		35	32	34	37	27	34	36	32	35	31	31	32	396
食物負荷 D A Y 食			13	8	26	29	23	18	18	18	28	15	26	222
遅 延 食		75	81	87	89	114	81	44	62	64	67	52	96	912
計		2,910	3,533	3,414	3,439	3,255	2,714	2,454	2,487	2,553	2,602	2,261	3,191	34,813

②離乳食の種類と食数

食種	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
離 乳 食	初 期	144	22	35	79	49	51	79	3	27	14	16	57	576
	中 期	284	284	178	132	111	244	180	209	113	45	97	96	1,973
	後 期	112	174	219	220	126	219	313	160	165	77	31	155	1,971
	完了期	149	182	116	127	166	201	244	182	118	255	136	54	1,930
計		689	662	548	558	452	715	816	554	423	391	280	362	6,450

③特別食の種類と食数

食種	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
肝臓食	幼児													0
	学童		27	12							6	12		57
糖尿病食	幼児													0
	学童									63	85			148
	妊産婦	121	24	39	6	57	27	27	27	36	115	71	4	554
高脂血症食	幼児													0
	学童							4	90	93	93	84	93	457
膵臓食	幼児							1						1
	学童													0
潰瘍食	幼児													0
	学童					2								2
	妊産婦													0
低残渣食	幼児				2			46	19				14	81
	学童				1	1			28	84	47	1	1	163
計		121	51	51	9	60	27	78	164	276	346	168	112	1,463

④調乳の種類及び人数・本数

<ミルク>

種類		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		普通ミルク	人数	699	716	855	792	614	725	695	812	877	702	689
	本数	4,586	4,639	5,915	5,190	3,875	4,362	4,299	5,289	5,783	4,415	4,400	4,184	56,937
L B W	人数	100	99	61	102	150	82	133	120	75	99	85	71	1,177
	本数	892	824	496	908	1,446	728	1,092	1,040	628	884	792	660	10,390
ニュー MA-1	人数	17	5	46	14	9	30	11	6	30	35	63	108	374
	本数	108	33	304	112	71	202	65	48	238	296	526	813	2,816
M C T	人数	65	59	44	29	43	41	53	85	61	45	32	35	592
	本数	418	374	280	216	296	284	259	586	410	291	240	262	3,916
ケン ト フォーミュラ	人数	21	64	81	39	88	76	93	57	49	65	59	61	753
	本数	168	660	852	392	944	772	932	476	536	635	480	458	7,305
エレメンタル フォーミュラ	人数	1	6											7
	本数	5	25											30
計	人数	903	949	1,087	976	904	954	985	1,080	1,092	946	928	962	11,766
	本数	6,177	6,555	7,847	6,818	6,632	6,348	6,647	7,439	7,595	6,521	6,438	6,377	81,394

⑤濃厚流動食・成分栄養剤の種類及び人数・本数

<濃厚流動食・成分栄養剤>

種類		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		エンシュア	人数											
	本数													0
エンシュア H	人数	17	14	16					3	25	44	26		145
	本数	53	42	24					9	62	109	78		377
エネーボ	人数	99	90	114	119	129	100	91	74	135	154	63	100	1,268
	本数	321	365	358	439	433	242	276	229	470	570	176	313	4,192
ラコーラ	人数	22	86	26	46	28	38	110	74	34	41	31	13	549
	本数	106	460	93	92	188	168	637	475	284	260	201	50	3,014
ラコーラ (半固形)	人数	111	101	64	97	76	51	102	116	116	76	93	114	1,117
	本数	180	201	127	278	186	120	255	220	282	221	196	240	2,506
エレンターLP	人数	152	168	92	111	68	110	104	133	93	55	27	54	1,167
	本数	1,266	1,331	758	970	642	1,033	821	1,064	682	382	167	432	9,548
エレンター	人数	36	11	46	30	41	30	32	24	25	31	3	13	322
	本数	188	34	134	36	82	30	35	67	150	122	3	33	914
イノラス	人数	113	85	86	152	99	70	83	46	38	103	101	83	1,059
	本数	361	287	283	415	304	204	271	157	160	458	437	305	3,642
C Z - H i	人数	22	20	6					24	31	31	42	58	234
	本数	44	58	24					72	93	93	151	58	593
ブイアクセル	人数	87	96	75	80	85	70	57	41	11	11	2	5	620
	本数	118	127	105	147	126	100	86	41	11	11	2	5	879
糖 水	人数	3	4	12	2	2	30	25	1	2	2	5	4	92
	本数	21	20	65	24	10	121	109	1	10	7	50	12	450
ポカリスエット	人数	149	162	121	180	114	129	105	111	109	127	95	143	1,545
	本数	343	406	448	526	357	393	224	209	306	373	276	387	4,248
G F O 水	人数	8		21	12	10	4	18	60	41	54	44	68	340
	本数	15		78	99	50	12	66	158	175	157	136	233	1,179
MCT オイル	人数	87	100	86	120	96	150	135	51	75	52	127	101	1,180
	本数	102	332	179	120	272	422	529	277	121	60	471	149	3,034
計	人数	906	937	765	949	748	782	862	758	735	781	659	756	9,638
	本数	3,118	3,663	2,676	3,146	2,650	2,845	3,309	2,979	2,806	2,823	2,344	2,217	34,576

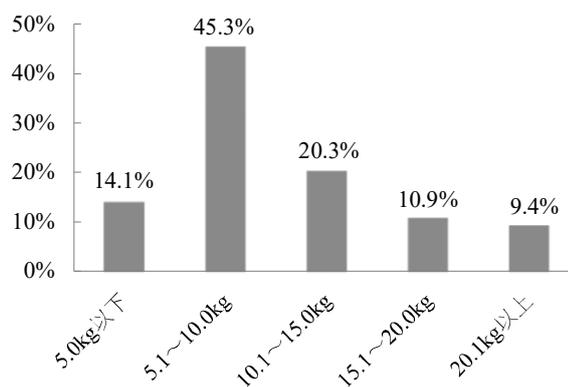
(16) 臨床工学課

①臨床業務症例数

	体外循環	心臓カテーテル検査	血液浄化療法	補助循環	内視鏡手術	NO吸入療法	ペースメーカーチェック	低酸素療法	脳低温療法	骨髄濃縮
4月	6	7			14	2	4		1	
5月	6	8			17	1	7			
6月	6	15	1	1	13	4	3	1		
7月	4	13			21	1	2	1		
8月	6	19			14		8		1	
9月	3	8			11	4	5		1	
10月	10	7			12	5	6		2	
11月	5	8			10	3	6			
12月	5	11	1	1	15	1	4			
1月	6	13			22	2	7			
2月	3	9			12	2	5	1		
3月	4	12			16	1	8			
合計	64	130	2	2	177	26	65	3	5	
前年比	102%	92%	50%	—	130%	1%	92%	150%	250%	—

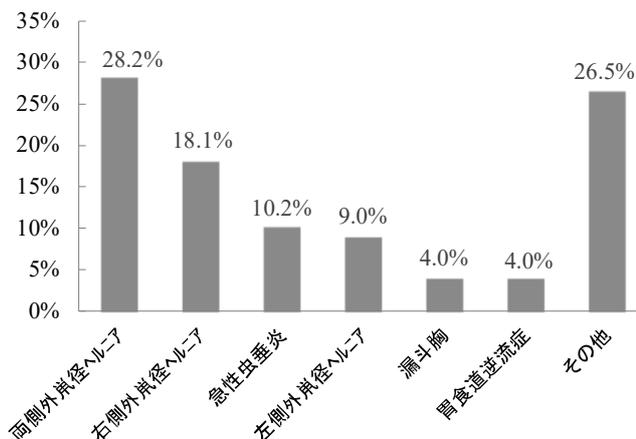
ア 体重別体外循環症例数

体重	症例数
5.0kg以下	9 (14.1%)
5.1～10.0kg	29 (45.3%)
10.1～15.0kg	13 (20.3%)
15.1～20.0kg	7 (10.9%)
20.1kg以上	6 (9.4%)
合計	64



イ 疾患別内視鏡手術症例数

疾患	症例数
両側外臬径ヘルニア	50 (28.2%)
右側外臬径ヘルニア	32 (18.1%)
急性虫垂炎	18 (10.2%)
左側外臬径ヘルニア	16 (9.0%)
漏斗胸	7 (4.0%)
胃食道逆流症	7 (4.0%)
その他	47 (26.5%)
合計	177



②月別日常点検件数

機 種 名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
麻酔器													
アバンス	1	2	3	1	2				3	2	2		16
ケアステーション	105	107	98	110	104	97	103	100	99	92	89	99	1,203
人工呼吸器													
BiPAP V60	1	4			1	1		1	4	2	2	2	18
ハミング X	2	2	2	4	3	5	8	4	4	3	2	2	41
Avea					1		1	1	1				4
Evita V800										2		2	4
Babylog VN800	2		1	3	1	2	2	2	1	1	1	2	18
ASTRAL												1	1
ハミング ビュー	9	4	4	8	4	7	10	6	6	7	5	4	74
プレジジョンフロー	1			1					2	1			5
ベネット 980	1	1	1	1	3	2	3	2	3	2	2	2	23
Vivo 45	1							1					2
Trilogy EVO	1	1	4		1	1		2					10
SERVO-n				2		1	2	1	1			1	8
Fabian NIV									1				1
ベネット 840	3	8	10	13	9	10	8	6	8	10	3	5	93
サイパップ	11	10	6	11	8	16	9	8	14	10	11	16	130
排痰補助装置				1									1
ネーザル ハイフロー	21	27	17	9	13	15	20	27	22	19	13	19	222
RTX												1	1
シリンジポンプ	371	355	244	266	331	293	214	302	337	255	315	276	3,559
輸液ポンプ	166	186	179	158	174	153	141	172	228	180	159	203	2,099
経腸栄養注入ポンプ	4	9	4	2		4	4	5	2	5	7	2	48
開放型保育器	7	5	4	5	5	3	2	6	10	9	4	9	69
光線治療器	2	3		3			3	3	3	5	3	1	26
除細動器 (AED)	55	56	50	56	45	49	52	45	46	49	49	50	602
人工心肺装置	6	6	6	4	6	3	10	5	5	6	3	4	64
ECMO装置			2						2				4
血液浄化装置			2						2				4
低圧持続吸引器	18	20	9	18	11	8	20	14	18	10	12	13	171
体温調節装置	1				2		2	1	2				8
加温加湿器					1			1		1			3
パルスオキシメータ				1	1	1			1		2	1	7
合 計	789	806	646	677	726	671	614	715	825	671	684	715	8,539

③月別人工呼吸器使用中点検件数

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
BiPAP V60	2	3	1						3	4	3	3	19
ハミング X	6		1	2	9	26	28	18	1	1	1	2	95
Avea	3	17	16	21	27	32	11	3	16	16	17	17	196
Evita V800										5		8	13
Babylog VN800	8		5	20	18	17	13	17		23	22	31	174
ASTRAL	8	13	14	18	21	18	16	14	13			5	140
ハミング ビュー	13	1	14	47	39	30	28	2	3	18	40	9	244
プレジジョンフロー	15	2	13	8	6		10		4				58
ベネット 980	35	18	21	38	37	30	41	50	23	34	33	35	395
Vivo 45	39	36	24	30	33	26	33	35	29	43	37	36	401
Trilogy Evo	84	101	89	141	93	85	127	94	74	79	85	89	1,141
SERVO-n				18	2	10	7	4		2	18	14	75
LUISA	18	18	15	28	27	31	45	34	28	30	16	20	310
Fabian NIV									2			8	10
NKV550									6		1		7
ベネット 840	24	24	38	33	31	21	13	27	31	20	7	10	279
サイバップ	22	29	27	61	50	34	56	58	26	25	41	85	514
ネーザル ハイフロー	119	147	129	66	59	103	115	124	77	88	71	111	1,209
合計	396	409	407	531	452	463	543	480	336	388	392	483	5,280

④月別人工呼吸器回路交換件数

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ハミング X						1		1					2
Avea	1								1	1		1	4
Babylog VN800				1							1	1	3
ASTRAL	1		1	1	1								4
ハミング ビュー				1	1		1						3
ベネット 980	2	1		2	1	1	1	1	1	1	2	1	14
Vivo 45	2	2	1				1	1	2	1	2	2	14
Trilogy Evo	2	2	1	3	3	3	1	1	3	2	2	2	25
LUISA	1		1	1	2	1	2	1	2	1	1		13
ベネット 840			1	1	1					1			4
サイバップ				1		1						1	3
ネーザル ハイフロー	1		2		1		1	1	2	2			10
合計	10	5	7	11	10	7	7	6	11	9	8	8	99

⑤月別定期点検件数

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
麻酔器						2						5	7
窒素用酸素濃度計									1				1
シリンジポンプ							193						193
輸液ポンプ							107						107
人工呼吸器													
BiPAP V60								2					2
パーカッション ベンチレータ							1						1
Avea						1							1
BiPAP A40		2	1		2	1		2	1				9
Babylog 8000plus				1									1
Babylog VN800									2				2
ASTRAL	2	2	3	3	2	2	1	1	2	1	2	2	23
ハミング ビュー						1	2	1					4
プレジジョンフロー									1	1			2
ベネット 980							1	1	1				3
Vivo 45			4	1	1	3	1	1	3		2		16
Trilogy EVO	13	11	18	12	11	16	3	12	17	5			118
SERVO-n								2					2
ベネット 840						7							7
SiPAP				1	1	2	1	1	1	1	1	2	11
新生児用保育器				4	11	5		3	2				25
開放型保育器					1	2	3	4	5				15
搬送用保育器					1				3		1		5
除細動器	8			8	7		5	3		8			39
人工心肺装置				1									1
補助循環装置				3									3
血液浄化装置											2	1	3
セントラルモニター							10			2			12
CO2モニター												2	2
体外式ペースメーカー						1	4	1					6
分娩監視装置										9			9
ハミング ピストン		1			4	4	3	1				1	14
合計	23	16	26	34	41	47	335	35	39	27	8	13	644

⑥月別院内修理件数

機 種 名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内視鏡洗浄装置			1										1
シリンジポンプ	15	4	4	3		5	3	3	1				38
輸液ポンプ	2	1		1	2	1	1	7		3	1		19
人工呼吸器		1			1		1	1	1				5
光線治療器												1	1
パルスオキシメータ									2		1		3
CO2モニター				2									2
合 計	17	6	5	6	3	6	5	11	4	3	2	1	69

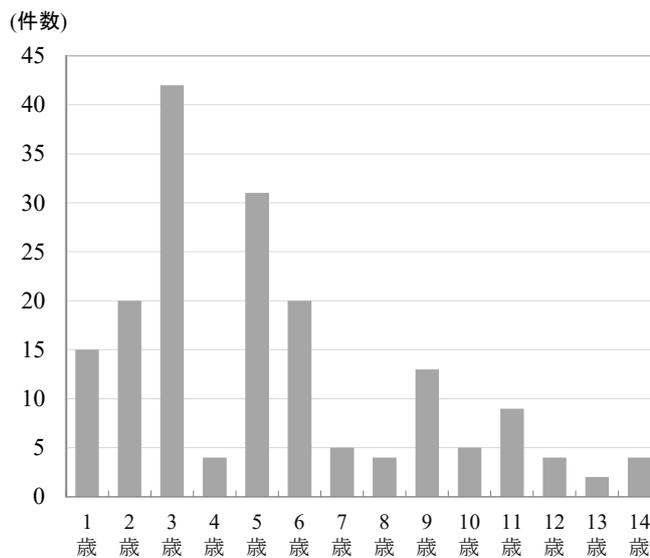
(17) 心理相談室

①心理検査

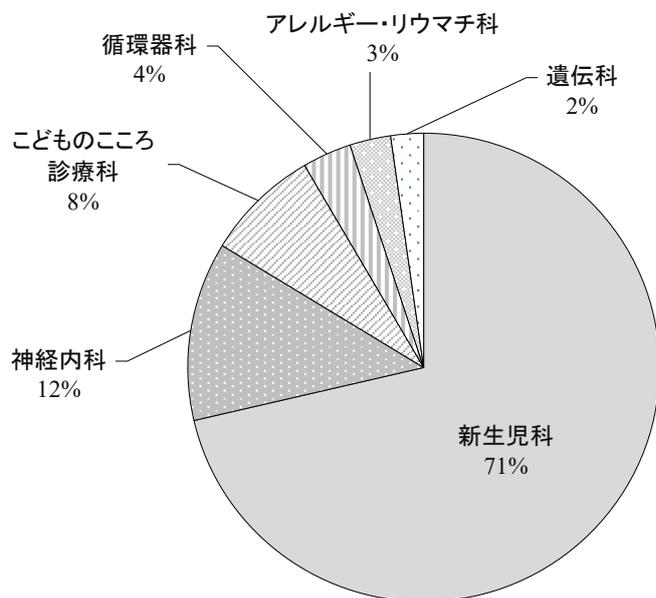
ア 心理検査 (実施検査数)

新版 K 式発達検査	86
WISC-V/IV 知能検査	83
M-CHAT	32
PF スタディ	12
PARS-TR	10
Wppsi-III	7
描画テスト	5
感覚プロファイル	4
Conners3	3
SCT	3
田中ビネー知能検査 V	2
DSRS-C (抑うつ尺度)	2
その他	5
計	254

イ 年齢別被検査者数 (N=178)



ウ 依頼科 (N=178)

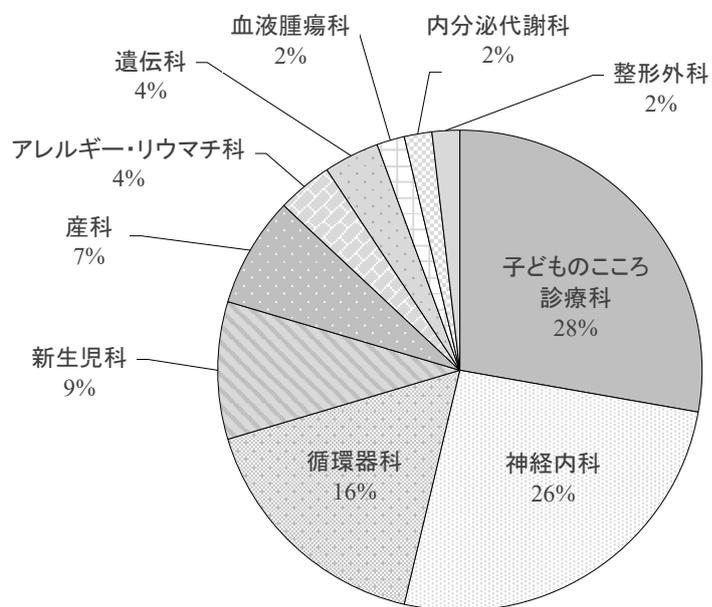


②カウンセリング

ア カウンセリング (実施内容および件数)

心理カウンセリングの主訴	対象家族数	対象者数	延べ実施回数
心理的発達障害 (自閉症を含む)	11	21	52
周産期の心理支援	4	4	10
身体表現性障害 (心身症を含む)	2	1	9
ストレス関連障害	0	0	0
登校の問題	4	6	27
育児に関する内容	6	7	6
神経性障害	8	10	22
生理的・身体的要因に関する関連した行動症候群 (摂食障害を含む)	1	1	4
心理士によるコンサルテーション・関係者会議	0	0	0
行動・情緒の問題 (多動症を含む)	9	16	64
治療サポート	7	7	17
気分障害	2	2	3
計	54	75	214

イ 初回カウンセリング実施時の受診科 (N=54)



(18) 母子保健室

①精密健康診査

ア 保健福祉事務所・保健所別受診状況

管 轄		前橋	高崎	安中	渋川	藤岡	富岡	吾妻	沼田	伊勢崎	桐生	太田	館林	県外	計
受診者数	R6年	2	11	0	27	0	0	8	5	4	1	2	0	1	61
	R5年	8	14	0	23	0	2	8	8	9	0	3	1	2	78

イ 科別・年齢別受診状況

科 目	受診者数	年 齢 別 受 診 者 数					R5年度 受診者数
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	
一般小児内科	12	2	2	1	6	1	11
神経内科	8	3	5	0	0	0	17
循環器科	1	0	1	0	0	0	2
外科	13	3	2	1	7	0	14
整形外科	15	8	5	1	1	0	18
形成外科	8	6	1	0	1	0	7
歯科	0	0	0	0	0	0	0
その他	4	0	0	0	3	1	9
合 計	61	22	16	3	18	2	78

ウ 科別受診状況及びその結果

区分 科別疾患名	受診者数	受 診 結 果					R5年度 受診者数
		異常なし	要観察	要治療	要訓練 (重複あり)	その他 (重複あり 紹介等)	
一般小児内科総数	12	3	7	1	0	1	11
神経内科総数	8	1	2	2	3	0	17
循環器内科総数	1	0	1	0	0	0	2
外科総数	13	0	9	2	0	2	14
整形外科総数	15	1	13	1	0	0	18
形成外科総数	8	0	3	4	0	1	7
歯科総数	0	0	0	0	0	0	0
その他	4	2	2	0	0	0	9
総 数	61	7	37	10	3	4	78

②新生児・未熟児病棟および他病棟入院患児の退院連絡

	退院連絡依頼数	返 信 数	令和5年度依頼数
新生児・未熟児病棟	143	83	103
他 病 棟	30	17	18
計	173	100	121

③関係機関との連携状況

区 分	家 庭	院 内	県保 福児 関相 以外 係の	保健 福祉 事務 所	児 童 相 談 所	市 町 村	医 療 機 関	幼 学 校 ・ 保 育 園 所	訪 問 看 護 ス テ ー シ ョ ン	施 設	そ の 他	計 内 訳 (電話/面接)
養 育 支 援	347	97			1	201	3	11	3		1	664 (287/377)
療 育 支 援	7	6				5				1		19 (8/11)
成 長 発 達	2					1						3 (1/2)
病 気												0
受 診 支 援	2	1				2						5 (4/1)
予 防 接 種		1				1						2 (2/0)
医 療 福 祉												0
保 健 医 療						1						1 (1/0)
患 者 家 族 会	41	1	2								1	45 (8/37)
マ ス ・ ス ク リ ー ニ ン グ				1			33					34 (34/0)
遺 伝 相 談												0
妊 娠 ・ 出 産 相 談	145	71			1	150	3					370 (202/168)
研 修 ・ 調 査	1					2						3 (2/1)
そ の 他	2	2										4 (2/2)
計	547	179	2	1	2	363	39	11	3	1	2	1,150 件 (551/599)

④関係機関との連携会議

検討内容	実 数	延 数
教育機関・地域との調整	6	7

⑤親の会への支援

「あさがおの会」は、コロナ渦では対象年齢を広げ開催していたが、R6年度は本来の対象年齢である3歳未満のお子さんご家族を対象に6月と11月に開催した。また「にこちゃんカフェ」は、参加いただいているご家族からの要望もあり、今年度初めて口唇口蓋裂の疾患を持つ当事者とそのご家族2組をお招きして、体験談などをお話いただいた。参加されたご家族からは、自分が悩んでいたことが共有できた、疾患に対して前向きな気持ちになり楽になった等の感想をいただき有意義な開催となった。

- | | | |
|---------------------------|-----|----|
| ・ダウン症親の会 (あさがお) | 交流会 | 2回 |
| ・口唇口蓋裂患者・家族交流会 (にこちゃんカフェ) | 交流会 | 1回 |

⑥群馬県先天性代謝異常等検査事業

事務局として精密検査対象児の精検結果の把握、及び継続治療・経過観察児のフォローアップとして追跡調査を実施した。

<令和6年度患者発見状況報告> (速報値)

- | | |
|-----------------------------------|---------|
| ・一時検査実施実人数 | 10,458人 |
| ・再検査実施実人数 | 606人 |
| ・タンデムマスメールカンファレンス | 2件 |
| ・精密検査対象者実人数 | 33人 |
| ・患者確定人数 (前年度検査を受け、令和6年度に確定した者を含む) | |
| 先天性甲状腺機能低下症 | 13人 |

(19) 地域医療連携室

①医療相談件数 (令和6年度)

ア 相談内容及び件数 (地域医療連携室)

	第一 病棟	第二 病棟	第三 病棟	新生 児病 棟	産科 病棟	P I C U	外 来	そ の 他	合 計		
									総計	内 訳 面接 / 電話 / カンファレンス	内 訳 新規 / 継続
転院・退院・入所	207	130	70	553	1	8	411	9	1,389	(615/704/70)	(196/1,193)
ショートケア	23	1	7	1	5	0	224	0	261	(151/106/4)	(9/252)
指導管理料関係	5	7	0	0	0	0	14	0	26	(8/15/3)	(1/25)
訪問看護	86	50	74	36	0	6	372	7	631	(103/518/10)	(28/603)
多職種連携	13	0	5	86	16	0	78	70	268	(26/68/174)	(157/111)
退院後フォロー	1	1	5	6	3	0	957	2	975	(838/113/24)	(7/968)
医療費・経済	0	3	3	4	30	0	42	2	84	(36/48/0)	(26/58)
医療給付制度	15	15	108	77	2	52	307	8	584	(280/302/2)	(269/315)
福祉サービス	101	63	88	33	13	22	1,015	14	1,349	(398/920/31)	(212/1,137)
心理的	8	13	3	3	0	1	21	2	51	(21/24/6)	(13/38)
新生児入院面接	0	4	16	222	7	8	14	2	273	(221/51/1)	(199/74)
その他	219	57	98	39	123	55	822	97	1,510	(276/1,122/112)	(282/1,228)
合 計	678	344	477	1,060	200	152	4,277	213	7,401	(2,973/3,991/437)	(1,399/6,002)

イ 公費負担医療費申請等事務取扱件数

区 分	件 数
未熟児養育医療	130
小児慢性特定疾病医療給付	622 (555)
指定難病医療給付	18 (14)
通院医療費公費負担制度	4 (2)
合 計	774 (571)

() 内は継続数

ウ 身体障害者手帳等事務取扱件数

区 分	件 数
身体障害者手帳	※106
特別児童扶養手当	※91
障害児福祉手当	※87
その他の診断書等	1,095
合 計	1,379

※再認定を含む

②子ども虐待防止対策事業

ア 院内 CAPS 開催状況

- 令和6年5月27日 「ショートケアでお預かり中に母と連絡が取れなくなった事例」
；児童相談所に相談
- 令和6年8月5日 「顔面の痣と複数の肋骨骨折を認めた事例」 ；児童相談所に通告
- 令和6年9月17日 「背中に縫い針が刺さっていた事例」 ；児童相談所に通告
- 令和6年9月17日 入院対応の必要性について対応協議
- 令和6年10月28日 「体重増加不良事例」 ；児童相談所に通告
- 令和6年11月6日 「墜落産事例」 ；当院への搬送に際し児童相談所に通告

イ 要支援事例検討会状況：年6回 奇数月の第二水曜日に開催

性別 月齢・年齢	男		女		計	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
1ヶ月未満	3	3	0	0	3	3
1～6ヶ月	4	9	0	0	4	9
7～12ヶ月未満	0	1	0	0	0	1
1～2歳	1	2	0	0	1	2
3歳～学齢前児童	5	11	0	0	5	11
小学生	2	2	1	5	3	7
中学生	0	0	2	4	2	4
高校生・その他	0	0	1	1	1	1
計	15(3)	28	4	10	19(3)	38
(令和5年度)	10(1)	16	12(1)	21	22(2)	37

() 内は前年度からの継続人数

<分類>

内容 年度	身体的	心理的	ネグレクト	性的	代理ミューン ヒハウゼン	障害受容	養育環境	母の精神面
令和6年度	2	0	0	0	0	0	16	1
(令和5年度)	0	0	0	0	0	0	19	3

母の精神面については、精神科または心療内科受診歴がある場合を計上。

ウ 支援会議実施状況

内容 月齢・年齢	在宅支援	育児支援	院内会議	その他	計
1ヵ月未満	0	0	0	0	0
1～6ヵ月	4	1	1	0	6
7～12ヵ月	3	1	3	1	8
1～2歳	0	1	0	1	2
3歳～学齢前児童	1	2	0	3	6
小学生	0	0	0	0	0
中学生	0	1	1	0	2
高校生・その他	1	0	0	1	2
計	9	6	5	6	26

③関係機関訪問：各地域の関係機関との連携強化を目的に医師、看護師、SWで関係機関へ訪問をさせていただいている。

令和6年度 訪問先	訪問目的・協議内容
原町赤十字病院	ケースの共有、今後の移行期支援についての協力依頼
中田クリニック	成人移行の相談、病院間での治療相談・情報共有できる関係性の維持について
障害児者短期入所施設 翠のこかげ	施設見学、情報共有

総括編

1. 沿 革

小児医療センターは、こどもたちが心身ともに健やかに生まれ、育成されることを目的として、高度専門的な総合的小児医療、保健活動を目指す施設として構想され、まず本県における小児保健医療の現状から緊急に必要な未熟児・新生児・乳児低年齢層の幼児を中心として専門的な診断治療を行うほか、母子保健活動、小児保健医療の調査研究研修を行う施設として、昭和 57 年 4 月 1 日に開設し、同年 7 月 1 日から全面的に診療活動を開始した。

- 昭和 47 年 9 月 建設調査検討開始
- 48 年 5 月 群馬県小児病院調査委員会発足 (会長 吉野文郁、委員 17 名)
- 50 年 1 月 調査委員会「群馬県小児医療センター基本構想」を答申 (規模: 病床数 200 床程度)
- 50 年 6 月 群馬県小児医療センター建設委員会発足 (委員長 知事、委員 22 名)
- 52 年 3 月 県議会「県立小児病院建設促進についての意見書」を採択
- 52 年 8 月 小児医療センター建設促進懇談会、建設構想を作成し知事に提示
提案者: 県医師会長鶴谷孔明ほかメンバー 9 名
内 容: 病床数 60 床 (新生児科 30、小児内科 20、小児外科 10)
- 53 年 3 月 53 年度当初予算 7 億 9 千万円議決 (用地取得費 290 百万円、建設基金積立 500 百万円)
- 53 年 10 月 小児医療センター建設準備室設置
- 53 年 12 月 小児医療センター建設専門会議発足 (議長 衛生環境部長、委員 10 名)
- 54 年 2 月 小児医療センター建設基本方針及び基本計画決定 (病床規模 60 床)
- 54 年 3 月 54 年度当初予算 8 億 9 千万円議決 (設計委託料、基金積立等)
- 54 年 9 月 建設基本方針及び基本計画の一部変更決定 (病床規模 80 床)
- 54 年 11 月 設計委託契約の締結 (株式会社アルコム)
- 55 年 3 月 55 年度当初予算 7 億 6 千万円 議決 (本館建設費等)
- 55 年 10 月 小児医療センター起工式
- 56 年 3 月 56 年度当初予算 34 億 1 千万円議決 (建設費、医療機器購入等)
- 56 年 4 月 小児医療センター看護要員県外研修派遣 (1 年間、19 名)
- 57 年 3 月 小児医療センター建設完工
- 57 年 3 月 小児医療センターを県立病院として設置する「群馬県病院事業の設置等に関する条例」の一部改正議決
- 57 年 3 月 医療法 7 条に基づく病院開設許可 (80 床)
- 57 年 4 月 小児医療センター開設
- 57 年 5 月 小児医療センター落成式
- 57 年 7 月 診療活動を開始 (川崎病患者については 6 月より診療開始)

◆開院後の歩み

- 昭和 57 年 4.1 群馬県立小児医療センター設置、院長として神邊 譲 就任
5.1 保険医療機関の指定 (勢医 1014. 5010042)
// 療養取扱機関の申出の受理 (勢国医 1014. 205145)
5.27 日本麻酔科学会麻酔指導病院認定
6.9 結核予防法による医療機関の指定 (指定番号 1572)
6.30 母子保健法による未熟児養育医療担当機関の指定 (群馬県指令保福第 6 号)(未熟児収容定員 20 人)
7.1 生活保護法による医療機関の指定 (勢医 68 号)
10.1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される (認定期間 1982 年 7 月 1 日より 1987 年 6 月 30 日)
10.12 身体障害者福祉法指定医 (障第 141 号) 松山四郎、小泉武宣、清水信三
12.1 基準給食承認 (食第 104 号)
- 58 年 1.1 基準看護 (特 2 類)(看護 47 号)、基準寝具 (寝第 127 号) 承認
2.1 児童福祉法による育成医療機関 (心臓血管外科) 指定
2.12 身体障害者福祉法による厚生医療担当医療機関 (心臓血管外科) 指定
3.23 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令 (医) 第 206 号) 病床数及び従業員数の変更
3.30 病院施設使用許可 (医第 213 号) 病床増に伴うもの (98 床)
5.1 基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認 (群馬県指令保第 51 号) 基準看護 (特 2 類)、給食、寝具 (98 床)
7.1 重症者の看護及び重症者の収容基準実施承認 (群馬県指令保第 55 号) 看護 3 床
8.1 同 上 (群馬県指令保第 62 号) 看護 7 床、収容 2 床
- 59 年 3.29 群馬県小児医療センター建設事業基金条例の廃止
4.1 群馬大学医学部小児科学学生臨床実習指定病院
4.11 県立福祉大学校看護学科看護婦養成所の実習施設に指定
- 60 年 5.1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
- 61 年 3.1 日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
認定期間 1986 年 3 月 1 日～1991 年 2 月 28 日 (認定番号 105 号)
4.1 全国自治体病院協議会群馬県支部長として神邊 譲 就任
5.1 紹介型病院承認 (許可番号 (紹) 第 1 号)
8.1 在宅酸素療法指導管理届出の受理 (保第 810 号)
9.10 昭和 61 年度全国自治体病院協議会関東地方会議主催 (支部長 神邊 譲)
- 62 年 3.1 児童福祉法による育成医療機関 (小腸に関する医療) 指定
6.1 在宅中心静脈栄養法指導管理届出の受理 (保第 659 号)
- 63 年 4.1 在宅経管栄養法指導管理実施届出の受理 (保第 393 号)
// 基準看護 (外科特 3 類) の承認 (棟看第 1 号)
5.1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
- 63 年 7.1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される
認定期間 1987 年 7 月 1 日～1992 年 6 月 30 日
8.1 基準看護 (外科特 3 類→特 2 類) の承認
- 平成元年 2.1 臨床修練 (小児疾患) 指定病院 (厚生省収健政第 20 号)(外国医師又は外国歯科医師)
3.1 基準看護 (外科特 3 類) の承認 (棟看第 1 号)
- 2 年 2.1 在宅自己導尿指導管理実施届出の受理
7.1 紹介外来型病院の指定 (厚生省収保第 1006 号)
- 3 年 3.1 日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定

- 認定期間平成3年3月1日～平成8年2月29日(認定番号105号)
- 5.1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
 - 4年 7.1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される
認定期間1993年7月1日～1998年6月30日
 - 5年 4.1 2代目院長として松山四郎 就任
// 無菌調剤処理施設基準承認(菌)第7号
 - 10.1 基準看護内科外科特3類(棟看第1号)、未熟児・新生児特2類(棟看第47号)の承認
// 在宅人工呼吸指導管理実施届出の受理(保第1762号)
 - 6年 5.1 保険医療機関指定(勢医1014)
 - 8.1 基準看護承認特3類3病棟98床(看)第1号(特3)
 - 9.1 重症者の特別の療養環境基準実施承認(内科、外科各2床)
 - 10.1 新看護等の基準に係る届出、一般病棟3病棟98床(看第5号(2対1A))
 - 7年 7.20 身体障害者福祉法指定医(障第110号)鈴木則夫・丸山健一・重田 誠
 - 8.1 更生医療担当医療機関指定(障第111号)
 - 11.1 夜間勤務等看護に係る届出(保第1926号)(夜看I・II)
 - 8年 3.1 入院時食事療養等届(特別管理・適時適温)(保第416号)
 - 4.1 3代目院長として土田嘉昭 就任
// 新看護等(夜間勤務等看護)に係る届出(夜看)第24号(Ia-3)
// 画像診断管理の施設基準に係る届出
// 手術前医学管理料に係る届出(手前管)第32号
 - 11.1 院内感染防止対策に係る届出(感防)第89号
 - 9年 5.1 麻酔管理料に係る届出(麻管)第18号
 - 5.2 日本形成外科学会認定医制度教育関連施設として認定(登録番号97-321U)
 - 5.26 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令渋保第45号)
病床数の変更(内科病棟40床、外科病棟28床)
 - 9.17 身体障害者福祉法指定医(障第151号)設楽利二・小林富夫
 - 12.1 重症者の特別の療養環境基準実施承認(重第38号)内科2床増
 - 10年 4.1 無菌治療室管理の施設基準に係る届出
 - 7.1 新生児特定集中治療室管理の施設基準に係る届出(新)第3号
 - 11年 3.5 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第230号)外来棟増築
 - 6.1 経皮的冠動脈形成術の施設基準に係る届出(経形)第26号
 - 11.1 ペースメーカー移植術の施設基準に係る届出(ペ)第47号
// 大動脈バルーンパンピング法の施設基準に係る届出(大)第28号
 - 11.15 病院開設許可事項の一部変更許可(群馬県指令医第217号)
病棟間の病床数の変更(外科病棟28床→30床 未熟児・新生児病棟30床→28床)
// 身体障害者福祉法に基づく医師の指定(障第103号)篠原 真
 - 12.1 理学療法Ⅱの施設基準に係る届出(理Ⅱ)第72号
 - 12年 1.1 経皮的冠動脈ステント留置術の施設基準に係る届出(経ス)第25号
// 経皮的冠動脈血栓切除術の施設基準に係る届出(経切)第24号
 - 3.1 夜間勤務等看護に係る届出(平成12年3月1日における病棟間の病床数移動による届出)(夜看)第75号
 - 4.1 検体検査管理加算(I)の施設基準に係る届出(検I)第7号
 - 5.1 保険医療機関の指定(勢医1014)
 - 11.22 身体障害者福祉法に基づく医師の指定(障第103号)丸山憲一
 - 13年 1.21 日本小児科学会認定制度施設として認定される
認定期間2001年4月1日～2006年3月31日(認定番号105号)

- 3.23 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 145 号) 前田昇三
- 14 年 4.1 1 歳未満の乳児に対する手術に係る届出 (乳外) 第 1 号
 - 〃 画像診断管理加算 2 の施設基準に係る届出 (画 2) 第 7 号
- 7.19 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-56 号)
 - 病床数の変更 (内科病棟 40 床→45 床)
- 7.26 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-7) 西村秀子
- 10.1 医療安全管理体制及び褥瘡対策の基準に係る届出 (群社局文発第 1579 号)
- 11.22 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-15) 平形恭子
- 11.27 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-108 号)
 - 病棟間の病床数の変更 (内科病棟 45 床→44 床、外科病棟 27 床→28 床)
- 15 年 1.14 開設許可事項一部変更届 (標榜科目の変更)
 - 4.1 診療科目 (小児科、小児外科、麻酔科、放射線科に循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科を加える)・病床数 (98 床→103 床)の変更
 - 8.1 児童福祉法による育成医療機関 (中枢神経に関する医療) 指定
- 16 年 2.26 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-169 号)
 - 新病棟の建設、旧病棟の用途変更、一般病床の増加 (103 床→150 床)
- 4.1 褥瘡患者管理加算の施設基準に係る届出 (褥) 第 20 号
 - 〃 尿道形成手術等に関する施設基準に係る届出 (2 エ) 第 17 号
 - 〃 肝切除術等に関する施設基準に係る届出 (2 カ) 第 28 号
 - 〃 食堂切除再建術等に関する施設基準に係る届出 (3 カ) 第 22 号
 - 〃 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (電池交換を含む。)に関する施設基準に係る届出 (ペース) 第 56 号
 - 〃 冠動脈、大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術に関する施設基準に係る届出 (冠動) 第 3 号
 - 〃 1 歳未満の乳児に対する手術に関する施設基準の届出 (加乳外) 第 1 号、(乳外) 第 2 号
- 5.1 小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 (小入 1) 第 5 号
- 5.27 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-34 号) 本館の一部構造等変更
 - 6.1 言語聴覚療法Ⅲの施設基準に係る届出 (言語Ⅲ) 第 2 号
- 7.20 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-7) 渡辺美緒
- 8.9 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-65 号) 本館の一部構造等変更
 - 11.20 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-16) 村松礼子
- 11.1 小児入院医療管理料 2 の施設基準に係る届出 (小入 2) 第 16 号
- 12.2 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-121 号) 本館の一部構造等変更
- 17 年 3.1 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
 - 〃 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-160 号)
- 4.1 4 代目院長として林 泰秀 就任
 - 〃 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出 増床 (一般入院) 第 102 号
 - 〃 小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 増床 (小入 1) 第 5 号
 - 〃 小児入院医療管理料 2 の施設基準に係る届出 増床 (小入 2) 第 16 号
 - 〃 夜間勤務等看護加算 1 の辞退 (夜勤看) 第 127 号
 - 〃 新生児特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 増床 (新) 第 3 号
- 5.1 病院開設届出事項一部変更届 (標榜科目の変更)

- (小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科の9科に、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科の5科を加え14科とする)
- 5.1 保険医療機関指定申請 (歯科)
 // 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出産科 (一般入院) 第 102 号
 // 総合周産期特定集中治療室管理料施設基準に係る届出 (周) 第 2 号 (新生児特定集中治療室管理料の辞退を含む)
- 5.2 理学療法Ⅱの施設基準に係る届出 (医師・PT の変更)(理Ⅱ) 第 72 号
- 6.1 病院開設届出事項一部変更届 (標榜科目の変更)
 (小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科の14科に、精神科を加え15科とする)
 // 保険医療機関記載事項変更届 (精神科)
 // 一般病棟 I 群入院基本料 1 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
- 7.14 褥瘡患者管理加算届出 (専任看護職員変更)(褥) 第 20 号
- 7.27 身体障害者福祉法指定医 (群馬県指令障第 501-5 号) 鈴木尊裕、戸所誠
 // 更生医療機関届出 (整形外科) 群馬県指令障第 501-6 号
- 8.22 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-46 号) 外来診療室、病室名等の変更
- 10.1 特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 (集) 第 13 号
- 18 年 1.1 療養環境加算の施設基準に係る届出 (療) 第 58 号
- 1.24 無菌製剤処理加算の施設基準に係る届出クリーンベンチ増設 (菌) 第 7 号
- 2.1 重症者療養環境特別加算に係る届出 変更 (重) 第 38 号
 // 自立支援医療に係る指定自立支援医療機関の指定
- 3.2 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-139 号)
 病院施設の一部構造等変更 (MRI 検査車両の設置)
- 3.31 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-164 号)
 病院施設の一部構造等変更 (MRI 検査車両の撤去)
- 3.29 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-171 号)
 病院施設の一部構造等変更 (言語聴覚室)
- 4.1 補綴物維持管理料 (補維) 第 1033 号
 // 特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 (4→6)(集) 第 13 号
 // 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の施設基準届出 (通手) 第 54 号
 // 小児入院医療管理料 1 の施設基準届出 (小入 1) 第 5 号
 // 小児入院医療管理料Ⅱ(第 1 病棟・新生児未熟児病棟) の施設基準届出 (小入 2) 第 16 号
 // 一般病棟 7 対 1 入院基本料に係る施設基準届出 (一般入院) 第 102 号
 // 栄養管理実施加算に係る施設基準の届出 (栄養管理) 第 116 号
 // 単純 CT 撮影及び単純 MRI の施設基準の届出 (単) 第 56 号
 // 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準の届出 (運Ⅰ) 第 59 号
 // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準の届出 (脳Ⅱ) 第 70 号
 // 呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準の届出 (呼) 第 29 号
 // 歯科疾患総合指導料 1 の施設基準の届出 (歯総指) 第 614 号
- 5.1 保険医療機関及び保険薬局の更新について (群社局文発 815 号)
- 7.20 身体障害者福祉法指定医指定願 (群馬県指令障第 30057-2 号)
- 7.21 医療安全対策加算に係る施設基準の届出 (医療安全) 第 17 号

- 8.23 指定自立支援医療機関 (精神通院医療) の指定手続き (保予第 30023-12 号)
- 9.29 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る医師及び作業療法士の追加届出 (運 I) 第 59 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る作業療法士の追加届出 (脳 II) 第 70 号
- 10.2 診療録管理体制加算に係る施設基準の届出 (診療録) 第 38 号
- 11.20 ハイリスク分娩管理加算に係る施設基準の届出 (ハイ分娩) 第 10 号
- 19 年 2.28 指定自立支援医療機関 (育成医療・更生医療) の指定通知について (障第 30052-13 号)
 - 4.1 病院開設届出事項一部変更届 (標榜科目の変更)
(小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科、精神科の 15 科に、整形外科を加え 16 科とする)
 - // 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の受理 (通手) 第 54 号
 - 4.9 呼吸器リハビリテーション料 (I) 及び医学管理料 (I) の施設基準に係る届出 (医師の変更)(呼 I) 第 29 号
 - 4.17 特定疾患医療給付等に関する群馬県知事との契約書について (保予第 708-2 号)
 - // 保険医療機関記載事項変更の届出
 - 4.23 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令渋保福第 551-2 号)
病院施設の一部構造等変更 (言語聴覚室)
 - 4.27 障害者自立支援法第 59 条第 1 項の規定による指定自立支援医療機関 (育成医療・更生医療) 指定の変更 (医師の変更) 障第 30052-3 号
 - 5.31 臨床研修病院入院診療加算の届出 (臨床研修) 第 21 号
 - 6.19 輸血管管理料 (I) の届出 (輸血 I) 第 8 号
 - 7.18 褥瘡患者管理加算の施設基準に係る専任看護師の変更届出 (褥) 第 20 号
 - 7.27 栄養管理加算の施設基準に係る管理栄養士の変更届出 (栄養管理) 第 116 号
 - 8.10 麻酔管理料の施設基準に係る常勤の麻酔科標榜医の変更届出 (麻管) 第 18 号
 - // 診療録管理体制加算の施設基準に係る診療記録管理者変更の届出 (診療録) 第 38 号
 - // 大動脈バルーンパンピング法 (IABP) の施設基準に係る医師の変更届出 (大) 第 28 号
 - // ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術の施設基準に係る医師の変更届 (ペ) 第 47 号
 - 10.31 生活保護法指定医療機関指定申請書 (歯科) 健福第 839-31 号
 - 11.20 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-77 号)
病院施設の一部用途等変更 (医薬品情報管理室)
 - 11.30 薬剤管理指導料の届出 (薬) 第 118 号
- 20 年 1.22 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-96 号)
病院施設の一部名称及び用途等変更 (無菌製剤室ほか 39 室)
 - 4.1 電子化加算の施設基準に係る届出 (電子化) 第 1362 号
 - // 妊産婦緊急搬送入院加算の施設基準に係る届出 (妊産婦) 第 21 号
 - // 医療安全対策加算の施設基準に係る (医療安全) 第 17 号
 - // ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
 - // ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る届出 (ハイ分娩) 第 19 号
 - // 小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 (小入) 第 20 号
 - // 医療機器安全管理料 1 の施設基準に係る届出 (機安 1) 第 32 号

- 4.1 検体検査管理加算 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (検Ⅱ) 第 70 号
 - 〃 検体検査管理加算 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (検Ⅰ) 第 7 号
 - 〃 遺伝カウンセリング加算の施設基準に係る届出 (遺伝カ) 第 1 号
 - 〃 画像診断管理加算 2 の施設基準に係る届出 (画 2) 第 7 号
 - 〃 無菌製剤処理料の施設基準に係る届出 (菌) 第 51 号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅲ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅲ) 第 31 号
 - 〃 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の施設基準に係る届出 (通手) 第 54 号
- 5.12 障害児 (者) リハビリテーションの施設基準に係る届出 (障) 第 7 号
- 6.16 医療機能評価 (Ver.5.0) 認定 認定番号: 第 JC1509 (2008/6/16~2013/6/15)
- 6.27 障害者自立支援法第 59 条第 1 号の規程による指定自立支援医療機関 (育成医療・更生医療) の指定の変更届出 (障第 30052-4 号)
- 6.30 一般病棟入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
 - 〃 小児入院医療管理料 1 の変更に係る届出 (小入 1) 第 20 号
 - 〃 小児入院医療管理料 3 の変更に係る届出 (小入 3) 第 16 号
- 7.29 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項の規定に基づく医師の指定について (障第 30057-1 号)
- 8.1 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の施設基準に係る届出 (通手) 第 54 号
- 8.15 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-56 号)
病院施設の一部構造及び用途等変更 (歯科外来の拡張)
- 9.1 小児入院医療管理料 3 の施設基準の変更に係る届出 (保育士設置)(小入 3) 第 16 号
- 9.12 診療用エックス線装置に係る届出事項の変更の届出
エックス線装置 (透視・直接撮影 (診断用)) の更新
- 10.1 心臓 MRI 撮影加算の施設基準に係る届出 (心臓 M) 第 7 号
- 11.26 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-91 号)
病院施設の一部用途等変更 (生理検査室 2、第二病棟授乳室)
- 21 年 1.1 小児食物アレルギー負荷検査の施設基準に係る届出 (小検) 第 11 号
 - 〃 小児入院医療管理料 3 の施設基準の変更に係る届出 (小入 3) 第 16 号
 - 〃 小児入院医療管理料 1 の施設基準の変更に係る届出 (小入 1) 第 20 号
- 3.26 指定自立支援医療機関の主として担当する医師の変更について (障第 30052-16 号)
- 4.1 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る届出 (ハイ分娩) 第 19 号
 - 〃 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
- 7.29 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-2 号)
- 10.1 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る届出 (外来環) 第 97 号
- 12.7 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-3 号)
- 22 年 4.1 地域歯科診療支援病院歯科初診料の施設基準に係る届出 (病初診) 第 14 号
 - 〃 障害者歯科医療連携加算の施設基準に係る届出 (障連) 第 3 号
 - 〃 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る届出 (医管) 第 155 号
 - 〃 一酸化窒素吸入療法の施設基準に係る届出 (NO) 第 3 号
 - 〃 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (運Ⅰ) 第 20 号
- 5.1 神経学的検査の施設基準に係る届出 (神経) 第 26 号
- 6.30 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-39 号)
病院施設の一部構造等変更 (第三病棟)
- 10.1 胎児心エコー法の施設基準に係る届出 (胎心エコー) 第 6 号

- 10.20 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-65 号)
病院施設の一部構造等変更 (新生児未熟児病棟)
- 11.1 医師事務作業補助体制加算の施設基準に係る届出 (事務補助) 第 27 号
- 11.24 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
- 23 年 4.1 HPV 核酸同定検査の施設基準に係る届出 (HPV) 第 72 号
 - // がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る届出 (がん疼) 第 50 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 127 号
 - // 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る届出 増床 (新 1) 第 3 号
- 5.23 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-17 号)
病院施設の一部構造等変更 (本館 2 階・3 階増築)
- 6.1 心大血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (心Ⅰ) 第 7 号
病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-79 号)
- 10.13 病院施設の一部用途等変更 (生理検査室 3)
- 11.1 冠動脈 CT 撮影加算の施設基準に係る届出 (冠動 C) 第 12 号
 - // 感染防止対策加算の施設基準に係る届出 (感染防止) 第 14 号
- 12.12 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
- 24 年 2.1 新生児治療回復室入院医療管理料の施設基準に係る届出 (新回復) 第 3 号
- 4.1 CT 撮影及び MRI 撮影の施設基準に係る届出 (C・M) 第 230 号
 - // 大腸 CT 撮影加算の施設基準に係る届出 (大腸 C) 第 10 号
 - // 心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (心Ⅰ) 第 7 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) 初期加算の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 127 号
 - // 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (運Ⅰ) 第 20 号
 - // 呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (呼Ⅰ) 第 29 号
 - // 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - // 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - // 救急搬送患者地域連携紹介加算の施設基準に係る届出 (救急紹介) 第 33 号
 - // 救急搬送患者地域連携受入加算の施設基準に係る届出 (救急受入) 第 57 号
 - // 一般病棟 7 対 1 入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
- 5.1 保険医療機関の指定 (勢医 1014)
- 6.1 輸血管管理料Ⅰの施設基準に係る届出 (輸血Ⅰ) 第 17 号
- 9.1 先進医療に係る届出 (急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的 PCR 法による骨髄微小残存病変 (MRD) 量の測定) (先-195) 第 1 号
 - // データ提出加算 1 の施設基準に係る届出 (データ提) 第 25 号
- 10.1 登録医制度開始
 - // データ提出加算 2 の施設基準に係る届出 (データ提) 第 25 号
 - // 先進医療に係る届出 (胸腔鏡下動脈管開存症手術) (先 166) 第 1 号
- 11.1 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅲ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅲ) 第 66 号
- 11.12 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-71 号)
病院施設の一部用途変更 (PICU 説明室等)
- 11.26 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-5 号)
- 25 年 1.1 造血器腫瘍遺伝子検査の施設基準に係る届出 (血) 第 13 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 138 号
- 2.24 電子カルテ稼働開始
- 4.1 保険医療機関届出事項変更届 (開設者の変更)
 - // 医師事務作業補助体制加算 (40 対 1) の施設基準に係る届出 (事務補助) 第 42 号

- 4.1 麻酔管理料（Ⅰ）の施設基準に係る従事者変更の届出（麻管Ⅰ）第18号
- 5.14 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出（感染防止）第15号
- 6.7 病院機能評価（Ver.6.0）認定 認定番号：第JC1509-2号（2013/6/16～2018/6/15）
- 8.5 身体障害者福祉法第15条第1項に基づく医師の指定について（障第501-2号）
- 9.5 病院開設許可事項一部変更許可（群馬県指令医第166-49号）
本館第二病棟（外科）の増改築工事に伴う病棟各施設の変更）
- 10.1 麻酔管理料（Ⅰ）の施設基準に係る従事者変更の届出（麻管Ⅰ）第18号
- 11.11 身体障害者福祉法第15条第1項に基づく医師の指定について（障第501-4号）
- 11.22 診療用エックス線装置等変更届出
- 26年 1.1 麻酔管理料（Ⅱ）の施設基準に係る届出（麻管Ⅱ）第6号
- 2.17 第二病棟（外科）改修及び増築工事着工
- 3.5 病院開設許可事項一部変更許可（群馬県指令医第166-114号）
本館地下1階及び地上1階の用途変更
- 4.1 5代目院長として丸山健一 就任
 - // 病院開設届出事項等一部変更届（管理者の変更）
 - // DPC対象病院に参加
 - // 医師事務作業補助体制加算1（40対1）の施設基準に係る届出（事補1）第8号
 - // 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る届出（脈動開）第1号
 - // 輸血管管理料Ⅱの施設基準に係る届出（輸血Ⅱ）第48号
 - // 輸血管管理料Ⅰの施設基準に係る辞退届（輸血Ⅰ）第17号
- 4.28 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る従事者変更の届出（外来環）第97号
 - // 歯科診療特別対応連携加算の施設基準に係る従事者変更の届出（歯特連）第3号
 - // 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る従事者変更の届出（医管）第155号
- 5.9 医療安全対策加算1の施設基準に係る従事者変更の届出（医療安全1）第17号
 - // 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出（感染防止1）第15号
 - // 薬剤指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出（薬）第118号
 - // 無菌製剤処理料の施設基準に係る従事者変更の届出（菌）第51号
 - // 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）の施設基準に係る従事者変更の届出（心Ⅰ）第7号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）の施設基準に係る従事者変更の届出（脳Ⅱ）第138号
 - // 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）の施設基準に係る従事者変更の届出（運Ⅰ）第20号
 - // 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）の施設基準に係る従事者変更の届出（呼Ⅰ）第29号
 - // 障害児（者）リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出（障）第7号
- 7.28 身体障害者福祉法第15条第1項に基づく医師の指定について（障第501-2号）
- 8.1 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）の施設基準に係る従事者変更の届出（呼Ⅰ）第29号
 - // 感染防止対策加算1の施設基準に係る従事者変更の届出（感染防止1）第15号
- 10.1 新生児特定集中治療管理料1の施設基準に係る届出（新1）第3号
 - // 一般病棟7対1入院基本料の施設基準に係る届出（一般入院）第102号
- 10.22 病院施設使用許可（群馬県指令保福第551-5号）
第二病棟（外科）の増築部分等

- 11.25 病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-6 号)
第二病棟 (外科) の改修箇所
- 11.26 生活保護法及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律に基づく指定医療機関 (医科) の指定 (群医 276) (健福第 30236-15 号)
 - // 生活保護法及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律に基づく指定医療機関 (歯科) の指定 (群歯 185) (健福第 30236-15 号)
- 11.28 麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅰ) 第 18 号
 - // 麻酔管理料 (Ⅱ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅱ) 第 6 号
- 12.10 難病の患者に対する医療等に関する法律第 6 条第 1 項に規定する指定医の指定 (保予第 30149-2 号)
- 12.11 診療用エックス線装置等変更届出
- 12.24 病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-6 号)
第二病棟 (外科) の改修箇所
 - // 難病の患者に対する医療等に関する法律第 14 条第 1 項に規定する指定医療機関の指定 (保予第 30327-1 号)
 - // 児童福祉法第 19 条の 9 第 1 項の規定に基づく指定小児慢性特定疾病医療機関 (医科) の指定 (保予 30018-1 号)
 - // 児童福祉法第 19 条の 3 第 1 項の規定に基づく小児慢性特定疾病指定医の指定 (医科) の指定 (保予第 300019-1 号)
- 27 年 1.1 麻酔管理料 (Ⅱ) の施設基準に係る辞退届 (麻管Ⅱ) 第 6 号
- 1.20 心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心Ⅰ) 第 7 号
- 1.23 第二病棟 (外科) 改修及び増築工事完成
- 1.30 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-117 号)
本館 1 階の用途変更
- 4.1 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - // 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る届出 (集 3) 第 13 号
- 5.1 麻酔管理料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (麻管Ⅱ) 第 7 号
- 5.15 麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅰ) 第 18 号
 - // ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
 - // ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
 - // 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (医管) 第 155 号
 - // 医療機器安全管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (機安 1) 第 32 号
 - // 胎児心エコー法の施設基準に係る従事者変更の届出 (胎心エコー) 第 6 号
 - // 心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心Ⅰ) 第 7 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳Ⅱ) 第 138 号
 - // 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運Ⅰ) 第 20 号
 - // 呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼Ⅰ) 第 29 号
 - // 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号

- 5.15 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 7.30 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項の規定に基づく指定医の指定 (障第 501-3 号)
- 10.9 診療用エックス線装置等変更届出
- 11.18 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-80 号)
本館外来棟の増改築工事に伴う施設の変更
- 12.4 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
- 〃 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 II) 第 7 号
- 28 年 1.1 がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る届出 (がんリハ) 第 33 号
- 〃 CAD/CAM 冠の施設基準に係る届出 (歯 CAD) 第 540 号
- 1.25 診療用エックス線装置等変更届出
- 2.1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る辞退届 (麻管 II) 第 7 号
- 3.1 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
- 〃 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (新 1) 第 3 号
- 3.29 児童福祉法第 19 条の 3 第 1 項の規定に基づく小児慢性特定疾病指定医 (医科) の指定 (保予第 30334-25 号)
- 3.31 難病の患者に対する医療等に関する法律第 6 条第 1 項に規定する指定医の指定 (保予第 30326-72 号)
- 4.1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る届出 (麻管 II) 第 8 号
- 6.2 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
- 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
- 〃 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
- 〃 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (新 1) 第 3 号
- 〃 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心 I) 第 7 号
- 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳 II) 第 138 号
- 〃 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運 I) 第 20 号
- 〃 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
- 〃 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
- 7.1 遺伝学的検査の施設基準に係る届出 (遺伝検) 第 2 号
- 7.8 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 〃 薬剤管理指導料の施設基準に係る従事者変更の届出 (薬) 第 118 号
- 〃 無菌製剤処理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (菌) 第 51 号
- 〃 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
- 〃 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 10.1 医師事務作業補助体制加算 1 (40 対 1 補助体制加算) の辞退届 (事補 1) 第 8 号
- 〃 医師事務作業補助体制加算 2 (40 対 1 補助体制加算) の施設基準に係る届出 (事補 2) 第 58 号

- 11.4 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る届出(施設基準変更に伴う経過措置)(集3)第13号
- 11.7 一般病棟入院基本料(7対1)の施設基準に係る届出(施設基準変更に伴う経過措置)(一般入院)第102号
- 12.7 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第166-65号)
本館外来棟増築工事
- 12.27 病院施設使用許可(群馬県指令保福第551-14号)
歯科レントゲン室
- 29年 3.27 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第166-111号)
建物構造等の一部変更(用途変更)
- 3.28 本館外来棟増改築工事完成
- 6.1 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る届出(造設前)第36号
- 7.3 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ妊娠)第26号
- 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ分娩)第19号
- 〃 医療安全対策加算1の施設基準に係る従事者変更の届出(医療安全I)第17号
- 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
- 〃 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者変更の届出(集3)第13号
- 〃 新生児特定集中治療室管理料1の施設基準に係る従事者変更の届出(新1)第3号
- 〃 心大血管疾患リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(心I)第7号
- 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料(II)の施設基準に係る従事者変更の届出(脳II)第138号
- 〃 運動器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(運I)第20号
- 〃 呼吸器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(呼I)第29号
- 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出(障)第7号
- 〃 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第18号
- 〃 麻酔管理料(II)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管II)第8号
- 〃 感染防止対策加算1の施設基準に係る連携医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
- 7.31 がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(がん疼)第50号
- 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ分娩)第19号
- 〃 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者変更の届出(集3)第13号
- 〃 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る従事者等変更の届出(外来環)第97号
- 〃 歯科診療特別対応連携加算の施設基準に係る従事者等変更の届出(歯特連)第3号
- 〃 歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)の施設基準に係る従事者等変更の届出(医管)第155号
- 8.1 医師事務作業補助体制加算2の施設基準に係る区分変更(30対1補助体制加算)の届出(事補2)第58号
- 8.29 胎児心エコーの施設基準に係る従事者変更の届出(胎心エコ)第6号
- 11.15 がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(がん疼)第50号

- 11.15 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (新 1) 第 3 号
- 12.25 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出 (脈動開) 第 1 号
- 30 年 1.4 診療用エックス線装置等変更届出
 - 1.10 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
 - 1.24 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳Ⅱ) 第 138 号
 - // 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
 - // 麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅰ) 第 18 号
 - // 麻酔管理料 (Ⅱ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅱ) 第 8 号
 - // 小児入院管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (小入 1) 第 20 号
 - // 入院時生活療養 (Ⅰ) の施設基準に係る一部業務委託の導入・従事者変更の届出 (食) 第 104 号
 - // 心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (心Ⅰ) 第 7 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (脳Ⅱ) 第 138 号
 - // 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (運Ⅰ) 第 20 号
 - // 呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (呼Ⅰ) 第 29 号
 - // 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (障) 第 7 号
 - // がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (がんリハ) 第 33 号
- 3.1 重症者等療養環境特別加算の施設基準の辞退届 (重) 第 38 号
- 3.14 CT 撮影及び MRI 撮影の施設基準に係る区分変更 (64 列以上→16 列以上 64 列未満) の届出 (C・M) 第 230 号
- 4.1 6 代目院長として外松 学 就任
 - // 病院開設届出事項等一部変更届 (管理者の変更)
 - // 医療安全対策地域連携加算Ⅰの施設基準に係る届出 (医療安全 1) 第 17 号
 - // 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 4.26 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者、専用施設面積、機材変更の届出 (集 3) 第 13 号
 - // 診療録管理体制加算 2 の施設基準に係る従事者変更の届出 (診療録) 第 38 号
- 5.1 麻酔管理料 (Ⅱ) の辞退届
 - // 保険医療機関の指定 (関厚発) 第 77 号
- 5.11 医師事務作業補助体制加算 2 の施設基準に係る区分変更 (40 対 1 補助体制加算) の届出 (事補 2) 第 58 号
 - // 感染防止対策加算Ⅰの施設基準に係る従事者及び連携保険医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - // 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 5.31 麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅰ) 第 80 号
- 7.1 後発医薬品使用体制加算Ⅰの施設基準に係る届出 (後発使 1) 第 47 号
 - // 乳腺炎重症化予防ケア・指導料に係る施設基準に係る届出 (乳腺ケア) 第 14 号

- 8.3 医師事務作業補助体制加算 2 の施設基準に係る区分変更 (30 対 1 補助体制加算) の届出 (事補 2) 第 58 号
 - // がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (がん疼) 第 50 号
- 9.1 骨髄微小残存病変量測定 of 施設基準に係る届出 (骨残測) 第 2 号
 - // 医師事務作業補助体制加算 1 に係る施設基準に係る届出 (事補 1) 第 35 号 (加算 2 からの区分替え)
 - // レーザー機器加算の施設基準に係る届出 (手光機) 第 165 号
 - // 口腔粘膜措置の施設基準に係る届出 (口腔粘膜) 第 184 号
- 10.1 歯科外来診療環境体制加算 2 の施設基準に係る届出 (外来環 2) 第 97 号
 - // 急性期一般入院基本料 1 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
 - // 地域歯科診療支援病院歯科初診料の施設基準に係る届出 (病初診) 第 14 号
- 11.1 患者サポート体制充実加算の施設基準に係る届出 (患サポ) 第 71 号
 - // ヘッドアップティルト試験の施設基準に係る届出 (ヘッド) 第 19 号
- 12.5 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 80 号
 - // ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
 - // ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
- 12.28 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (造設前) 第 36 号
- 31 年 1.3 ペースメーカー及びペースメーカー交換術の施設基準に係る従事者変更の届出 (ぺ) 第 47 号
 - // 大動脈バルーンパンピング (IABP 法) の施設基準に係る従事者変更の届出 (大) 第 28 号
 - // 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出 (脈動開) 第 1 号
- 3.11 遺伝学的検査の施設基準に係る一部検査委託機関の追加の届出 (遺伝検) 第 2 号
- 4.24 病院開設許可事項一部変更許可 (2 階 産科病棟 多目的室 室名変更)
- 令和元年 6.3 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 80 号
- 7.5 大動脈バルーンパンピング (IABP 法) の施設基準に係る従事者変更の届出 (大) 第 28 号
 - // 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (造設前) 第 36 号
 - // 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出 (脈動開) 第 1 号
 - // ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術の施設基準に係る従事者変更の届出 (ぺ) 第 47 号
 - // 薬剤管理指導料の施設基準に係る従事者変更の届出 (薬) 第 118 号
 - // 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心 I) 第 7 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳 II) 第 138 号
 - // 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運 I) 第 20 号
 - // 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
 - // 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
 - // がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (がんリハ) 第 33 号

- 8.29 骨髄微小残存病変量測定施設の施設基準に係る従事者及び当該検査を委託する施設の変更の届出 (骨残測) 第 2 号
- 10.30 CT 撮影及び MRI 撮影の施設基準に係る撮影機器及び安全管理責任者の変更の届出 (C・M) 第 230 号
 - 〃 心臓 MRI 撮影加算の施設基準に係る撮影機器変更の届出 (心臓 M) 第 7 号
- 12.1 後発医薬品使用体制加算 1 の辞退届
- 12.26 CT 撮影及び MRI 撮影の施設基準に係る区分変更の届出 (C・M) 第 230 号
- 2 年 2.28 病院開設許可事項一部変更許可 (地下 1 階 薬剤部事務室、医薬品情報管理室及び薬剤部倉庫 室名変更)
 - 3.11 診療用エックス線装置等変更届出
- 4.1 全国自治体病院協議会群馬県支部長として外松 学 就任
 - 〃 歯科麻酔管理料の施設基準に係る届出 (歯麻管) 第 1 号
 - 〃 小児運動器疾患指導管理料の施設基準に係る届出 (小運指管) 第 6 号
 - 〃 先天性代謝異常症検査の施設基準に係る届出 (先代異) 第 6 号
 - 〃 ウイルス・細菌核酸多項目同時検出の施設基準に係る届出 (ウ細多同) 第 1 号
- 5.18 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 80 号
 - 〃 医療安全対策地域連携加算 I の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (医療安全 I) 第 17 号
- 7.31 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 80 号
- 3 年 1.1 入退院支援加算 3 の施設基準に係る届出 (入退支) 第 105 号
 - 3.1 植込型除細動器移植術 (心筋リードを用いるもの) 及び植込型除細動器交換術 (心筋リードを用いるもの) の施設基準に係る届出 (除心) 第 3 号
 - 〃 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術 (心筋電極の場合) 及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術 (心筋電極の場合) (両除心) 第 3 号
 - 〃 両心室ペースメーカー移植術 (心筋電極の場合) 及び両心室ペースメーカー交換術 (心筋電極の場合) の施設基準に係る届出 (両ぺ心) 第 1 号
 - 4.1 胎児輸血術の施設基準に係る届出 (胎輸) 第 1 号
 - 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る辞退の届出
 - 5.6 歯科麻酔管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (歯麻管) 第 1 号
 - 7.30 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 80 号
 - 10.1 遺伝カウンセリングの施設基準に係る届出 (遺伝カ) 第 5 号
 - 11.1 医師事務作業補助体制加算 1 の施設基準に係る配置基準の変更の届出
- 4 年 1.1 医師事務作業補助体制加算 1 の施設基準に係る配置基準の変更の届出 (事補 1) 第 35 号 40 対 1→30 対 1
 - 1.5 病院開設許可事項一部変更許可申請書
 - 2.1 医師事務作業補助体制加算 1 の施設基準に係る配置基準の変更の届出 (事補 1) 第 35 号 30 対 1→40 対 1
 - 2.15 診療用エックス線装置設置届
 - 4.1 新型コロナウイルス感染症重点医療機関に係る指定 (感疾第 4-9 号)
 - 〃 無心体双胎焼灼術の施設基準に係る届出 (無心) 第 1 号
 - 〃 特定集中治療室管理料 3 リハビリテーション加算の施設基準に係る届出 (集 3) 第 13 号
 - 〃 感染対策向上加算 1 の施設基準に係る届出 (感染対策 1) 第 10 号
 - 〃 小児入院医療管理 1 「注 5」加算、「注 7」加算の施設基準に係る届出 (小入 1) 第 20 号
 - 〃 特定集中治療室管理料 3 「注 1」加算の施設基準に係る届出 (集 3) 第 13 号
 - 〃 抗アデノ随伴ウイルス 9 型 (AAV9) 抗体の施設基準に係る届出 (AAV9) 第 1 号

- 6.1 医師事務作業補助体制加算 1 の施設基準に係る配置基準の変更の届出 (事補 1) 第 35 号 40 対 1→25 対 1
- 6.10 歯科麻酔管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (歯麻管) 第 1 号
 - // 歯科診療特別対応連携加算の施設基準に係る届出 (歯特連) 第 26 号
- 7.1 胃瘻造設時嚥下機能評価加算の施設基準に係る届出 (胃瘻造嚥) 第 45 号
- 10.1 急性期一般入院基本料 1 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
 - // 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る届出 (集 3) 第 13 号
 - // 地域医療体制確保加算の施設基準に係る届出 (地医確保) 第 16 号
- 5 年 1.1 在宅経肛門の自己洗腸指導管理料の施設基準に係る届出 (在洗腸) 第 3 号
 - 2.1 25 対 1 急性期看護補助体制加算 (看護補助者 5 割未満) (看護補助体制充実加算を含む) の施設基準に係る届出 (急性看補) 第 78 号
 - 4.1 7 代目院長として浜島昭人 就任
 - // 病院開設届出事項等一部変更届 (管理者の変更)
 - // 運動器リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る届出 (運 II) 第 192 号
 - // 運動器リハビリテーション料 (I) の辞退届
 - // 感染対策向上加算「注 2」指導強化加算の辞退届
 - // 特定集中治療室管理料 3 の重症度、医療・看護必要度に係る評価方法の変更の届出 (集 3) 第 13 号 I→II
 - 7.1 医師事務作業補助体制加算 1 の施設基準に係る配置基準の変更の届出 (事補 1) 第 35 号 25 対 1→20 対 1
 - 10.1 看護職員夜間配置加算 (12 対 1 配置加算 2) の施設基準に係る届出 (看夜配置) 第 33 号
 - // 脳波検査判断料 1 の施設基準に係る届出 (脳判) 第 3 号
 - 12.25 診療用エックス線装置設置届
- 6 年 2.1 染色体検査の「注 2」に規定する基準の施設基準に係る届出 (染色体) 第 6 号
 - 4.1 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る届出 (運 I) 第 138 号
 - // 運動器リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る辞退届
 - // 画像診断管理加算 2 の施設基準に係る辞退届
 - // 冠動脈 CT 撮影加算の施設基準に係る辞退届
 - // 心臓 MRI 撮影加算の施設基準に係る辞退届
 - // CT 撮影及び MRI 撮影の施設基準に係る CT 撮影区分変更 (64 列以上→16 列以上 64 列未満) の届出 (C・M) 第 230 号
 - // 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 80 号
 - // 歯科麻酔管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (歯麻管) 第 1 号
 - 5.1 保険医療機関の指定 (関厚発) 第 75 号
 - 6.1 ストーマ合併症加算の施設基準に係る届出 (スト合) 第 5 号
 - 6.3 病院開設許可事項一部変更許可申請 (本館室名変更)
 - 7.1 歯科外来診療感染対策加算 4 の施設基準に係る届出 (外感染 4) 第 4 号
 - // 歯科外来診療感染対策加算 3 の施設基準に係る辞退届
 - // 外来・在宅ベースアップ評価料 (I) の施設基準に係る届出 (外在ベ I) 第 480 号
 - // 歯科外来・在宅ベースアップ評価料 (I) の施設基準に係る届出 (歯外在ベ I) 第 196 号
 - // 入院ベースアップ評価料 138 の施設基準に係る届出 (入ベ 138) 第 1 号
 - 8.1 胎児胸腔・羊水腔シャント術の施設基準に係る届出 (胎羊) 第 1 号
 - 9.1 感染対策向上加算「注 5」抗菌薬適正使用体制加算の施設基準に係る届出 (感染対策 1) 第 10 号
 - 10.1 特定集中治療室管理料 5 の施設基準に係る届出 (集 5) 第 2 号

- 10.1 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る辞退届
 - 〃 新生児特定集中治療室管理料 2 の施設基準に係る届出 (新 2) 第 7 号
 - 〃 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る辞退届
- 7 年 1.1 救急医療管理加算の施設基準に係る届出 (救急医療) 第 74 号
 - 〃 入院ベースアップ評価料 154 に係る施設基準の届出 (入ベ 154) 第 1 号
- 3.1 歯科外来診療医療安全対策加算 2 の施設基準に係る届出 (外安全 2) 第 97 号

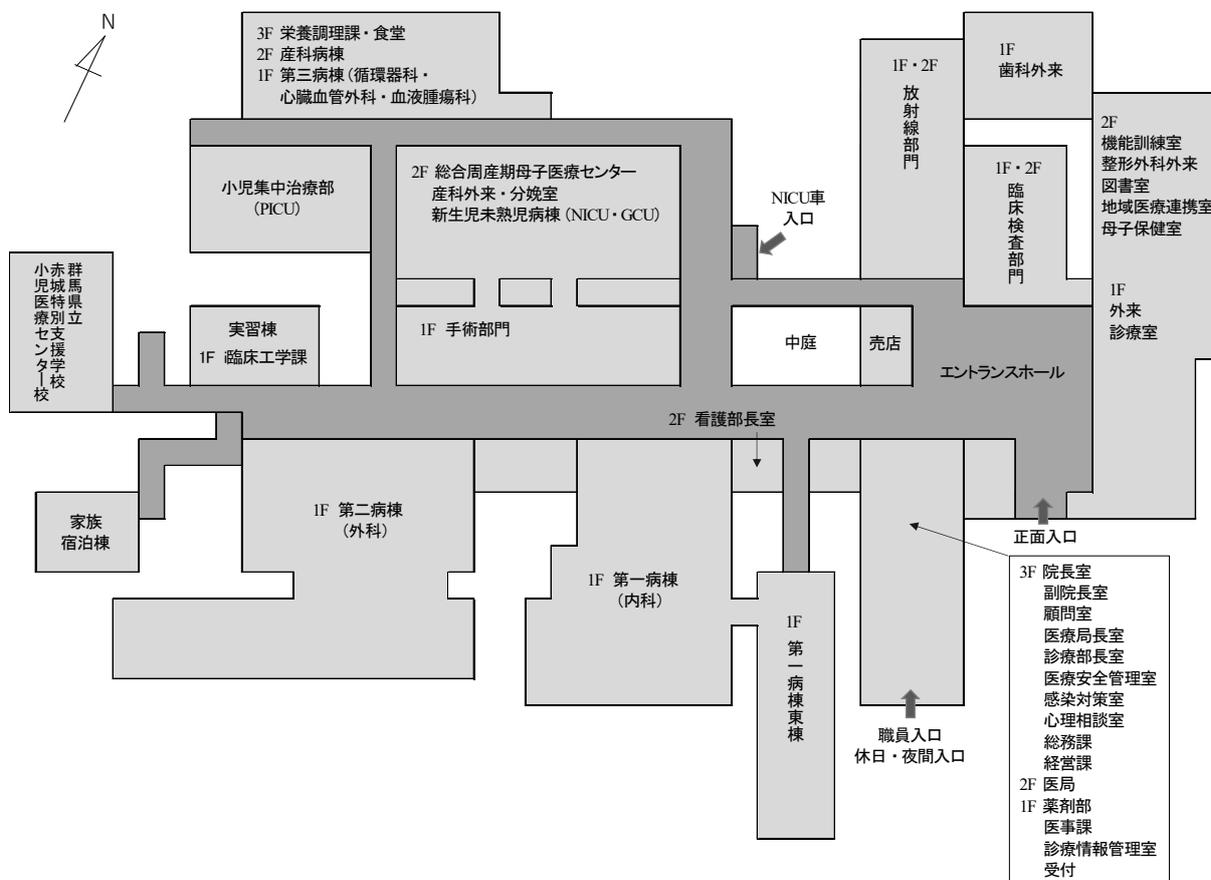
2. 施設

(1) 敷地・建物の面積

敷地		53,031.42 m ²
本館	鉄筋コンクリート地下1階地上3階建	18,441.17 m ²
看護師宿舎	鉄筋コンクリート地上4階建	1,170.28 m ²
職員宿舎	鉄筋コンクリート地上2階建	379.61 m ²
実習棟	鉄筋コンクリート地上2階建	485.00 m ²
家族宿泊棟	鉄筋プレハブ平屋建	200.00 m ²

(2) 病棟構成並びに建物配置図

階	病棟名	設置病床数 (令和6年4月1日現在)
2階	新生児未熟児病棟	33床
2階	産科病棟	18床
1階	第一病棟	32床
1階	第二病棟	29床
1階	第三病棟	30床
1階	小児集中治療部	8床
	合計	150床



(3) 施設・設備の設置状況

(単位：千円)

区 分	事 業 費	年 次 別 内 訳					
		54	55	56	57	58	59
本 館	8,267,802		911,600	1,914,690		追加工事 医療ガス 配管工事等 2,857	純水製造 装置 13,525
看護師宿舎	375,519			18,653		上水槽配管 保温工事 697	
職員宿舎	120,948			73,180		273	
実 習 棟	192,044						
家族宿泊棟	43,575						
設 計	283,402	本館 64,850	本館 8,646 宿舎 6,150	本館 17,354			
外構工事等	627,845			494,829	追加工事 駐車場等 1,659	追加工事 植栽等 2,118	フェンス 180
敷 地	625,643	290,000		67,328		191,228	
医 療 機 器	10,783,669			502,748	760,940	2,732	18,309
備 品	424,071			27,948	31,147		
電話設置等	31,666			債権 870 架設加入料 482	ポケットベル 加入保証金 200		
工事事務費	5,202		1,394	3,536			
合 計	21,781,386	354,850	927,790	3,121,618	793,946	199,905	32,014

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	60	61	62	63	元	2	3
本 館	照明工事等 1,605	11,923		塩酸等貯留 槽 4,001			
看護師宿舎			クーラー 10,093				
職員宿舎			クーラー 2,883				
実 習 棟							
家族宿泊棟							
設 計		390	クーラー 700				
外構工事等	定着液保留 槽 362	駐車場舗装 等 2,331	植栽工事等 3,496	フェンス 570			
敷 地							
医 療 機 器	24,160	11,983	12,000	52,400	213,936	211,120	100,094
備 品	2,839	2,924	3,000		4,619	9,995	6,660
電話設置等							
工事事務費							
合 計	28,966	29,551	32,172	56,971	218,555	221,115	106,754

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	4	5	6	7	8	9	10
本 館	放射線棟 増築等 385,667	調理室冷房 増設等 49,247	冷凍機更新 工事等 42,035	屋上防水 工事等 12,087	冷凍機更新 工事等 75,767	中央監視 装置更新等 83,192	外来棟増設 353,619
看護師宿舎	田口住宅 124,364	改築 204,479					
職員宿舎		一部改築 44,338					
実 習 棟					192,044		
家族宿泊棟							
設 計		職員宿舎等 14,420		実習棟 4,900		外来棟 15,120	
外構工事等	駐車場舗装 等 8,918	外構舗装 927		駐車場舗装 等 24,291			
敷 地	77,087						
医 療 機 器	106,149	733,654	87,173	113,753	190,495	186,144	121,241
備 品	8,817	5,995	9,973	8,000	43,394 実習棟分 3,986	7,780	6,369 外来棟分 2,051
電話設置等	電話加入権 975	電話加入権 3,195	電話加入権 900	院内ポケベル システム更新 10,155	コードレス増設 3,018 電話加入権 450		
工 事 事 務 費	272						
合 計	712,249	1,056,255	140,081	173,186	509,154	292,236	483,280

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	11	12	13	14	15	16	17
本 館	ボイラー 純水装置 28,350	受水槽更新 工事等 20,822	R-2冷却塔 更新工事等 14,049	内科病棟 増築工事等 24,885	新病棟建築 工事等 18,726	新病棟建築 工事等 2,417,398	
					非常用自家 発電機整備 11,000		
看護師 宿舎							
職 員 宿 舎							
実 習 棟							
家族宿泊棟	43,575						
設 計			内科病棟増 築 5,775	内科外科病 棟等改修 745	新病棟建築 工事実施 設計 54,600		外構工事 (電気工事を 含む) 1,659
外 構 工 事 等							駐車場舗装等 55,293 駐車場電気 4,809
敷 地							
医 療 機 器	104,808	114,158	129,964	109,703	87,716	1,048,076	328,243
備 品	4,996	9,000	5,390	3,271	2,715	82,548	4,968
電 話 設 置 等					コードレス 交換機更新 2,346		
工 事 事 務 費							
合 計	181,729	143,980	155,178	138,604	177,103	3,548,022	394,972

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	18	19	20	21	22	23	24
本 館	集塵配管 更新工事 5,985	PICUトラン ス増設工事 3,780	歯科改修工 事 10,133		新生児病棟 改修 150,433	管理棟増築 建築工事 22,827	冷凍機更新 工事 22,869
		新システム LAN配線 10,448			薬剤クリーン ルーム空調 3,360	管理棟増築 機械設備 工事 4,641	電源設備改 修・電気供 給設備工事 58,992
看護師宿舎							
職員宿舎							
実習棟							
家族宿泊棟							
設 計		歯科改修 735			新生児病棟 改修 9,229 管理棟改修 1,785		電気・空調 設備改修 2,310
外構工事等							
敷 地							
医 療 機 器	53,102	233,517	336,857	175,807	358,277	301,860	289,256
備 品	4,613	4,851	5,241	4,934	4,971	6,423	5,000
電話設置等							
工事事務費							
合 計	63,700	253,331	352,231	180,741	528,055	335,751	378,427

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	25	26	27	28	29	30	元
本 館	冷凍機(R-1)更新工事 50,400	外科病棟改修及び増築工事 302,357	変電設備更新工事 5,378	外来棟増築及び改修等工事 547,408	エントランスホール屋上防水改修 5,368	放射線棟ほか屋上防水改修工事 14,861	新生児未熟児棟ほか屋上防水改修工事 34,804
	外科病棟改修及び増築工事 32,000	変電設備更新工事 11,146	ピット配管等改修工事 29,117		第二病棟ピット配管工事 20,044	B棟受水槽全目地補修工事 7,560	非常用放送設備アンブ更新工事 35,167
	NICUバックアップ空調設置 12,285		第一病棟東棟空調改修工事 7,398		B棟漏電警報器設置工事 9,537	第一病棟病室ほか床張り替え工事 2,106	第1変電室制御用整流器交換工事 18,837
					中央滅菌材料室機器配線等工事 2,043		排煙用トップライト改修工事 15,785
看護師宿舎			エアコン設置工事 2,783		熱源等改修工事 14,450		
職員宿舎			エアコン設置工事 274				
実習棟							
家族宿泊棟							
設 計	冷凍機(R-1)更新工事 1,029		外来棟増築及び改修等工事 34,744			設備改修工事 2,700	第1変電室トランス更新工事 3,672
	外科病棟改修及び増築工事 21,384						
外構工事等					駐車場舗装等 28,062		
敷 地							
医療機器	169,184	227,313	301,794	353,450	199,226	501,696	404,903
備 品	4,987	5,000	4,939	10,654	20,276	7,130	6,953
電話設置等							
工事事務費							
合 計	291,269	545,816	386,427	911,512	299,006	536,053	520,121

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	2	3	4	5	6	7	8
本 館	第一変電室 トランス開閉 器盤更新工事 3,200	第一変電室ト ランス開閉器盤 更新工事(繰越 分含) 209,199	中央監視設 備更新工事 50,600	売店移設工 事 14,256	B棟無停電電 源装置更新 工事 79,849		
	B棟加湿器 更新工事 8,250	重油タンク改 修機械設備 工事 11,319	外壁等改修 工事 42,207		B棟吸収式冷 温水発生機 外更新工事 212,377		
		令和3年度 外壁等改修 工事(繰越、前払 金のみ) 11,880	外壁等修繕 工事(令和3 年度繰越分) 25,608				
		ナースコール 更新工事 21,560	外来トイレ 改修工事 15,609				
看護師 宿 舎							
職 員 宿 舎							
実 習 棟							
家族宿泊棟							
設 計	ナースコール 更新工事 2,420	外科外来トイ レ改修工事 1,485		A棟分電盤 更新工事 3,080			
	外壁等改修 工事 3,520						
外構工事等							
敷 地							
医 療 機 器	252,986	381,598	155,751	553,389	162,004		
備 品	4,126	1,454	5,821	15,133	3,180		
電 話 設 置 等				電話交換機増設 ・機能拡張工事 9,075			
工 事 事 務 費							
合 計	274,502	638,495	295,596	594,933	457,410		

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(4) 付属設備

主なる付属設備一覧

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
熱源設備	ボイラー	2	炉筒煙管式ボイラー 蒸発量 3.6t/h 伝熱面積 32.9m ² 最大使用蒸気圧 1MPa 燃料 A 重油
	危険物地下タンク	1	コロッケ式 A 重油 容量 36,000L
	純水製造装置	1	MASP-100型 処理水量 6 m ³ /h× 100m ³ /cycle
	冷凍機	1	蒸気炊二重効用吸収式冷凍機 冷凍能力 1,407kw (400RT) 冷水 1 次ポンプ× 1 片吸込渦巻型 4,032L/min 11kw 冷却水ポンプ× 1 片吸込渦巻型 6,670L/min 45kw
		1	チリングユニット 冷凍能力 450kw 冷水1次ポンプ× 1 片吸込渦巻型 1,290L/min 3.7kw 冷却水ポンプ× 1 片吸込渦巻型 1,541L/min 11kw
	冷温水発生機	1	重油炊吸収式冷温水発生機 (No1) 冷凍能力 879kw (250RT) 暖房能力 735kw 冷水ポンプ×2 片吸込渦巻型 2,520L/min 30kw 温水ポンプ×2 片吸込渦巻型 2,520L/min 30kw 冷却水ポンプ×2 片吸込渦巻型 4,167L/min 45kw
		1	重油炊吸収式冷温水発生機 (No2) 冷凍能力 703kw (200RT) 暖房能力 588kw 冷水ポンプ×2 片吸込渦巻型 2,016L/min 30kw 温水ポンプ×2 片吸込渦巻型 1,686L/min 30kw 冷却水ポンプ×2 片吸込渦巻型 3,340L/min 37kw
	冷却塔	4	角型開放超低騒音型 ①冷却能力 2,558kw× 1 送風機 5.5kw 口径 1,800mm× 3 ②冷却能力 537kw× 1 送風機 3.7kw 口径 1,600mm× 1 ③冷却能力 1,279kw×1 1,541kw×1 送風機 3.7kw× 4口径 1,600mm× 4
	冷水二次ポンプ	4	片吸込渦巻型 1,100L/min× 27m× 11kw
	熱交換器	2	温水暖房系統シェルアンドチューブ型 加熱能力 128kw× 2 温水ポンプ× 2 渦巻型 500L/min 5.5kw

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
空調設備	エアハンドリングユニット	19	水平型×11 温水コイル、冷水コイル、加湿器組込 垂直型×8 温水コイル、冷水コイル、加湿器組込
	バックアップ用エアコン	1	パッケージエアコン 冷房能力 80kw 暖房能 90kw 送風機 シロッコファン 255m ³ /min 1.5kw 押込ファン シロッコファン 255m ³ /min 3.7kw
	全熱交換機	1	床置型給排気ファン 5.5kw×2
	外調機	13	別置き電気式 蒸気加湿器付き×10 別置き電気式 蒸気加湿器なし×4 水気化式 加湿器付き×1
	ファンコイル	463	
	給気・排気ファン	59	片吸込多翼型 (うち 24 時間運転 16 台)
	エアコン等	150	冷房能力合計 2,160kw、暖房能力合計 1,724kw
	恒温庫ユニット	1	冷却能力 1.9kw
電気設備等	高圧受変電設備	1	本線、予備線による二系統受電 受電電圧 6.6kv 受電変圧器×15 4,525kVA 契約電力 1,240kWh
	副高圧変電設備	2	高圧変圧器×5 1,750KVA+高圧変圧器×2 700KVA
	非常用自家発電設備	2	水冷ディーゼルエンジン 923PS 1,500rpm 燃料 A 重油 発電機 6.6kv 750KVA ガスタービンエンジン 600PS 53,000rpm 燃料 A 重油 発電機 6.6kv 500KVA
	無停電電源装置	1	容量 100KVA×2 3相3線式 105V-210V 鉛蓄電池 200Ah
	電気時計設備	1	パネル型水晶発信式 8回線 子時計 30個/1回線
	電話交換機	1	デジタル電子交換機 最大内線 512回線方式
	コードレス電話交換機	1	沖デジタルコードレスシステム 120
	放送設備	1	一般放送及び非常放送 40系統 非常電源ユニット付き
昇降設備	低速エレベーター	9	寝台用×4 750kg 45m/min 荷物用×2 750~900kg 45m/min 乗用×2 480~900kg 45~60m/min 乗用 850kg 45m/min
昇降設備	ダムウェーター	3	B1F~2F用 B1F~1F用 100~400kg 15~30m/min

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
防災設備	スプリンクラー	1	900L/min×65～75m×18.5kw ヘッド×1,920 流水作動弁×11
	屋内消火栓	1	750L/min×50m×15kw 放水口×17 補助散水栓×26 60L/min
	自動火災報知器	843	GR型アナログ式受信機(蓄積式、自動試験機能付)255回線 煙感知式×234 熱作動式×486 定温式×87
	排煙機	1	29,400m ³ /min 120mmAg 15kw 排煙口×19
	ハロゲン化物消火設備	1	ハロゲン1301 ボンベ×6本
	二酸化炭素消火設備	1	CO ₂ ボンベ 55kg×22本
	フード消火設備	2	栄養調理課厨房及び食堂厨房 強化液 3L×各1
	火災通報装置	4	表示盤機能付 一般加入電話回線による押しボタン式
	防火水槽	1	40ton
衛生設備	上水受水槽	3	42t×2 FRP製 保温型 加圧給水装置 600L/min×0.38MPa×7.5kw×2 71t×1 FRP製 保温型 2槽式 加圧給水装置 640L/min×0.48MPa×3.7kw×4
	井水受水槽	1	320t×1 鉄筋コンクリート製 給水ポンプ 750L/min×45m×11kw×2 加圧給水装置 1,200L/min×0.34MPa×11kw×2 925L/min×0.40MPa×3.7kw×4
	深井戸ポンプ	1	800L/min×0.83MPa×18.5kw
	貯湯槽	4	蒸気加熱式 4,000L×2 60°C 温水ボイラー加熱式 6,000L×2 60°C
	温水ボイラー	2	真空式 2回路式ボイラー 465kw (暖房 150kw、給湯 315kw) 伝熱面積 9.9m ² 最高使用圧力 0.49MPa
	液酸タンク	1	4,942L 供給圧力 0.43MPa
	医療用ガスボンベ	16	笑気×4本 窒素×8本
	医療用圧空・吸引機	9	コンプレッサー 630L/min×5.5kw×3台 コンプレッサー 605L/min×5.5Kw×2台 吸引ポンプ 2,333L/min×5.5Kw×4台
	合併処理浄化槽	2	長時間ばっき+接触酸化方式 汚水量145m ³ /日 679人槽 流量調整担体流動浮上ろ過式 汚水量 52m ³ /日 743人槽

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
衛生設備	薬液処理槽	1	酸及びアルカリによる連続中和+接触ばっき方式 日平均排水量 10m ³ /日
	R I 処理槽	1	BDO分離接触ばっき+接触ばっき方式 RI 貯留法+希釈法 排水量 20人 A系統 600L/日 B系統 2,000L/日
	薬液処理槽	1	湿式 処理風量19.9m ³ -27KPa 30kw 乾式 処理風量10.5m ³ -38KPa 15kw

(5) 重要物品

主なる医療機器一覧

(購入価格 500 万円以上のもの)

分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
薬局	散薬分包機(全自動) 調剤支援システム	Ai-8080(トーショー)	1	2016
		トーショー製調剤支援システム	1	2022
検査	ヘモクロン(血液凝固計)	コアグレックス800(シスメックス)	1	2003
	脳波計	EEG-1518 他(日本光電)	1	2004
	全自動生化学分析装置	JCA-BM6050(日本光電)	1	2008
	血液自動分析機	XE-5000(シスメックス)	1	2009
	脳波計	EEG-1200(日本光電)	1	2010
	凍結切片作成装置	クリオスターNX70(サーモフィッシャーサイエンティフィック)	1	2012
	X線照射装置	MBR-1520A-3(日立メディコ)	1	2015
	密閉式自動固定包埋装置	ティシュー・テック VIP6(サクラファインテックジャパン)	1	2015
	全自動輸血検査装置	WADiana Compact(カイノス)	1	2015
	脳波計	EEG-1218(日本光電)	1	2017
	超音波診断装置	TUS-AI900(キヤノンメディカルシステムズ)	1	2017
	生化学自動分析装置	JCA-ZS050(日本電子)	1	2018
	脳波計	EEG-1214(日本光電)	1	2018
	多項目自動血球分析装置	XN-1000 XN-350(シスメックス)	1	2020
	総合臨床検査システム	CLINILAN Series(エイアンドティー)	1	2020
	感染管理システム	CLINILAN IC3(エイアンドティー)	1	2020
	全自動微生物検査システム 一式	ベックマン・コールター製	1	2021
	脳波計	日本光電製 EEG-1278	1	2022
	心臓超音波診断装置	フィリップス 超音波診断装置 EPIC Elite 一式	1	2022
フローサイトメーター	ベックマン・コールター製 DxFLEX system B4-R2-V0	1	2022	
血液培養自動分析装置	日本ベクトン・ディッキンソン製 バクテックFX(TOP)	1	2023	
血液ガス分析装置	ラジオメーター製 ABL90 FLEX PLUS システム	1	2023	
筋電図・誘発電位・ABR検査装置	日本光電製 筋電図・誘発電位・ABR検査装置 MEB-2306NEO 一式	1	2023	
腹腔鏡カメラシステム 一式	ストライカー製 腹腔鏡カメラシステム 一式	1	2023	
放射線	超音波診断装置	Aplio80(東芝)	1	2004
	CR システム	REGIUS170(コニカミノルタ)	2	2004
	循環器画像解析装置	CCIP-310/W(カテックス)	1	2005
	循環器診断・治療システム	循環器診断システム INFX-8000V/JB 他(東芝メディカル)	1	2008
	一般撮影装置	Discovery XR650(GEヘルスケア)	1	2009
	外科用X線TV装置	OEC 9900 Elite(GEヘルスケア)	1	2009

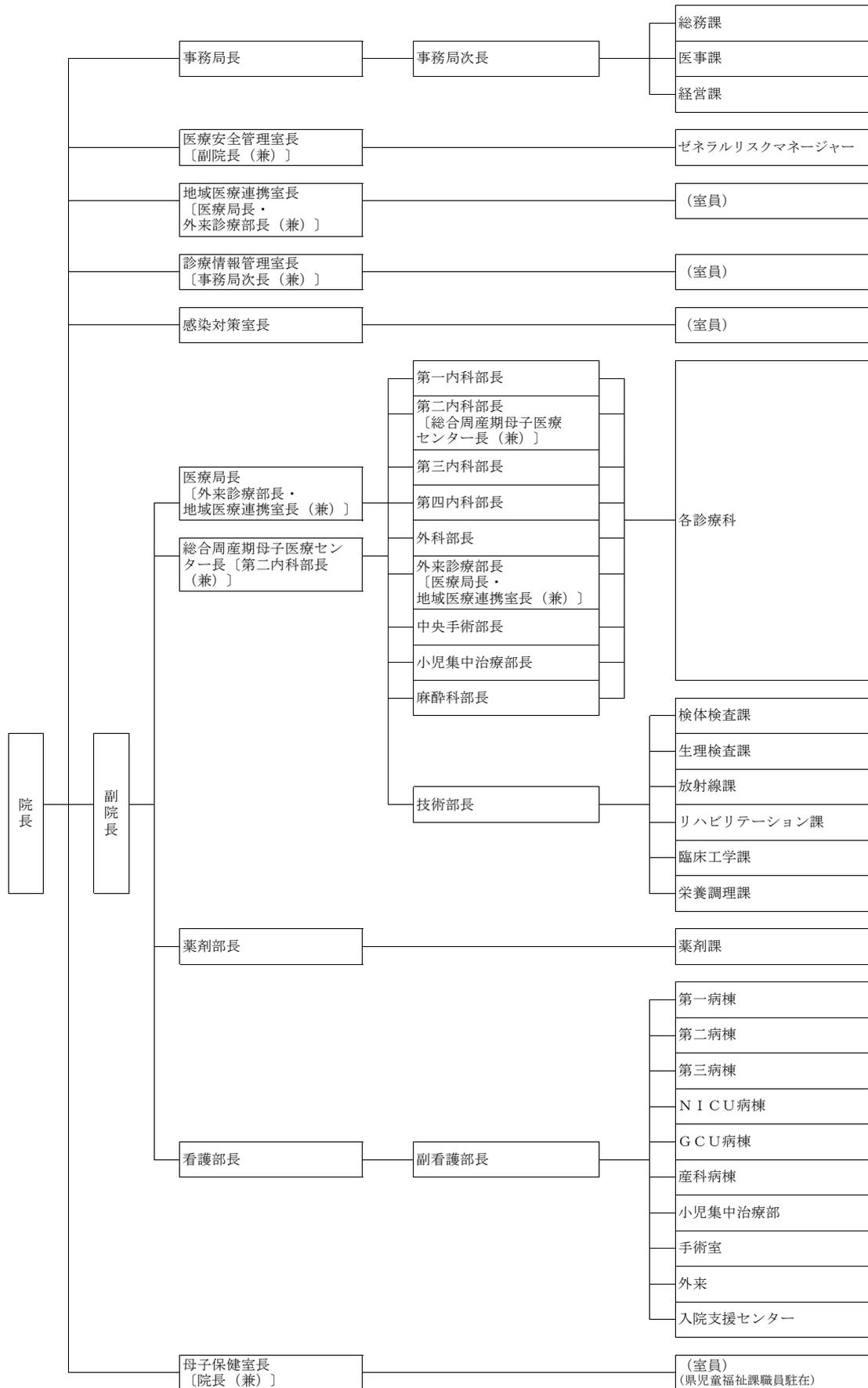
分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
放射線	全身用コンピュータ断層装置・PACS	SOMATOM Definition AS+ (シーメンス)	1	2011
	2検出器型ガンマカメラ	Symbia Evo (シーメンス)	1	2015
	医用画像管理システム更新に伴う周辺機器	「テクマトリックス製 NOBORIサービス」導入に伴うもの	1	2017
	超伝導磁気共鳴画像診断装置 (MRI)	SmartPath to dStream for 1.5T	1	2019
	動画ネットワークシステム	Kada-Serve (フォトロン)	1	2019
	循環器用X線透視診断装置 一式	Alphenix INFX-8000V 一式 (キャノンメディカルシステムズ)	1	2021
	デジタルX線透視撮影システム	FUJIFILM製 CUREVISTA Open	1	2023
栄養調理	オートクレーブ	NSS-009W (サクラ機械)	1	2004
	ユニット式調乳水製造装置	CMIFSC-501E-WA-230MC2HC1V (三田理化工業)	1	2017
CE (集中管理)	酸素モニタ (非侵襲頭部)	NIRO-500 (浜松ホトニクス)	1	1997
	心筋保護液供給システム	HCP-5000 (泉工医科)	1	1998
	人工呼吸器 (新生児用)	ハミングV (メラン)	1	2003
	人工呼吸器 (新生児用)	ハミングV (メラン)	1	2004
	人工呼吸器 (小児用)	ハミングV (メラン)	4	2004
	人工呼吸器 (小児用)	ハミングX (メラン)	3	2010
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (コヴィディエン)	1	2011
	人工呼吸器	AVEA (米国ケアフュージョン207)	2	2012
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (コヴィディエン)	1	2014
	人工心肺装置システム	メラ人工心肺装置HAS II (泉工医科工業)	1	2015
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2015
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2016
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2018
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2019
	体外循環用血液学的パラメータモニタ	CDI550システム (テルモ)	1	2021
	汎用人工呼吸器	サーボベンチレータシステム (フクダ電子)	1	2021
	血液浄化装置	東レメディカル 血液浄化装置 AcuFil Multi 55X-III	1	2022
	汎用人工呼吸器	フクダ電子製 サーボベンチレータシステム	1	2023
	人工呼吸器	ドレーゲル製 Babylog VN800	1	2024
	人工呼吸器	ドレーゲル製 Evita Infinity V800	1	2024
外来	超音波診断装置 (4D)	730Expert (GEBOLUSON)	1	2004
	超音波診断装置	Volson E8 (GEヘルスケアジャパン)	1	2011
	X線撮影装置	X-era Smart3D F+ セファロ (ヨシダ)	1	2016
	歯科用キャビネット一式	(ヨシダ)	1	2016
	耳鼻科診察台一式	永島医科製	1	2019
	簡易診察室一式	陰圧式エアータント一式 (ノルメカエイシア)	1	2020
	全身麻酔器 (歯科)	PRO-NEXT II +s (アコマ医科)	1	2020
	皮膚良性血管病変治療用レーザー装置	シネロン・キャンデラ製 Vbeam II	1	2023
病棟	心電図監視システム	CNS8200 8床用 (日本光電)	1	1993
	血液成分分離装置	AS-104 (フレゼニウス)	1	1997
	エンドスコープカメラ	MC-800E (日本光電)	1	1999
	セントラルモニタ (外科)	M3150B (フィリップス)	1	2004
	EOG殺菌乾燥薫蒸装置	EOリメーカー (日本リメイク)	1	2004
	生体情報管理システム	CAP2420 (日本光電)	1	2004
	超音波診断装置	Nemio (東芝)	1	2004
	患者監視用モニタ	(フィリップス)	1	2004
	インファントウォーマ	V-505HL (アトム)	1	2005
	人工呼吸器	ベネット 840 (タイコヘルスケア)	1	2005
	生体情報管理システム ハードウェア更新	CAP2420 (日本光電)	1	2010
	赤外線酸素モニタ装置	NIRO-200NX (IMI)	1	2010

分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
病棟	超音波診断装置	HD11EX (フィリップス)	1	2010
	生体情報モニタリングシステム	MP50外 (フィリップス)	1	2011
	セントラルモニタアップグレード、テレメータ更新	PIMS (フィリップス)	1	2012
	遠心性血液成分分離装置	コムテック9008021 (アムコ)	1	2013
	超音波診断装置	iE33 (フィリップス)	1	2013
	母体胎児集中監視システム	(アトムメディカル)	1	2014
	超音波診断装置	Voluson E10 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	超音波診断装置	LOGIQ e Premium (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	シーリングペンダント(4台)	TruPort5000-1465 ICU Solo (セントラルユニ)	1	2014
	イエロー・レーザー光凝固装置	IQ577 (トーマコーポレーション)	1	2014
	NICU車	シビリアン (ベース車、日産自動車)	1	2014
	新生児用ファイバースコープ	Mシリーズ (町田製作所)	1	2015
	分娩監視装置	FM-20 (アトムメディカル)	1	2016
	超音波診断装置	Voluson P8 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2016
	産科病棟セントラルモニタ	PU-621R (日本光電)	1	2017
	NICU/GCU 生体情報モニタリングシステム	(フィリップス・ジャパン)	1	2017
	超音波診断装置	Voluson S8 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2019
	生体情報モニタリングシステム	WEP-1450-Z02 外 (日本光電)	1	2020
	生体情報モニタリングシステム 一式	日本光電製	1	2021
	超音波診断装置	富士フイルム ARIETTA 750SE	1	2022
	汎用超音波画像診断装置	GE 汎用超音波画像診断装置 LOGIC Premium R8	1	2022
	超音波診断装置	フィリップス Affiniti70	1	2023
	汎用超音波画像診断装置	GEヘルスケア Voluson Expert22	1	2023
I C U	人工呼吸器	ベネット 840 (タイコヘルスケア)	3	2004
	血液ガス分析装置 (全自動)	スタットプロファイルCCX (ノババイオメディカル)	1	2004
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (ピューリタンベネット)	1	2009
	超音波診断装置	Vivid S6 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	生体情報モニタリングシステム (1階)	(フィリップス・ジャパン)	1	2018
	超音波診断装置	Vivid S60N (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2020
	体外式膜型人工肺	UNIMO (泉工医科工業)	1	2020
	人工呼吸器	ベンチレータ 980 (コヴィディエンジャパン)	2	2020
	気管支ビデオシステム 一式	BF-XP290 N4506610 (オリンパス)	1	2021
	超音波診断装置	フィリップス Affiniti70	1	2023
	EIT システム	コヴィディエン TPL-E2101	1	2023
手術室	超音波メス	スミノック ME-2400キューサー (住友ベーク)	1	1997
	手術台 (電動油圧)	小児型特注 (ミズホ)	1	2000
	无影燈	Sola700+500 (ドレーゲル)	2	2004
	手術台 (整形外科用)	MOS-1300B (瑞穂医科)	1	2004
	人工心肺装置データ記録システム	OPSYS (フィリップス)	1	2004
	体外循環用血液パラメータモニターシステム	CDI500 (テルモ)	1	2007
	心筋保護液供給システム	HCP-5000 (泉工医科工業)	1	2007
	術中経食道エコー検査装置	プロサウンドα7 (アロカ製)	1	2008
	遠心性血液ポンプ	HAS-CFP (泉工医科工業)	1	2009
	全身麻酔装置	アバンスケアステーション (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2012
	過酸化水素低温プラズマ滅菌器	ステラッド100S (ジョンソン・エンド・ジョンソン)	1	2015
	全身麻酔器	Carestation 650Pro (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2016
	全身麻酔器	Carestation 650Pro (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2017
	全身麻酔器	Carestation 650Pro (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2018

分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
手術室	サージカルナイフ	Domain (ガデリウス・メディカル)	1	2018
	電動式骨手術装置	日本ストライカー製	1	2019
	超音波診断装置	Affiniti 70G (フィリップス・ジャパン)	1	2020
	腹腔鏡カメラシステム	1688AIM (日本ストライカー)	1	2020
	高周波手術装置 一式	VIO3 5 ソケットモデル 10160-000 (アムコ)	1	2021
	手術台 一式	18-600-10 MOT-VS600Dj (ミズホ)	1	2021
	汎用超音波画像診断装置	GE 汎用超音波画像診断装置 Venue Fit	1	2022
	内視鏡ビデオシステム	オリンパス 内視鏡ビデオシステム	1	2022
	手術台	ミズホ 手術台	1	2022
	内視鏡ビデオシステム	オリンパス 内視鏡ビデオシステム	1	2023
	手術器具洗浄器	ゲティンゲ ウォッシャーディスインフェクター 46-4-602ES50IC	1	2023
	手術台	ミズホ 手術台	1	2024
	高周波手術装置	アムコ VIO3 4ソケットモデル ORモデル	1	2024
中央滅菌材料室	ウォッシャーディスインフェクター	WD8668EW (GETINGE)	1	2017
	小型高圧蒸気滅菌器	HS33 (GETINGE)	1	2017
	高圧蒸気滅菌器	VSCH-G12WNR (サクラ精機)	1	2018
臨床研究室	DNA シーケンサ	ジェネティックアナライザ (アプライドバイオシステム社)	1	2005
	光分析測定装置マルチプレートリーダー	1420ARVO MX-flad (パーキンエルマー・ジャパン)	1	2005
情報システム	カルテ管理検索システム装置	システムトリープ (イトーキ)	1	2004
	カルテ管理検索システム装置 制御機器更新	(イトーキ)	1	2012
	総合医療情報システム (電子カルテ導入)	(富士通)	1	2012
	電子カルテデータ統合分析システム	データウェアハウス (富士通)	1	2013
	臨床検査システム	Hi-LABO-S, Hi-LABO-EM, HD-TRANS (ニューコン)	1	2014
	診断書作成支援システム	MEDI-Papyrus (ニッセイ情報テクノロジー)	1	2015
	監視モニターシステム	(カーリーナシステム)	1	2016
	電子カルテシステム	HOPE EGMAIN-GX (富士通)	1	2018
	手術部門患者情報システム	Fortec ORSYS (フィリップス)	1	2018
	栄養管理システム	栄養管理システム Ver.6 (SFC新潟)	1	2019
	歯科電子カルテシステム	オブテック製	1	2019
	生体情報モニタリングシステム	フィリップス製	1	2019
	ネットワーク機器群	Cisco社製	1	2019
	PICU 重症部門システム	フィリップス製 ACSYS	1	2023
	NICU 重症部門システム	フィリップス製 ACSYS	1	2023
	NICU 生体情報モニタリングシステム	フィリップス製	1	2023
	PICU 生体情報モニタリングシステム	フィリップス製	1	2023
	放射線情報システム	RIS	1	2023
	医事会計システム	富士通製 HOPE SX-S 一式	1	2024
	再来受付機	島津製作所製 MERSYS-X	1	2024

3. 組織 (1) 機構

(令和7年3月31日現在)



(2) 人事

① 役員名簿

職名	R7.3.31	R6.3.31	R5.3.31	R4.3.31	R3.3.31	R2.3.31
院長	浜島昭人	浜島昭人	外松学	外松学	外松学	外松学
副院長	河崎裕英	河崎裕英	浜川昭彦	小林富男	小林富男	小林富男
事務局局長	大野貴英	相川良彦	相川良彦	今井正浩	今井正浩	今井正浩
事務局次長	奈良清隆	奈良清隆	和田裕幸	和田裕幸	吉澤雅之	吉澤雅之
総務課長	高尾淳	高尾淳	高尾淳	田村英昭	篠澤雅之	篠澤雅之
医事課長	住谷亜由子	住谷亜由子	福島義明	福島義明	岡島正樹	岡島正樹
経営課長	下島倫計	林利幸	林利幸	園田宏	園田宏	岡崎正弘
総合周産期母子医療センター長	丸山憲一	丸山憲一	丸山憲一	丸山憲一	丸山憲一	(院長兼務)
医療局長	野村滋	野村滋	河崎裕英	浜島昭人	浜島昭人	浜島昭人
第一内科部長	椎原隆	椎原隆	椎原隆	椎原隆	椎原隆	椎原隆
第二内科部長	(総合周産期母子医療センター長兼務)	(総合周産期母子医療センター長兼務)	(総合周産期母子医療センター長兼務)	(総合周産期母子医療センター長兼務)	(総合周産期母子医療センター長兼務)	丸山憲一
総合周産期母子医療副センター長	—	—	—	—	—	(第二内科部長兼務)
第三内科部長	池田健太郎	池田健太郎	池田健太郎	河崎裕英	河崎裕英	河崎裕英
第四内科部長	渡辺美緒	渡辺美緒	渡辺美緒	渡辺美緒	渡辺美緒	渡辺美緒
外科部長	浅井伸治	—	—	—	—	富沢仙一
外来診療部長	(医療局長兼務)	(医療局長兼務)	野村滋	野村滋	山田佳之	山田佳之
中央手術部長	岡村達	浅井伸治	浅井伸治	浅井伸治	(医療局長兼務)	(医療局長兼務)
小児集中治療部長	下山伸哉	下山伸哉	下山伸哉	下山伸哉	下山伸哉	下山伸哉
感染対策室長	清水彰彦	清水彰彦	清水彰彦	清水彰彦	—	—
麻酔科部長	松本直樹	松本直樹	松本直樹	—	—	—
部部長	西明	西明	西明	西明	西明	西明
部部長	木下樹	木下樹	木下樹	木下樹	木下樹	木下樹
部部長	道和百合	岡村達	岡村達	岡村達	浅井伸治	浅井伸治
部部長	京谷琢治	道和百合	道和百合	池田健太郎	岡徳彦	岡徳彦
部部長	小泉亜矢	小泉亜矢	小泉亜矢	道和百合	池田健太郎	池田健太郎
部部長	森田孝次	京谷琢治	京谷琢治	小泉亜矢	道和百合	道和百合
部部長	山崎聡子	森田孝次	森田孝次	京谷琢治	小泉亜矢	小泉亜矢
部部長	市之宮健二	山崎聡子	福田一代	森田孝次	京谷琢治	松本直樹
部部長	木暮さやか	市之宮健二	山崎聡子	松本直樹	森田孝次	山崎聡子
部部長	諏訪裕人	木暮さやか	市之宮健二	福田一代	松本直樹	市之宮健二
部部長	中島公子	廣木茜	木暮さやか	山崎聡子	山崎聡子	木暮さやか
部部長	山口有	諏訪裕人	廣木茜	市之宮健二	野村滋	友保貴博
部部長	鍋木浩太	中島公子	諏訪裕人	木暮さやか	福田一代	福田一代
部部長	浅見雄司	山口有	中島公子	廣木茜	市之宮健二	田中健佑
部部長	清水真理子	鍋木浩太	山口有	諏訪裕人	木暮さやか	廣木茜
部部長	橋木浩平	清水真理子	鍋木浩太	中島公子	廣木茜	高澤慎也
部部長	宮川陽一	浅見雄司	清水真理子	山口有	高澤慎也	清水彰彦
部部長	飯島真由子	新井修平	浅見雄司	鍋木浩太	清水彰彦	山崎優
部部長	長沼純子	宮川陽一	新井修平	清水真理子	中島公子	山口有
部部長	小西健一郎	渡邊栄一郎	宮川陽一	大和玄季	山崎優	野村滋
部部長	山口岳史	飯島真由子	渡邊栄一郎	浅見雄司	鍋木浩太	佐藤達也
部部長	清水有紀	鍋木多映子	大嶋瑛	新井修平	山口有	森田孝次
部部長	鍋木多映子	清水有紀	鍋木多映子	五十嵐昭宏	浅見雄司	—
部部長	坂本崇	山口岳史	清水有紀	宮川陽一	—	—
部部長	松永慶廉	坂本崇	—	井上崇	—	—
部部長	大隅麻貴子	松永慶廉	—	—	—	—
部部長	糸永宇慧	大隅麻貴子	—	—	—	—
医長	佐々木淑恵	佐々木淑恵	坂本崇	大嶋瑛	新井修平	鍋木浩太
医長	稲田雅弘	稲田雅弘	松永慶廉	鍋木多映子	林秀憲	新井修平
医長	三森亮太	上原理紗	佐々木淑恵	内山陽介	清水真理子	浅見雄司
医長	小柳晴加	石北悦子	齋藤景	清水有紀	大和玄季	黒岩陽介
医長	—	—	稲田雅弘	坂本崇	井上崇	林秀憲
医長	—	—	上原理紗	松永慶廉	大嶋瑛	清水真理子
医長	—	—	—	佐々木淑恵	鍋木多映子	大和玄季
医長	—	—	—	則内友博	清水有紀	大嶋瑛
医長	—	—	—	星野智	坂本崇	鍋木多映子
医長	—	—	—	齋藤景	—	高本尚弘
医長	—	—	—	千葉真子	—	清水有紀
技師	佐々木祐登	小柳晴加	村上麻耶	村上麻耶	飯野彩奈	飯野彩奈
技師	餅川真由	—	石北悦子	—	佐々木淑恵	田中亜由子
技師	—	—	—	—	則内友博	道崎護
技師	—	—	—	—	星野智	—
技師	—	—	—	—	菊地健太	—
技師	—	—	—	—	村上麻耶	—

職 名	R7.3.31	R6.3.31	R5.3.31	R4.3.31	R3.3.31	R2.3.31
技 術 部 長	神 山 晴 美	小 川 公 代	小 川 公 代	富 岡 千 鶴 子	富 岡 千 鶴 子	富 岡 千 鶴 子
検 体 検 査 課 長	三 宅 妙 子	神 山 晴 美	神 山 晴 美	神 山 晴 美	神 山 晴 美	神 山 晴 美
生 理 検 査 課 長	丸 山 裕 子	丸 山 裕 子	丸 山 裕 子	田 中 伸 久	田 中 伸 久	田 中 伸 久
放 射 線 課 長	高 木 崇	佐々木 保				
リハビリテーション課長	熊 丸 めぐみ	熊 丸 めぐみ	白 田 由 美 子	白 田 由 美 子	白 田 由 美 子	白 田 由 美 子
栄 養 調 理 課 長	島 田 純 子	島 田 純 子	島 田 純 子	島 田 純 子	島 田 純 子	島 田 純 子
臨 床 工 学 課 長	関 明 彦	関 明 彦	関 明 彦	関 明 彦	関 明 彦	関 明 彦
薬 剤 部 長	藤 波 洋 征	藤 波 洋 征	藤 波 洋 征	藤 波 洋 征	藤 波 洋 征	橋 場 尚 子
薬 剤 課 長	佐 藤 真 理 子	佐 藤 真 理 子	佐 藤 真 理 子	伊 藤 理 恵	伊 藤 理 恵	藤 波 洋 征
看 護 部 長	福 田 円	清 水 奈 保	清 水 奈 保	清 水 奈 保	清 水 奈 保	清 水 奈 保
副 看 護 部 長	大 平 典 子	福 田 円	都 丸 八 重 子	都 丸 八 重 子	都 丸 八 重 子	都 丸 八 重 子
G R M	福 島 富 美 子	大 平 典 子	大 平 典 子	大 平 典 子	福 田 円	福 田 円
補 佐 (看 護 師 長)	黒 田 佐 織	—	福 田 円	福 田 円	丸 山 美 幸	丸 山 美 幸
看 護 師 長	鈴 木 清 恵	宮 川 祐 子	宮 川 祐 子	宮 川 祐 子	宮 川 祐 子	宮 川 祐 子
看 護 師 長	村 上 容 子	浅 野 香	浅 野 香	浅 野 香	浅 野 香	高 橋 敦 子
看 護 師 長	浅 野 香	村 上 容 子	村 上 容 子	村 上 容 子	村 上 容 子	片 貝 ま さ み
看 護 師 長	北 爪 幸 子	石 坂 泰 子	石 坂 泰 子	石 坂 泰 子	石 坂 泰 子	浅 野 香
看 護 師 長	星 山 友 絵	福 島 富 美 子	福 島 富 美 子	福 島 富 美 子	福 島 富 美 子	村 上 容 子
看 護 師 長	石 坂 泰 子	黒 田 佐 織	黒 田 佐 織	黒 田 佐 織	大 平 典 子	石 坂 泰 子
看 護 師 長	齊 藤 織 恵	北 爪 幸 子	北 爪 幸 子	北 爪 幸 子	黒 田 佐 織	福 島 富 美 子
看 護 師 長	小 林 志 の ぶ	齊 藤 織 恵	齊 藤 織 恵	齊 藤 織 恵	北 爪 幸 子	大 平 典 子
看 護 師 長	柴 田 夕 貴 子	鈴 木 清 恵	鈴 木 清 恵	角 田 愉 香 里	齊 藤 織 恵	黒 田 佐 織
看 護 師 長	小 池 智 美	小 林 志 の ぶ	小 林 志 の ぶ	小 林 志 の ぶ	角 田 愉 香 里	齊 藤 織 恵
看 護 師 長	高 橋 洋 子	星 山 友 絵	—	—	—	—
看 護 師 長	—	柴 田 夕 貴 子	—	—	—	—
母 子 保 健 課 長	—	—	—	阿 久 澤 直 子	高 橋 雪 子	高 橋 雪 子

4. 運 営

(1) 診療制度

当センターは、県内唯一の県立小児医療専門病院であるとともに総合周産期母子医療センターに認定されている。診療は、二次・三次救急を原則とし、未熟児・新生児・乳児、幼児、学童並びに胎児に異常が疑われる母胎を主な対象として、医療機関・保健福祉事務所等からの紹介予約制を基本としている。

ア 紹介予約制

患者の紹介予約は、医療機関・保健福祉事務所等から FAX 等を利用して行われる他、紹介状をもらった患者家族からの電話申込みによる。

当センターでは、紹介内容から患者の症状等を判断し、急を要する場合を除いて患者の都合のよい日時に予約日を指定する方法を採っている。なお、紹介医療機関等に対しては、診療後必ず診療結果を報告することとしている。

イ 外来診療

診療科及び診療時間は、次のとおりである。(令和7年3月1日現在)

◎内科系

- 総合診療科 月～金曜 (9時～17時)
- 神経内科 月～金曜 (9時～17時)
- 循環器科 月・金曜 (9時～15時30分)、火曜 (13時～17時)、水曜 (9時～15時)
第4金曜 (13時～16時: 移行期支援外来)
- 血液腫瘍科 月～水曜 (14時～17時)、木曜 (13時30分～17時)
- 腎臓内科 第1・3・5火曜 (13時30分～16時)、第1・3・5木曜 (13時～17時)、
第2・4火曜 (13時～17時)
- アレルギー
・リウマチ科 月～金曜 (13時～17時)、月・第2・4水曜 (13時～13時30分: 初診)、
火・木曜 (13時～14時: 初診)、第2・4金曜 (9時～12時)
第1・3・5水曜 (13時30分～14時: 再診、14時～14時30分: 初診)
- 感染症科 火曜 (9時～17時)、木曜 (9時～12時)

◎外科系

- 小児外科 火曜 (9時～17時、13時～17時: 初診)、木曜 (9時～12時、第1・3・5
週: 初診)、金曜 (13時～17時)、第1・3水曜 (9時～12時)
- 心臓血管外科 水・金曜 (10時～17時)
- 形成外科 月曜 (9時～16時、9時30分～11時: 初診) 木曜 (9時～16時、9時30
分～10時30分: 初診)
- 整形外科 月・水曜 (9時～17時: 午前再診、午後初診)、金曜 (9時～12時)
- 脳神経外科 第4金曜 (14時～16時)

◎総合周産期母子医療センター

- 新生児科 月・水・木・金曜 (13時～17時)、第2火曜 (9時～12時)
- 産科 月～金曜 (9時～17時、14時～16時: 初診 (火・木はNIPT外来))
- 胎児心臓外来 木曜 (9時～12時)

○胎児超音波	
スクリーニング外来	月～金曜 (9時～12時)
○母乳外来	月～金曜 (9時～17時)
◎特殊専門外来	
○麻酔科	月曜 (13時～17時)、火・木・金曜 (9時～17時)
○放射線科	月・水・木曜 (9時～17時)
○遺伝科	月曜 (9時～12時)、金曜 (9時～17時)
○歯科・障害児歯科	月曜～金曜 (9時～12時、14時～17時)
○耳鼻咽喉科	月曜 (15時～17時)、水曜 (9時～11時)
○眼科	第1・3水曜 (偶数月9時～12時)、第1・3金曜 (奇数月9時～12時)
○子どものこころ診療科	火曜 (9時～17時、13時30分～14時: 初診)、木曜 (9時～12時)
○内分泌代謝科	木曜 (14時～17時)

ウ 救急対応

当センターは、救急告示病院の指定を受けていないが、医療機関からの紹介に基づく第2次・第3次救急対策を行っている。

緊急対応としては、診療時間外における管理当直として医師1名、看護師1名があたり、さらに必要な場合は電話によるオンコールで医療従事者の確保を図り、昼夜いつでも診療が可能な体制を整えている。

また、未熟児・新生児を治療しながら搬送する NICU 車 (新生児救急車) は、主に産科から病棟へ直接電話の依頼により出動し、24時間体制で対応している。

平成13年度、休日及び夜間における子供の救急医療体制を整備するため、小児科医及び病床等の確保を図る小児救急支援事業がスタート、北毛地区では同年9月から、当院、利根中央病院、原町赤十字病院の3病院が交代で協力することでスタートしたが、現在は当院と利根中央病院の2病院が交代で行っている。

エ 診療録管理等

診療録は外来・入院それぞれ別冊で管理するが、登録番号はともに共通の永久番号制で、保存方法は患者番号の下2桁が同じファイルを同一グループとして順次配架するターミナル・デジット方式を採用している。

また、病院内の組織横断的な診療情報管理を担うため、平成18年度から診療情報管理室を設置するとともに、同年末に入院診療情報管理システムを導入し、診療録管理・各種診療統計業務等の効率化を図った。

オ 院内総合医療情報システム

当センターのシステムの運用及び更新については次の表のとおりである。

年度・日付	システムの運用開始・更新内容
平成 19 年 11 月	医事会計システム先行稼働
平成 20 年 2 月 23 日 (外来診療初日は 25 日)	オーダーリングシステムの第 1 次運用開始
平成 20 年 5 月 1 日	オーダーリングシステムの第 2 次運用開始 (放射線、生理・病理検査オーダーが稼働)
平成 20 年 6 月 3 日	オーダーリングシステムの第 3 次運用開始 (注射オーダーが稼働)
平成 20 年 12 月	オーダーリングシステムの当初計画した全てが無事稼働 (手術予約が稼働)
平成 22 年度	PICU 棟の PIMS システム及び産科の患者情報管理システムのシステム機器を更新
平成 24 年度 (平成 25 年 2 月 24 日)	総合医療情報システム (電子カルテ) 及び看護支援システムが稼働
平成 25 年度 (平成 25 年 9 月 2 日)	歯科電子カルテシステムの運用開始
平成 26 年度 (平成 26 年 12 月 1 日)	臨床検査システムを更新
平成 28 年度	NICU・PICU の患者情報管理システム、放射線情報システムを更新
平成 29 年度	医用画像管理システム (PACS) の更新を行い、クラウド型システムを導入
平成 30 年度	総合医療情報システム (電子カルテ) を更新 手術部門患者情報システムを導入
令和元年度	歯科電子カルテシステムを更新
令和 2 年度	臨床検査システムを更新 感染管理システムを導入
令和 4 年度 (令和 5 年度繰越)	PICU・NICU/GCU・第 3 病棟の重症部門患者情報システム、生体情報モニタを更新
令和 5 年度	放射線情報システムを更新
令和 6 年度	医事会計システムを更新

カ 院内ボランティア

複数のボランティア団体の活動により、患者や家族の快適な環境と楽しい時間を提供している。
令和 2 年度以降は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、多くの活動が休止を余儀なくされた。

- 「ひまわり会」(平成 12 年 4 月～)
毎週火曜日、慢性疾患児家族宿泊施設の管理として、宿泊棟の清掃やノート等を利用したの相談活動。
- 「日本クリニクラウン協会」(平成 17 年 10 月～)
月 1 回 (第 4 水曜日)、長期入院患者を励ますためのクリニクラウン (臨床道化師) による病棟訪問。
- 「お話し風の風」(平成 20 年 10 月～)
月に 2 日、病棟、外科外来での絵本の読み聞かせ等の活動。
- 「花壇ボランティアひまわり」(平成 22 年 4 月～)
月 1 回程度、院内の花壇、中庭の花弁、植栽の管理。

- 「アロマハンドマッサージ」(令和7年3月～)
月1回程度、入院付き添い家族へのマッサージの実施。
- 「AR どうぶつえん」(令和7年3月19日)
民間業者によるAR(拡張現実)技術を使った「AR どうぶつえん」の体験イベントを実施。
入院中の1歳から20歳まで12人が参加。

キ 臨床研修

当院は新臨床研修制度の協力型病院として平成17年度から小児科の研修を行う初期臨床研修医を受け入れている。当院は内科系だけでも三つの病棟を擁しているため、研修方法は研修医の希望に基づいて各病棟をローテートする方法で行っている。なお、希望者には一定期間、小児外科、形成外科、整形外科、心臓血管外科、産科の研修も許可している。

(2) 院内会議の状況

会 議 の 名 称	会 議 の 目 的	開 催 状 況
管理職会議	病院の基本方針等の協議・決定	月 1 回
管理診療会議	病院管理運営事項の協議・検討、各部門業務の連絡調整	月 1 回
予算委員会	予算に関する協議・決定	随 時
医療機器等購入審査委員会	医療機器等購入の選考・審査	随 時
経営検討会議	病院経営に関する協議・決定	月 1 回
地域医療連携室運営委員会	地域の医療機関との連絡調整	随 時
在宅療養支援委員会	在宅療養に関する支援策の検討	月 1 回
臨床試験審査委員会	臨床試験の妥当性の審査	随 時
倫理委員会	医療行為に係る倫理的検討	随 時
利益相反委員会	臨床研究に係る利益相反マネジメントの審議	随 時
医療安全管理委員会	医療安全管理対策を総合的に企画、実施	月 1 回
BLS推進委員会	BLSの推進を計画・実施	月 1 回
リスクマネジメント委員会	医療安全管理に関する小委員会	月 1 回
救急カートWG	救急カートに関する検討	随 時
診療関連死原因検討委員会	死亡原因が医療事故又は合併症のいずれかを判定	月 1 回
診療情報管理委員会	診療情報提供に関する検討	随 時
DPCコーディング委員会	適切なコーディングに関する討議	年 2 回
薬事委員会	新薬・同種同効薬品の採用・選択等の検討	月 1 回
労働安全衛生委員会	職員の労働安全衛生に関する協議・予防接種の実施	月 1 回
学術委員会	臨床研究を含めた学術活動の活性化	随 時
臨床研究室運営委員会	臨床研究室の運営・管理	随 時
自主研究事業委員会	自主研究研修事業の審査	随 時
海外学会等出席者選考委員会	海外学会等出席者の選考	随 時
年報編集委員会	病院年報編集の協議	随 時
図書委員会	図書の購入検討・管理	随 時
臨床検査委員会	精度管理報告、検査項目・院内検査の機器・試薬等検討	3か月1回
輸血療法委員会	輸血業務の適正化に関する検討事項、各部門の連絡調整	年 6 回
院内感染対策委員会	院内感染防止対策の協議	月 1 回
ICT	院内感染防止対策マニュアルの検討	月 1 回
総合医療情報システム委員会	総合医療情報システムの課題検討	随 時
サービス向上委員会	患者サービス向上に係る取り組みの検討	隔 月 1 回
外来診療委員会	外来診療各科の連絡調整	随 時
総合周産期母子医療センター運営委員会	総合周産期母子医療センターの運営に関する検討	随 時
中央手術部運営委員会	施設・設備に関する事項及び診療各科との連絡調整	隔 月 1 回
医局診療会議	診療各科の連絡調整	月 1 回
子ども虐待防止チーム委員会	子ども虐待の緊急対応に関する対応方針の決定	随 時
要支援事例検討等委員会	要支援事例の情報共有と具体的支援策を検討	隔 月 1 回
褥瘡対策委員会	褥瘡の発症予防、処置等の対策を検討	年 4 回
栄養委員会	栄養業務の改善等の検討	年 4 回
NST	NST実施にかかる協議・検討	随 時
診療材料検討委員会	診療材料購入等に関する検討	随 時
臨床研修委員会	研修医師の指導等に関する検討	随 時
保険診療委員会	診療報酬審査減の再審査の検討	随 時
クリニカルパス委員会	クリニカルパス導入に関する検討	随 時
ホームページ委員会	ホームページの編集	随 時
防災対策委員会	防災対策・訓練計画等の検討	年 2 回
医療機器安全管理委員会	ME機器の維持管理、購入の検討及び操作法の教育	随 時
医療ガス安全管理委員会	医療ガス設備の安全確保、良質な患者サービスの提供	年 1 回
小児集中治療部運営委員会	PICUの運営に関する方針等の協議・調整・決定	年 4 回
セキュリティ対策委員会	院内防犯体制、情報セキュリティ等の検討	随 時
ドクタークラーク委員会	医師事務作業補助者の配置・業務内容等の検討	随 時
省エネ・節電対策委員会	省エネ対策等の検討	随 時
緩和ケア委員会	緩和ケアの計画策定・教育・情報収集等の検討	年 2 回
緩和ケアWG	緩和ケアの症例検討	月 1 回
母子保健室運営委員会	母子保健室の運営に関する検討	随 時
治験管理委員会	IRBが審査する事項以外の治験の検討	随 時
臓器提供対応委員会	臓器移植提供体制の検討	随 時
うりやまだより編集委員会	うりやまだよりの編集	随 時
医療放射線管理委員会	医療放射線管理に関する検討	随 時

令和6年度のあゆみ

令和6年	4月 1日	新規採用者辞令交付式
	16日	管理職会議
	24日	管理診療会議
	5月 14日	管理職会議
	22日	管理診療会議
	6月 11日	管理職会議
	26日	管理診療会議
	7月 9日	管理職会議
	16日	医療安全研修会 (医療における説明義務 カルテ記載・同意書の意義)
	24日	管理診療会議
	31日	例月現金出納検査
	9月 10日	管理職会議
	21日	管理診療会議
	10月 4日	厚生労働省等共同指導
	8日	管理職会議
	22日	消防訓練(第1回)
	23日	管理診療会議
	11月 12日	管理職会議
	15日	例月現金出納検査
	21日	登録医大会
	26日	代替給食合同訓練
	27日	管理診療会議
	12月 10日	管理職会議
11日	監査委員会事務局事務監査	
25日	管理診療会議	
令和7年	1月 9日	監査委員定期監査
	14日	管理職会議
	22日	管理診療会議
	2月 18日	管理職会議
	26日	管理診療会議
	3月 4日	消防訓練(第2回)
	11日	管理職会議
	26日	管理診療会議
	28日	群馬県立小児医療センター再整備マスタープラン策定
	31日	退職者辞令交付・転出者発令通知伝達式

職員異動状況

転入・採用			転出・退職		
所属	氏名	年月日・区分	所属	氏名	年月日・区分
看護部	北爪幸子	R6.4.1 転入	看護部	阿部美由紀	R6.4.1 転出
技術部	都丸健一		技術部	佐々木保	
	三宅妙子			小川公代	
	金井麻梨			松井重憲	
事務局	下島倫計		事務局	林利幸	
	松本友博		佐藤隆亮		
	関絵里香		土屋薫平		
	井野将人		粕川将人		
医療局	橘木浩平	R6.4.1 採用	技術部	山田照枝	R6.6.29 退職
	長沼純子		医療局	石北悦子	R6.6.30 退職
	糸永宇慧		看護部	三上栞	R6.8.31 退職
	三森亮太		医療局	渡邊栄一郎	R6.10.31 退職
	佐々木祐登		技術部	山田照枝	R7.2.3 退職
	塚越真由		医療局	飯島真由子	R7.3.31 退職
看護部	野村実彩季			諏訪裕人	
	東宮未来			松永慶廉	
	篠原昂旺			小柳晴加	
	カルデロンアイニ			餅川真由	
	俣田桃佳		看護部	黒田佐織	
	高橋千宏			笠原寿絵	
	福島伽蓮			金子紗也加	
	関口春花			牧山穂香	
	春山優香			梅田璃子	
	新井瑠峰		野村幸枝		
	岩本遥生	技術部	都丸健一		
	狩野玲		佐藤敦子		
技術部	茂木真那		齋木美穂		
	浅見杏子	薬剤部	藤波洋征		
	萩原涼太				
薬剤部	菜原一道				
技術部	山田照枝	R6.8.8 採用			
医療局	小西健一郎	R6.11.1 採用			
技術部	小池楠菜	R6.11.2 採用			

◇ 編集後記 ◇

令和6年度の年報をお届けします。

最近いろいろなところで新病院への移転について聞かれることが増えました。連携する医療関係者のみならず、患者さんやご家族にとっても当院のこれからに大きな関心を持ってくださっていることを実感します。少子化という大きな波の中、小児専門病院としての在り方について当院も模索しながら、子どもたちとご家族に安心安全な医療を提供できるよう検討を進めています。同時に、今目の前にいる患者さんやご家族に対するスタッフの取り組みや努力について、この年報でご覧いただければと思います。

最後になりましたが、年報作成にあたりご協力いただいた多くのスタッフの皆様に、心より感謝申し上げます。

年報編集委員長 渡辺 美緒

○年報編集委員

渡辺 美緒	福田 円	河崎 裕英	野村 滋
丸山 憲一	椎原 隆	池田 健太郎	下山 伸哉
清水 彰彦	浅井 伸治	岡村 達	松本 直樹
西 明	木下 樹	京谷 琢治	山口 有雄
神山 晴美	三宅 妙子	丸山 裕子	茂木 利雄
熊丸 めぐみ	滝沢 雅代	佐藤 真理子	
浜島 昭人 (オブザーバー)		(担当事務局 総務課)	

群馬県立小児医療センター

〒377-8577 渋川市北橘町下箱田 779 番地
電 話 0279-52-3551 (代表)
0279-52-4600 (産科病棟直通)
0279-52-7171 (地域医療連携室)
0279-52-4000 (予約専用)
F A X 0279-52-2045 (事務局)
0279-52-4216 (図書室)
0279-52-3539 (検査課)
0279-52-7333 (地域医療連携室)
0279-52-4800 (栄養調理課)
0279-52-2100 (産科外来直通)



Gunma
Children's
Medical Center

群馬県立小児医療センター